

# 深谷市民まちづくりアンケート

---

## 調査報告書

平成30年10月

深谷市

## 目次

1. I. アンケート調査結果の概要	2
1. アンケート調査の実施方法	2
2. アンケート調査結果の信頼度	3
3. アンケート調査結果の概要	4
4. 市全体、地区別の調査結果の分析	8
2. II. アンケート調査結果の詳細	19
1. 回答者属性	19
2. 深谷市のまちづくりについて	21
3. 深谷市の施策について	157
4. 自由記入欄（まちづくり全般について）	187
3. III. アンケート調査結果の単純集計結果	195
1. 深谷市のまちづくりについて	195
2. 深谷市の施策について	201
3. 自由記入欄（まちづくり全般について）	205
4. 最後に、あなた自身のことについておたずねします。	206

# 1. I. アンケート調査結果の概要

## 1. アンケート調査の実施方法

### (1) 目的

「深谷市総合振興計画・後期基本計画」に基づき、施策を推進するにあたり、「深谷市民まちづくりアンケート」を実施することで、今後のまちづくりの参考にするための、現在の深谷市の姿および市民の意向や市民ニーズを把握することを目的としております。

### (2) アンケートの方法

- ①調査対象：深谷市に居住する20歳以上の市民2,000人を住民基本台帳から無作為抽出しました。
- ②調査方法：アンケート票を郵送により配布・回収しました。
- ③調査期間：平成30年5月11日から同年5月31日に実施しました。

### 注意：

- ◆ 図表の数値は回答率を表しています。
- ◆ 図表の数値は小数点第1位未満を四捨五入しており、合計が100%にならない場合があります。
- ◆ 複数回答の設問では、合計が100%を超える場合があります。
- ◆ 「Ⅲ-2 深谷市の施策」について
  - ・重要度：「重要である」2点、「まあ重要である」1点、「あまり重要でない」-1点、「まったく重要でない」-2点と重要度に応じて得点を設定し、この得点に各々の回答者数を乗じて総得点を算出した上、その総得点を「わからない」「無回答」を除いた回答者数で除した数値です。数値が大きいほど重要度が高く、小さいほど重要度が低いことを表します。
  - ・満足度：「満足である」2点、「まあ満足である」1点、「やや不満である」-1点、「不満である」-2点と満足度に応じて得点を設定し、重要度と同様に算出した数値です。数値が大きいほど満足度が高く、小さいほど満足度が低いことを表します。
- ◆ 調査報告書上の重要度・満足度の値、およびその時系列比較の結果は、小数点第3位を四捨五入した値を記載していますが、時系列比較の計算過程においては、四捨五入を行う前の値を使用しているため、紙面上の計算結果と異なる場合があります。

## 2. アンケート調査結果の信頼度

無作為抽出によるアンケート調査実施にあたり、一般的に統計資料として信頼できる調査結果（信頼度±95%）を確保するために必要な回収票数を、以下の計算式により算出しました。各記号の説明および設定値は下表のとおりです。

### ・計算式

$$n = \frac{N}{\left(\frac{\varepsilon}{K(\alpha)}\right)^2 \times \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$

### ・各記号の説明と設定値

記号	説明	設定値
n	必要なサンプル数	
N	母数	平成 30 年 4 月 1 日時点の住民基本台帳人口（18 歳以上）の総数（109,547 人）とする
ε	信頼度の誤差範囲	± 5 %とする
K(α)	信頼度に基づく定数（※）	信頼度 95%設定により、1.96 とする
P	母比率	安全性の確保を考慮し、50%と設定する

以上より、必要な回収票数は以下のように算出され、

$$n = \frac{109,547}{\left(\frac{0.05}{1.96}\right)^2 \times \frac{109,547-1}{0.5 \times (1-0.5)} + 1} \approx 384$$

深谷市においては、384 票回収すれば信頼度 95%± 5%の調査結果を得ることが分かることが分かります。

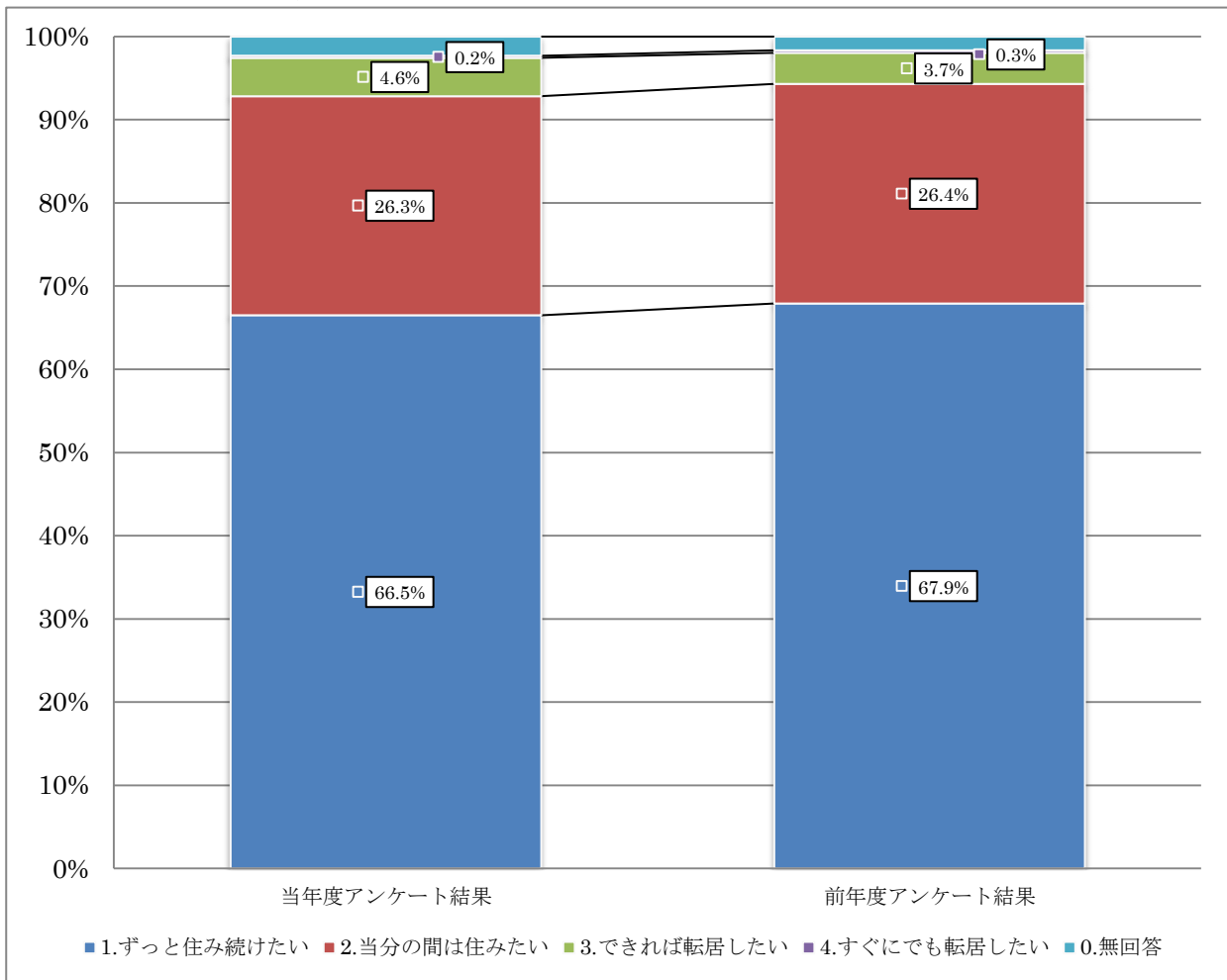
今回の調査では 824 票の有効回答が回収されたため、調査結果は統計的に信頼できるものと考えられます。

### 3. アンケート調査結果の概要

#### (1) 「深谷市民まちづくりアンケート」について

後期基本計画に基づき、施策を推進するにあたり、市民の市の施策に対する重要度、満足度などを把握するために、平成30年5月11日から同年5月31日までの期間にアンケート調査を実施しました。アンケート調査の対象は無作為に抽出した深谷市在住の満20歳以上の男女2,000人であり、アンケート票の有効回答数は、824人（41.2%）でした。

#### (2) 深谷市への定住意識について

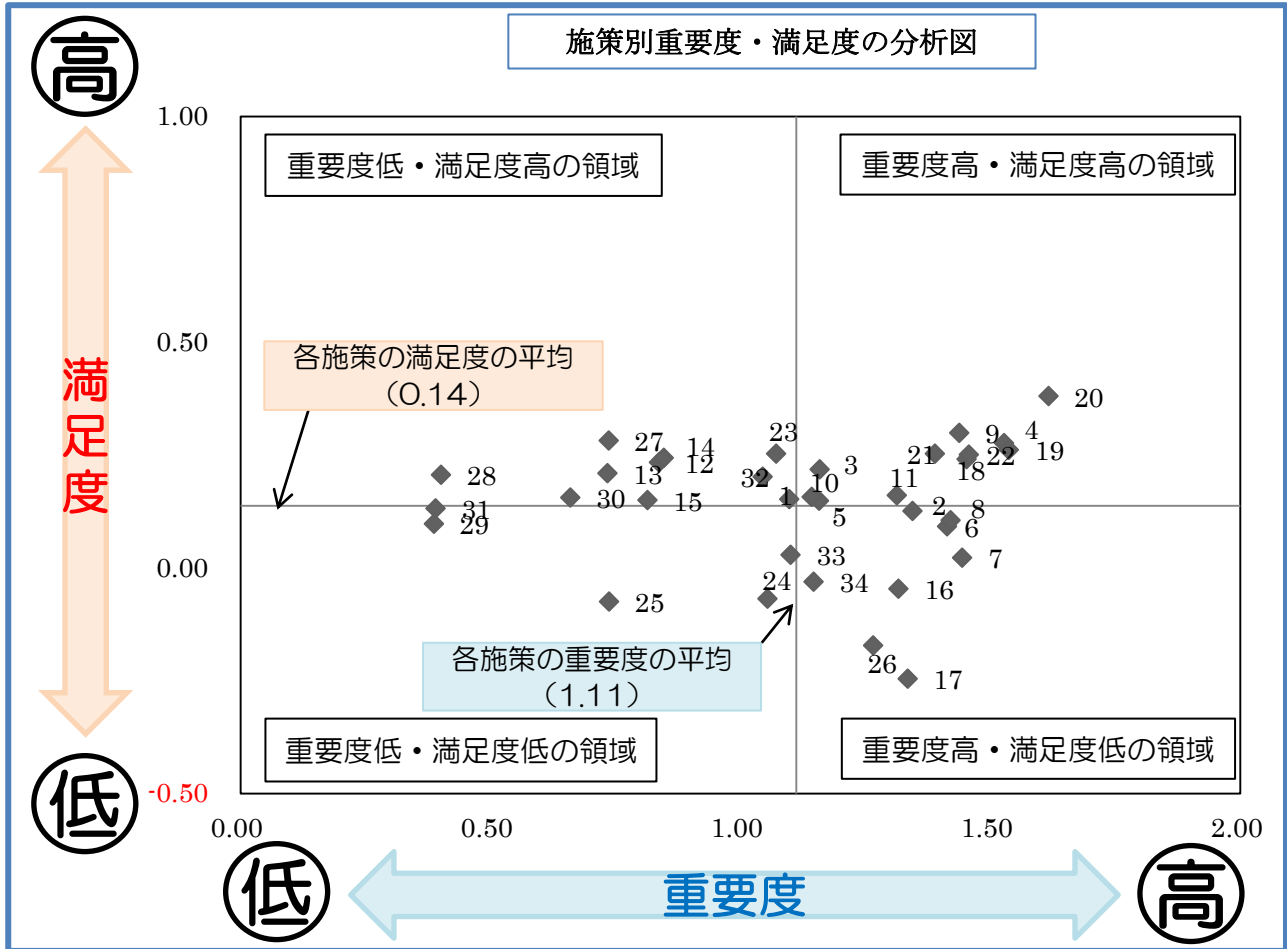


「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合が66.5%、「当分の間は住みたい」と回答した人の割合が26.3%となっています。合計は92.8%と9割を超えており、深谷市民の定住意識が高いことがうかがえます。

(3) 深谷市の施策の重要度・満足度について

深谷市が実施している施策について、重要度・満足度に関する調査を行いました。

① 施策別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
1	快適な空間と景観づくり	3	資源循環型社会の推進
12	生涯学習の振興	4	健康づくりの推進と保健・医療の充実
13	文化・芸術の振興	5	互いに支えあう地域社会づくり
14	スポーツの振興	9	学校教育の充実
15	高等教育機関との連携	10	家庭・地域の教育力の向上
23	全国に誇る農業の振興	11	健全な青少年の育成
27	市民活動の充実	18	上下水道の整備
28	友好都市や地域間との交流の促進	19	防災対策の推進
30	男女共同参画の実現	20	消防・救急体制の充実
32	人権を尊重する社会づくり	21	くらしの安全対策の推進
		22	交通安全対策の推進
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
24	活力ある商工業の振興	2	生活環境の保全と配慮
25	にぎわいを生む観光の振興	6	子育て支援の充実
29	国際化へ向けての取り組み	7	高齢者福祉の充実
31	ユニバーサルデザインの推進	8	障害者福祉の充実
33	市民と行政との協働のまちづくり	16	都市の発展を支える道路網の形成
		17	市街地・住環境や公共交通の改善
		26	雇用の創出・安定と勤労者への支援
		34	行財政改革の推進

全施策における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の4つに分類し、各施策の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

#### ＜重要度高・満足度高＞

重要度が高く、満足度も高い領域には「消防・救急体制の充実」や「防災対策の推進」、「学校教育の充実」、「交通安全対策の推進」などの施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズに即していることがうかがえ、今後も引き続き重点施策として位置づけ、優先して取り組んでいく必要がある施策といえます。

#### ＜重要度高・満足度低＞

重要度が高く、満足度が低い領域には、「市街地・住環境や公共交通の改善」や「高齢者福祉の充実」、「雇用の創出・安定と勤労者への支援」、「都市の発展を支える道路網の形成」などの施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えられていないことがうかがえます。これらの施策については、施策のあり方を見直す必要性が高い施策であるといえます。

#### ＜重要度低・満足度高＞

重要度が低く、満足度が高い領域には、「友好都市や地域間との交流の促進」や、「市民活動の充実」などの施策が該当します。

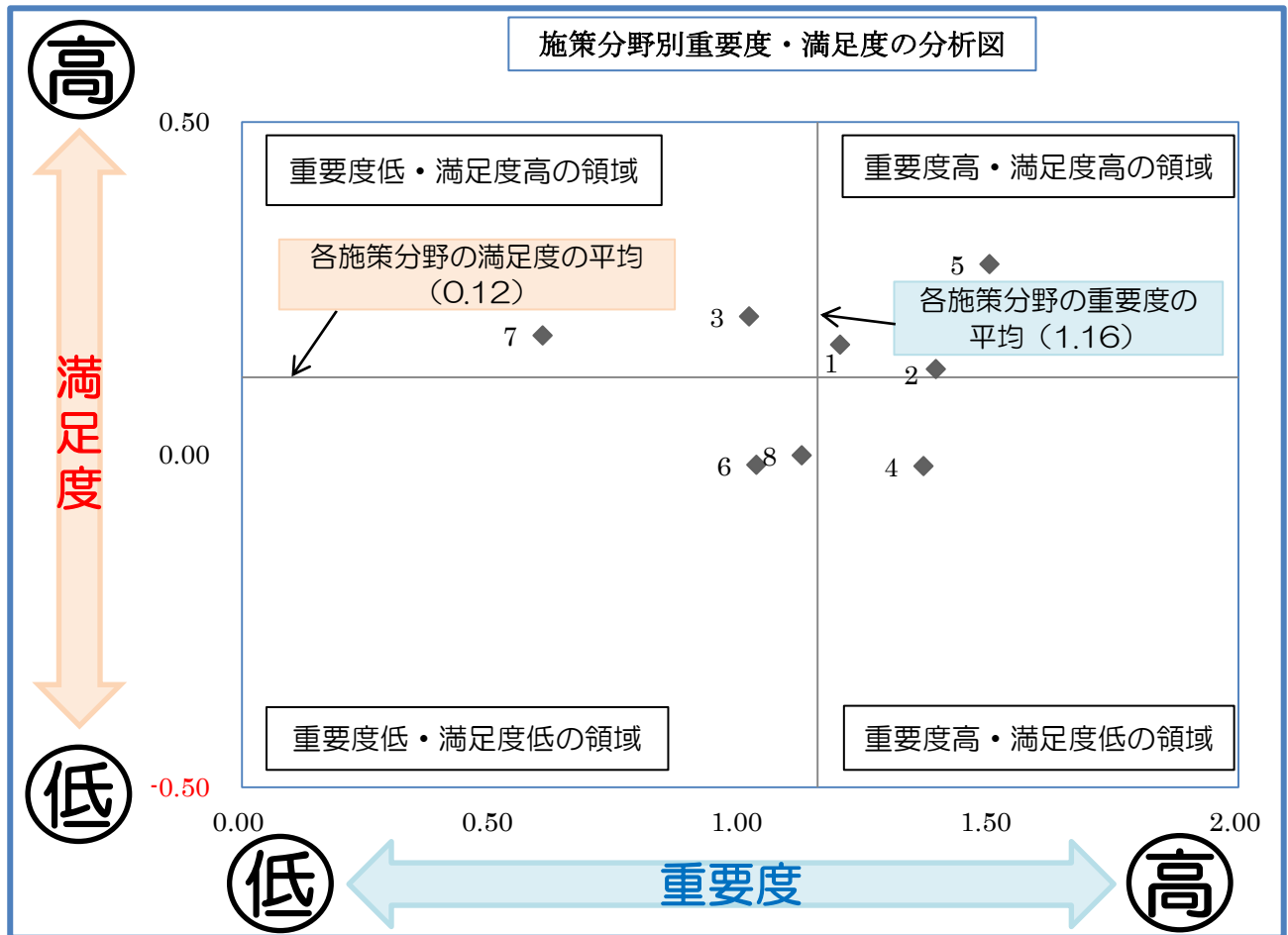
この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズを上回る行政サービスを提供している可能性もあり、行政サービスの提供が過剰となっていないか確認する必要があります。

#### ＜重要度低・満足度低＞

重要度が低く、満足度も低い領域には、「にぎわいを生む観光の振興」や「国際化への取り組み」などの施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、住民の関心度が低い施策であり、そもそも行政で対応すべきであるのかについて検討する必要があります。

② 施策分野別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
3	教育・文化	1	環境
7	コミュニティ・交流	2	保健・福祉
		5	生活安全
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
6	産業振興	4	都市・生活基盤
8	協働・行財政		

全施策分野における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を<重要度高・満足度高>、<重要度高・満足度低>、<重要度低・満足度高>、<重要度低・満足度低>の4つに分類し、各施策分野の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

<重要度高・満足度高>に分類される施策分野は、1. 環境、2. 保健・福祉、5. 生活安全の3分野であり、<重要度高・満足度低>に分類される施策分野は、4. 都市・生活基盤の1分野となっています。

また、<重要度低・満足度高>に分類される施策分野は、3. 教育・文化、7. コミュニティ・交流の2分野であり、<重要度低・満足度低>に分類される施策分野は、6. 産業振興、8. 協働・行財政の2分野となっています。

<重要度高・満足度低>に分類される 4. 都市・生活基盤の施策分野については、市民にとって重要度が高い施策分野であるのに対して、満足度が低いことから、他の施策分野に比べて優先順位が高い分野であるといえます。



#### 4. 市全体、地区別の調査結果の分析

アンケート調査の結果を分析し、その分析結果を市全体、地区ごとに分類すると、以下のとおりです。

##### (1) 調査からわかったこと（市全体）

###### ▶ 市への定住意識

- ・「平成 29 年度深谷市民まちづくりアンケート（以下、「前年度アンケート）」の結果から大きな変化は見られません。
- ・「ずっと住みたい」と回答した人の割合と「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計は全ての地区で、9割前後と高い数値であり、現時点において、深谷市外に転居を希望している人は少数であることがうかがえます。

###### ▶ 環境について

- ・市内の公園や森林・山に行く人の割合は「前年度アンケート」の結果から微減し、依然として半数未満となっています。
- ・市民の過半数が市内にお気に入りの街並みや景色があると回答していますが、その割合は「前年度アンケート」の結果から微減していることがわかります。
- ・市民の過半数が環境問題を以前より意識するようになり、また、普段の生活の中で環境に配慮した取組を実施していることがうかがえます。また男性では 60 歳代以降、女性では 50 歳代以降の世代において、「以前より意識するようになった」と回答した割合が 5 割以上であることから、世代間で意識に差が見られることがわかります。

###### ▶ 保健・福祉について

- ・市民の約半数が日頃から健康的な食生活や運動、ウォーキングなどの健康づくりに取り組んでおり、「前年度アンケート」の結果から大きな変化は見られません。
- ・7割を超える市民にかかりつけ医がいることがうかがえます。その割合は「前年度アンケート」の結果から大きな変化は見られません。
- ・日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる自治会や民生委員などがあると回答した人の割合は、「前年度アンケート」の結果と同様、約半数となっています。

###### ▶ 教育・文化について

- ・生涯学習を実践している人は全体の半数未満であり、「前年度アンケート」の結果から大きな変化は見られません。
- ・スポーツやレクリエーションを行っている割合は男性、女性ともに半数に満たない状況です。
- ・約7割の市民が、市内の大学・専門学校（または学生・生徒）が、地域のための活動をしていることを知らないことがうかがえます。

➤ 都市・生活基盤について

- ・市民の過半数が、渋滞などの道路状況について、以前と変化はないと感じており、悪化したと感じている市民も微増していることがうかがえます。
- ・市民の大多数が、市内の道路に不便なところがあると感じており、また、通行のしにくさや危険を感じた経験を持っています。
- ・市民の過半数が、身近な街並みが整っていると感じていることがうかがえます。
- ・市民の約7割が住まい周辺の住環境に満足しており、「前年度アンケート」の結果より満足している市民が微増していることがうかがえます。
- ・市民の過半数が、市内の公共交通機関に満足していないことがうかがえます。

➤ 生活安全について

- ・市民の過半数が、自宅の災害時の備え（備蓄品など）が十分ではないと回答しています。
- ・市民の約3割が、地震発生時の避難所・避難場所を知らないことがうかがえます。
- ・1年間で消費者トラブルに巻きこまれた人はごくわずかであることがうかがえます。
- ・年々、認知度は上がっていますが、いまだ市民の約6割が深谷市に消費生活センターの相談窓口があることを知らないことがうかがえます。

➤ 産業振興について

- ・市民の6割以上が市内の商店街（個人商店）を利用しておらず、特に若い世代のほど利用する機会が少ないことがうかがえます。一方で市民の過半数が通信販売を含む、市外業者を利用している状況です。

- ・市民の半数近くの人が深谷市には観光地としての可能性があると感じていることがうかがえます。また観光資源になるものとしては、「渋沢栄一」や「ふっかちゃん」、「花フェスタ」などが上位に挙げられています。
- ・市民の6割以上が仕事と生活のバランスが取れていると回答しています。
- ・市民の6割以上が食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていると回答しています。一方で、心掛けていると回答した市民の割合が高い地域と低い地域で、ポイント数に倍の差があり、地域によって意識に違いがあることがうかがえます。
- ・市民の過半数が市外で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがあると回答しています。

#### ▶ コミュニティ・交流について

- ・地域活動に参加している人の割合は市民の半数に達しておりません。特に20歳代の参加割合は少なくなっています。
- ・NPO活動やボランティア活動の中で興味のある活動がある人は約3割程度であり、「前年度アンケート」の結果から大きな変化は見られません。
- ・市民の過半数の人が、市民ガーデニングボランティアや王国ボランティアを知らず、「前年度アンケート」の結果から微増しています。
- ・6割以上の市民が花と緑をいかしたまちづくり活動に興味を持っているものの、参加したいと思っている人は4割に満たない状況です。
- ・市民の約7割の人は深谷市の友好都市を知らないことがうかがえます。特に友好都市全てを知っていると回答した人の割合は約2%であり、認知度が低いことがうかがえます。
- ・「前年度アンケート」の結果と同様に、ふだん外国人との交流がある人は市民の1割程度ですが、男性の20～40歳代において交流があると回答した割合が高くなっています。
- ・「前年度アンケート」の結果と同様に、海外留学や海外勤務、移住などに興味を持っている人は多くはありませんが、男女とも20～40歳代にかけて興味の高まりがうかがえます。
- ・約9割の市民が外国人とのトラブルを聞いたことがないと回答しており、外国人とのトラブルがごくわずかであることがうかがえます。
- ・男女共同参画に対する意識について「前年度アンケート」と大きな変化は見られ

ません。

- ・市民全体では約 7 割の市民がユニバーサルデザインを知らないと回答しています。
- ・公共施設の利用に際し、不便と感じたことがある人が 4 割以上となっています。男女とも 30 歳代が不便と感じている人が多い状況です。
- ・市民の過半数が、日頃から人権について意識をしていることがうかがえますが、特に 50～60 歳代の男性は、意識が高いことがわかります。
- ・市民の過半数が、深谷市に人権侵害・DV 相談についての窓口があることを知りません。

➤ 協働・行財政について

- ・「前年度アンケート」の結果と同様に、市民の約 7 割が、市から得られる情報、公表手段が充実していると感じていることがうかがえます。
- ・市の事業に参加する機会は以前と比べて増えたかという問いに対して、「前年度アンケート」の結果と同様に、市民の大多数が「変わらない」と回答しました。
- ・「前年度アンケート」の結果と同様に、市民の大多数が、市役所の窓口サービスに満足していることがうかがえます。

## (2) 調査からわかったこと（地区別）

### ➤ 深谷地区

- ・市内の公共交通機関（電車・バス）の利便性（本数、路線、サービスなど）に満足していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市の事業に参加する機会が以前と比べて増えたと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・地域活動（自治会や町内会での活動など）へ参加していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

### ➤ 藤沢地区

- ・この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことがあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ふだん外国人との交流（インターネットを含む）があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・お互いの人権について意識をして生活していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

### ➤ 幡羅地区

- ・市民活動（NPO 団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

### ➤ 明戸地区

- ・他の地区と比較して、相対的に定住意識が高いことがうかがえます。
- ・環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

- ・健康的な食生活に気をつけていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）がいると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・スポーツやレクリエーションを行っているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・渋滞などの道路状況は以前と比べて改善されたという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・身近な街並みは整っていると思うという回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内の公共交通機関（電車・バス）の利便性（本数、路線、サービスなど）に満足しているという回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・地震発生時の避難所・避難場所を知っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・深谷市には観光地としての可能性があると思うという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市外業者（通信販売を含む）を利用しているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・将来的に、海外への留学・仕事・移住などに興味があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ユニバーサルデザインを知っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・深谷市に人権侵害・DV相談についての窓口があることを知っているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実しているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 大寄地区

- ・市内の道路に不便なところがあると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内の道路（車道、歩道）で、通行のしにくさや危険を感じたことがあると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・自身または家族の仕事と生活のバランスが取れていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・将来的に、海外への留学・仕事・移住などに興味があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・深谷市に人権侵害・DV相談についての窓口があることを知っているとして回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 八基地区

- ・市内の公園や森林・山などに行くと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っているとして回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・健康的な食生活に気をつけていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・スポーツやレクリエーションを行っているとして回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・自宅に災害に対する備え（備蓄品など）があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・深谷市に消費生活センター（相談窓口）があるのを知っていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・深谷市には観光地としての可能性があるとして回答した市民の割合が相対的に低いこ

とがうかがえます。

- ・地域活動（自治会や町内会での活動など）へ参加していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 豊里地区

- ・他の地区と比較して、定住意識が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内にお気に入りの街並み・景色があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っているとは回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいるとは回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践しているとは回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内の大学・専門学校（または学生・生徒）が、地域のための活動をしていることを知っているとは回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・住まい周辺の住環境に満足しているとは回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・地震発生時の避難所・避難場所を知っているとは回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けているとは回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市民活動（NPO 団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に興味があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことがあるとは回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。



- ・男女共同参画について以前より意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・公共施設の利用に際し、不便と感じたことがあると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 上柴地区

- ・日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）がいると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・渋滞などの道路状況が以前と比べて改善されたと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・住まい周辺の住環境に満足していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内の商店街（個人商店）を利用すると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・お互いの人権について意識をして生活をしていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 南地区

- ・市内の公園や森林・山などに行くとは回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内にお気に入りの街並み・景色があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・かかりつけのお医者さんがいると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・身近な街並みは整っていると思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・深谷市に消費生活センター（相談窓口）があるのを知っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市外業者（通信販売を含む）を利用すると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

- ・自身または家族の仕事と生活のバランスが取れていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ふだん外国人との交流（インターネットを含む）があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市の事業に参加する機会は以前と比べて増えたと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市役所の窓口サービスに満足していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

#### ➤ 岡部地区

- ・市内の大学・専門学校（または学生・生徒）が、地域のための活動をしていることを知っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内の商店街（個人商店）を利用すると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に興味があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・男女共同参画を以前より意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・公共施設の利用に際し、不便と感じたことがあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 川本地区

- ・かかりつけのお医者さんがいると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・自宅に災害に対する備え（備蓄品など）があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・深谷市の友好都市（国内4自治体）がどこか知っているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことがあるという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

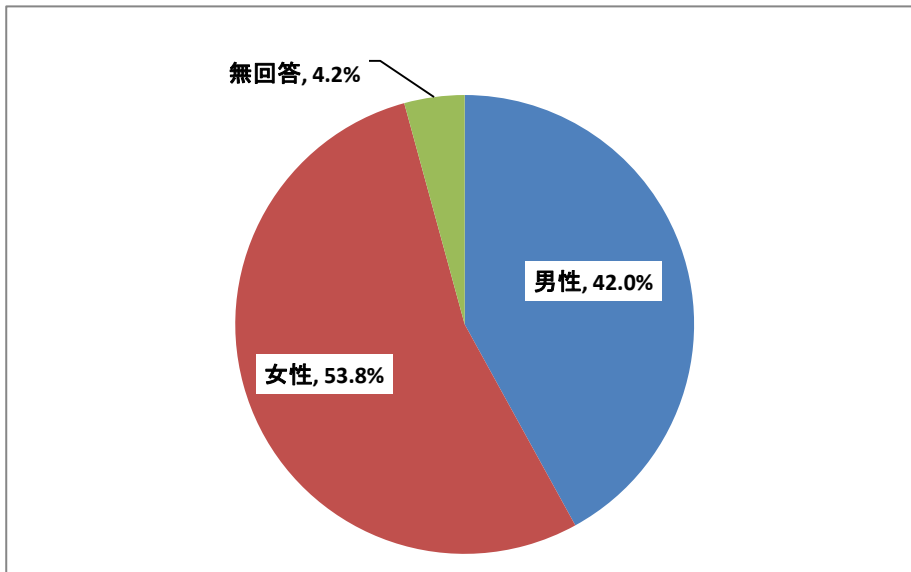
➤ 花園地区

- ・市内の道路に不便なところがあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内の道路（車道、歩道）で、通行のしにくさや危険を感じたことがあるという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・深谷市の友好都市（国内4自治体）がどこか知っているという回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市役所の窓口サービスに満足しているという回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

## 2. II. アンケート調査結果の詳細

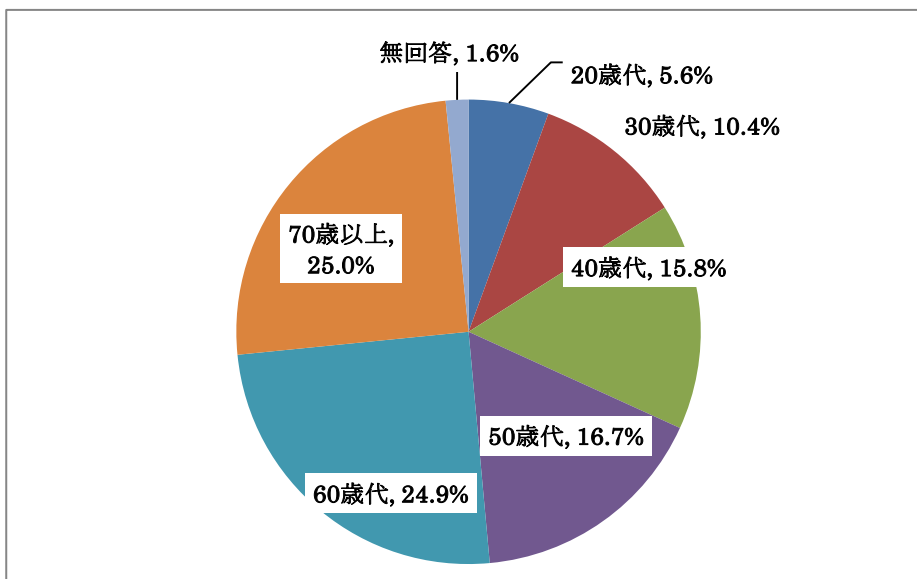
### 1. 回答者属性

#### (1) 性別



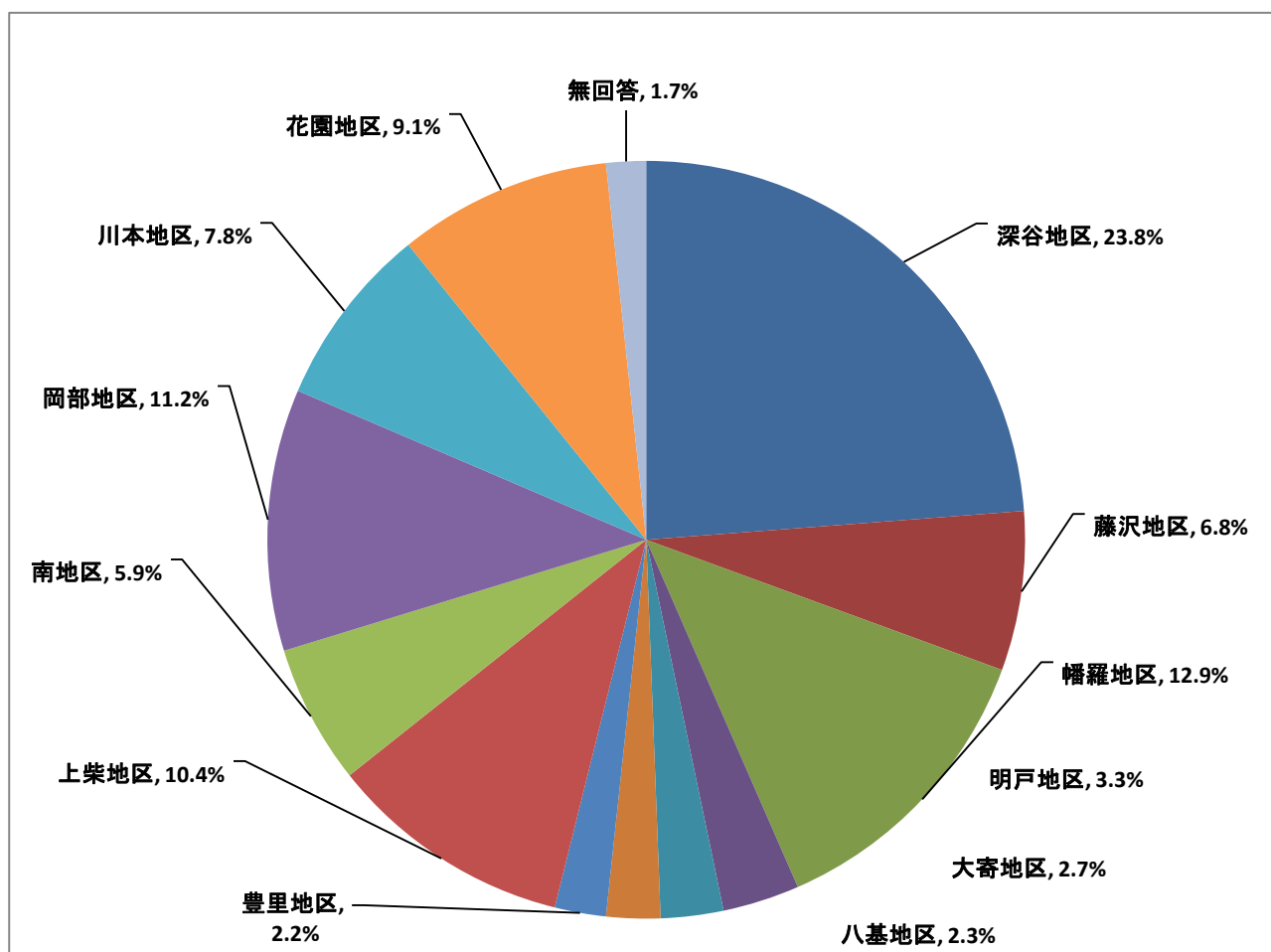
男性が 42.0%、女性が 53.8%と、回答者は女性の割合が多くなっています。

#### (2) 年齢



年齢では、70歳以上が最も多く、25.0%となっています。次いで、60歳代 24.9%、50歳代 16.7%、40歳代 15.8%、30歳代 10.4%となっており、最も少ないのは20歳代で 5.6%となっています。

### (3) 居住地区

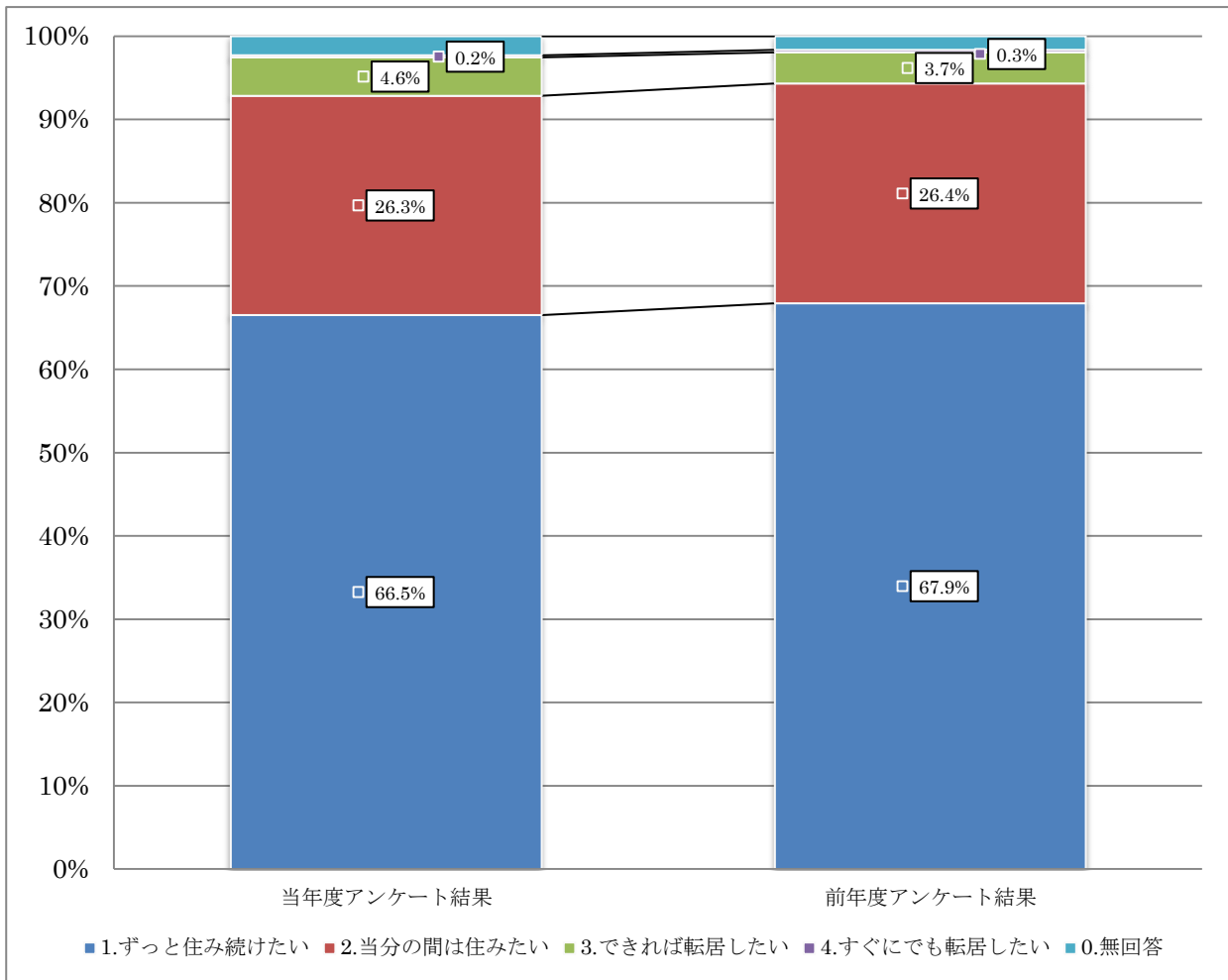


深谷地区が最も多く 23.8%となっています。次いで、幡羅地区 12.9%、岡部地区 11.2%、上柴地区 10.4%となっています。最も少ないのは豊里地区であり、2.2%となっています。

## 2. 深谷市のまちづくりについて

### (1) 市への定住意識について（1. 問1）

あなたは、これからもずっと深谷市に住み続けたいと思いますか。

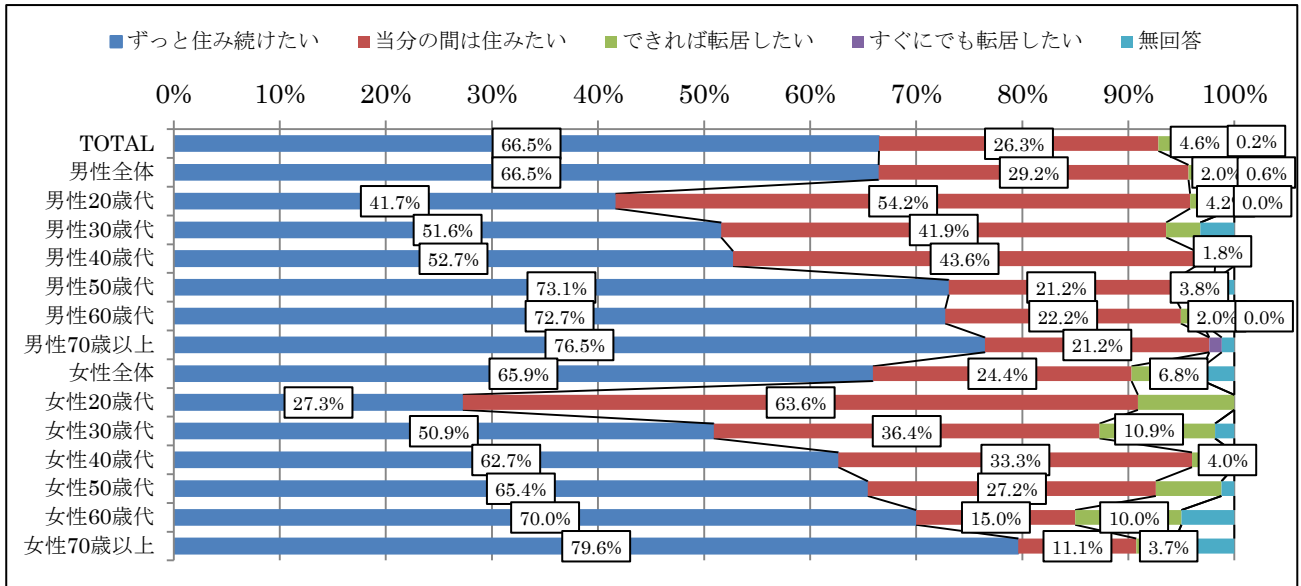


「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合が 66.5%、「当分の間は住みたい」と回答した人の割合が 26.3%となっており、2つの合計は 92.8%と 9 割を超えていることから、深谷市民は定住意識が高いことがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「ずっと住み続けたい」または「当分の間は住みたい」と回答した人の割合は 94.3%であり、前年度アンケートと比較して、ほぼ変動がないことがうかがえます。

母集団		ずっと住み続けたい	当分の間は住みたい	できれば転居したい	すぐにも転居したい	無回答	合計
TOTAL	824	66.5%	26.3%	4.6%	0.2%	2.3%	100.0%
男性全体	346	66.5%	29.2%	2.0%	0.6%	1.7%	100.0%
男性 20 歳代	24	41.7%	54.2%	4.2%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	51.6%	41.9%	3.2%	0.0%	3.2%	100.0%
男性 40 歳代	55	52.7%	43.6%	1.8%	1.8%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	73.1%	21.2%	3.8%	0.0%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	72.7%	22.2%	2.0%	0.0%	3.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	76.5%	21.2%	0.0%	1.2%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	65.9%	24.4%	6.8%	0.0%	2.9%	100.0%
女性 20 歳代	22	27.3%	63.6%	9.1%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	50.9%	36.4%	10.9%	0.0%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	62.7%	33.3%	4.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	65.4%	27.2%	6.2%	0.0%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	70.0%	15.0%	10.0%	0.0%	5.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	79.6%	11.1%	3.7%	0.0%	5.6%	100.0%
女性年齢不詳	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	62.8%	30.1%	4.6%	0.5%	2.0%	100.0%
藤沢地区	56	71.4%	23.2%	5.4%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	106	62.3%	31.1%	3.8%	0.0%	2.8%	100.0%
明戸地区	27	96.3%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	68.2%	22.7%	9.1%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	19	68.4%	15.8%	10.5%	0.0%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	55.6%	27.8%	11.1%	0.0%	5.6%	100.0%
上柴地区	86	58.1%	32.6%	5.8%	0.0%	3.5%	100.0%
南地区	49	65.3%	28.6%	2.0%	0.0%	4.1%	100.0%
岡部地区	92	68.5%	21.7%	5.4%	0.0%	4.3%	100.0%
川本地区	64	76.6%	18.8%	3.1%	0.0%	1.6%	100.0%
花園地区	75	68.0%	29.3%	1.3%	1.3%	0.0%	100.0%
無回答	14	71.4%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	100.0%

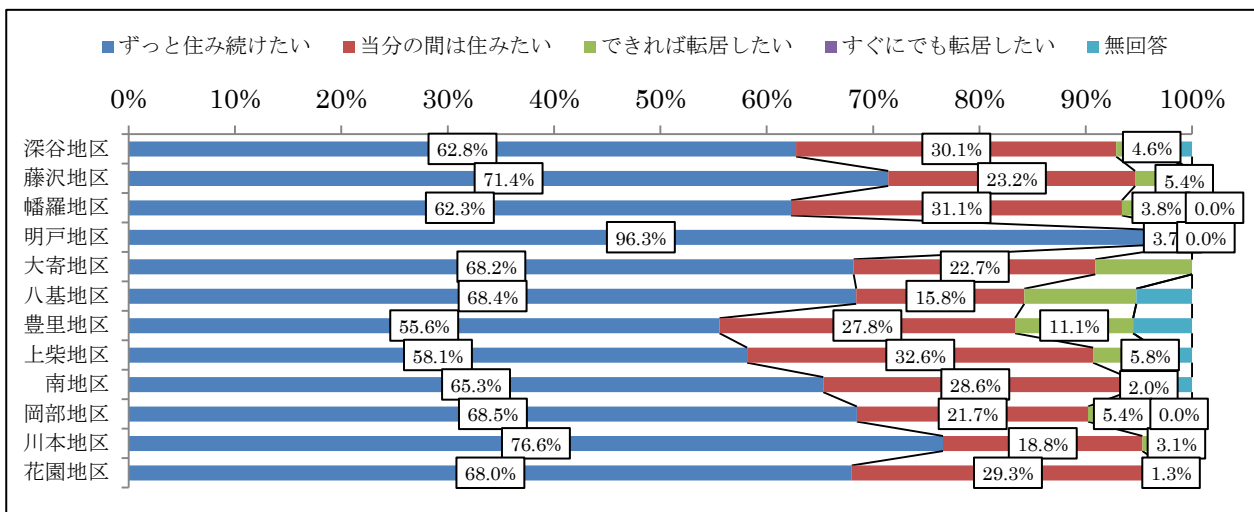
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合は、男性が 66.5% であるのに対し、女性は 65.9% となっています。

また、「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合が最も少ない世代は男性が 20 歳代 (41.7%)、女性が 20 歳代 (27.3%) であり、一方で、最も多い世代は、男性、女性ともに 70 歳以上 (男性 76.5%、女性 79.6%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合は、豊里地区、上柴地区の 2 地区においては 50% 台と低い数値になっており、一方で、明戸地区においては 96.3% と高い数値になっています。

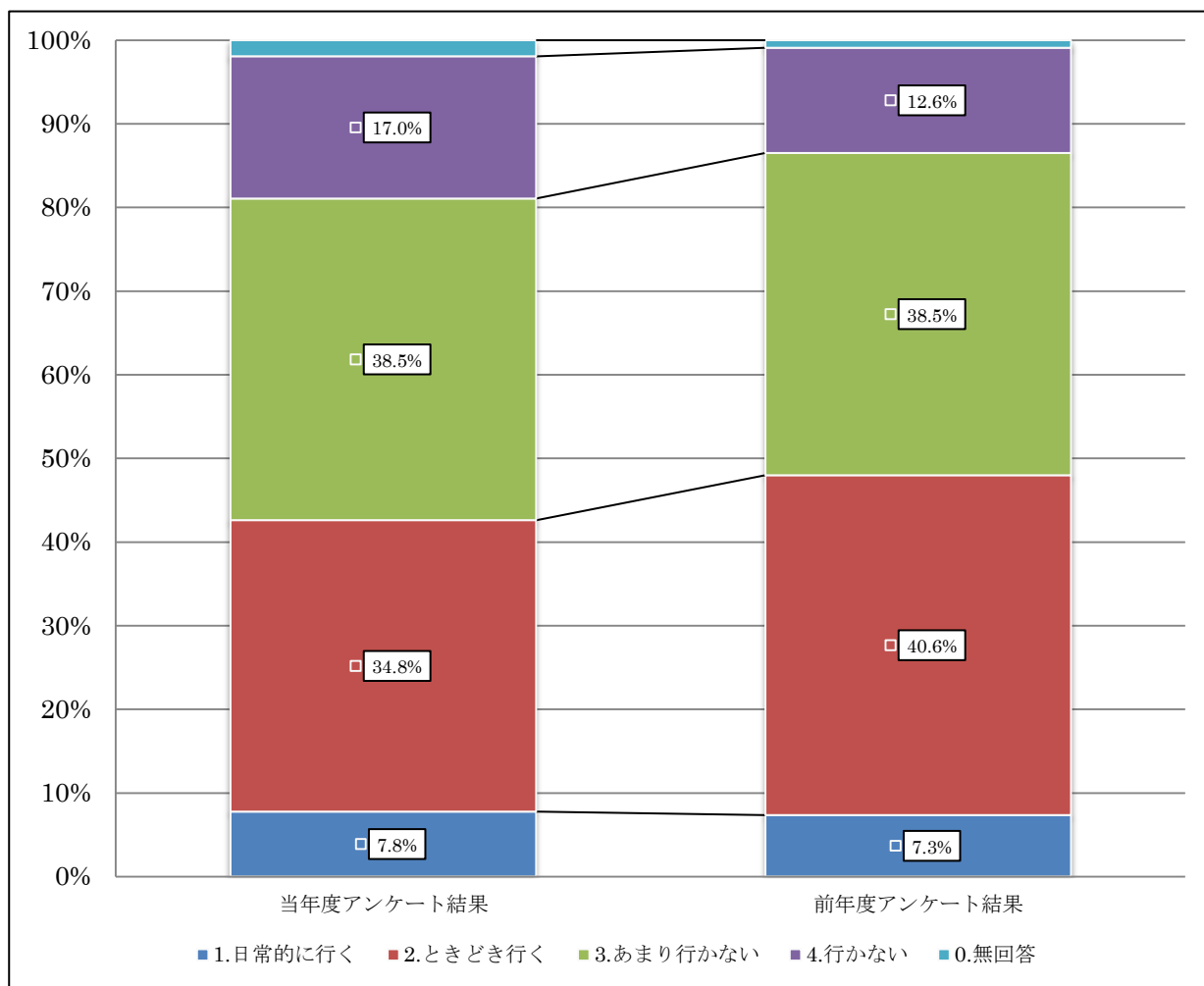
ただし、「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合と「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計はすべて 8 割以上と高い数値であり、現時点において、深谷市外に転居を希望している人は少ないことがうかがえます。



## (2) 環境について

### ① 快適な空間と景観づくり (2. 問1,2)

市内の公園や森林・山などに、どの程度行きますか。



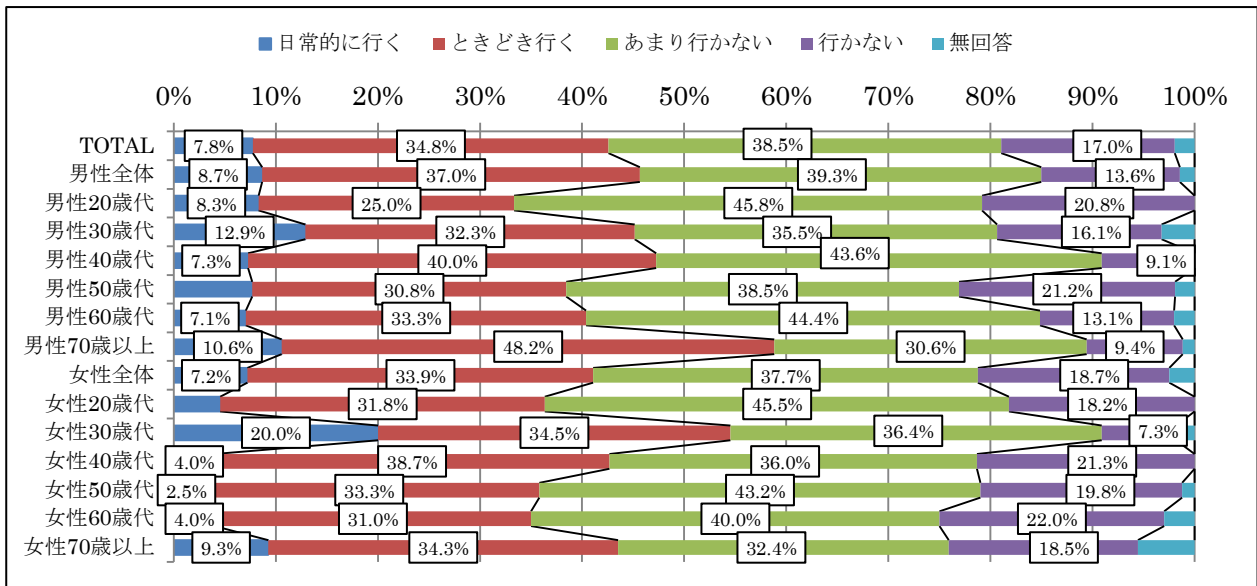
「あまり行かない」と回答した人の割合が 38.5%と最も多く、次いで、「ときどき行く」と回答した人の割合が 34.8%、「行かない」と回答した人の割合が 17.0%、「日常的に行く」と回答した人の割合は 7.8%となっています。

「日常的に行く」と回答した人の割合と「ときどき行く」と回答した人の割合の合計は 42.6%であり、市内の公園や森林・山に行く人は半数を下回っています。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に行く」または「ときどき行く」と回答した人の割合は 47.9%であり、前年度アンケートと比較して、僅かに減少していることがうかがえます。

母集団		日常的に行く	ときどき行く	あまり行かない	行かない	無回答	合計
TOTAL	824	7.8%	34.8%	38.5%	17.0%	1.9%	100.0%
男性全体	346	8.7%	37.0%	39.3%	13.6%	1.4%	100.0%
男性 20 歳代	24	8.3%	25.0%	45.8%	20.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	12.9%	32.3%	35.5%	16.1%	3.2%	100.0%
男性 40 歳代	55	7.3%	40.0%	43.6%	9.1%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	7.7%	30.8%	38.5%	21.2%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	7.1%	33.3%	44.4%	13.1%	2.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	10.6%	48.2%	30.6%	9.4%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	7.2%	33.9%	37.7%	18.7%	2.5%	100.0%
女性 20 歳代	22	4.5%	31.8%	45.5%	18.2%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	20.0%	34.5%	36.4%	7.3%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	4.0%	38.7%	36.0%	21.3%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	2.5%	33.3%	43.2%	19.8%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	4.0%	31.0%	40.0%	22.0%	3.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	9.3%	34.3%	32.4%	18.5%	5.6%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	4.6%	39.3%	40.3%	14.3%	1.5%	100.0%
藤沢地区	56	8.9%	28.6%	44.6%	16.1%	1.8%	100.0%
幡羅地区	106	12.3%	32.1%	38.7%	15.1%	1.9%	100.0%
明戸地区	27	7.4%	29.6%	40.7%	22.2%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	13.6%	18.2%	40.9%	27.3%	0.0%	100.0%
八基地区	19	5.3%	26.3%	42.1%	21.1%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	0.0%	33.3%	38.9%	27.8%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	4.7%	38.4%	38.4%	15.1%	3.5%	100.0%
南地区	49	12.2%	44.9%	28.6%	10.2%	4.1%	100.0%
岡部地区	92	6.5%	26.1%	42.4%	21.7%	3.3%	100.0%
川本地区	64	6.3%	39.1%	37.5%	15.6%	1.6%	100.0%
花園地区	75	12.0%	41.3%	29.3%	17.3%	0.0%	100.0%
無回答	14	14.3%	14.3%	35.7%	35.7%	0.0%	100.0%

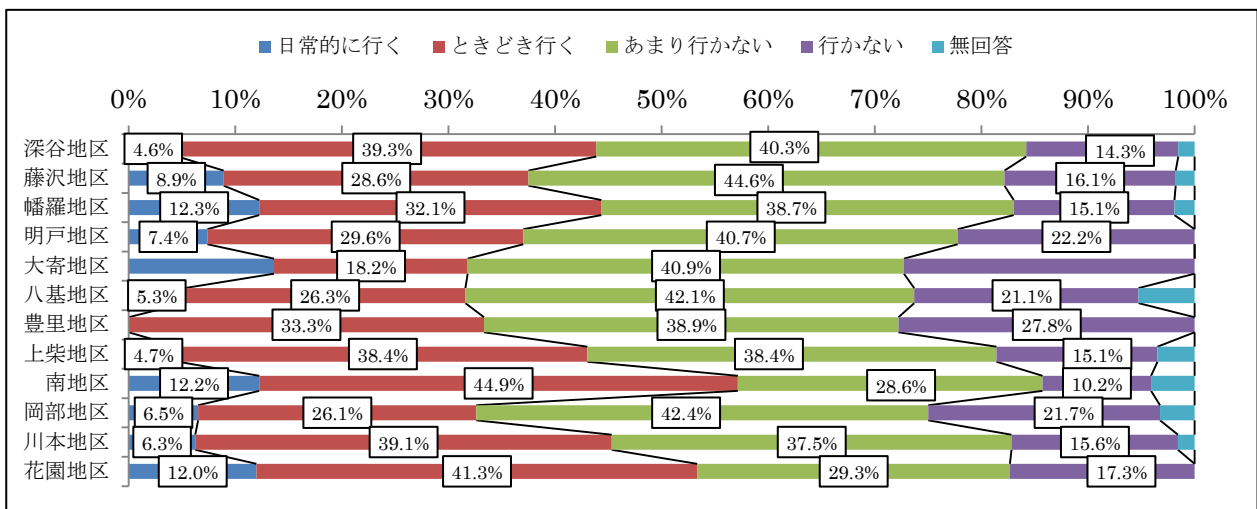
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に行く」または「ときどき行く」と回答した人の割合は、男性が45.7%であるのに対して、女性は41.1%となっています。

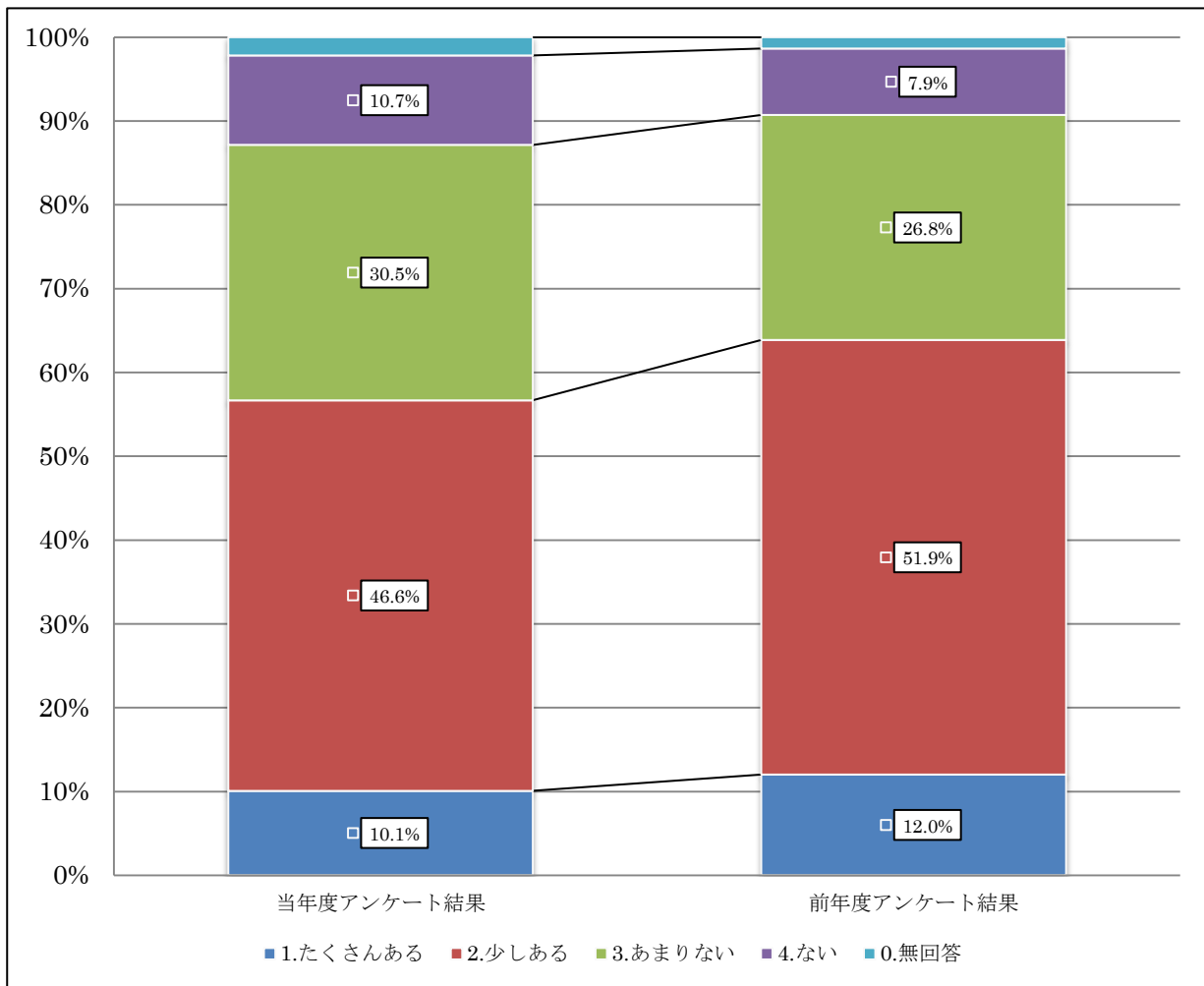
また、「日常的に行く」または「ときどき行く」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が20歳代(33.3%)、女性が60歳代(35.0%)であり、一方で、最も多い世代は、男性が70歳以上(58.8%)、女性が30歳代(54.5%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に行く」または「ときどき行く」と回答した人の割合が最も少ない地区は、八基地区(31.6%)であり、次いで大寄地区(31.8%)となっています。最も多い地区は、南地区(57.1%)であり、次いで花園地区(53.3%)となっています。

市内にお気に入りの街並み・景色はありますか。



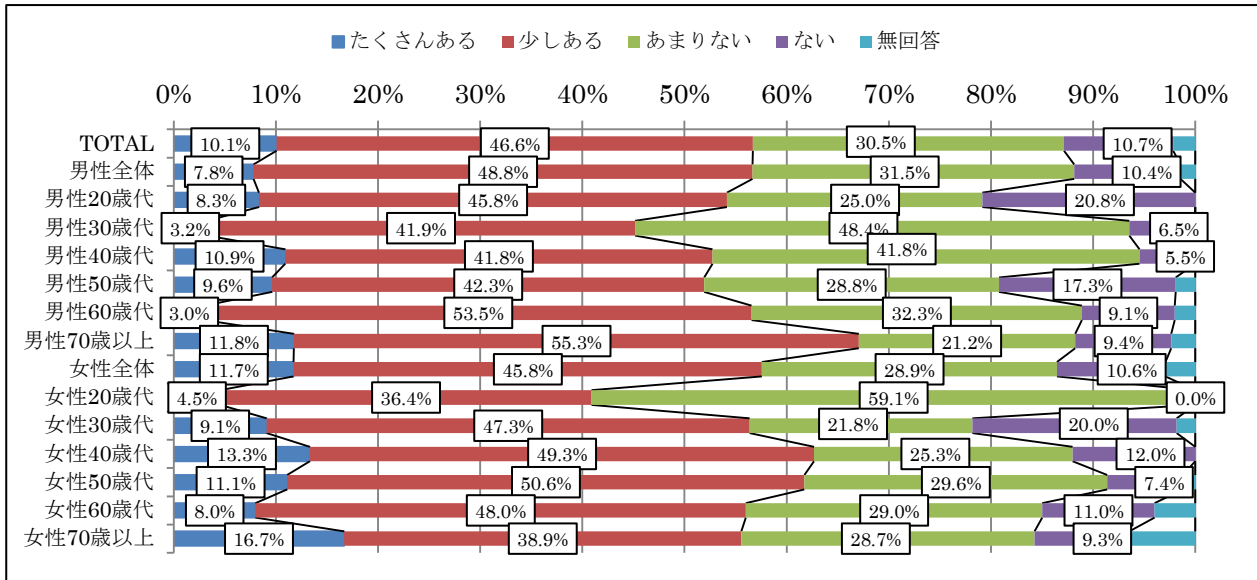
「少しある」と回答した人の割合が 46.6%と最も多く、次いで、「あまりない」と回答した人の割合が 30.5%、「ない」と回答した人の割合は 10.7%、「たくさんある」と回答した人の割合が 10.1%となっています。

「たくさんある」と回答した人の割合と「少しある」と回答した人の割合の合計は 56.7%であり、市内にお気に入りの街並み・景色がある人の割合が過半数を占めています。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たくさんある」または「少しある」と回答した人の割合は 63.9%であり、前年度アンケートと比較して、僅かに減少していることがうかがえます。

母集団		たくさんある	少しある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	824	10.1%	46.6%	30.5%	10.7%	2.2%	100.0%
男性全体	346	7.8%	48.8%	31.5%	10.4%	1.4%	100.0%
男性 20 歳代	24	8.3%	45.8%	25.0%	20.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	3.2%	41.9%	48.4%	6.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	10.9%	41.8%	41.8%	5.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	9.6%	42.3%	28.8%	17.3%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	3.0%	53.5%	32.3%	9.1%	2.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	11.8%	55.3%	21.2%	9.4%	2.4%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	11.7%	45.8%	28.9%	10.6%	2.9%	100.0%
女性 20 歳代	22	4.5%	36.4%	59.1%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	9.1%	47.3%	21.8%	20.0%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	13.3%	49.3%	25.3%	12.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	11.1%	50.6%	29.6%	7.4%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	8.0%	48.0%	29.0%	11.0%	4.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	16.7%	38.9%	28.7%	9.3%	6.5%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	10.2%	50.0%	28.1%	10.2%	1.5%	100.0%
藤沢地区	56	7.1%	55.4%	23.2%	14.3%	0.0%	100.0%
幡羅地区	106	6.6%	43.4%	38.7%	9.4%	1.9%	100.0%
明戸地区	27	11.1%	44.4%	37.0%	7.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	18.2%	36.4%	36.4%	9.1%	0.0%	100.0%
八基地区	19	0.0%	52.6%	26.3%	15.8%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	5.6%	38.9%	44.4%	11.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	4.7%	46.5%	33.7%	11.6%	3.5%	100.0%
南地区	49	16.3%	55.1%	18.4%	6.1%	4.1%	100.0%
岡部地区	92	13.0%	42.4%	27.2%	14.1%	3.3%	100.0%
川本地区	64	20.3%	37.5%	29.7%	9.4%	3.1%	100.0%
花園地区	75	8.0%	48.0%	34.7%	6.7%	2.7%	100.0%
無回答	14	7.1%	42.9%	21.4%	28.6%	0.0%	100.0%

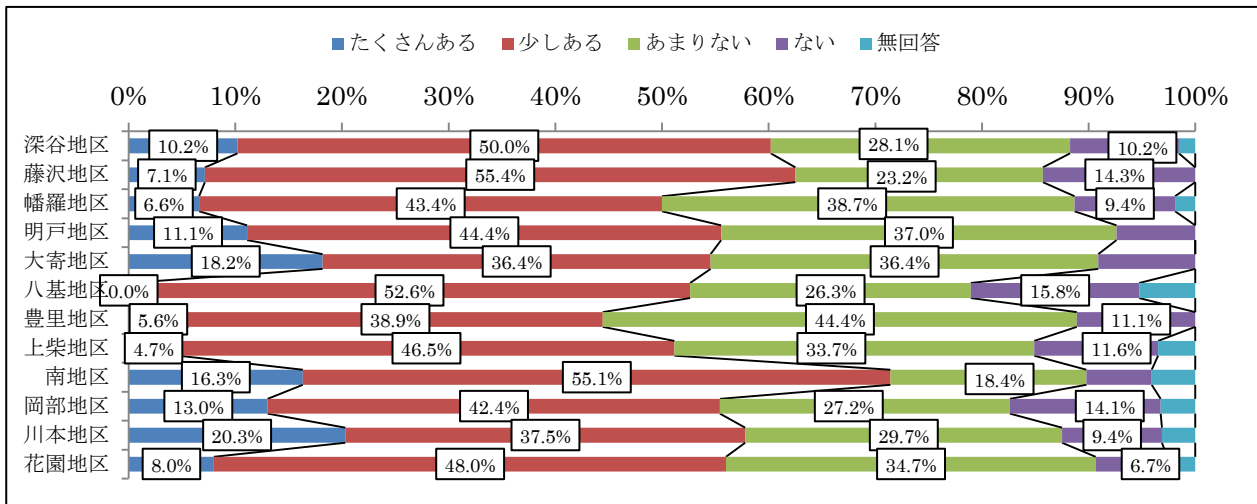
➤ 性別・世代別



「たくさんある」または「少しある」と回答した人の割合は男性が 56.6%であるのに対して、女性は 57.6%となっています。

また、「たくさんある」または「少しある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 30 歳代 (45.2%) であるのに対して、女性は 20 歳代 (40.9%) であり、一方で最も多い世代は男性が 70 歳代以上 (67.1%) であるのに対して、女性は 40 歳代 (62.7%) となっています。

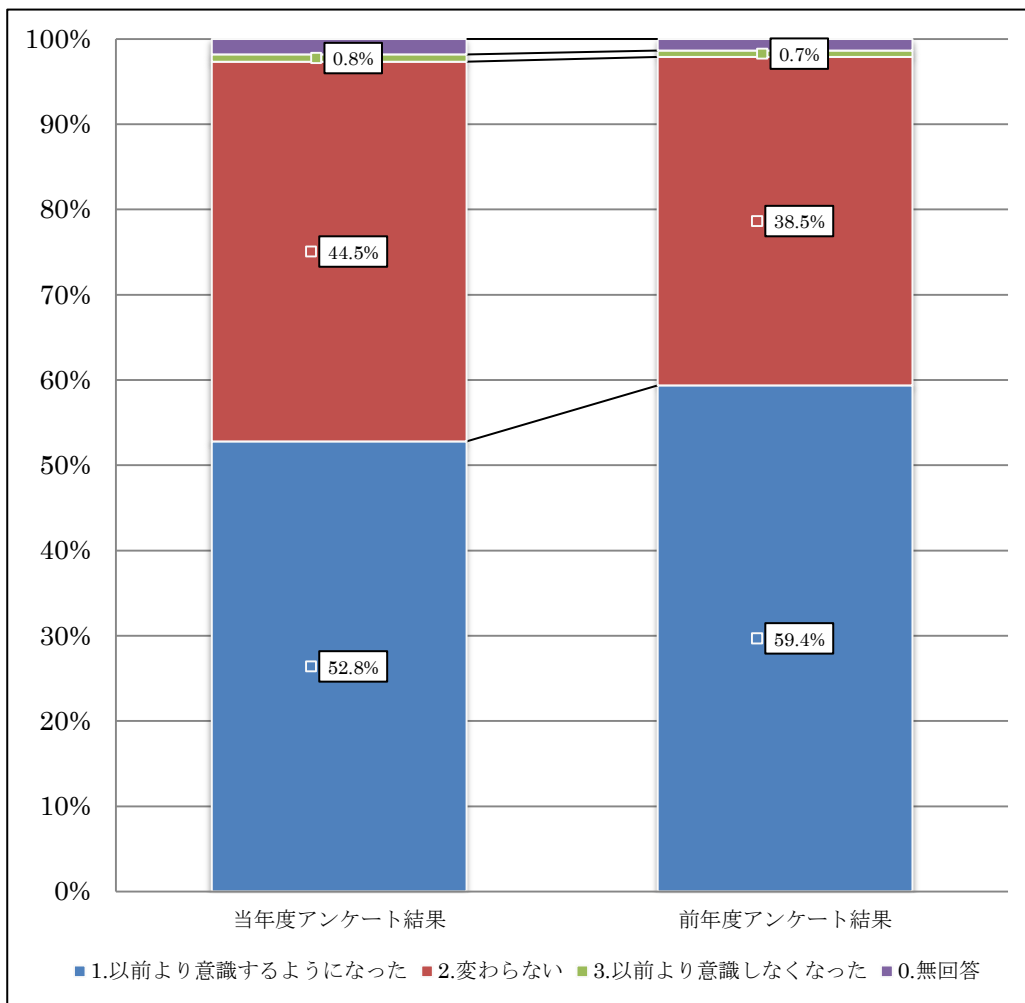
➤ 地区別



地区別にみると、「たくさんある」または「少しある」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、豊里地区 (44.4%) であり、次いで幡羅地区 (50.0%) となっています。最も多い地区は、南地区 (71.4%) であり、次いで藤沢地区 (62.5%) となっています。

### ③ 生活環境の保全と配慮（2. 問 3,4）

環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになりましたか。



「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 52.8%と最も多く、次いで、「変わらない」と回答した人の割合が 44.5%となっています。

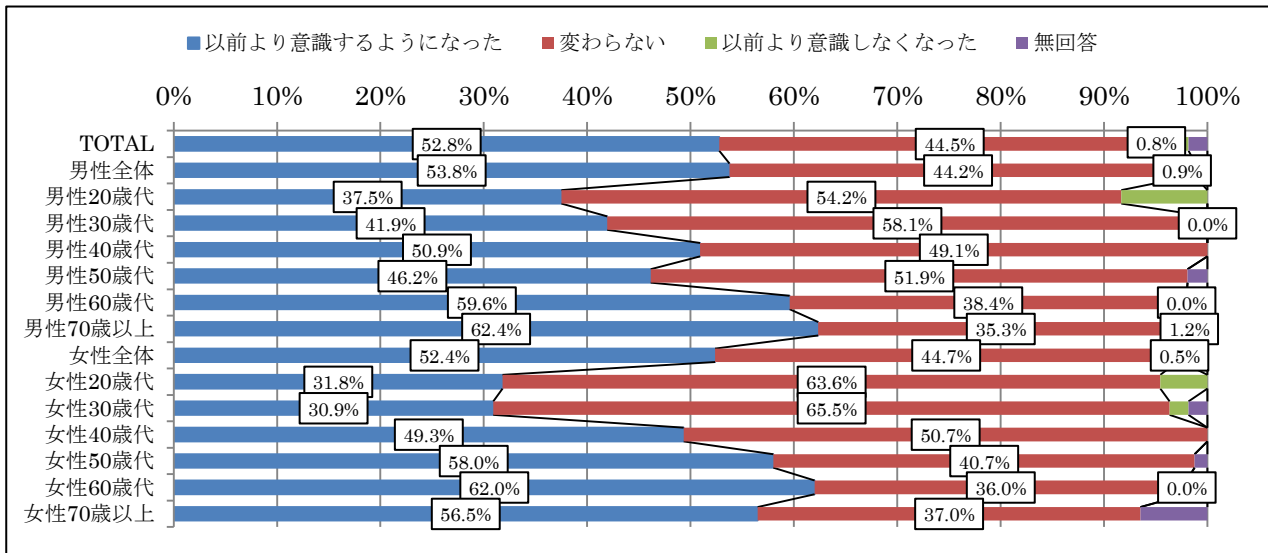
「以前より意識しなくなった」と回答した人の割合は 0.8%とごくわずかであり、大多数の市民が環境問題について、関心を持っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 59.4%であり、前年度アンケートと比較して、僅かに減少していることがうかがえます。

母集団		以前より意識するようになった	変わらない	以前より意識しなくなった	無回答	合計
TOTAL	824	52.8%	44.5%	0.8%	1.8%	100.0%
男性全体	346	53.8%	44.2%	0.9%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	24	37.5%	54.2%	8.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	41.9%	58.1%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	50.9%	49.1%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	46.2%	51.9%	0.0%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	59.6%	38.4%	0.0%	2.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	62.4%	35.3%	1.2%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	52.4%	44.7%	0.5%	2.5%	100.0%
女性 20 歳代	22	31.8%	63.6%	4.5%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	30.9%	65.5%	1.8%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	49.3%	50.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	58.0%	40.7%	0.0%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	62.0%	36.0%	0.0%	2.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	56.5%	37.0%	0.0%	6.5%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	54.6%	41.3%	2.6%	1.5%	100.0%
藤沢地区	56	58.9%	41.1%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	106	47.2%	50.0%	0.9%	1.9%	100.0%
明戸地区	27	74.1%	25.9%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	59.1%	40.9%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	19	42.1%	52.6%	0.0%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	48.8%	46.5%	0.0%	4.7%	100.0%
南地区	49	49.0%	46.9%	0.0%	4.1%	100.0%
岡部地区	92	47.8%	48.9%	1.1%	2.2%	100.0%
川本地区	64	57.8%	40.6%	0.0%	1.6%	100.0%
花園地区	75	57.3%	42.7%	0.0%	0.0%	100.0%
無回答	14	28.6%	71.4%	0.0%	0.0%	100.0%



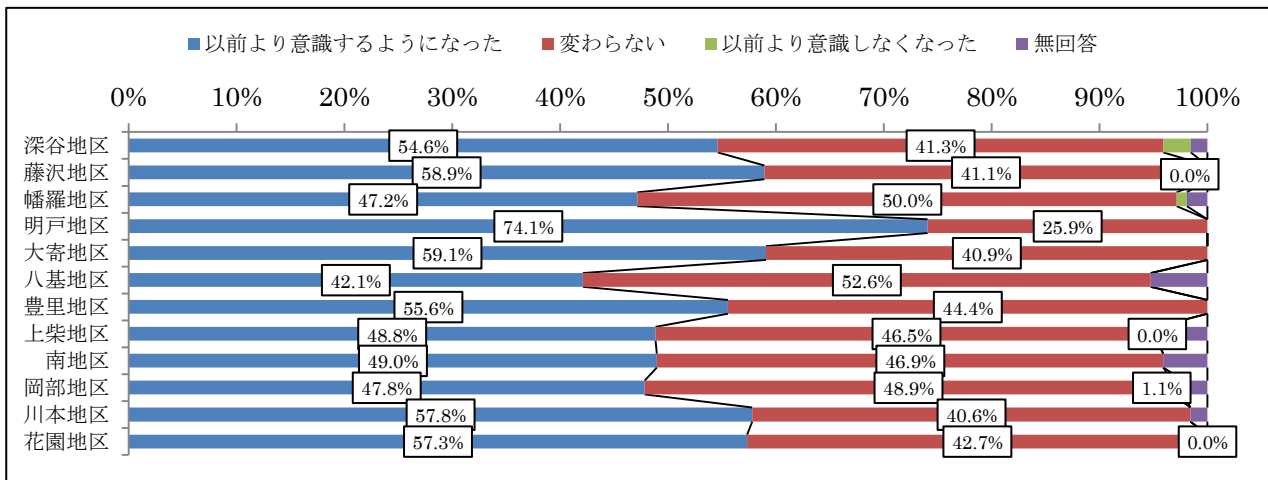
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は男性が53.8%であるのに対して、女性は52.4%となっています。

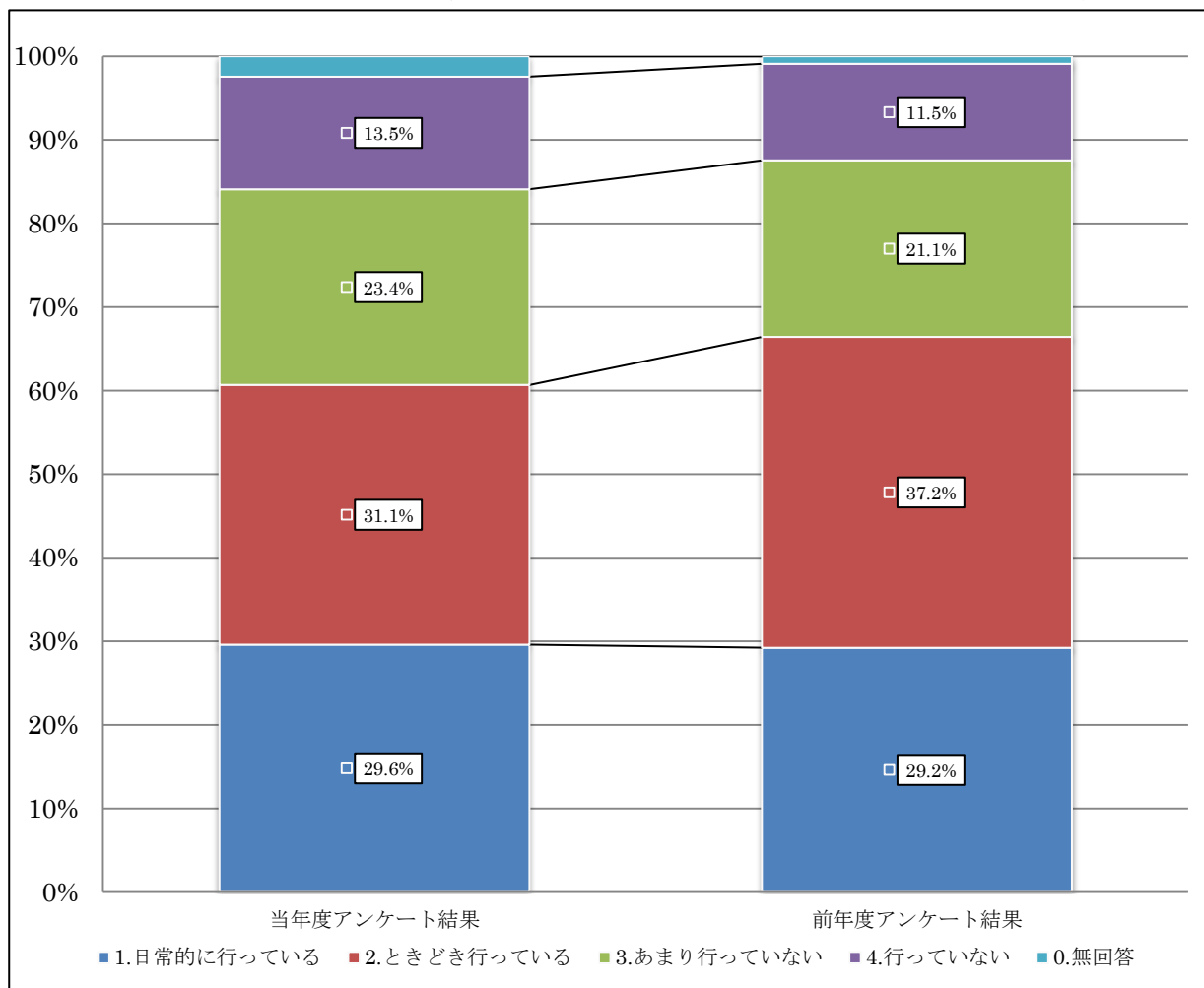
また、男性、女性ともに「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は20歳代(37.5%)、女性は30歳代(30.9%)となっています。一方で、最も多い世代は、男性は70歳代以上(62.4%)、女性は60歳代(62.0%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない地区は、八基地区(42.1%)であり、次いで幡羅地区(47.2%)となっています。最も多い地区は、明戸地区(74.1%)であり、次いで大寄地区(59.1%)となっています。

環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っていますか。



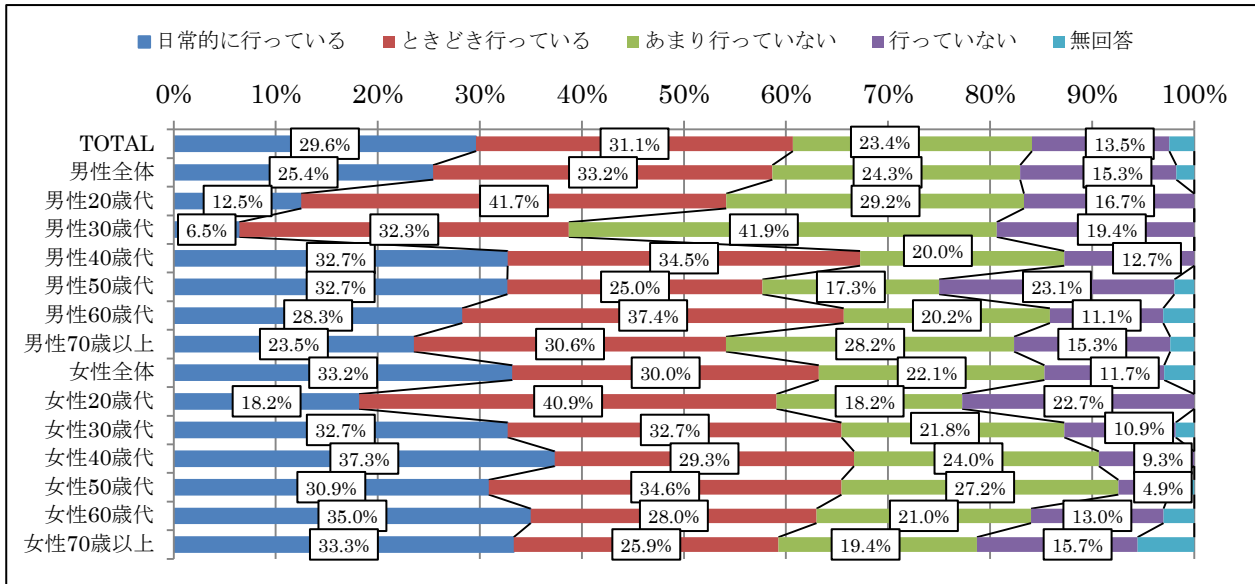
「ときどき行っている」と回答した人の割合が 31.1%と最も多く、次いで「日常的に行っている」と回答した人の割合が 29.6%、「あまり行っていない」と回答した人の割合は 23.4%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は、60.7%であり、過半数の人が、環境に配慮した取組を行っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は、66.4%であり、前年度アンケートと比較して、僅かに減少していることがうかがえます。

母集団		日常的に行っている	ときどき行っている	あまり行っていない	行っていない	無回答	合計
TOTAL	824	29.6%	31.1%	23.4%	13.5%	2.4%	100.0%
男性全体	346	25.4%	33.2%	24.3%	15.3%	1.7%	100.0%
男性 20 歳代	24	12.5%	41.7%	29.2%	16.7%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	6.5%	32.3%	41.9%	19.4%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	32.7%	34.5%	20.0%	12.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	32.7%	25.0%	17.3%	23.1%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	28.3%	37.4%	20.2%	11.1%	3.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	23.5%	30.6%	28.2%	15.3%	2.4%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	33.2%	30.0%	22.1%	11.7%	2.9%	100.0%
女性 20 歳代	22	18.2%	40.9%	18.2%	22.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	32.7%	32.7%	21.8%	10.9%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	37.3%	29.3%	24.0%	9.3%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	30.9%	34.6%	27.2%	4.9%	2.5%	100.0%
女性 60 歳代	100	35.0%	28.0%	21.0%	13.0%	3.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	33.3%	25.9%	19.4%	15.7%	5.6%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%
深谷地区	196	28.1%	28.1%	24.0%	18.4%	1.5%	100.0%
藤沢地区	56	35.7%	32.1%	23.2%	8.9%	0.0%	100.0%
幡羅地区	106	33.0%	27.4%	19.8%	17.9%	1.9%	100.0%
明戸地区	27	48.1%	29.6%	7.4%	11.1%	3.7%	100.0%
大寄地区	22	18.2%	40.9%	27.3%	13.6%	0.0%	100.0%
八基地区	19	5.3%	21.1%	42.1%	26.3%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	33.3%	50.0%	5.6%	5.6%	5.6%	100.0%
上柴地区	86	27.9%	31.4%	25.6%	11.6%	3.5%	100.0%
南地区	49	34.7%	28.6%	22.4%	10.2%	4.1%	100.0%
岡部地区	92	31.5%	28.3%	28.3%	8.7%	3.3%	100.0%
川本地区	64	23.4%	39.1%	21.9%	10.9%	4.7%	100.0%
花園地区	75	28.0%	38.7%	21.3%	10.7%	1.3%	100.0%
無回答	14	28.6%	21.4%	42.9%	7.1%	0.0%	100.0%

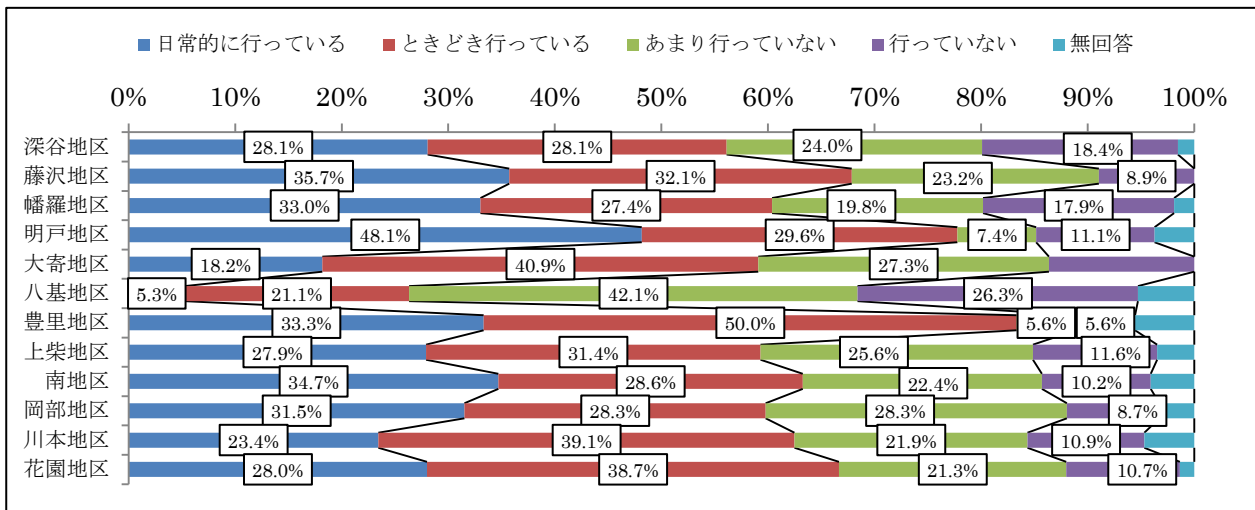
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は男性が58.6%であるのに対して、女性は63.2%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は30歳代(38.8%)、女性は20歳代(59.1%)となっています。一方で、最も多い世代は、男性、女性ともに40歳代(男性67.2%、女性66.6%)となっています。

➤ 地区別

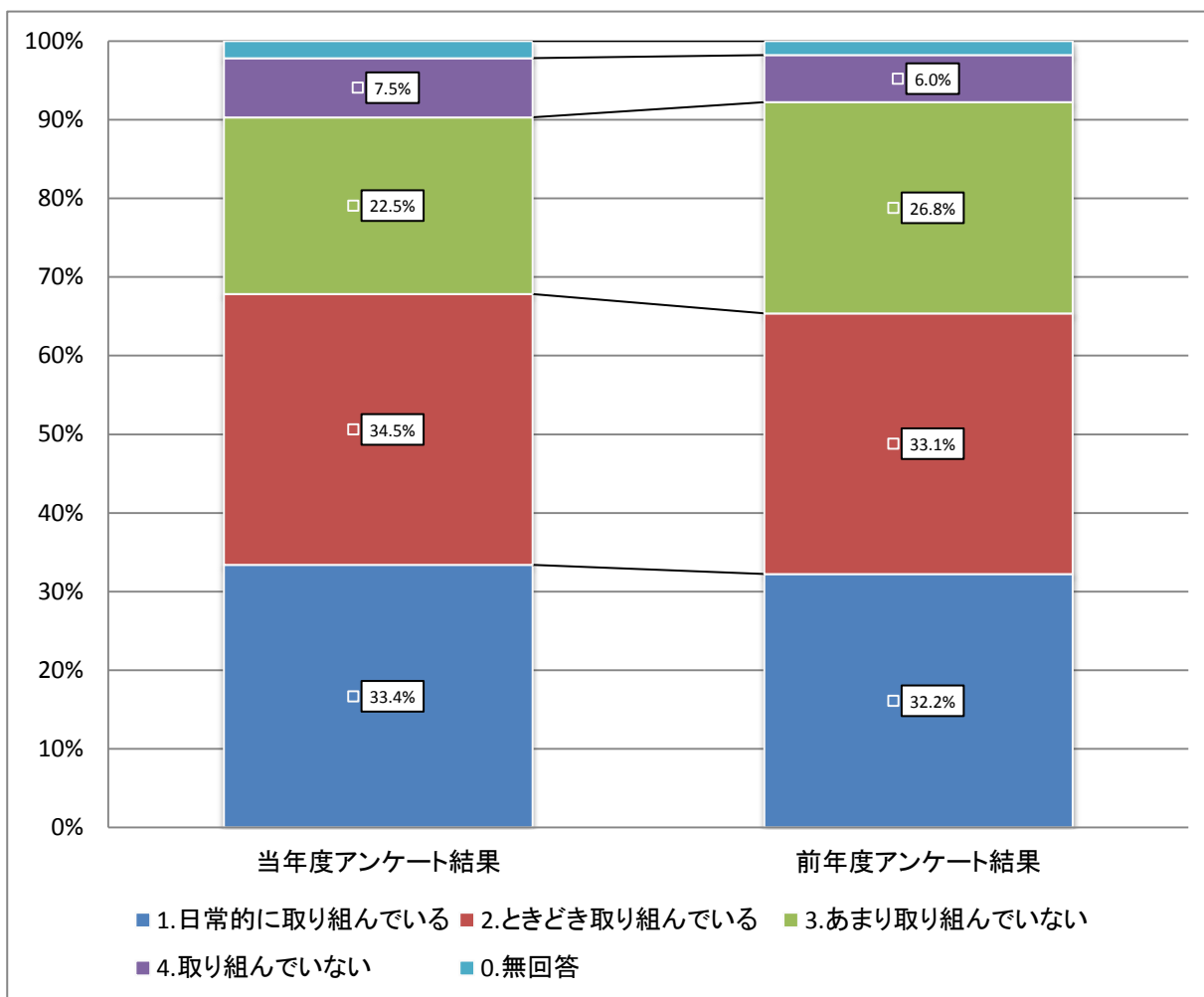


地区別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、八基地区(26.4%)であり、次いで深谷地区(56.2%)となっています。最も多い地区は、豊里地区(83.3%)であり、次いで明戸地区(77.7%)となっています。

### (3) 保健・福祉について

#### ① 健康づくりの推進と保健・医療の充実 (3. 問1～3)

普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいますか。



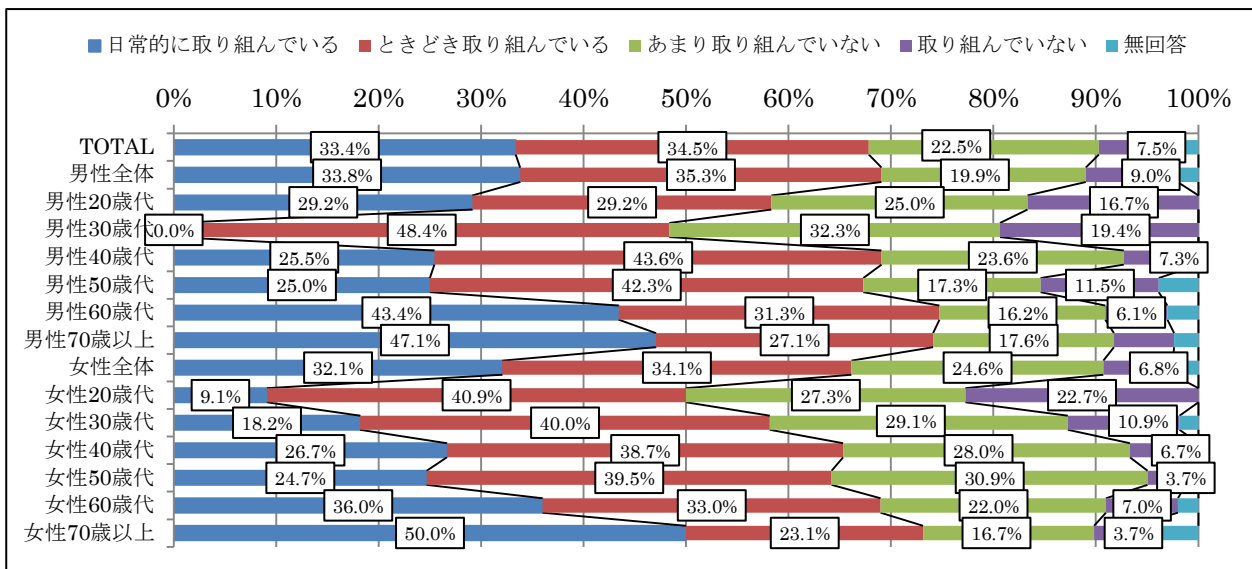
「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合が 34.5%と最も多く、次いで、「日常的に取り組んでいる」と回答した人の割合は 33.4%、「あまり取り組んでいない」と回答した人の割合は 22.5%、「取り組んでいない」と回答した人の割合は 7.5%となっています。

「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合は、67.9%であり、過半数の人が、普段の生活で健康づくりに取り組んでいることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合は、65.3%であることから、普段の生活で健康づくりに取り組んでいる人の割合は、前年度アンケート時から大きく変動していないことがうかがえます。

母集団		日常的に取り組んでいる	ときどき取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	無回答	合計
<b>TOTAL</b>	824	33.4%	34.5%	22.5%	7.5%	2.2%	100.0%
男性全体	346	33.8%	35.3%	19.9%	9.0%	2.0%	100.0%
男性 20 歳代	24	29.2%	29.2%	25.0%	16.7%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	0.0%	48.4%	32.3%	19.4%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	25.5%	43.6%	23.6%	7.3%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	25.0%	42.3%	17.3%	11.5%	3.8%	100.0%
男性 60 歳代	99	43.4%	31.3%	16.2%	6.1%	3.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	47.1%	27.1%	17.6%	5.9%	2.4%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	32.1%	34.1%	24.6%	6.8%	2.5%	100.0%
女性 20 歳代	22	9.1%	40.9%	27.3%	22.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	18.2%	40.0%	29.1%	10.9%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	26.7%	38.7%	28.0%	6.7%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	24.7%	39.5%	30.9%	3.7%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	36.0%	33.0%	22.0%	7.0%	2.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	50.0%	23.1%	16.7%	3.7%	6.5%	100.0%
女性年齢不詳	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	34.7%	33.7%	22.4%	7.1%	2.0%	100.0%
藤沢地区	56	28.6%	41.1%	19.6%	8.9%	1.8%	100.0%
幡羅地区	106	27.4%	34.9%	27.4%	7.5%	2.8%	100.0%
明戸地区	27	48.1%	37.0%	7.4%	7.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	31.8%	31.8%	13.6%	18.2%	4.5%	100.0%
八基地区	19	26.3%	36.8%	21.1%	10.5%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	38.9%	22.2%	27.8%	11.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	43.0%	29.1%	17.4%	7.0%	3.5%	100.0%
南地区	49	20.4%	49.0%	16.3%	10.2%	4.1%	100.0%
岡部地区	92	23.9%	39.1%	30.4%	4.3%	2.2%	100.0%
川本地区	64	39.1%	26.6%	25.0%	7.8%	1.6%	100.0%
花園地区	75	44.0%	29.3%	21.3%	5.3%	0.0%	100.0%
無回答	14	21.4%	42.9%	28.6%	7.1%	0.0%	100.0%

➤ 性別・世代別

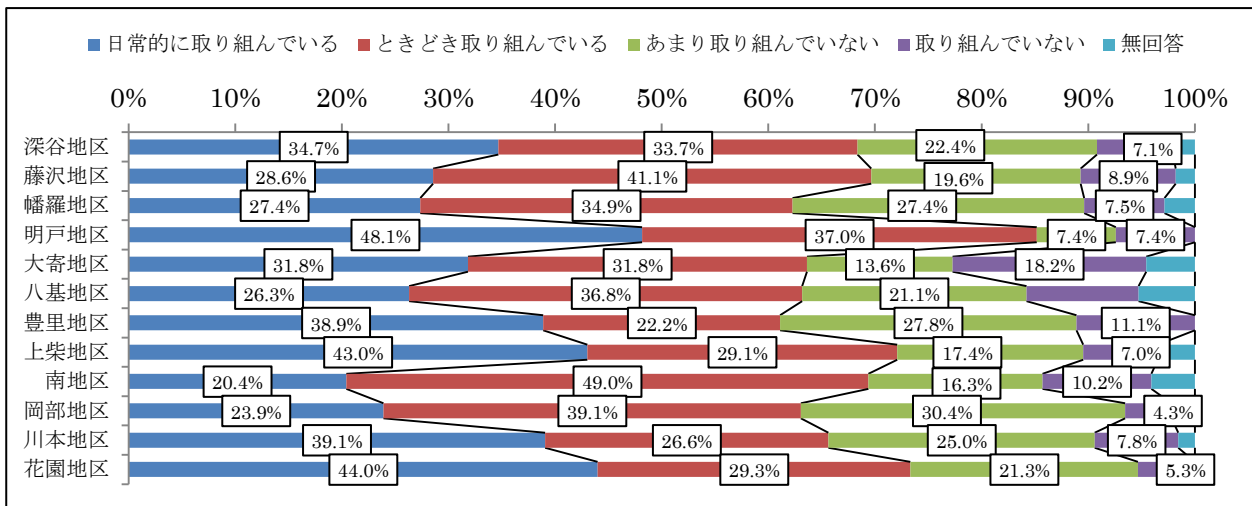


性別・世代別にみると、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合は男性が69.1%であるのに対して、女性は66.2%となっています。

また、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代(48.4%)であるのに対して、女性は20歳代(50.0%)であり、一方で、最も多い世代は、男性が60歳代(74.7%)であるのに対して、女性は70歳代以上(73.1%)となっています。

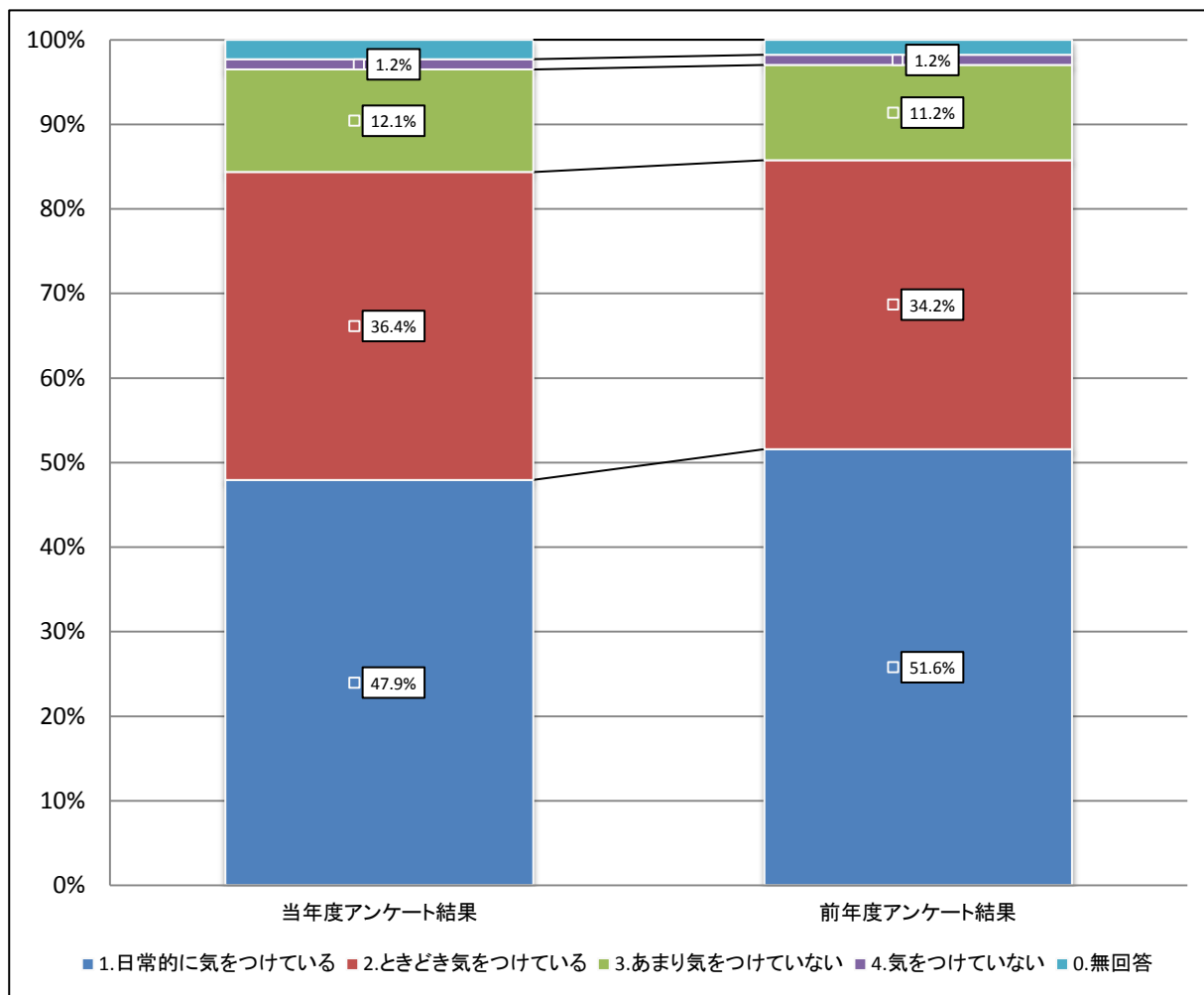
上記、最も少ない世代の回答割合と最も多い世代の回答割合との差は、男性が26.3%、女性は23.1%であり、男女共に世代間での差が多いことがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、豊里地区(61.1%)であり、次いで幡羅地区(62.3%)となっています。最も多い地区は、明戸地区(85.1%)であり、次いで花園地区(73.3%)となっています。

健康的な食生活に気をつけていますか。



「日常的に気をつけている」と回答した人の割合が 47.9%と最も多く、次いで、「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は 36.4%、「あまり気をつけていない」と回答した人の割合は 12.1%、「気をつけていない」と回答した人の割合は 1.2%となっています。

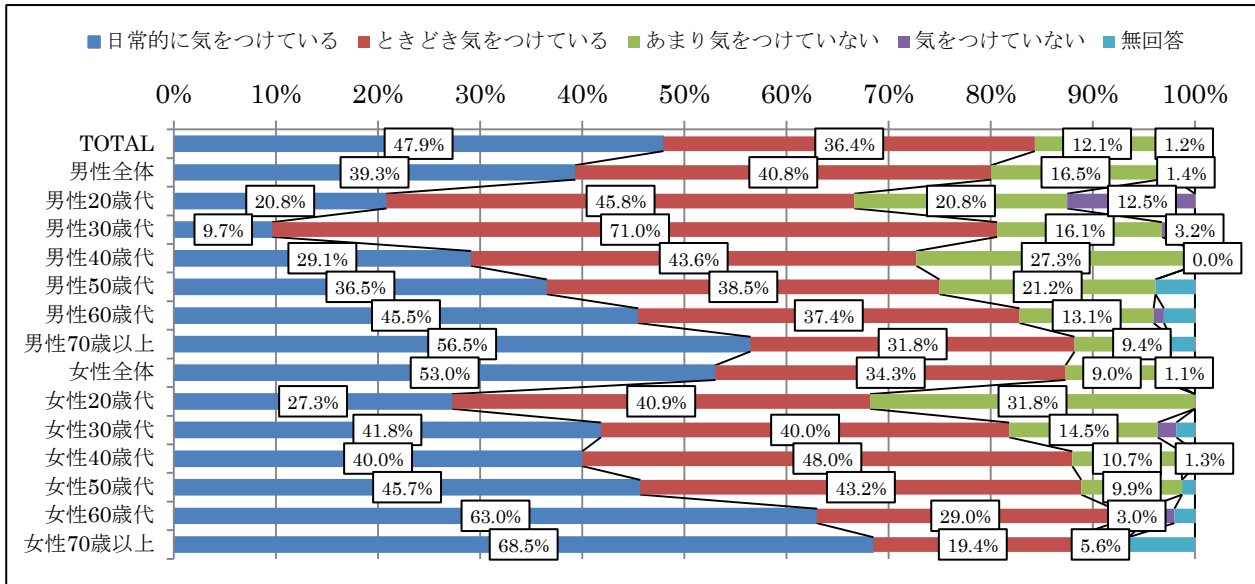
「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は、84.3%であり、大多数の市民が、健康的な食生活に気をつけていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は、85.8%であることから、健康的な食生活に気をつけている人の割合は、前年度アンケート時から大きく変動していないことがうかがえます。



母集団		日常的に気をつけている	ときどき気をつけている	あまり気をつけていない	気をつけていない	無回答	合計
TOTAL	824	47.9%	36.4%	12.1%	1.2%	2.3%	100.0%
男性全体	346	39.3%	40.8%	16.5%	1.4%	2.0%	100.0%
男性 20 歳代	24	20.8%	45.8%	20.8%	12.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	9.7%	71.0%	16.1%	3.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	29.1%	43.6%	27.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	36.5%	38.5%	21.2%	0.0%	3.8%	100.0%
男性 60 歳代	99	45.5%	37.4%	13.1%	1.0%	3.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	56.5%	31.8%	9.4%	0.0%	2.4%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	53.0%	34.3%	9.0%	1.1%	2.5%	100.0%
女性 20 歳代	22	27.3%	40.9%	31.8%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	41.8%	40.0%	14.5%	1.8%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	40.0%	48.0%	10.7%	1.3%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	45.7%	43.2%	9.9%	0.0%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	63.0%	29.0%	3.0%	3.0%	2.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	68.5%	19.4%	5.6%	0.0%	6.5%	100.0%
女性年齢不詳	2	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	47.4%	36.7%	12.2%	1.5%	2.0%	100.0%
藤沢地区	56	51.8%	30.4%	12.5%	3.6%	1.8%	100.0%
幡羅地区	106	39.6%	45.3%	11.3%	0.9%	2.8%	100.0%
明戸地区	27	63.0%	37.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	54.5%	31.8%	9.1%	0.0%	4.5%	100.0%
八基地区	19	36.8%	36.8%	15.8%	0.0%	10.5%	100.0%
豊里地区	18	72.2%	22.2%	5.6%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	45.3%	40.7%	10.5%	0.0%	3.5%	100.0%
南地区	49	44.9%	40.8%	8.2%	2.0%	4.1%	100.0%
岡部地区	92	34.8%	42.4%	19.6%	1.1%	2.2%	100.0%
川本地区	64	60.9%	23.4%	10.9%	3.1%	1.6%	100.0%
花園地区	75	56.0%	29.3%	14.7%	0.0%	0.0%	100.0%
無回答	14	57.1%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%	100.0%

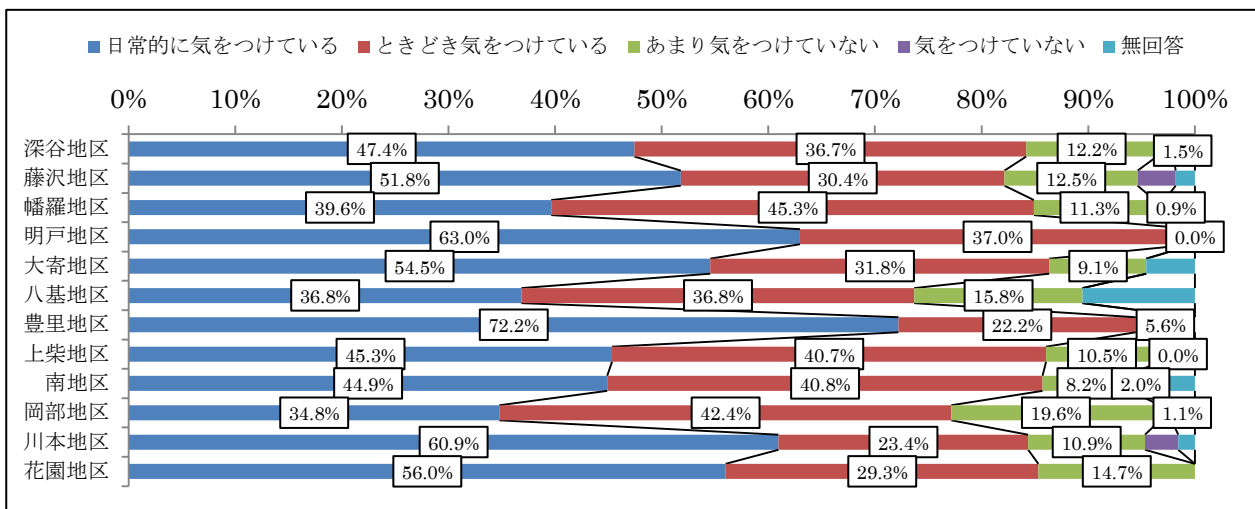
## ➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は男性が80.1%であるのに対して、女性は87.3%となっています。

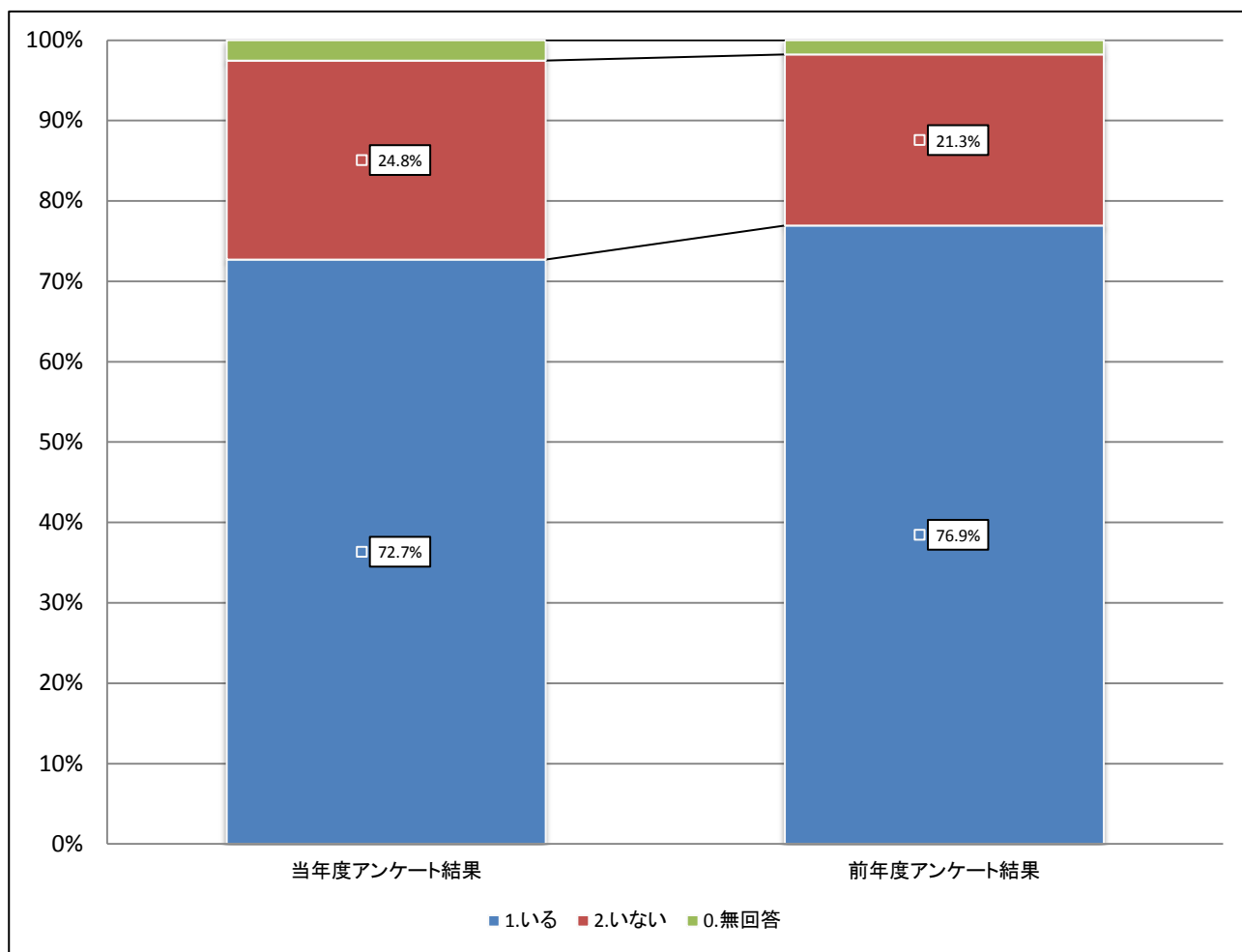
また、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合が最も少ない世代は男性が20歳代(66.6%)であるのに対して、女性は20歳代(68.2%)であり、一方で最も多い世代は、男性が70歳以上(88.3%)、女性が60歳代(92.0%)となっています。

## ➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、八基地区(73.6%)であり、次いで岡部地区(77.2%)となっています。最も多い地区は、明戸地区(100.0%)であり、次いで豊里地区(94.4%)となっています。

かかりつけのお医者さんはいますか。

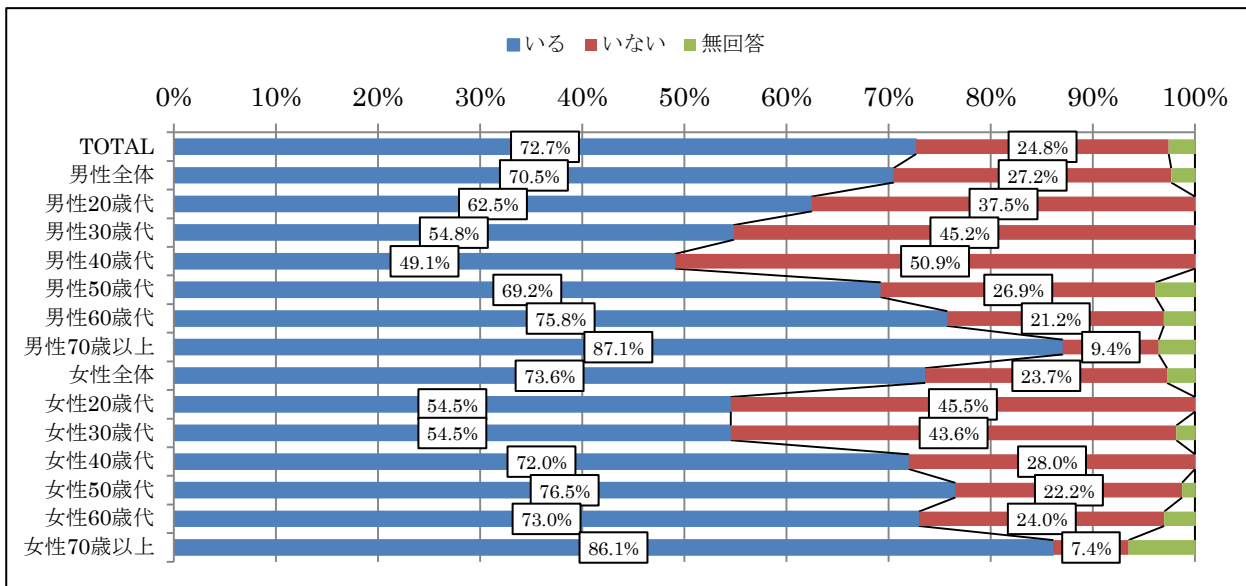


「いる」と回答した人の割合は 72.7%、「いない」と回答した人の割合は 24.8%であり、大多数の人にかかりつけ医がいる一方、約 4 人に 1 人はかかりつけ医がないという状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いる」と回答した人の割合が 76.9%、「いない」と回答した人の割合が 21.3%であり、前年度アンケート時と比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		いる	いない	無回答	合計
<b>TOTAL</b>	<b>824</b>	<b>72.7%</b>	<b>24.8%</b>	<b>2.5%</b>	<b>100.0%</b>
男性全体	346	70.5%	27.2%	2.3%	100.0%
男性 20 歳代	24	62.5%	37.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	54.8%	45.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	49.1%	50.9%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	69.2%	26.9%	3.8%	100.0%
男性 60 歳代	99	75.8%	21.2%	3.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	87.1%	9.4%	3.5%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	73.6%	23.7%	2.7%	100.0%
女性 20 歳代	22	54.5%	45.5%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	54.5%	43.6%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	72.0%	28.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	76.5%	22.2%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	73.0%	24.0%	3.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	86.1%	7.4%	6.5%	100.0%
女性年齢不詳	2	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	70.4%	27.6%	2.0%	100.0%
藤沢地区	56	76.8%	21.4%	1.8%	100.0%
幡羅地区	106	68.9%	28.3%	2.8%	100.0%
明戸地区	27	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	81.8%	13.6%	4.5%	100.0%
八基地区	19	73.7%	15.8%	10.5%	100.0%
豊里地区	18	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	69.8%	26.7%	3.5%	100.0%
南地区	49	63.3%	32.7%	4.1%	100.0%
岡部地区	92	75.0%	21.7%	3.3%	100.0%
川本地区	64	85.9%	10.9%	3.1%	100.0%
花園地区	75	77.3%	22.7%	0.0%	100.0%
無回答	14	71.4%	28.6%	0.0%	100.0%

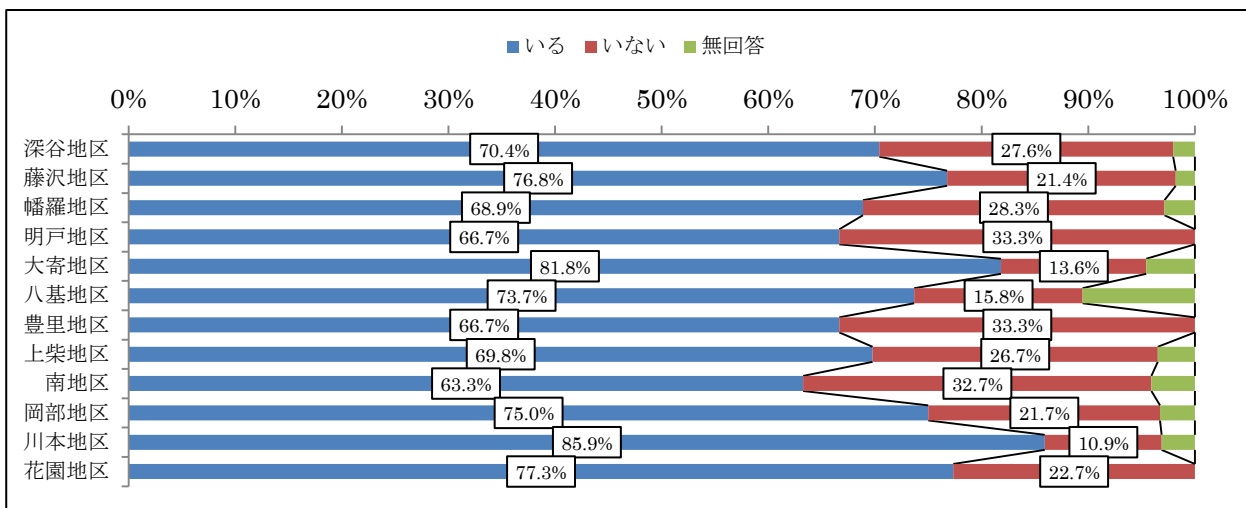
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「いる」と回答した人の割合は男性が70.5%であるのに対して、女性は73.6%となっています。

また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は40歳代(49.1%)、女性は20歳代、30歳代ともに(54.5%)となっています。一方で、最も多い世代は、男性は70歳以上(87.1%)、女性は70歳以上(86.1%)であり、大多数の人にかかりつけ医がいることがうかがえます。

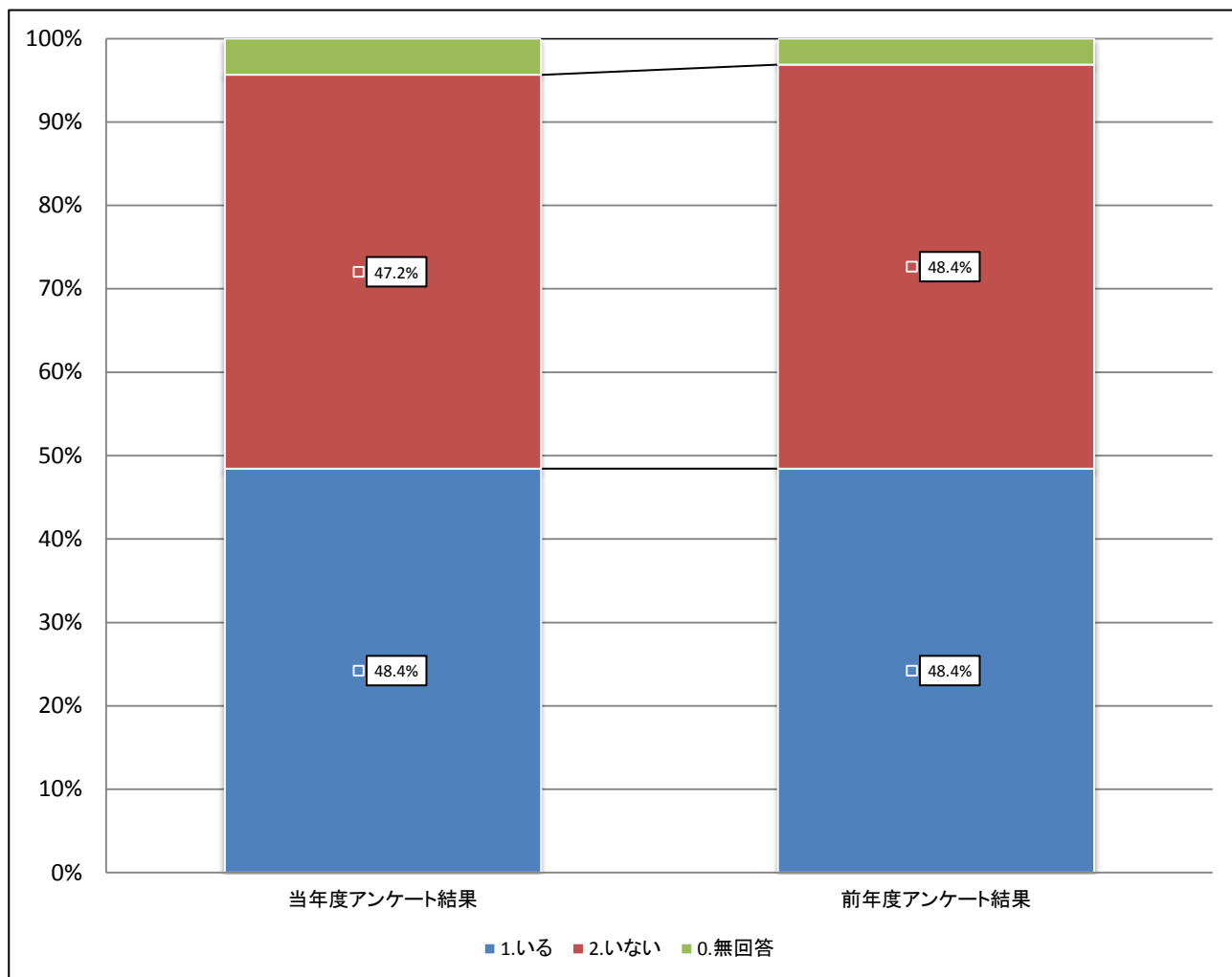
➤ 地区別



地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、南地区(63.3%)であり、次いで明戸地区、豊里地区ともに(66.7%)となっています。最も多い地区は、川本地区(85.9%)であり、次いで大寄地区(81.8%)となっています。

#### ④ 互いに支え合う地域社会づくり（3. 問4）

日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいま  
すか。

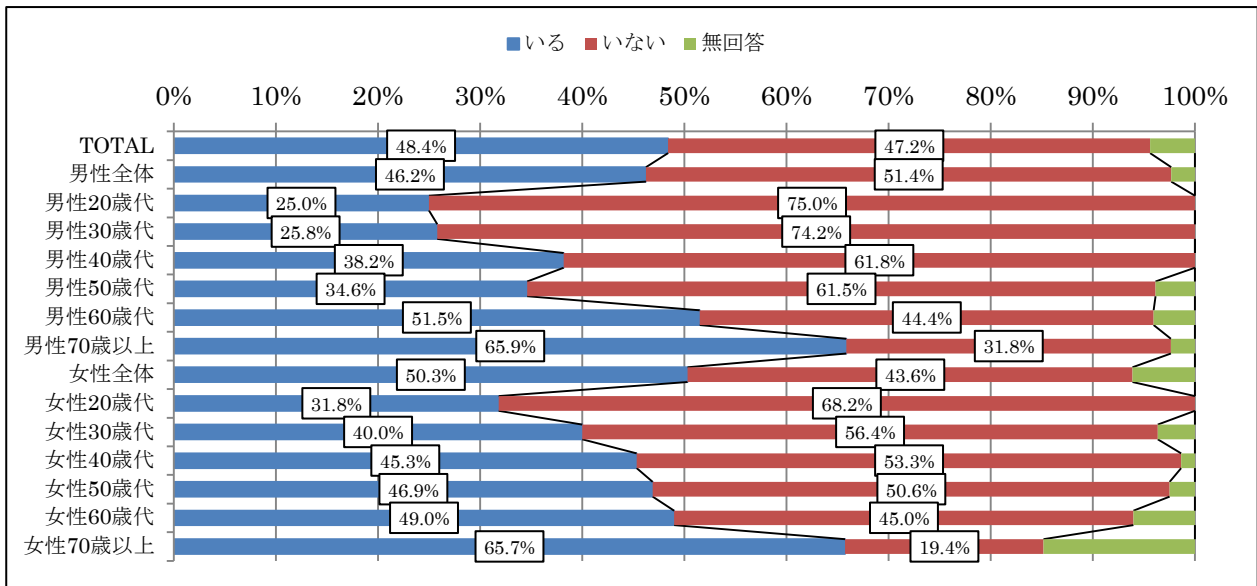


「いる」と回答した人の割合は 48.4%、「いない」と回答した人の割合は 47.2%となっており、日常生活に困ったことがあった時に、手助けしてくれる人がいないと回答した人が、半数近くいることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いる」と回答した人の割合は 48.4%、「いない」と回答した人の割合が 48.4%であり、前年度アンケート時と比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		いる	いない	無回答	合計
TOTAL	824	48.4%	47.2%	4.4%	100.0%
男性全体	346	46.2%	51.4%	2.3%	100.0%
男性 20 歳代	24	25.0%	75.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	25.8%	74.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	38.2%	61.8%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	34.6%	61.5%	3.8%	100.0%
男性 60 歳代	99	51.5%	44.4%	4.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	65.9%	31.8%	2.4%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	50.3%	43.6%	6.1%	100.0%
女性 20 歳代	22	31.8%	68.2%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	40.0%	56.4%	3.6%	100.0%
女性 40 歳代	75	45.3%	53.3%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	46.9%	50.6%	2.5%	100.0%
女性 60 歳代	100	49.0%	45.0%	6.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	65.7%	19.4%	14.8%	100.0%
女性年齢不詳	2	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	43.9%	54.1%	2.0%	100.0%
藤沢地区	56	48.2%	46.4%	5.4%	100.0%
幡羅地区	106	40.6%	53.8%	5.7%	100.0%
明戸地区	27	81.5%	14.8%	3.7%	100.0%
大寄地区	22	50.0%	36.4%	13.6%	100.0%
八基地区	19	68.4%	26.3%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	39.5%	55.8%	4.7%	100.0%
南地区	49	40.8%	55.1%	4.1%	100.0%
岡部地区	92	47.8%	44.6%	7.6%	100.0%
川本地区	64	65.6%	31.3%	3.1%	100.0%
花園地区	75	54.7%	42.7%	2.7%	100.0%
無回答	14	28.6%	64.3%	7.1%	100.0%

➤ 性別・世代別

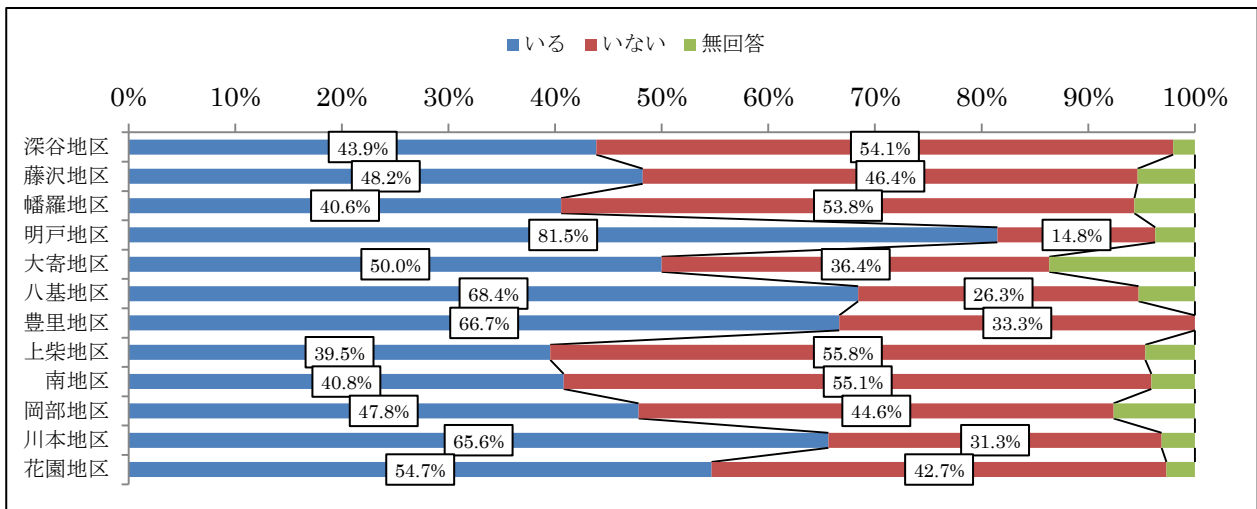


性別・世代別にみると、「いる」と回答した人の割合は男性が46.2%であるのに対して、女性は50.3%となっています。

また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が20歳代(25.0%)、女性が20歳代(31.8%)であり、一方で、最も割合の多い世代は、男性、女性ともに70歳以上(男性65.9%、女性65.7%)となっています。

男性、女性ともに高齢になるにつれて日常生活において手助けしてくれる人がいると回答する割合がほぼ増加しています。

➤ 地区別



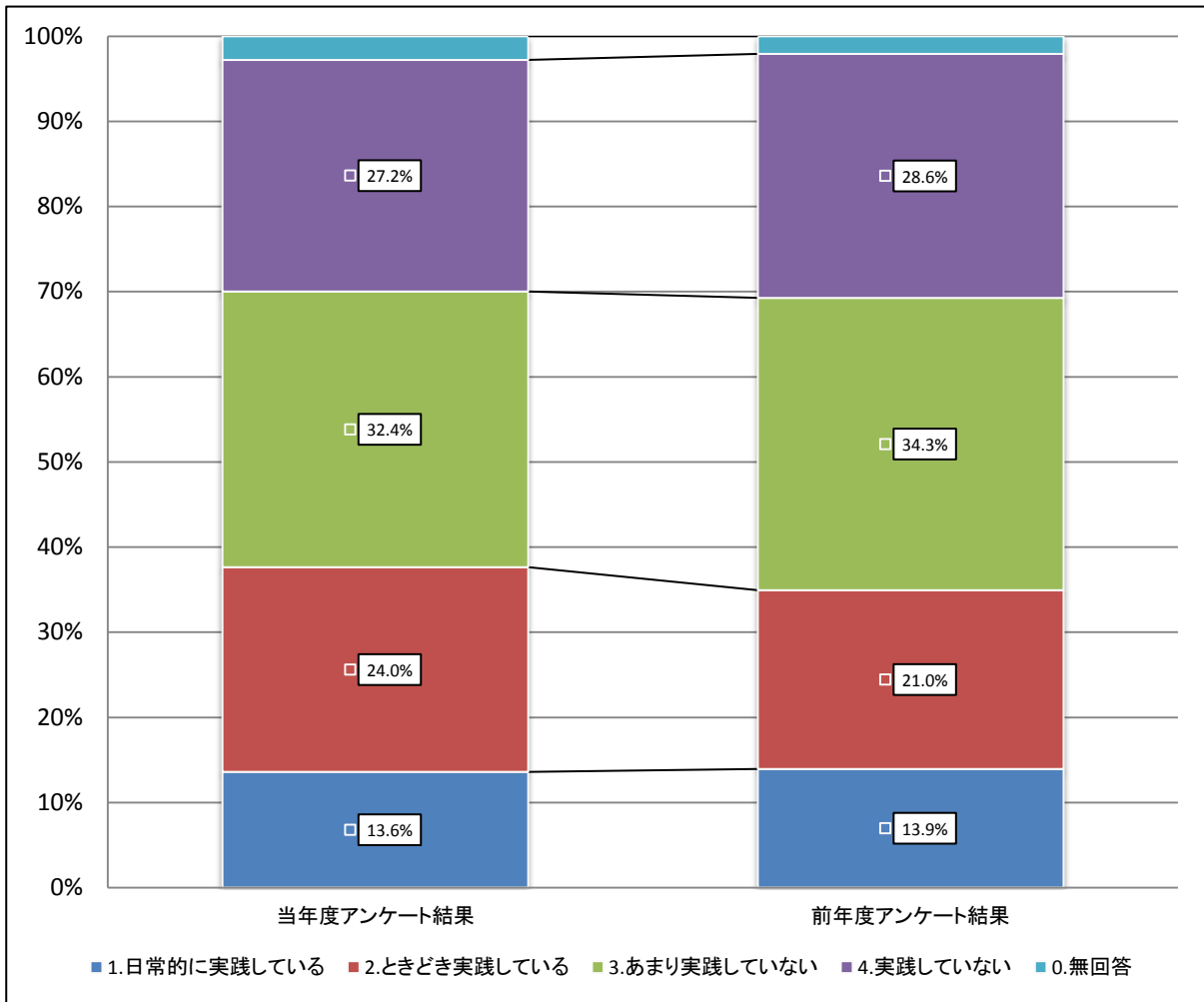
地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、上柴地区(39.5%)であり、次いで幡羅地区(40.6%)となっています。最も多い地区は、明戸地区(81.5%)であり、次いで八基地区(68.4%)となっています。



#### (4) 教育・文化について

##### ① 生涯学習の振興（4. 問1）

生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していますか。



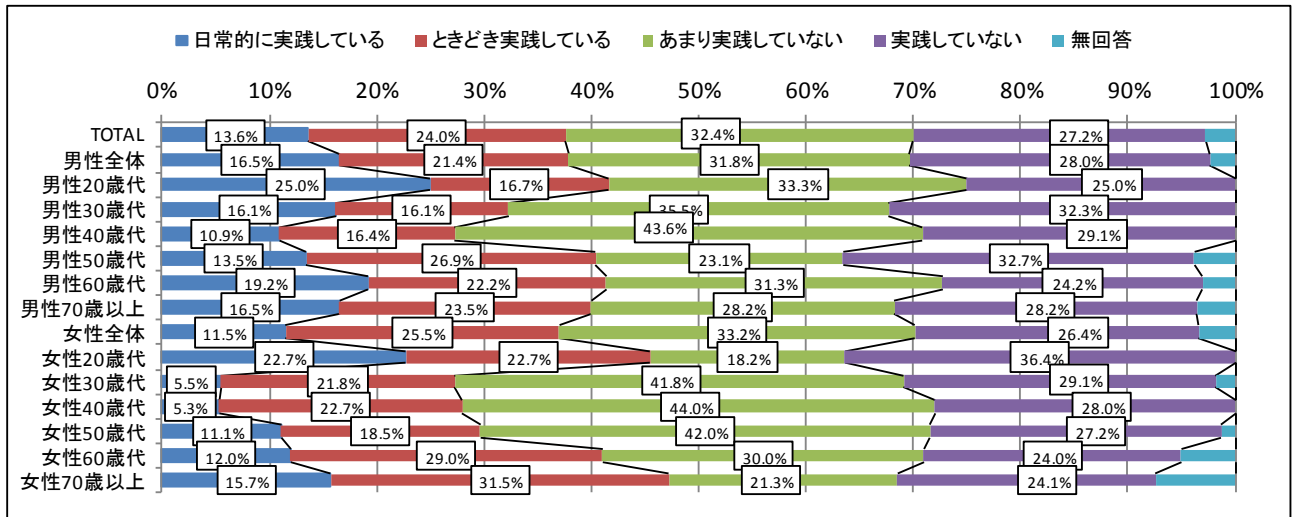
「あまり実践していない」と回答した人の割合が 32.4%と最も多く、次いで「実践していない」と回答した人の割合が 27.2%、「ときどき実践している」と回答した人の割合が 24.0%、「日常的に実践している」と回答した人の割合が 13.6%となっています。

「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合は、37.6%であり、大多数の市民は生涯学習を実践していないということがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合は 34.9%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		日常的に実践している	ときどき実践している	あまり実践していない	実践していない	無回答	合計
TOTAL	824	13.6%	24.0%	32.4%	27.2%	2.8%	100.0%
男性全体	346	16.5%	21.4%	31.8%	28.0%	2.3%	100.0%
男性 20 歳代	24	25.0%	16.7%	33.3%	25.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	16.1%	16.1%	35.5%	32.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	10.9%	16.4%	43.6%	29.1%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	13.5%	26.9%	23.1%	32.7%	3.8%	100.0%
男性 60 歳代	99	19.2%	22.2%	31.3%	24.2%	3.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	16.5%	23.5%	28.2%	28.2%	3.5%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	11.5%	25.5%	33.2%	26.4%	3.4%	100.0%
女性 20 歳代	22	22.7%	22.7%	18.2%	36.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	5.5%	21.8%	41.8%	29.1%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	5.3%	22.7%	44.0%	28.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	11.1%	18.5%	42.0%	27.2%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	12.0%	29.0%	30.0%	24.0%	5.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	15.7%	31.5%	21.3%	24.1%	7.4%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	9.7%	26.0%	31.6%	29.1%	3.6%	100.0%
藤沢地区	56	14.3%	14.3%	39.3%	30.4%	1.8%	100.0%
幡羅地区	106	15.1%	25.5%	29.2%	27.4%	2.8%	100.0%
明戸地区	27	18.5%	29.6%	18.5%	33.3%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	18.2%	18.2%	31.8%	27.3%	4.5%	100.0%
八基地区	19	15.8%	15.8%	31.6%	31.6%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	11.1%	38.9%	27.8%	22.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	15.1%	19.8%	33.7%	27.9%	3.5%	100.0%
南地区	49	12.2%	28.6%	30.6%	24.5%	4.1%	100.0%
岡部地区	92	10.9%	18.5%	40.2%	26.1%	4.3%	100.0%
川本地区	64	18.8%	23.4%	29.7%	26.6%	1.6%	100.0%
花園地区	75	18.7%	29.3%	32.0%	20.0%	0.0%	100.0%
無回答	14	0.0%	35.7%	35.7%	28.6%	0.0%	100.0%

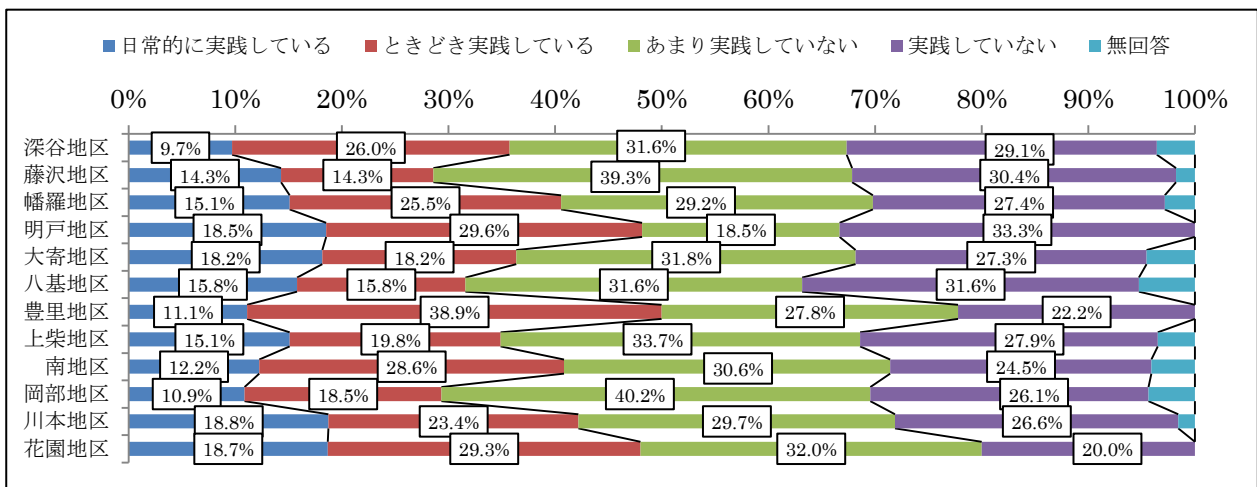
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合は男性が37.9%であるのに対して、女性は37.0%となっています。

また、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性40歳代(27.3%)、女性が30歳代(27.3%)であり、一方で最も割合の多い世代は、男性が20歳代(41.7%)であるのに対して、女性は70歳代以上(47.2%)となっています。

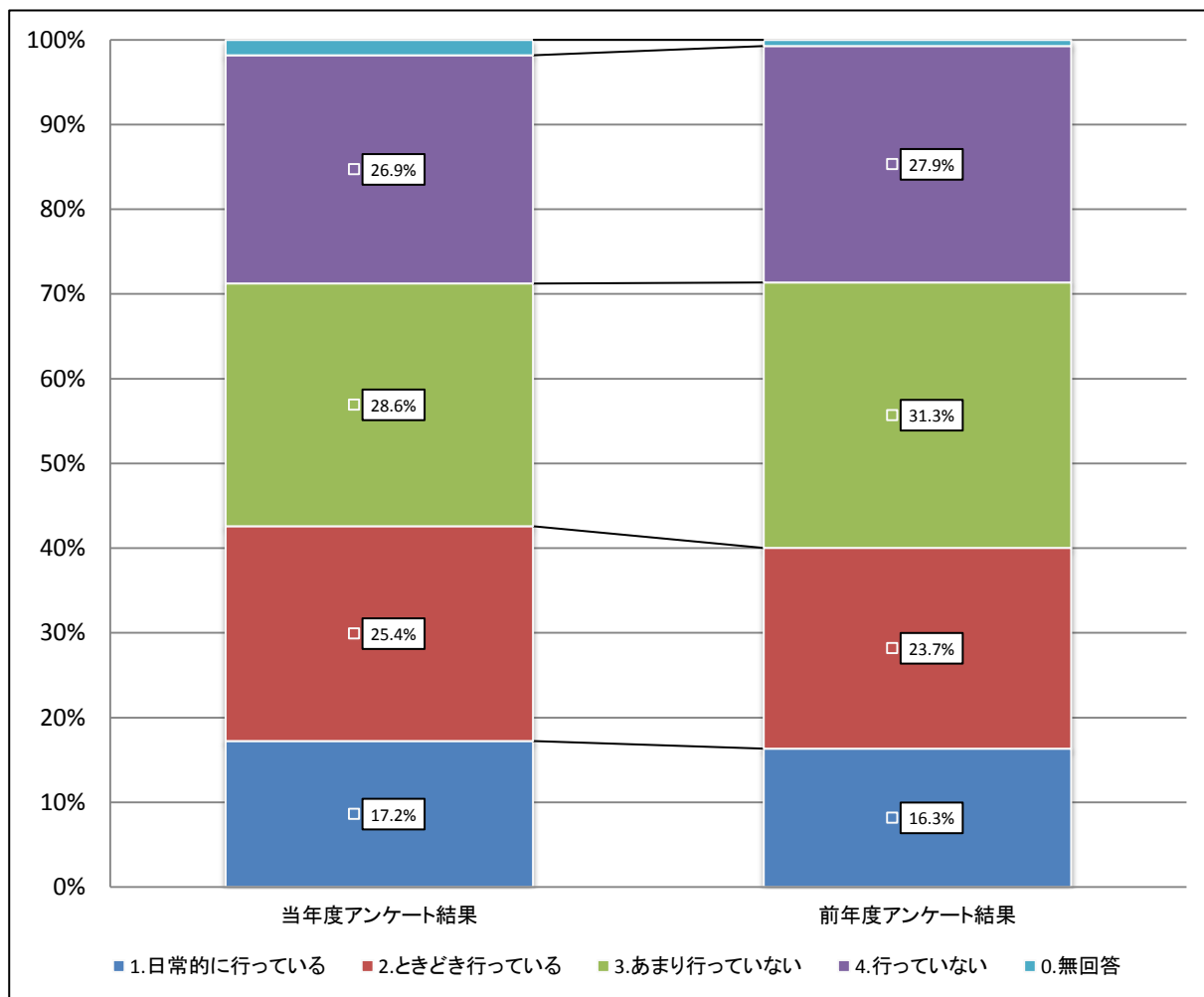
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合が最も少ないのは、藤沢地区(28.6%)であり、次いで岡部地区(29.4%)となっています。最も多いのは、豊里地区(50.0%)であり、次いで明戸地区(48.1%)となっています。

## ② スポーツの振興（４．問２）

スポーツやレクリエーションをどの程度行っていますか。



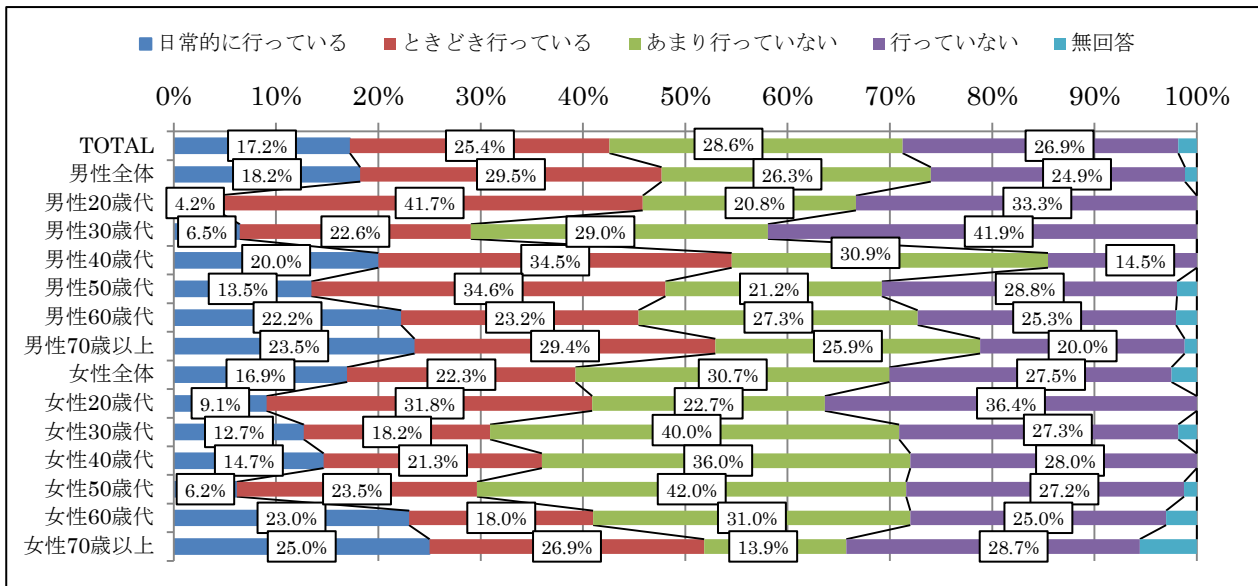
「あまり行っていない」と回答した人の割合が 28.6%と最も多く、次いで、「行っていない」と回答した人の割合は 26.9%、「ときどき行っている」と回答した人の割合は 25.4%、「日常的に行っている」と回答した人の割合は 17.2%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」とした人の割合は、42.6%であり、日頃からスポーツやレクリエーション活動を行っている人は半数に満たないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は 40.0%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		日常的に行っている	ときどき行っている	あまり行っていない	行っていない	無回答	合計
TOTAL	824	17.2%	25.4%	28.6%	26.9%	1.8%	100.0%
男性全体	346	18.2%	29.5%	26.3%	24.9%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	24	4.2%	41.7%	20.8%	33.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	6.5%	22.6%	29.0%	41.9%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	20.0%	34.5%	30.9%	14.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	13.5%	34.6%	21.2%	28.8%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	22.2%	23.2%	27.3%	25.3%	2.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	23.5%	29.4%	25.9%	20.0%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	16.9%	22.3%	30.7%	27.5%	2.5%	100.0%
女性 20 歳代	22	9.1%	31.8%	22.7%	36.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	12.7%	18.2%	40.0%	27.3%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	14.7%	21.3%	36.0%	28.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	6.2%	23.5%	42.0%	27.2%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	23.0%	18.0%	31.0%	25.0%	3.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	25.0%	26.9%	13.9%	28.7%	5.6%	100.0%
女性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	18.4%	26.0%	28.6%	25.5%	1.5%	100.0%
藤沢地区	56	8.9%	25.0%	30.4%	35.7%	0.0%	100.0%
幡羅地区	106	17.0%	21.7%	28.3%	31.1%	1.9%	100.0%
明戸地区	27	25.9%	29.6%	18.5%	25.9%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	9.1%	22.7%	40.9%	27.3%	0.0%	100.0%
八基地区	19	0.0%	26.3%	31.6%	36.8%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	11.1%	22.2%	33.3%	33.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	24.4%	29.1%	19.8%	23.3%	3.5%	100.0%
南地区	49	16.3%	26.5%	28.6%	24.5%	4.1%	100.0%
岡部地区	92	9.8%	31.5%	27.2%	28.3%	3.3%	100.0%
川本地区	64	25.0%	21.9%	31.3%	20.3%	1.6%	100.0%
花園地区	75	22.7%	22.7%	36.0%	18.7%	0.0%	100.0%
無回答	14	7.1%	7.1%	28.6%	57.1%	0.0%	100.0%

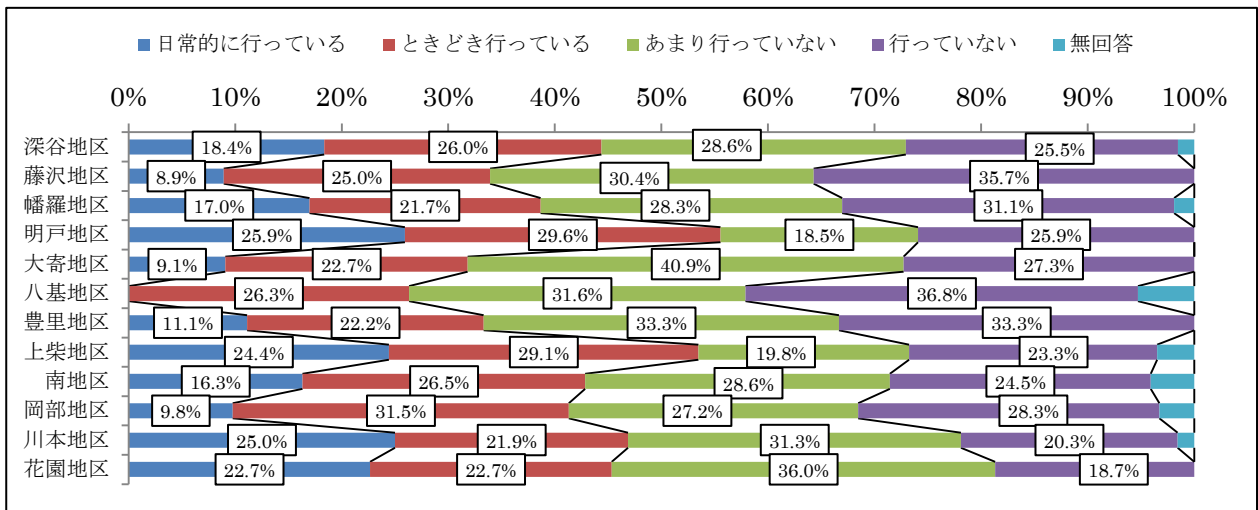
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は男性が47.7%であるのに対して、女性は39.2%となっています。

また、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代(29.1%)、女性が50歳代(29.7%)であり、一方で最も割合の多い世代は、男性が40歳代(54.5%)、女性が70歳以上(51.9%)となっています。

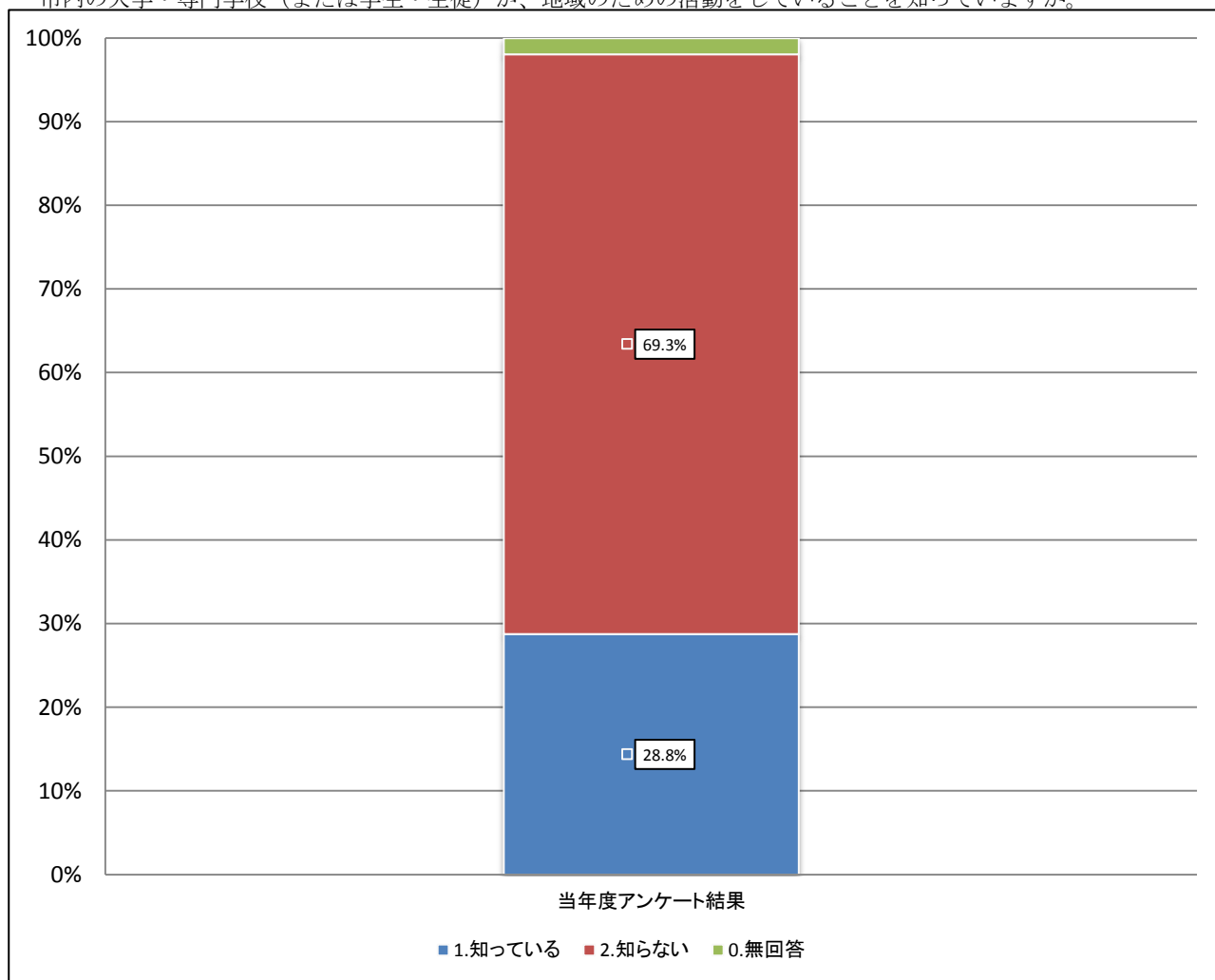
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、八基地区(26.3%)であり、次いで大寄地区(31.8%)となっています。最も多い地区は、明戸地区(55.5%)であり、次いで上柴地区(53.5%)となっています。

### ③ 高等教育機関との連携（4. 問3）

市内の大学・専門学校（または学生・生徒）が、地域のための活動をしていることを知っていますか。

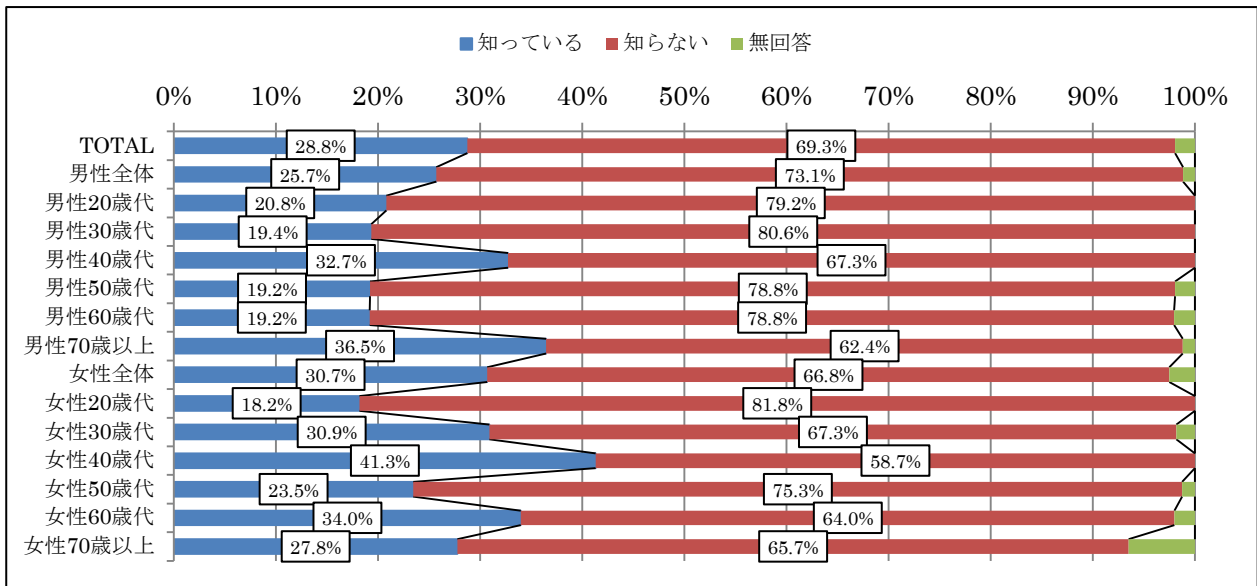


「知っている」と回答した人の割合は28.8%、「知らない」と回答した人の割合は69.3%となっており、大多数の市民が深谷市内の大学・専門学校またはその学生・生徒が、地域のための活動をしていることを知らないことがうかがえます。

母集団		知っている	知らない	無回答	合計
TOTAL	824	28.8%	69.3%	1.9%	100.0%
男性全体	346	25.7%	73.1%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	24	20.8%	79.2%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	19.4%	80.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	32.7%	67.3%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	19.2%	78.8%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	19.2%	78.8%	2.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	36.5%	62.4%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	30.7%	66.8%	2.5%	100.0%
女性 20 歳代	22	18.2%	81.8%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	30.9%	67.3%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	41.3%	58.7%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	23.5%	75.3%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	34.0%	64.0%	2.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	27.8%	65.7%	6.5%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	27.6%	70.9%	1.5%	100.0%
藤沢地区	56	26.8%	73.2%	0.0%	100.0%
幡羅地区	106	29.2%	68.9%	1.9%	100.0%
明戸地区	27	37.0%	63.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	22.7%	77.3%	0.0%	100.0%
八基地区	19	26.3%	68.4%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	16.7%	83.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	32.6%	64.0%	3.5%	100.0%
南地区	49	28.6%	67.3%	4.1%	100.0%
岡部地区	92	40.2%	56.5%	3.3%	100.0%
川本地区	64	26.6%	71.9%	1.6%	100.0%
花園地区	75	21.3%	78.7%	0.0%	100.0%
無回答	14	14.3%	78.6%	7.1%	100.0%



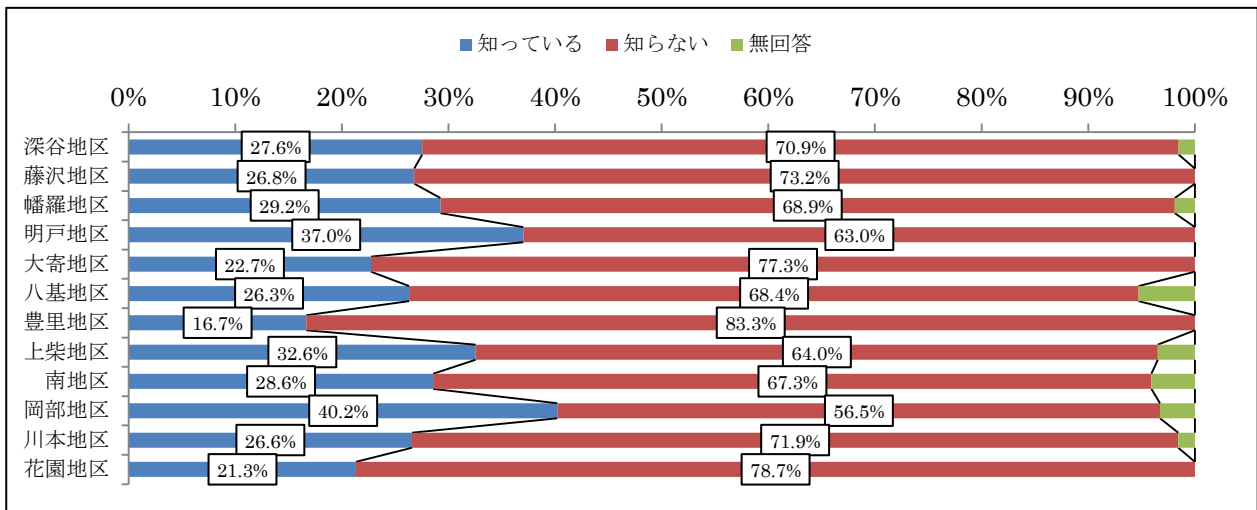
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「知っている」と回答した人の割合は男性が 25.7%であるのに対して、女性は 30.7%となっています。

また、「知っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は 50 歳代、60 歳代ともに (19.2%)、女性は 20 歳代 (18.2%) であり、一方で最も多い世代は、男性が 70 歳以上 (36.5%)、女性が 40 歳代 (41.3%) となっています。

➤ 地区別

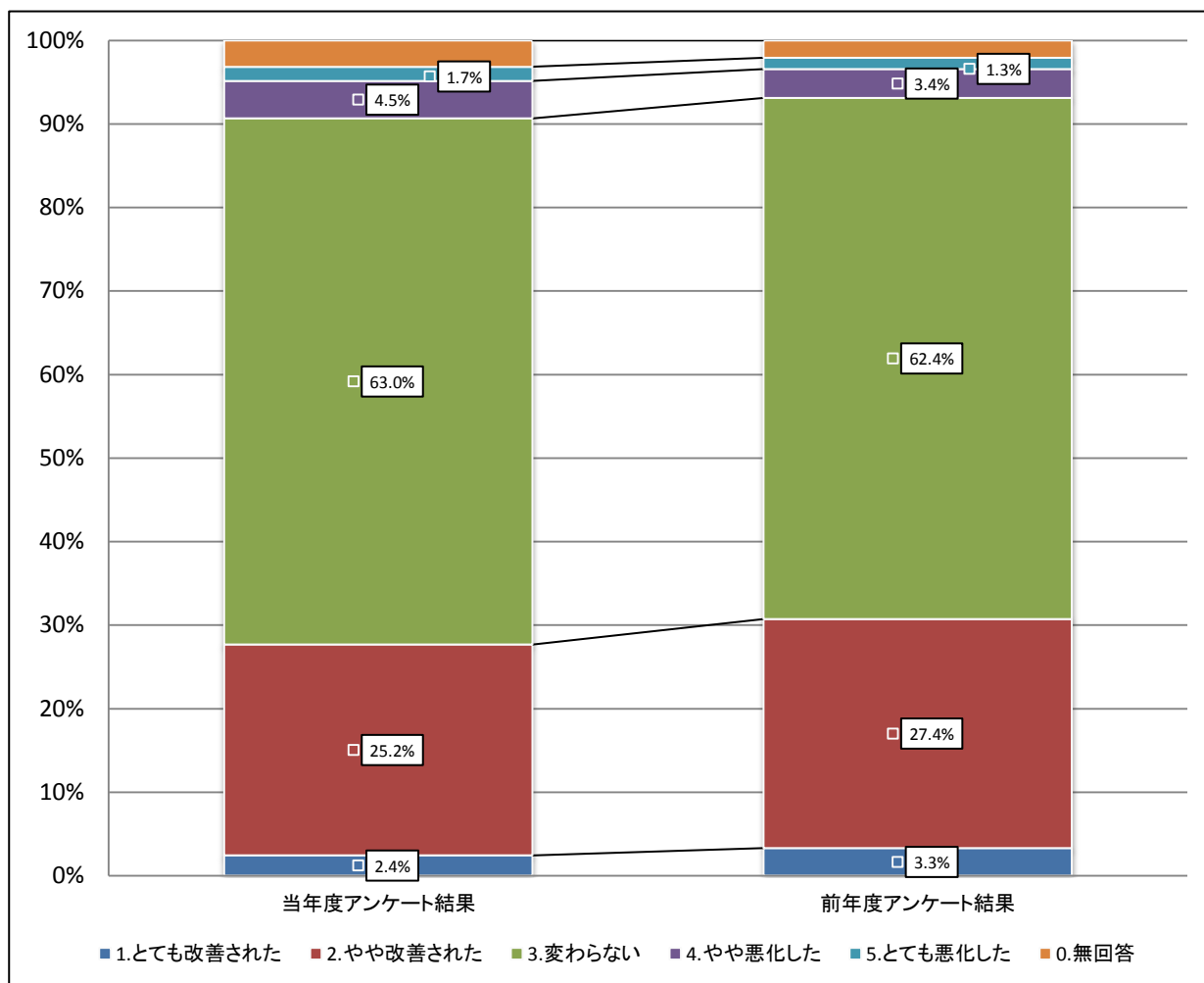


地区別にみると、「知っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区 (16.7%) であり、次いで花園地区 (21.3%) となっています。最も多いのは、岡部地区 (40.2%) であり、次いで明戸地区 (37.0%) となっています。

## (5) 都市・生活基盤について

### ① 都市の発展を支える道路網の形成（5. 問1～3）

渋滞などの道路状況は以前と比べて改善されましたか。



「変わらない」と回答した人の割合が63.0%と最も多く、大多数の市民が道路状況について変わっていないと感じていることがうかがえます。

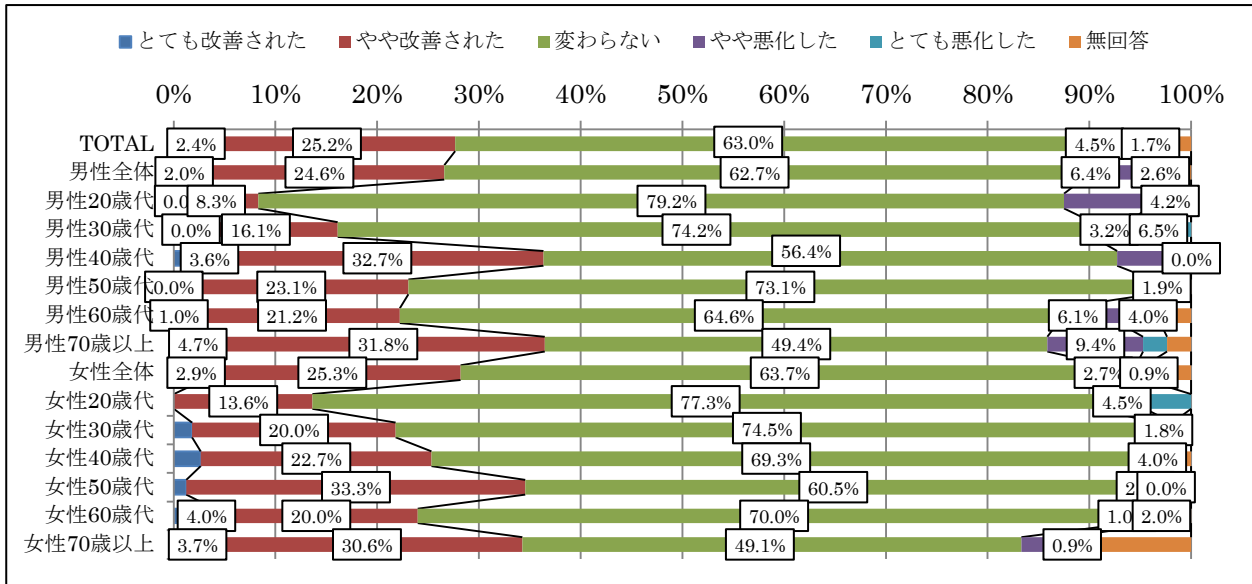
「やや悪化した」または「とても悪化した」と回答した人の割合は6.2%となっており、道路状況が悪化したと感じている人はごくわずかであることがうかがえます。

さらに、「とても改善された」または「やや改善された」と回答した人の割合は27.6%であり、約3割の人が以前に比べて道路状況が改善されていると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とても改善された」または「やや改善された」と回答した人の割合は30.7%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		とても改善された	やや改善された	変わらない	やや悪化した	とても悪化した	無回答	合計
TOTAL	824	2.4%	25.2%	63.0%	4.5%	1.7%	3.2%	100.0%
男性全体	346	2.0%	24.6%	62.7%	6.4%	2.6%	1.7%	100.0%
男性 20 歳代	24	0.0%	8.3%	79.2%	8.3%	4.2%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	0.0%	16.1%	74.2%	3.2%	6.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	3.6%	32.7%	56.4%	7.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	0.0%	23.1%	73.1%	1.9%	0.0%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	1.0%	21.2%	64.6%	6.1%	4.0%	3.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	4.7%	31.8%	49.4%	9.4%	2.4%	2.4%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	2.9%	25.3%	63.7%	2.7%	0.9%	4.5%	100.0%
女性 20 歳代	22	0.0%	13.6%	77.3%	4.5%	4.5%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	1.8%	20.0%	74.5%	1.8%	0.0%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	2.7%	22.7%	69.3%	4.0%	0.0%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	1.2%	33.3%	60.5%	2.5%	0.0%	2.5%	100.0%
女性 60 歳代	100	4.0%	20.0%	70.0%	1.0%	2.0%	3.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	3.7%	30.6%	49.1%	3.7%	0.9%	12.0%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	4.1%	26.5%	61.2%	3.1%	1.5%	3.6%	100.0%
藤沢地区	56	1.8%	23.2%	69.6%	1.8%	3.6%	0.0%	100.0%
幡羅地区	106	0.0%	26.4%	67.9%	1.9%	0.0%	3.8%	100.0%
明戸地区	27	0.0%	37.0%	51.9%	3.7%	7.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	9.1%	22.7%	59.1%	4.5%	0.0%	4.5%	100.0%
八基地区	19	5.3%	15.8%	73.7%	0.0%	0.0%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	0.0%	33.3%	61.1%	5.6%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	2.3%	17.4%	69.8%	5.8%	0.0%	4.7%	100.0%
南地区	49	2.0%	32.7%	55.1%	0.0%	2.0%	8.2%	100.0%
岡部地区	92	3.3%	27.2%	60.9%	5.4%	1.1%	2.2%	100.0%
川本地区	64	3.1%	21.9%	68.8%	1.6%	1.6%	3.1%	100.0%
花園地区	75	0.0%	21.3%	56.0%	16.0%	5.3%	1.3%	100.0%
無回答	14	0.0%	35.7%	50.0%	14.3%	0.0%	0.0%	100.0%

➤ 性別・世代別

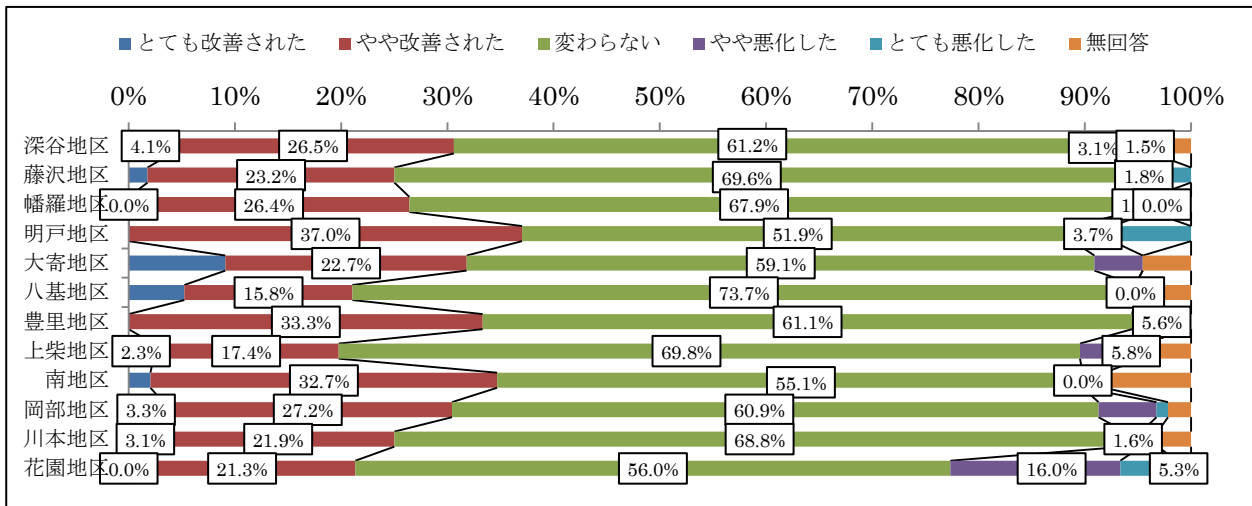


性別・世代別にみると、「とても改善された」または「やや改善された」と回答した人の割合は男性が26.6%であるのに対して、女性は28.2%となっています。

また、「とても改善された」または「やや改善された」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が20歳代(8.3%)、女性が20歳代(13.6%)であり、一方で、最も多い世代は、男性が70歳以上(36.5%)、女性が50歳代(34.5%)となっています。

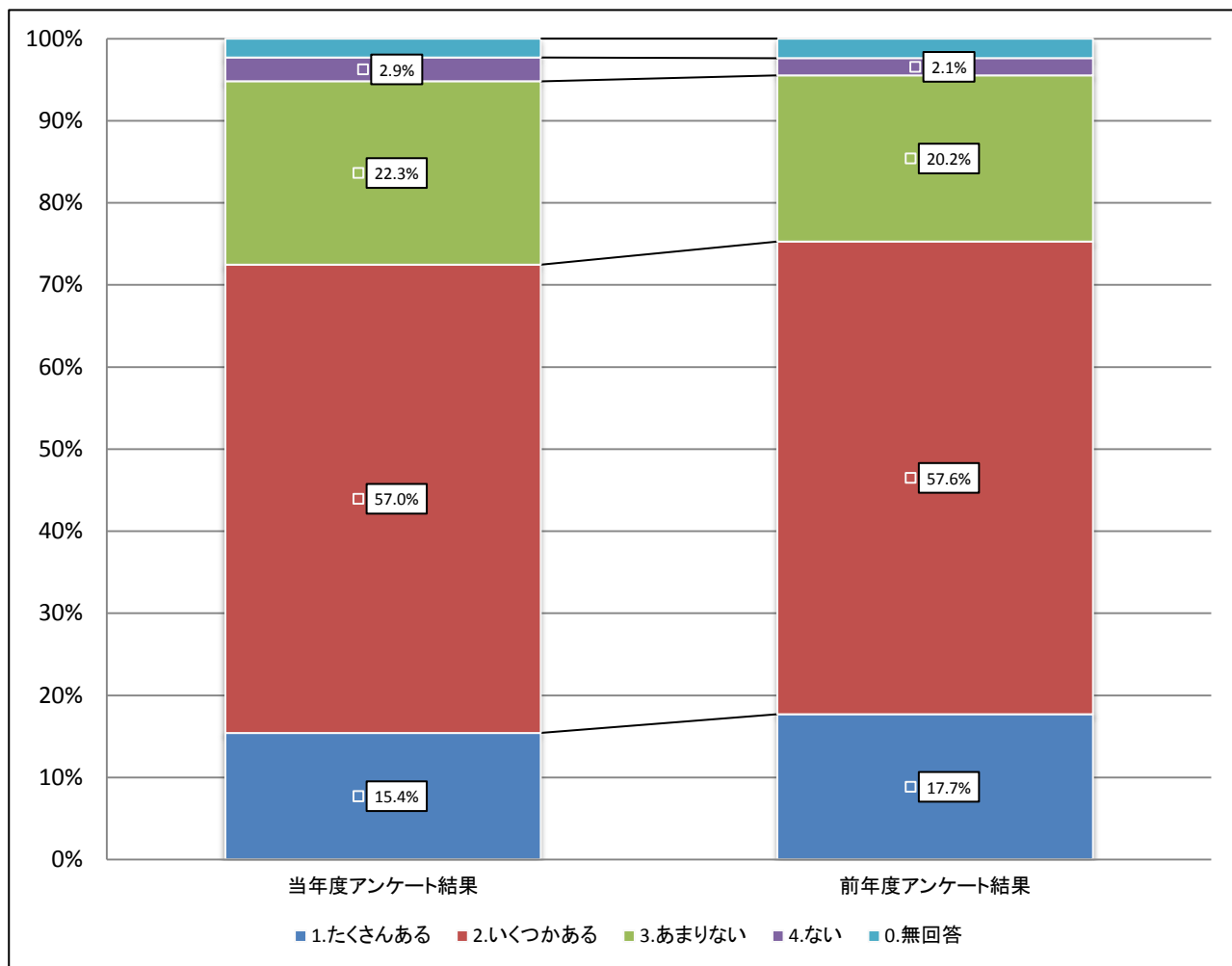
「やや悪化した」または「とても悪化した」と回答した人の割合は、男性が9.0%、女性は3.6%となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「とても改善された」または「やや改善された」と回答した人の割合が最も少ない地区は、上柴地区(19.7%)であり、次いで八基地区(21.1%)となっています。最も多い地区は、明戸地区(37.0%)であり、次いで南地区(34.7%)となっています。

市内の道路に不便なところがありますか。



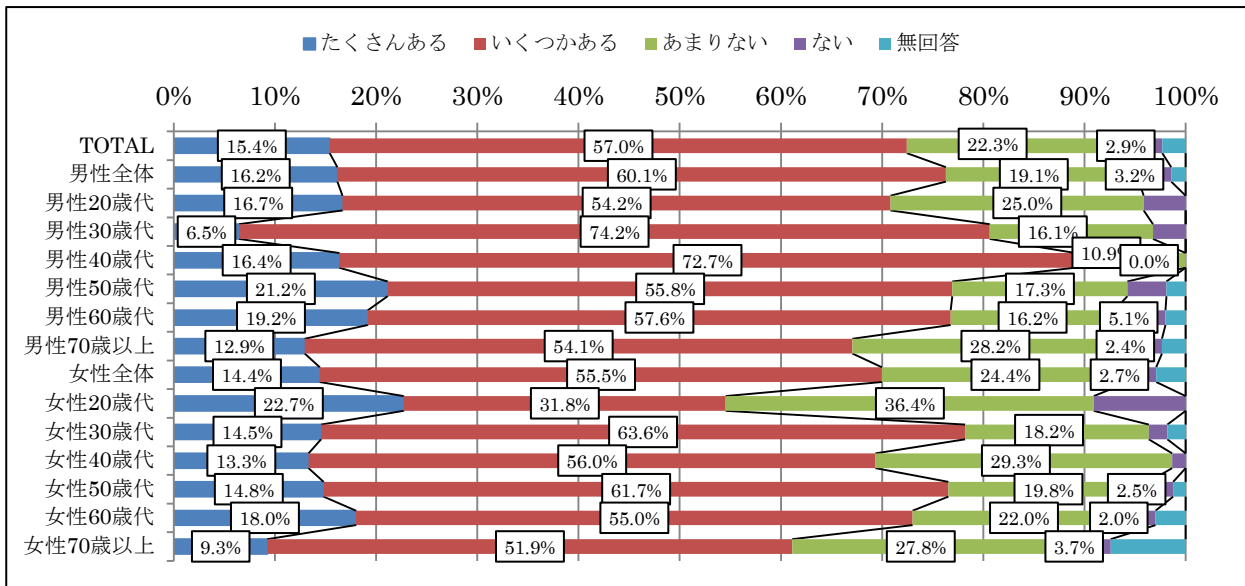
「いくつかある」と回答した人の割合が 57.0%と最も多く、次いで「あまりない」が 22.3%、「たくさんある」が 15.4%、「ない」が 2.9%となっています。

「たくさんある」または「いくつかある」と回答した人の割合は 72.4%であり、大多数の市民が市内の道路に不便さを感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たくさんある」または「いくつかある」と回答した人の割合は 75.3%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		たくさんある	いくつがある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	824	15.4%	57.0%	22.3%	2.9%	2.3%	100.0%
男性全体	346	16.2%	60.1%	19.1%	3.2%	1.4%	100.0%
男性 20 歳代	24	16.7%	54.2%	25.0%	4.2%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	6.5%	74.2%	16.1%	3.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	16.4%	72.7%	10.9%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	21.2%	55.8%	17.3%	3.8%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	19.2%	57.6%	16.2%	5.1%	2.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	12.9%	54.1%	28.2%	2.4%	2.4%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	14.4%	55.5%	24.4%	2.7%	2.9%	100.0%
女性 20 歳代	22	22.7%	31.8%	36.4%	9.1%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	14.5%	63.6%	18.2%	1.8%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	13.3%	56.0%	29.3%	1.3%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	14.8%	61.7%	19.8%	2.5%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	18.0%	55.0%	22.0%	2.0%	3.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	9.3%	51.9%	27.8%	3.7%	7.4%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	15.8%	61.7%	17.9%	3.1%	1.5%	100.0%
藤沢地区	56	12.5%	67.9%	19.6%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	106	11.3%	60.4%	24.5%	0.9%	2.8%	100.0%
明戸地区	27	22.2%	59.3%	11.1%	3.7%	3.7%	100.0%
大寄地区	22	9.1%	40.9%	40.9%	9.1%	0.0%	100.0%
八基地区	19	10.5%	47.4%	31.6%	5.3%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	22.2%	61.1%	5.6%	11.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	10.5%	55.8%	24.4%	5.8%	3.5%	100.0%
南地区	49	18.4%	44.9%	28.6%	4.1%	4.1%	100.0%
岡部地区	92	20.7%	52.2%	22.8%	1.1%	3.3%	100.0%
川本地区	64	12.5%	43.8%	40.6%	0.0%	3.1%	100.0%
花園地区	75	20.0%	65.3%	10.7%	4.0%	0.0%	100.0%
無回答	14	21.4%	50.0%	21.4%	0.0%	7.1%	100.0%

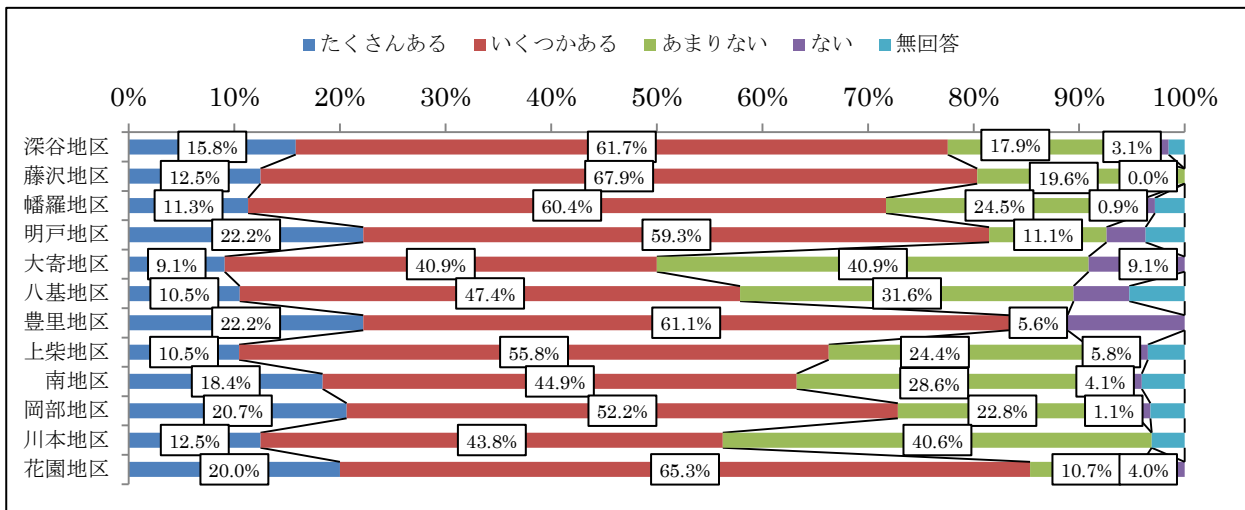
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たくさんある」または「いくつかある」と回答した人の割合は男性が76.3%であるのに対して、女性は69.9%となっています。

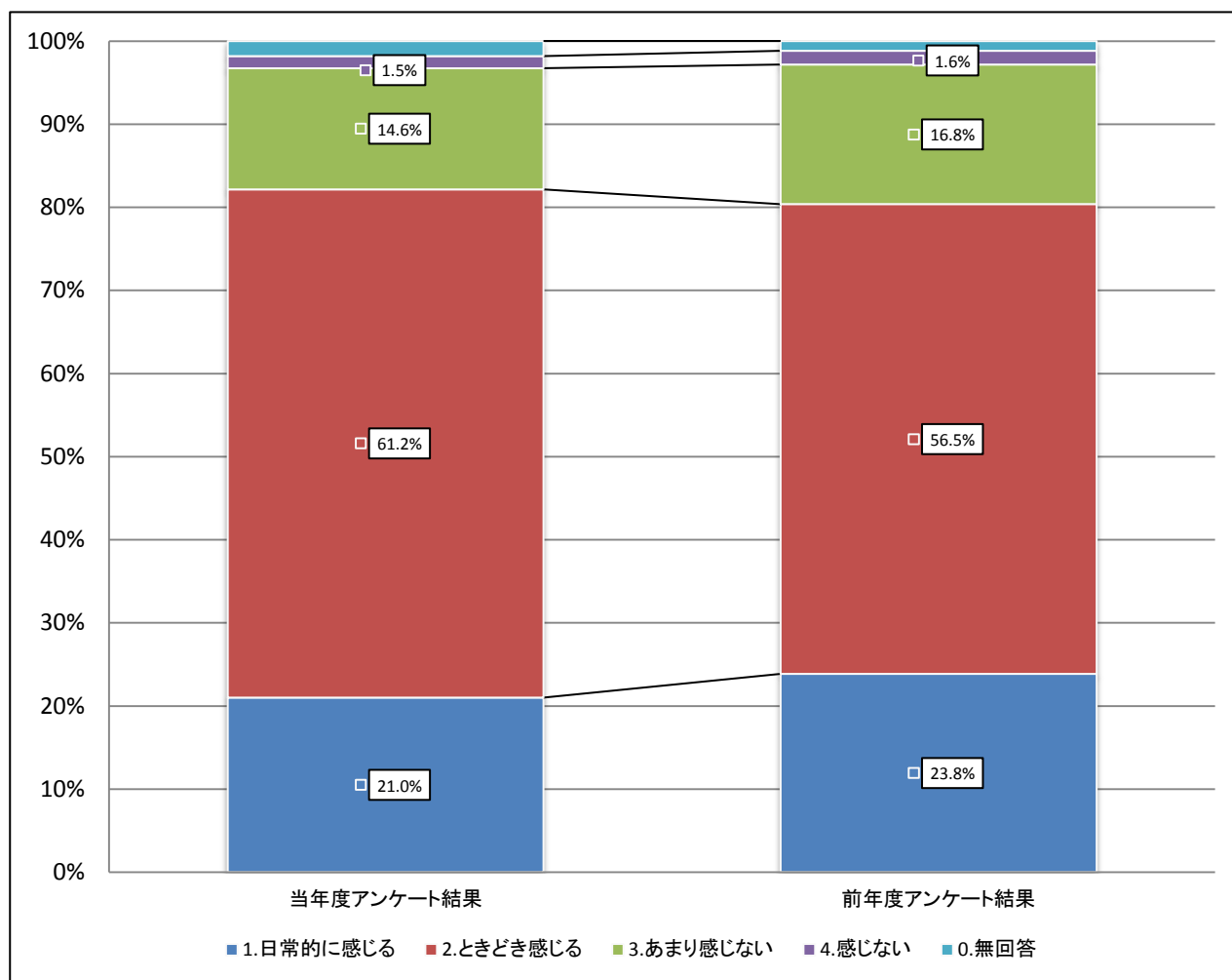
また、「たくさんある」または「いくつかある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が70歳以上(67.0%)、女性が20歳代(54.5%)であり、一方で最も割合の多い世代は、男性が40歳代(89.1%)、女性が30歳代(78.1%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たくさんある」または「いくつかある」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区(50.0%)であり、次いで川本地区(56.3%)となっています。最も多いのは、花園地区(85.3%)であり、次いで豊里地区(83.3%)となっています。

市内の道路（車道、歩道）で、通行のしにくさや危険を感じたことがありますか。



「ときどき感じる」と回答した人の割合が 61.2%と最も多く、次いで「日常的に感じる」が 21.0%、「あまり感じない」が 14.6%、「感じない」が 1.5%となっています。

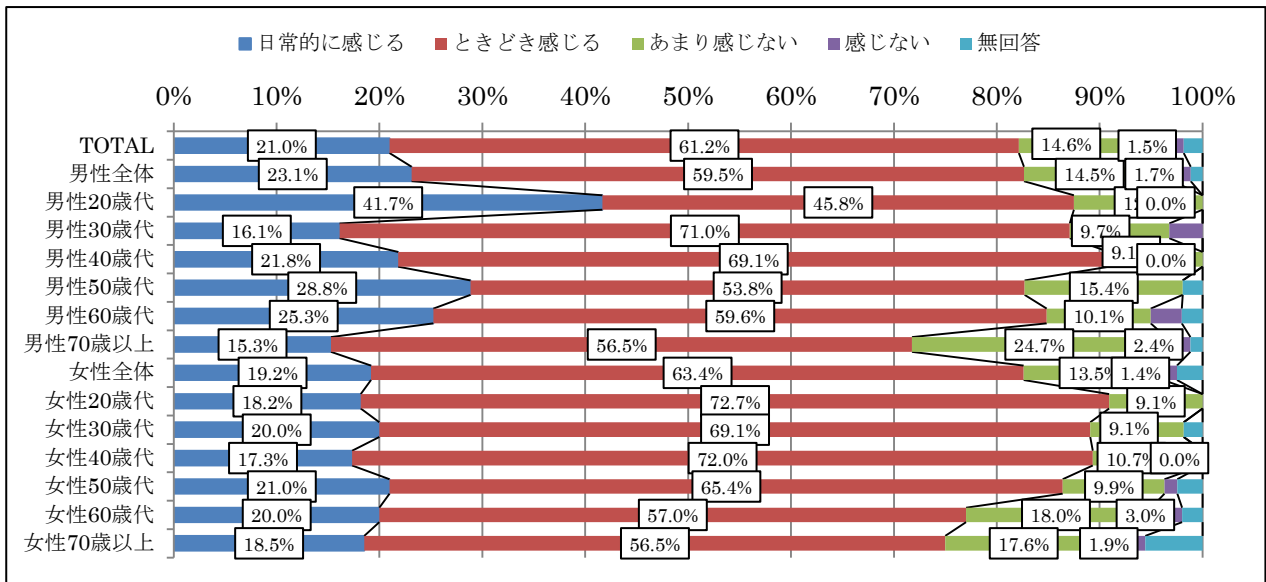
「日常的に感じる」または「ときどき感じる」と回答した人の割合は 82.2%であり、大多数の市民が市内の道路で通行のしにくさや危険を感じた経験があることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に感じる」または「ときどき感じる」と回答した人の割合は 80.3%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。



母集団		日常的に感じる	ときどき感じる	あまり感じない	感じない	無回答	合計
TOTAL	824	21.0%	61.2%	14.6%	1.5%	1.8%	100.0%
男性全体	346	23.1%	59.5%	14.5%	1.7%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	24	41.7%	45.8%	12.5%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	16.1%	71.0%	9.7%	3.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	21.8%	69.1%	9.1%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	28.8%	53.8%	15.4%	0.0%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	25.3%	59.6%	10.1%	3.0%	2.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	15.3%	56.5%	24.7%	2.4%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	19.2%	63.4%	13.5%	1.4%	2.5%	100.0%
女性 20 歳代	22	18.2%	72.7%	9.1%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	20.0%	69.1%	9.1%	0.0%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	17.3%	72.0%	10.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	21.0%	65.4%	9.9%	1.2%	2.5%	100.0%
女性 60 歳代	100	20.0%	57.0%	18.0%	3.0%	2.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	18.5%	56.5%	17.6%	1.9%	5.6%	100.0%
女性年齢不詳	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	25.0%	62.2%	11.2%	0.0%	1.5%	100.0%
藤沢地区	56	17.9%	60.7%	17.9%	3.6%	0.0%	100.0%
幡羅地区	106	17.0%	65.1%	15.1%	0.0%	2.8%	100.0%
明戸地区	27	25.9%	63.0%	7.4%	3.7%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	22.7%	40.9%	31.8%	4.5%	0.0%	100.0%
八基地区	19	21.1%	47.4%	21.1%	5.3%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	22.2%	55.6%	11.1%	11.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	14.0%	64.0%	16.3%	2.3%	3.5%	100.0%
南地区	49	32.7%	57.1%	6.1%	0.0%	4.1%	100.0%
岡部地区	92	16.3%	67.4%	12.0%	2.2%	2.2%	100.0%
川本地区	64	14.1%	51.6%	31.3%	1.6%	1.6%	100.0%
花園地区	75	25.3%	66.7%	8.0%	0.0%	0.0%	100.0%
無回答	14	35.7%	42.9%	21.4%	0.0%	0.0%	100.0%

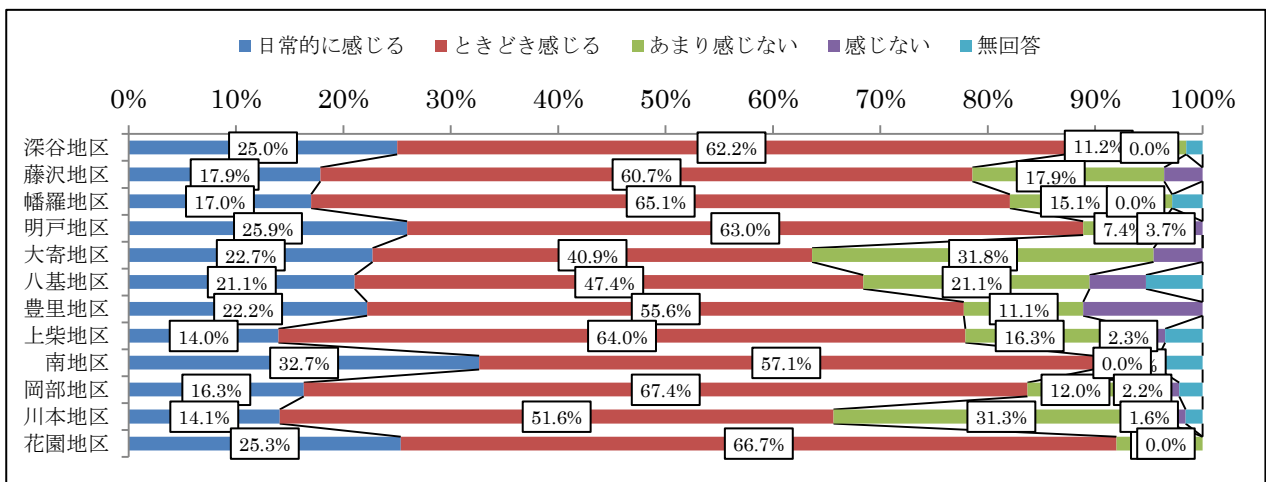
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に感じる」または「ときどき感じる」と回答した人の割合は男性が 82.6%であるのに対して、女性は 82.6%となっています。

また、「日常的に感じる」または「ときどき感じる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性、女性ともに 70 歳以上（男性 71.8%、女性が 75.0%）であり、一方で最も割合の多い世代は、男性が 40 歳代（90.9%）、女性が 20 歳代（90.9%）となっています。

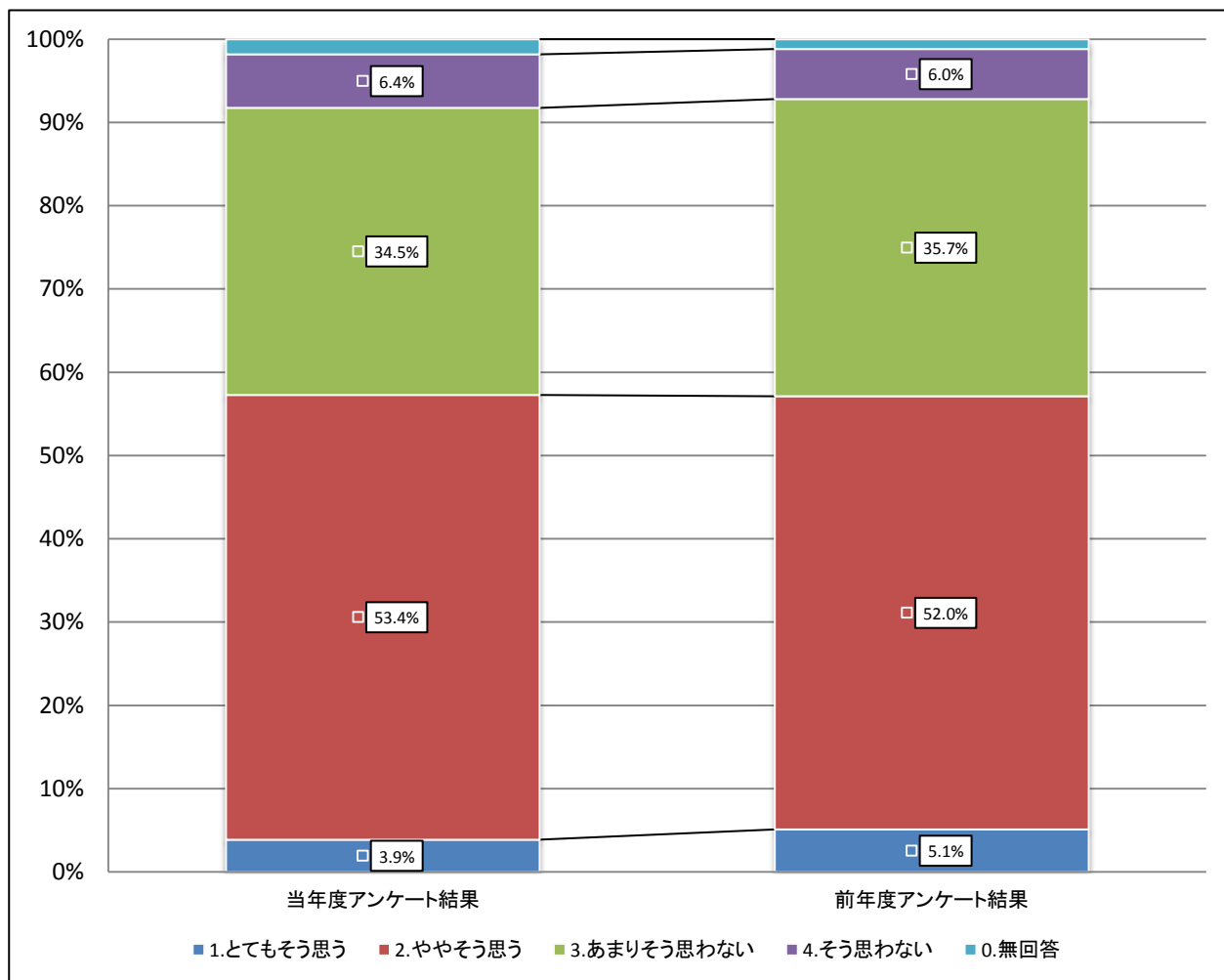
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に感じる」または「ときどき感じる」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区（63.6%）であり、次いで川本地区（65.7%）となっています。最も多いのは、花園地区（92.0%）であり、次いで南地区（89.8%）となっています。

## ② 良好で快適な都市環境の形成（5. 問4～6）

身近な街並みは整っていると思いますか。



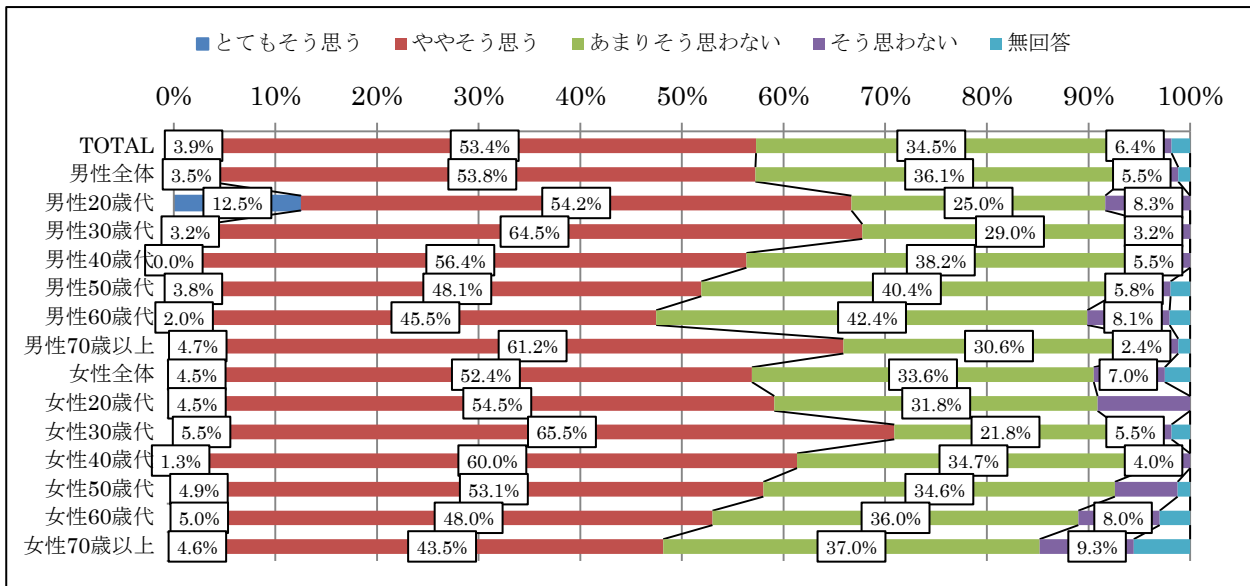
「ややそう思う」と回答した人の割合が53.4%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」が34.5%、「そう思わない」が6.4%、「とてもそう思う」が3.9%となっています。

「とてもそう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は57.3%であり、約半数の人が身近な街並みは整っていると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とてもそう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は57.1%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		とても そう 思う	やや そう 思う	あまり そう 思わ ない	そ う 思 わ な い	無 回 答	合 計
TOTAL	824	3.9%	53.4%	34.5%	6.4%	1.8%	100.0%
男性全体	346	3.5%	53.8%	36.1%	5.5%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	24	12.5%	54.2%	25.0%	8.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	3.2%	64.5%	29.0%	3.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	0.0%	56.4%	38.2%	5.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	3.8%	48.1%	40.4%	5.8%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	2.0%	45.5%	42.4%	8.1%	2.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	4.7%	61.2%	30.6%	2.4%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	4.5%	52.4%	33.6%	7.0%	2.5%	100.0%
女性 20 歳代	22	4.5%	54.5%	31.8%	9.1%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	5.5%	65.5%	21.8%	5.5%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	1.3%	60.0%	34.7%	4.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	4.9%	53.1%	34.6%	6.2%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	5.0%	48.0%	36.0%	8.0%	3.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	4.6%	43.5%	37.0%	9.3%	5.6%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	3.6%	49.0%	36.7%	8.7%	2.0%	100.0%
藤沢地区	56	5.4%	50.0%	41.1%	3.6%	0.0%	100.0%
幡羅地区	106	2.8%	67.9%	25.5%	1.9%	1.9%	100.0%
明戸地区	27	0.0%	37.0%	55.6%	7.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	0.0%	50.0%	40.9%	9.1%	0.0%	100.0%
八基地区	19	5.3%	42.1%	36.8%	10.5%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	0.0%	38.9%	44.4%	16.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	10.5%	59.3%	24.4%	2.3%	3.5%	100.0%
南地区	49	2.0%	75.5%	18.4%	0.0%	4.1%	100.0%
岡部地区	92	3.3%	43.5%	40.2%	10.9%	2.2%	100.0%
川本地区	64	4.7%	54.7%	34.4%	4.7%	1.6%	100.0%
花園地区	75	1.3%	50.7%	40.0%	8.0%	0.0%	100.0%
無回答	14	7.1%	50.0%	28.6%	14.3%	0.0%	100.0%

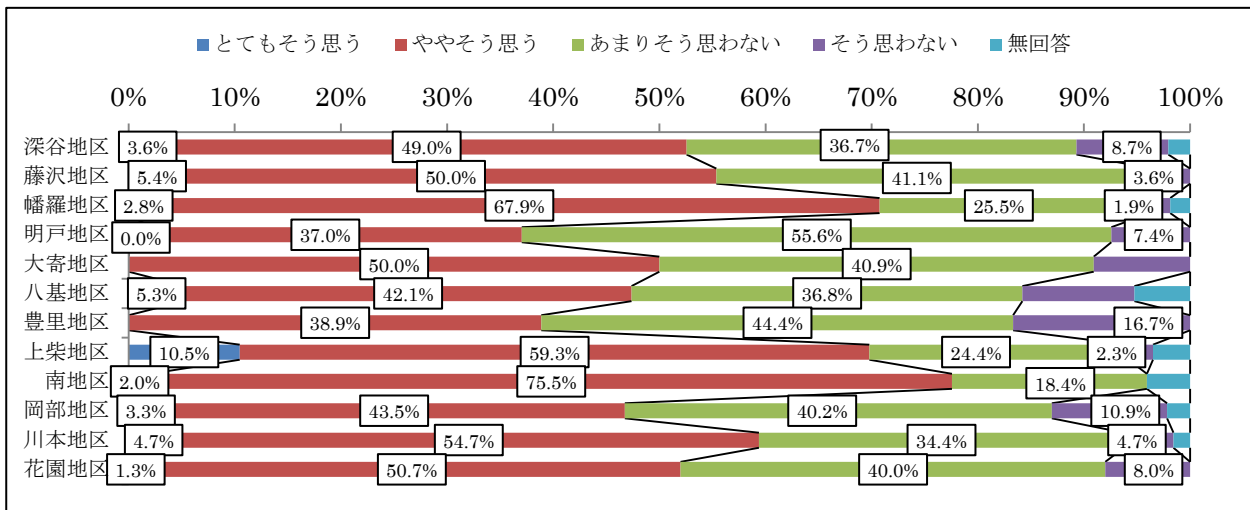
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とてもそう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は男性が57.3%であるのに対して、女性は56.9%となっています。

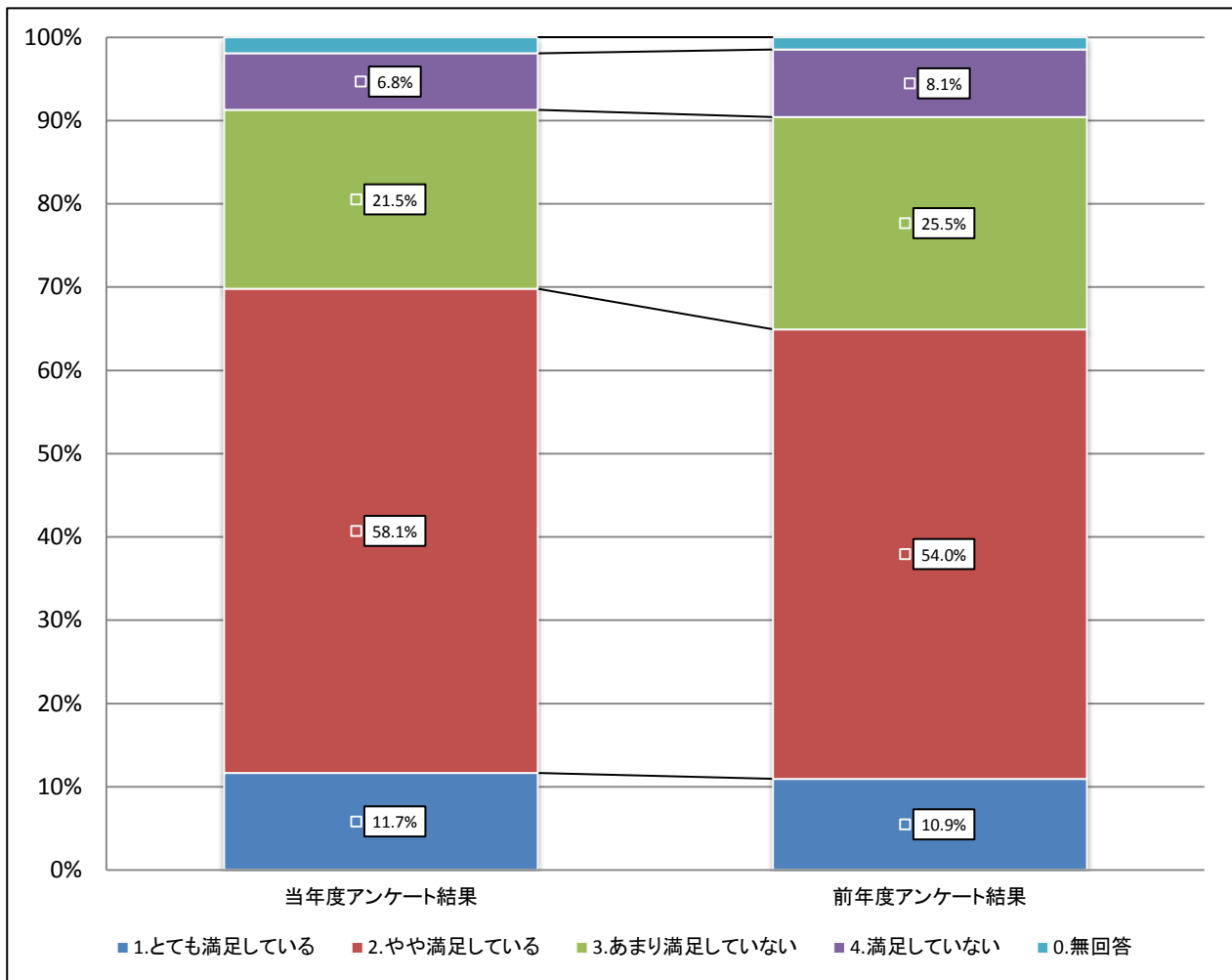
また、「とてもそう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が60歳代(47.5%)、女性が70歳以上(48.1%)となっています。一方で最も割合の多い世代は、男性が30歳代(67.7%)、女性が30歳代(71.0%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「とてもそう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区(37.0%)であり、次いで豊里地区(38.9%)となっています。最も多いのは、南地区(77.5%)であり、次いで幡羅地区(70.7%)となっています。

お住まい周辺の住環境に満足していますか。



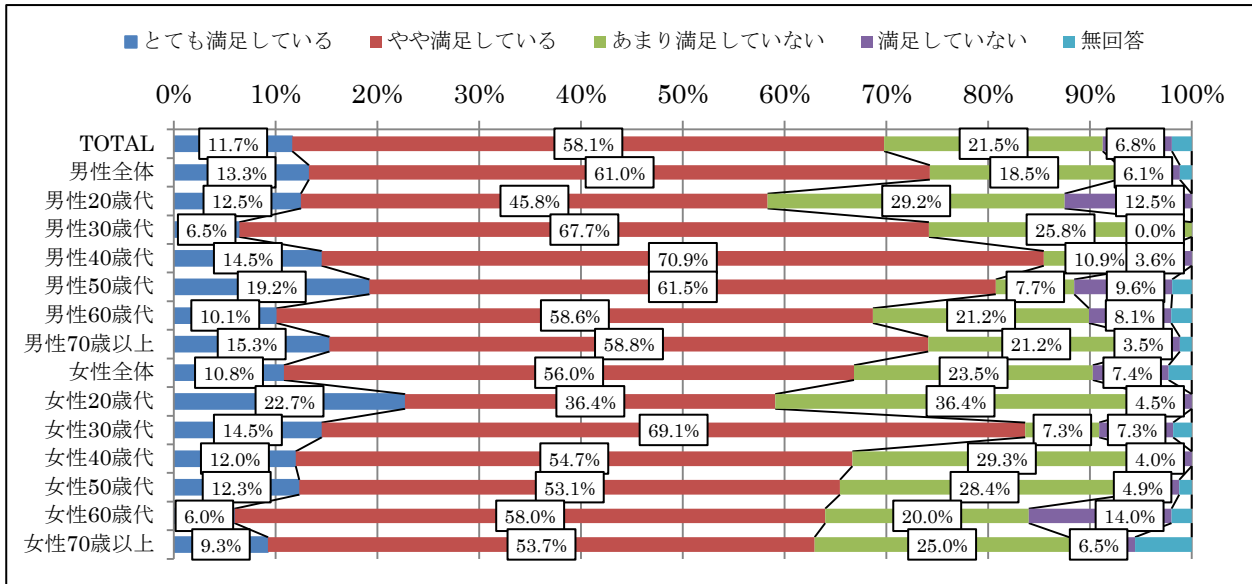
「やや満足している」と回答した人の割合が 58.1%と最も多く、次いで「あまり満足していない」が 21.5%、「とても満足している」が 11.7%、「満足していない」が 6.8%となっています。

「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は 69.8%であり、過半数の人が、住まい周辺の住環境について満足していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は 64.9%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		とても満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答	合計
TOTAL	824	11.7%	58.1%	21.5%	6.8%	1.9%	100.0%
男性全体	346	13.3%	61.0%	18.5%	6.1%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	24	12.5%	45.8%	29.2%	12.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	6.5%	67.7%	25.8%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	14.5%	70.9%	10.9%	3.6%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	19.2%	61.5%	7.7%	9.6%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	10.1%	58.6%	21.2%	8.1%	2.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	15.3%	58.8%	21.2%	3.5%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	10.8%	56.0%	23.5%	7.4%	2.3%	100.0%
女性 20 歳代	22	22.7%	36.4%	36.4%	4.5%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	14.5%	69.1%	7.3%	7.3%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	12.0%	54.7%	29.3%	4.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	12.3%	53.1%	28.4%	4.9%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	6.0%	58.0%	20.0%	14.0%	2.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	9.3%	53.7%	25.0%	6.5%	5.6%	100.0%
女性年齢不詳	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	16.3%	57.1%	17.9%	7.1%	1.5%	100.0%
藤沢地区	56	10.7%	53.6%	26.8%	8.9%	0.0%	100.0%
幡羅地区	106	12.3%	67.0%	17.9%	0.9%	1.9%	100.0%
明戸地区	27	7.4%	55.6%	25.9%	11.1%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	9.1%	40.9%	36.4%	13.6%	0.0%	100.0%
八基地区	19	10.5%	47.4%	26.3%	10.5%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	0.0%	50.0%	44.4%	5.6%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	14.0%	70.9%	9.3%	2.3%	3.5%	100.0%
南地区	49	16.3%	59.2%	16.3%	2.0%	6.1%	100.0%
岡部地区	92	6.5%	47.8%	29.3%	14.1%	2.2%	100.0%
川本地区	64	7.8%	62.5%	23.4%	4.7%	1.6%	100.0%
花園地区	75	9.3%	56.0%	25.3%	9.3%	0.0%	100.0%
無回答	14	7.1%	57.1%	21.4%	7.1%	7.1%	100.0%

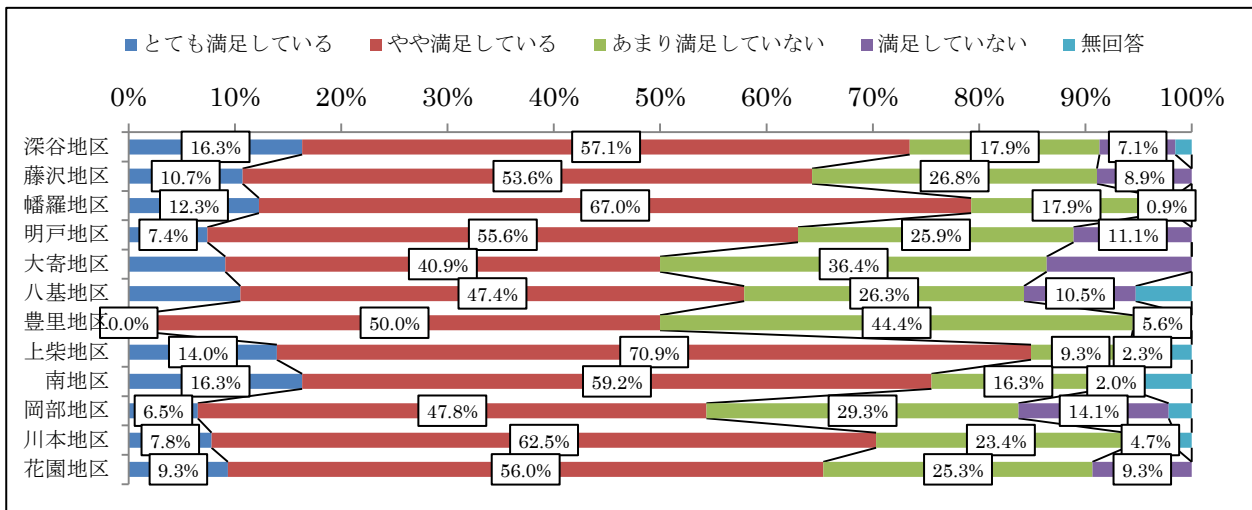
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は男性が74.3%であるのに対して、女性は66.8%となっています。

また、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性、女性ともに20歳代（男性58.3%、女性59.1%）であり、一方で最も多い世代は、男性が40歳代（85.4%）、女性が30歳代（83.6%）となっています。

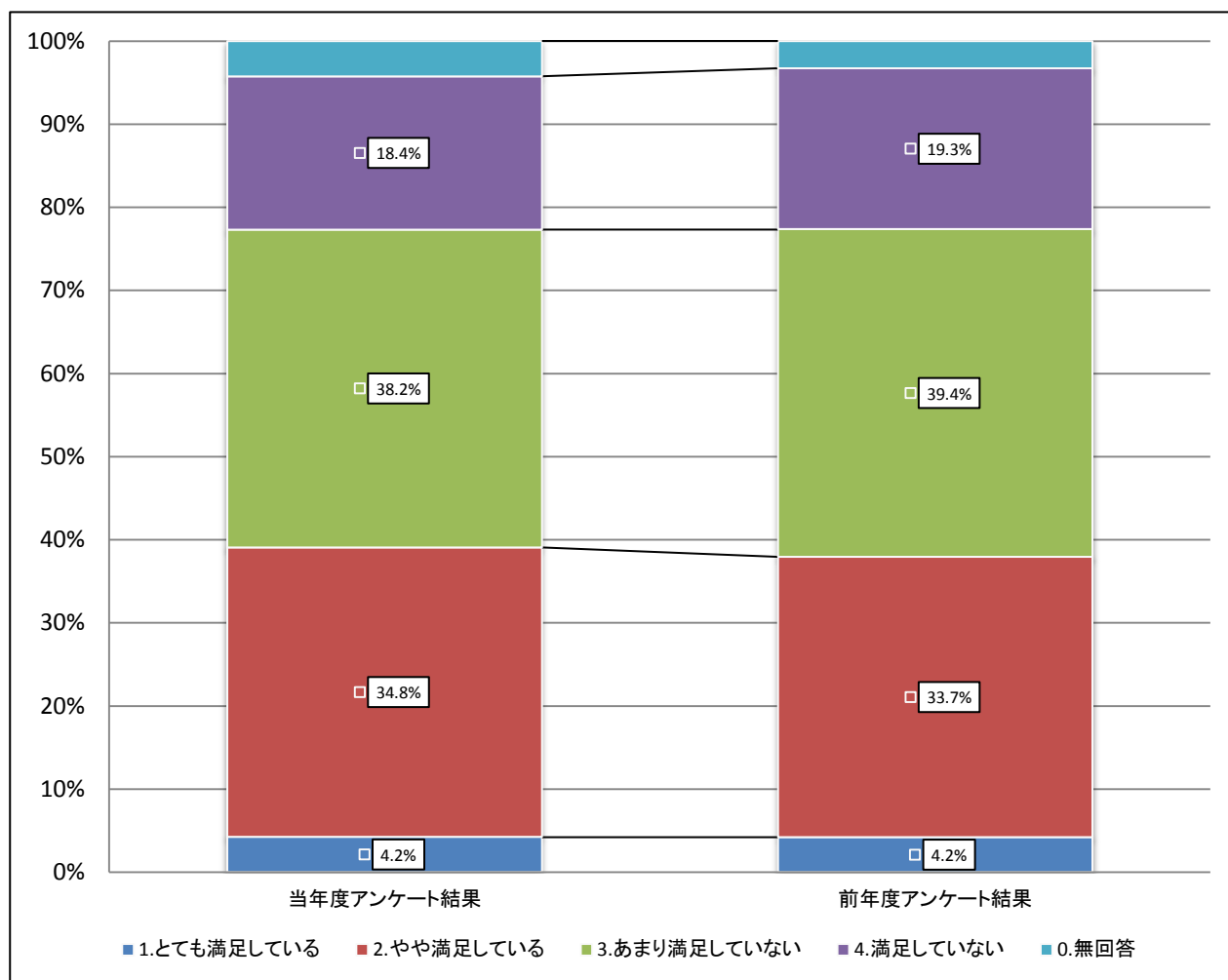
➤ 地区別



地区別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区と豊里地区（50.0%）であり、次いで八基地区（57.9%）となっています。最も多いのは、上柴地区（84.9%）であり、次いで幡羅地区（79.3%）となっています。



市内の公共交通機関（電車・バス）の利便性（本数、路線、サービスなど）に満足していますか。



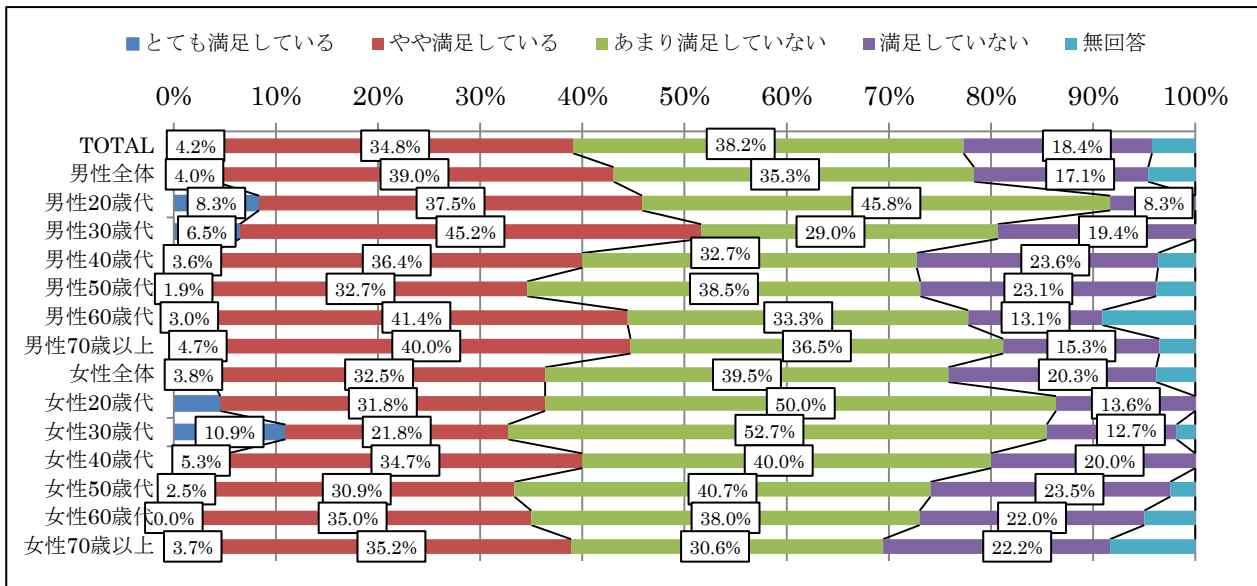
「あまり満足していない」と回答した人の割合が 38.2%と最も多く、次いで「やや満足している」が 34.8%、「満足していない」が 18.4%、「とても満足している」が 4.2%となっています。

「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は 39.0%であり、市内の公共交通機関の利便性に満足していない人の割合が過半数を占めています。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は 37.9%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		とても満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答	合計
TOTAL	824	4.2%	34.8%	38.2%	18.4%	4.2%	100.0%
男性全体	346	4.0%	39.0%	35.3%	17.1%	4.6%	100.0%
男性 20 歳代	24	8.3%	37.5%	45.8%	8.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	6.5%	45.2%	29.0%	19.4%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	3.6%	36.4%	32.7%	23.6%	3.6%	100.0%
男性 50 歳代	52	1.9%	32.7%	38.5%	23.1%	3.8%	100.0%
男性 60 歳代	99	3.0%	41.4%	33.3%	13.1%	9.1%	100.0%
男性 70 歳以上	85	4.7%	40.0%	36.5%	15.3%	3.5%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	3.8%	32.5%	39.5%	20.3%	3.8%	100.0%
女性 20 歳代	22	4.5%	31.8%	50.0%	13.6%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	10.9%	21.8%	52.7%	12.7%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	5.3%	34.7%	40.0%	20.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	2.5%	30.9%	40.7%	23.5%	2.5%	100.0%
女性 60 歳代	100	0.0%	35.0%	38.0%	22.0%	5.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	3.7%	35.2%	30.6%	22.2%	8.3%	100.0%
女性年齢不詳	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	6.1%	41.8%	32.7%	15.3%	4.1%	100.0%
藤沢地区	56	5.4%	32.1%	41.1%	16.1%	5.4%	100.0%
幡羅地区	106	2.8%	38.7%	42.5%	13.2%	2.8%	100.0%
明戸地区	27	3.7%	11.1%	37.0%	40.7%	7.4%	100.0%
大寄地区	22	4.5%	40.9%	27.3%	18.2%	9.1%	100.0%
八基地区	19	0.0%	26.3%	47.4%	21.1%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	5.6%	33.3%	38.9%	22.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	2.3%	32.6%	41.9%	16.3%	7.0%	100.0%
南地区	49	6.1%	40.8%	36.7%	12.2%	4.1%	100.0%
岡部地区	92	4.3%	39.1%	35.9%	15.2%	5.4%	100.0%
川本地区	64	3.1%	29.7%	37.5%	28.1%	1.6%	100.0%
花園地区	75	2.7%	24.0%	45.3%	26.7%	1.3%	100.0%
無回答	14	7.1%	14.3%	42.9%	28.6%	7.1%	100.0%

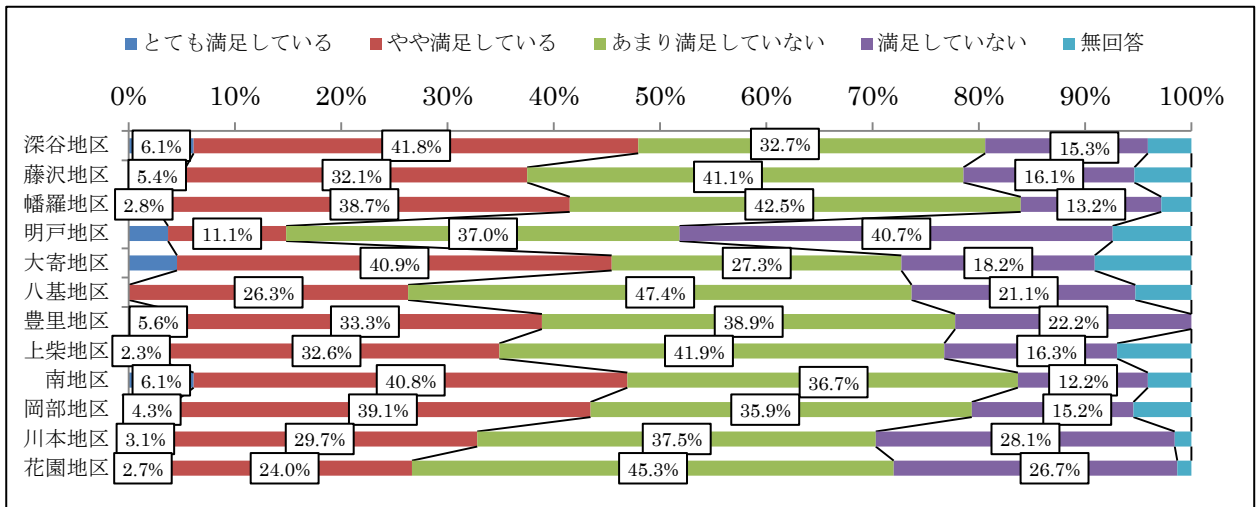
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は男性が43.0%であるのに対して、女性は36.3%となっています。

また、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が50歳代(34.6%)、女性が30歳代(32.7%)であり、一方で最も多い世代は、男性が30歳代(51.7%)、女性が40歳代(40.0%)となっています。

➤ 地区別

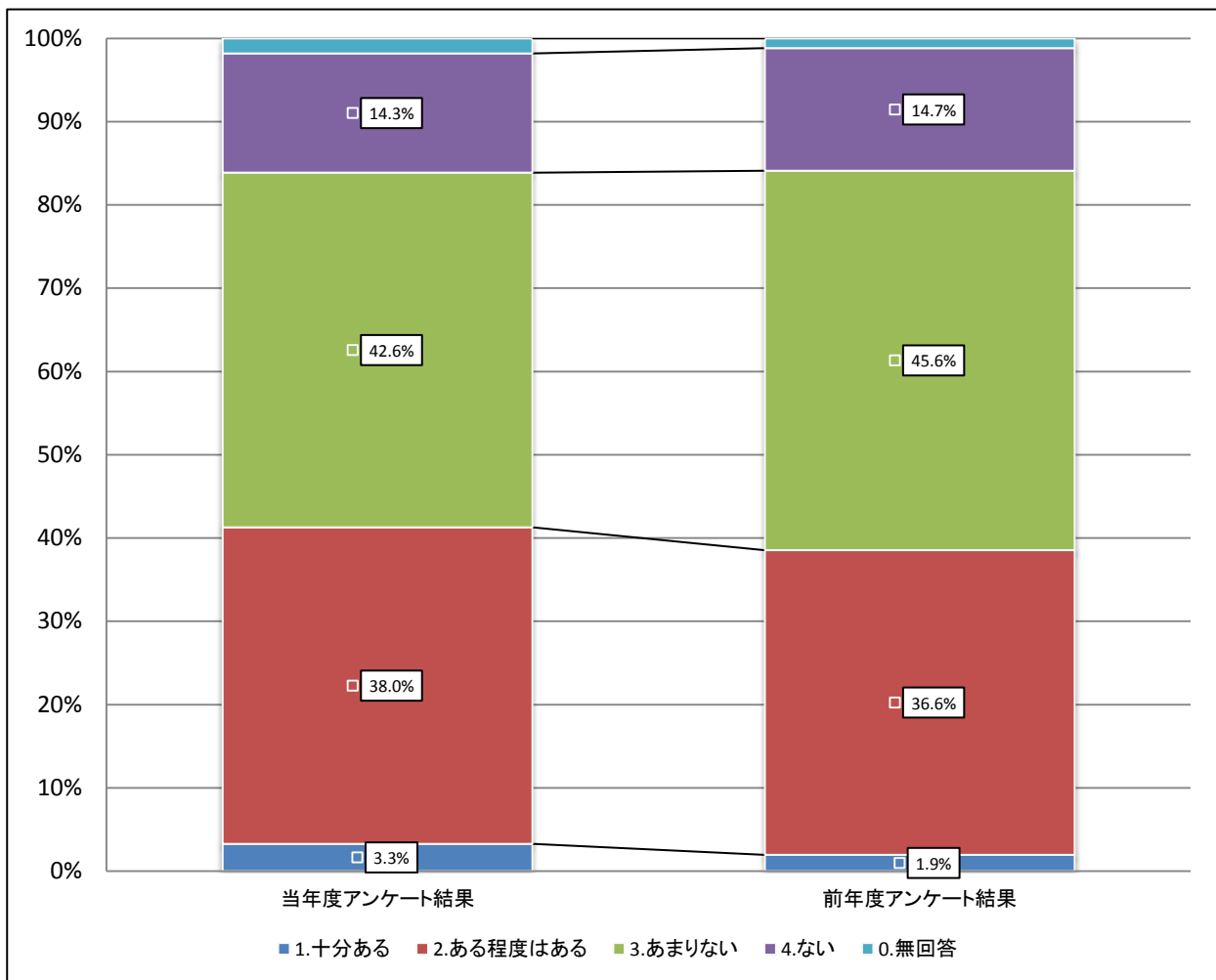


地区別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区(14.8%)であり、次いで八基地区(26.3%)となっています。最も多いのは、深谷地区(47.9%)であり、次いで南地区(46.9%)となっています。

## (6) 生活安全について

### ① 防災対策の推進（6. 問1,2）

ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）はありますか。



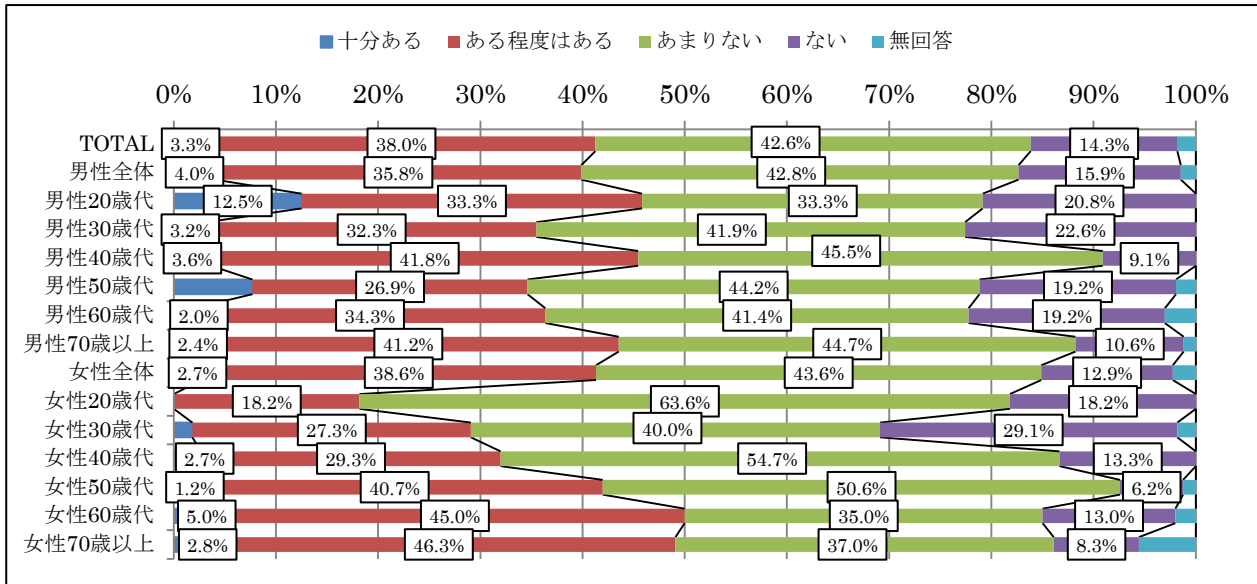
「あまりない」と回答した人の割合が42.6%と最も多く、次いで「ある程度はある」が38.0%、「ない」が14.3%、「十分ある」が3.3%となっています。

「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は41.3%であり、市民の過半数は、災害時の備え（備蓄品など）が十分ではないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は38.5%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		十分ある	ある程度はある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	824	3.3%	38.0%	42.6%	14.3%	1.8%	100.0%
男性全体	346	4.0%	35.8%	42.8%	15.9%	1.4%	100.0%
男性 20 歳代	24	12.5%	33.3%	33.3%	20.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	3.2%	32.3%	41.9%	22.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	3.6%	41.8%	45.5%	9.1%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	7.7%	26.9%	44.2%	19.2%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	2.0%	34.3%	41.4%	19.2%	3.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	2.4%	41.2%	44.7%	10.6%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	2.7%	38.6%	43.6%	12.9%	2.3%	100.0%
女性 20 歳代	22	0.0%	18.2%	63.6%	18.2%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	1.8%	27.3%	40.0%	29.1%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	2.7%	29.3%	54.7%	13.3%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	1.2%	40.7%	50.6%	6.2%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	5.0%	45.0%	35.0%	13.0%	2.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	2.8%	46.3%	37.0%	8.3%	5.6%	100.0%
女性年齢不詳	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	3.6%	39.8%	39.8%	15.3%	1.5%	100.0%
藤沢地区	56	5.4%	37.5%	39.3%	17.9%	0.0%	100.0%
幡羅地区	106	2.8%	38.7%	49.1%	7.5%	1.9%	100.0%
明戸地区	27	7.4%	37.0%	37.0%	18.5%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	4.5%	40.9%	27.3%	27.3%	0.0%	100.0%
八基地区	19	0.0%	21.1%	57.9%	15.8%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	11.1%	11.1%	72.2%	5.6%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	1.2%	33.7%	47.7%	12.8%	4.7%	100.0%
南地区	49	6.1%	20.4%	57.1%	12.2%	4.1%	100.0%
岡部地区	92	3.3%	39.1%	39.1%	16.3%	2.2%	100.0%
川本地区	64	0.0%	53.1%	34.4%	10.9%	1.6%	100.0%
花園地区	75	2.7%	42.7%	37.3%	17.3%	0.0%	100.0%
無回答	14	0.0%	50.0%	28.6%	21.4%	0.0%	100.0%

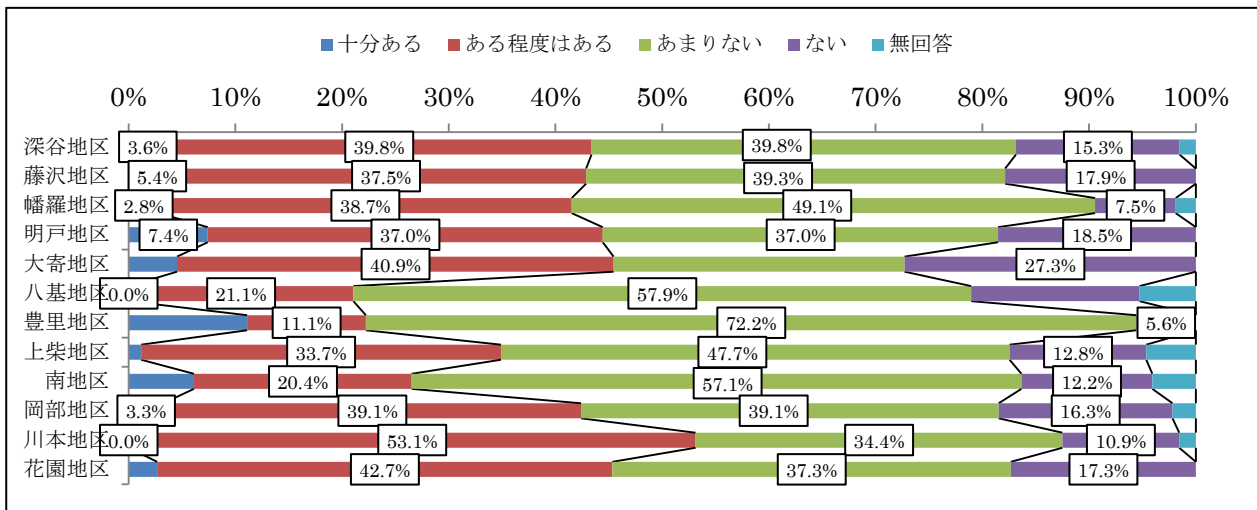
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は男性が 39.8%であるのに対して、女性は 41.3%となっています。

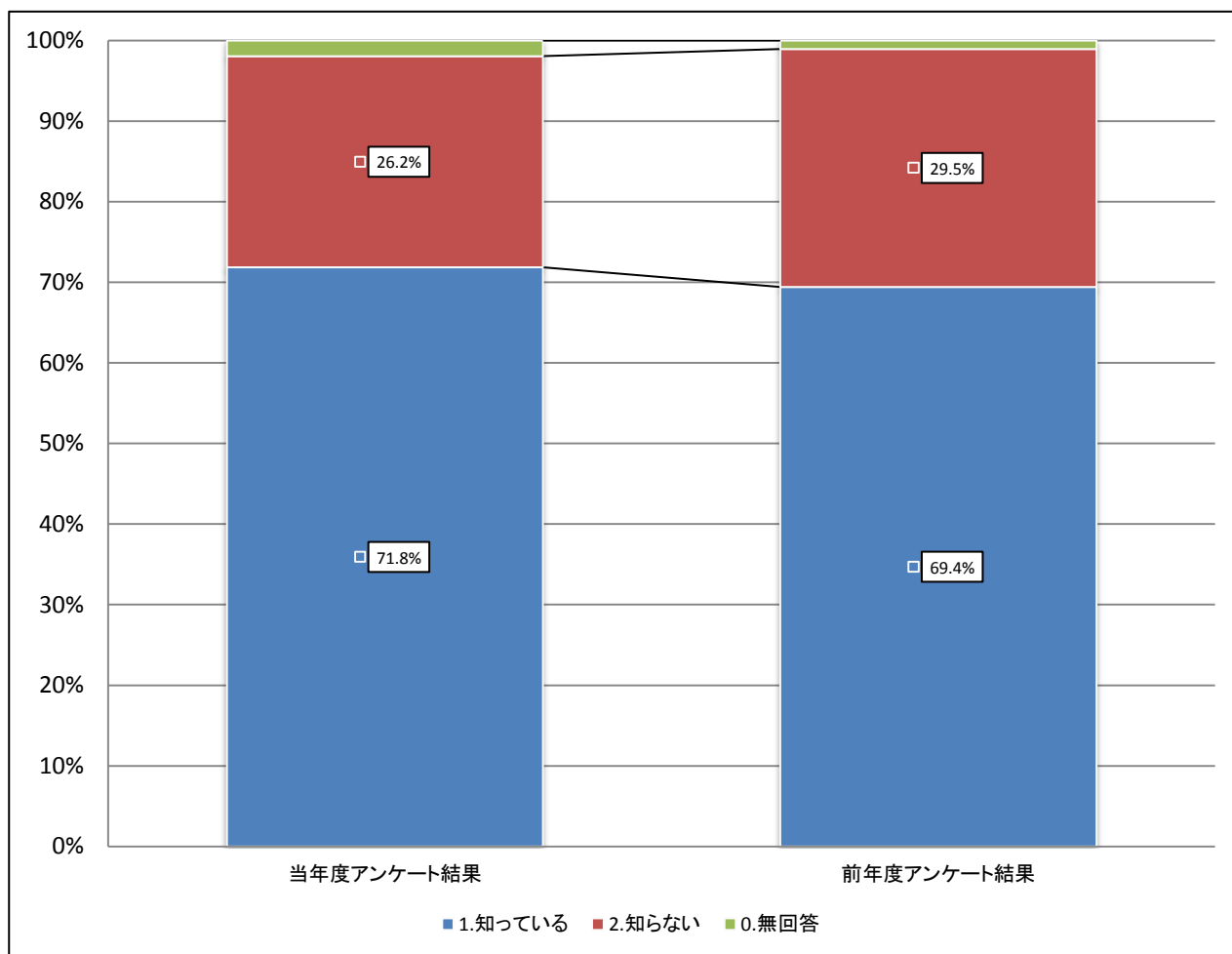
また、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 50 歳代 (34.6%)、女性が 20 歳代 (18.2%) であり、一方で最も多い世代は、男性が 20 歳代 (45.8%)、女性が 60 歳代 (50.0%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区 (21.1%) であり、次いで豊里地区 (22.2%) となっています。最も多いのは、川本地区 (53.1%) であり、次いで大寄地区 (45.4%) となっています。

地震発生時の避難所・避難場所を知っていますか。



「知っている」と回答した人の割合は71.8%、「知らない」と回答した人の割合は26.2%となっています。

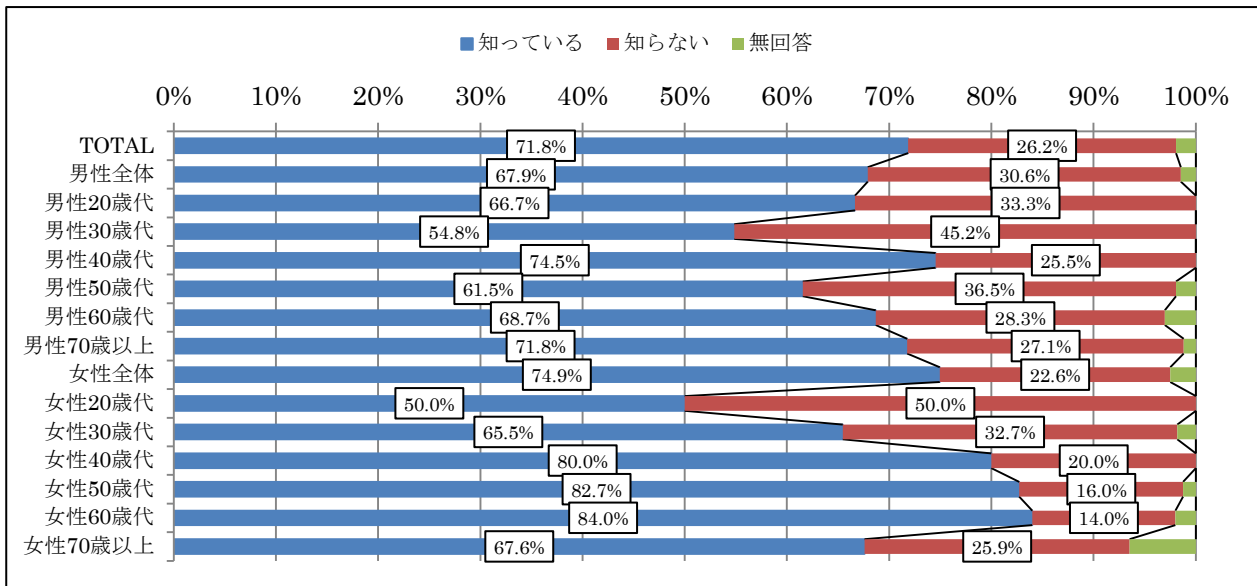
また、地震発生時の避難所・避難場所を知っているという人が大多数を占めているものの、まだ約3割の人が知らない状況であることから、引き続き避難所・避難場所の周知徹底が求められます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「知っている」と回答した人の割合は69.4%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		知っている	知らない	無回答	合計
TOTAL	824	71.8%	26.2%	1.9%	100.0%
男性全体	346	67.9%	30.6%	1.4%	100.0%
男性 20 歳代	24	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	54.8%	45.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	74.5%	25.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	61.5%	36.5%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	68.7%	28.3%	3.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	71.8%	27.1%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	74.9%	22.6%	2.5%	100.0%
女性 20 歳代	22	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	65.5%	32.7%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	82.7%	16.0%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	84.0%	14.0%	2.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	67.6%	25.9%	6.5%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	73.0%	25.5%	1.5%	100.0%
藤沢地区	56	62.5%	37.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	106	81.1%	17.0%	1.9%	100.0%
明戸地区	27	85.2%	14.8%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	68.2%	31.8%	0.0%	100.0%
八基地区	19	73.7%	21.1%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	55.6%	38.9%	5.6%	100.0%
上柴地区	86	72.1%	24.4%	3.5%	100.0%
南地区	49	77.6%	16.3%	6.1%	100.0%
岡部地区	92	77.2%	20.7%	2.2%	100.0%
川本地区	64	62.5%	35.9%	1.6%	100.0%
花園地区	75	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%
無回答	14	71.4%	28.6%	0.0%	100.0%



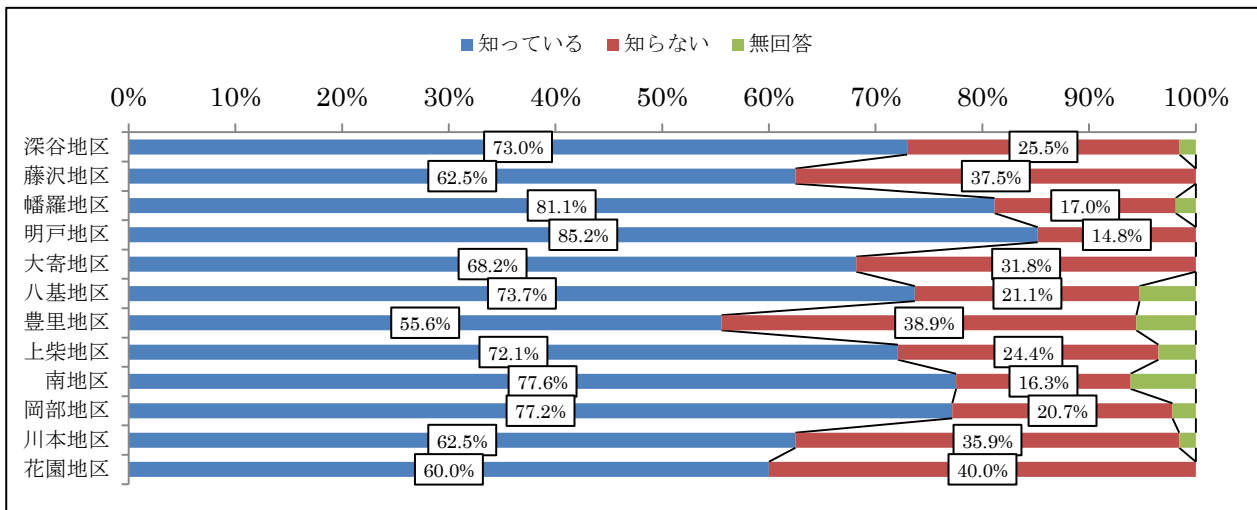
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「知っている」と回答した人の割合は男性が 67.9%であるのに対して、女性は 74.9%となっています。

また、「知っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 30 歳代 (54.8%)、女性が 20 歳代 (50.0%) であり、一方で最も多い世代は、男性が 40 歳代 (74.5%)、女性が 60 歳代 (84.0%) となっています。

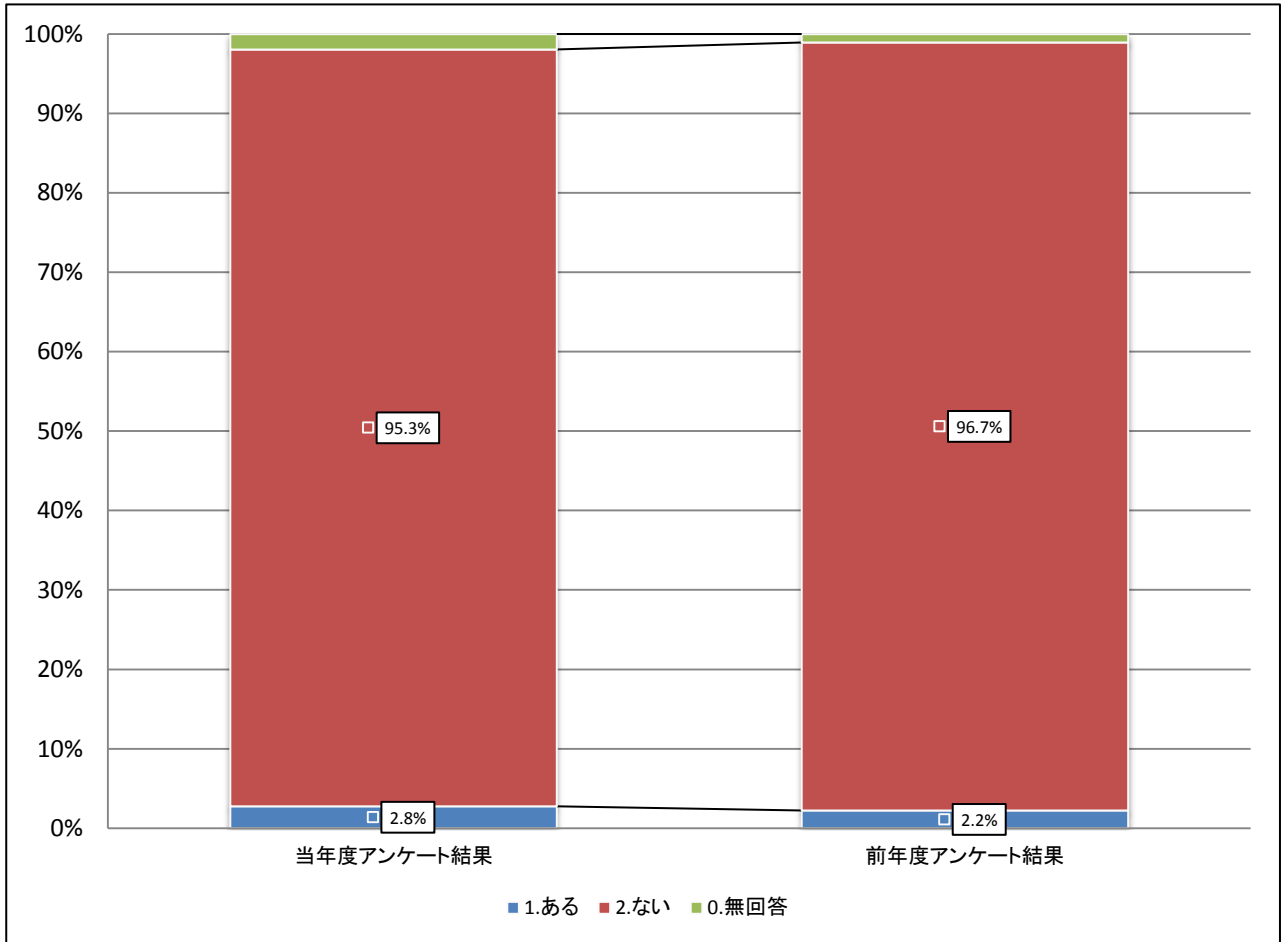
➤ 地区別



地区別にみると、「知っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区 (55.6%) であり、次いで花園地区 (60.0%) となっています。最も多いのは、明戸地区 (85.2%) であり、次いで幡羅地区 (81.1%) となっています。

② 暮らしの安全対策の推進（6. 問3,4）

この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことはありますか。

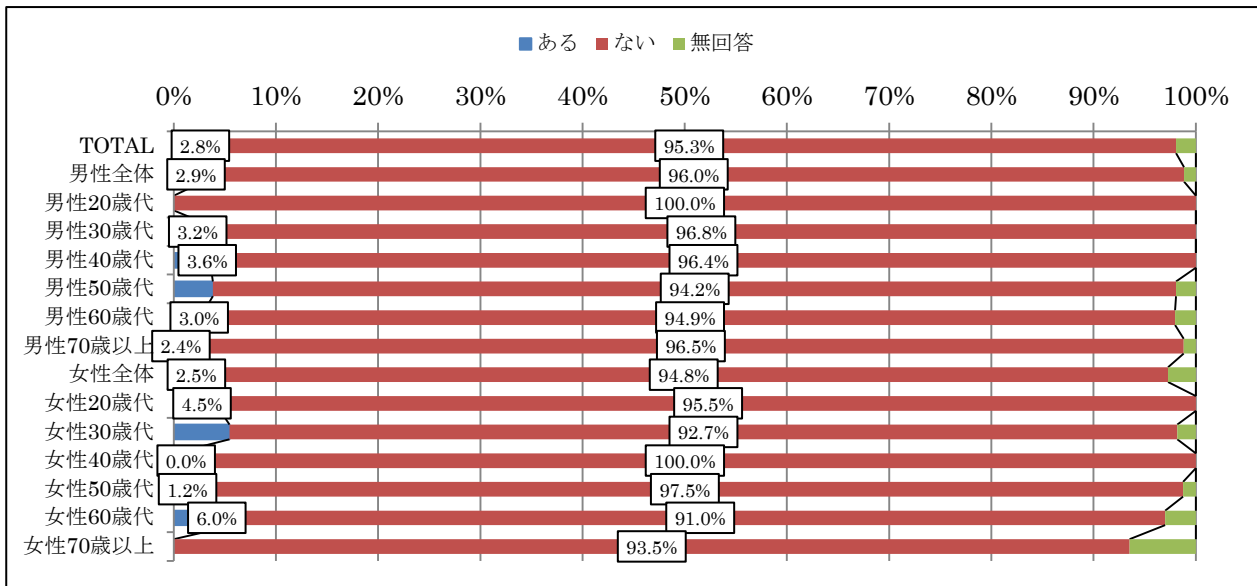


「ある」と回答した人の割合は2.8%、「ない」と回答した人の割合は95.3%となっており、この1年間で消費者トラブルに巻き込まれた人はほとんどいないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ある」と回答した人の割合は2.2%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		ある	ない	無回答	合計
TOTAL	824	2.8%	95.3%	1.9%	100.0%
男性全体	346	2.9%	96.0%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	24	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	3.2%	96.8%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	3.6%	96.4%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	3.8%	94.2%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	3.0%	94.9%	2.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	2.4%	96.5%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	2.5%	94.8%	2.7%	100.0%
女性 20 歳代	22	4.5%	95.5%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	5.5%	92.7%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	1.2%	97.5%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	6.0%	91.0%	3.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	0.0%	93.5%	6.5%	100.0%
女性年齢不詳	2	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	2.0%	95.4%	2.6%	100.0%
藤沢地区	56	8.9%	91.1%	0.0%	100.0%
幡羅地区	106	0.9%	97.2%	1.9%	100.0%
明戸地区	27	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	4.5%	95.5%	0.0%	100.0%
八基地区	19	0.0%	94.7%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	5.6%	94.4%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	1.2%	95.3%	3.5%	100.0%
南地区	49	4.1%	91.8%	4.1%	100.0%
岡部地区	92	1.1%	96.7%	2.2%	100.0%
川本地区	64	3.1%	95.3%	1.6%	100.0%
花園地区	75	6.7%	93.3%	0.0%	100.0%
無回答	14	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%

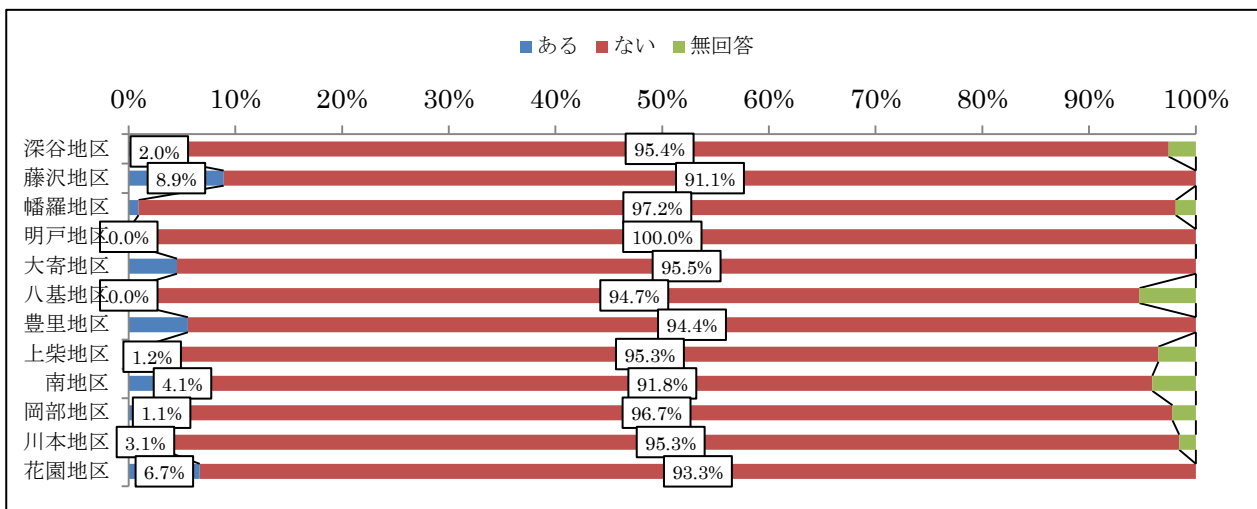
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「ある」と回答した人の割合は男性が2.9%であるのに対して、女性は2.5%となっています。

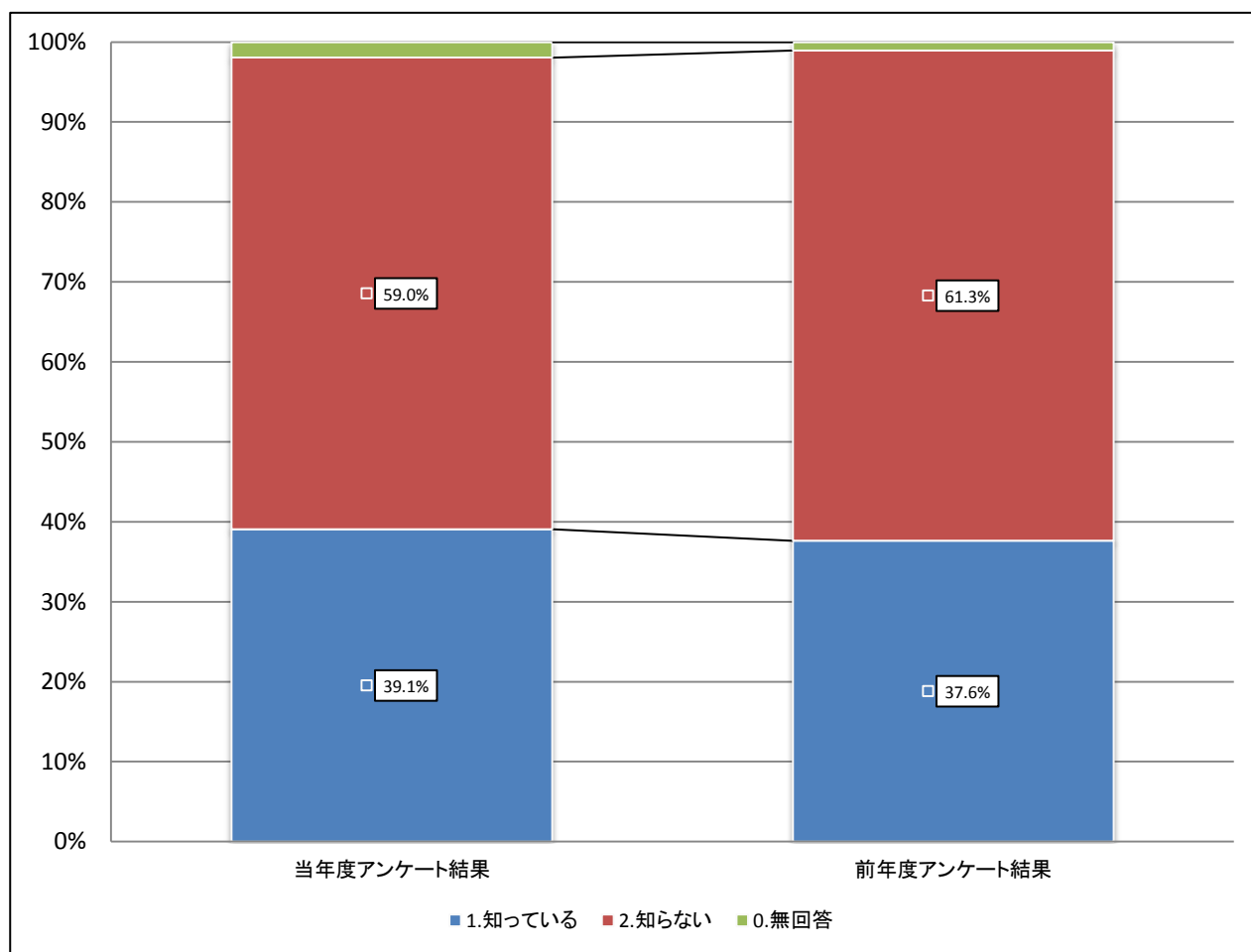
また、「ある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が20歳代(0.0%)であり、女性が40歳代および70歳以上(0.0%)となっています。一方でこの割合が最も多い世代は、男性が50歳代(3.8%)であり、女性が60歳代(6.0%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「ある」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区、八基地区(0.0%)の2地区であり、次いで幡羅地区(0.9%)となっています。最も多いのは、藤沢地区(8.9%)であり、次いで花園地区(6.7%)となっています。

深谷市に消費生活センター（相談窓口）があるのを知っていますか。

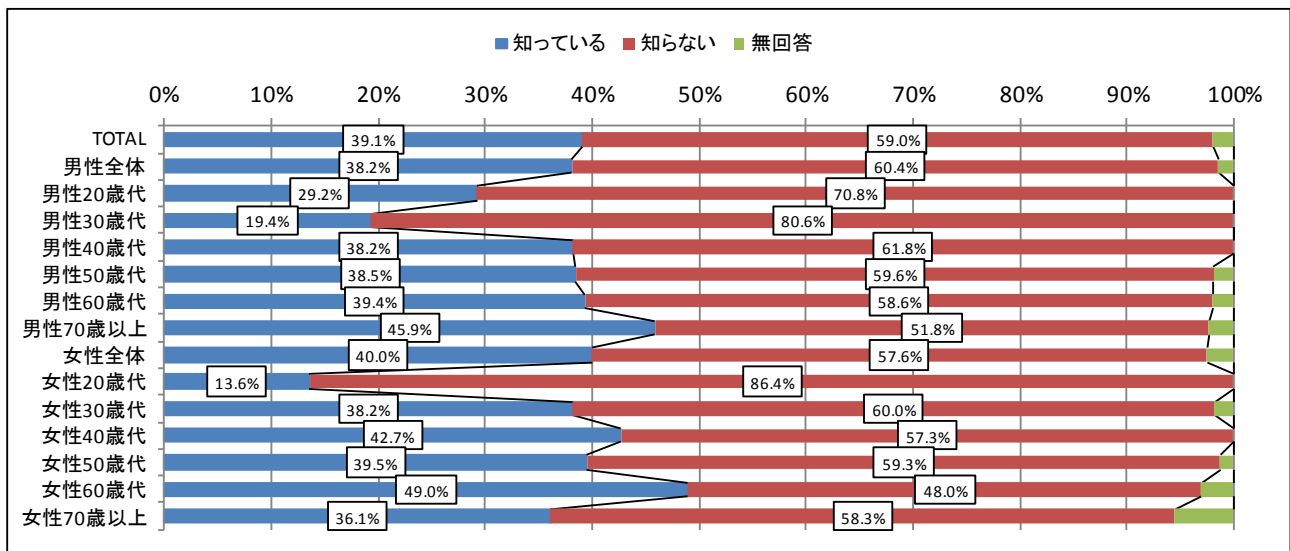


「知っている」と回答した人の割合は39.1%、「知らない」と回答した人の割合は59.0%となっており、大多数の市民が深谷市に消費生活センターの相談窓口があることを知らないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「知っている」と回答した人の割合は37.6%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		知っている	知らない	無回答	合計
TOTAL	824	39.1%	59.0%	1.9%	100.0%
男性全体	346	38.2%	60.4%	1.4%	100.0%
男性 20 歳代	24	29.2%	70.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	19.4%	80.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	38.2%	61.8%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	38.5%	59.6%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	39.4%	58.6%	2.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	45.9%	51.8%	2.4%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	40.0%	57.6%	2.5%	100.0%
女性 20 歳代	22	13.6%	86.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	38.2%	60.0%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	42.7%	57.3%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	39.5%	59.3%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	49.0%	48.0%	3.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	36.1%	58.3%	5.6%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	36.7%	61.2%	2.0%	100.0%
藤沢地区	56	35.7%	64.3%	0.0%	100.0%
幡羅地区	106	41.5%	56.6%	1.9%	100.0%
明戸地区	27	44.4%	55.6%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
八基地区	19	21.1%	73.7%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	37.2%	59.3%	3.5%	100.0%
南地区	49	57.1%	38.8%	4.1%	100.0%
岡部地区	92	34.8%	63.0%	2.2%	100.0%
川本地区	64	34.4%	62.5%	3.1%	100.0%
花園地区	75	45.3%	54.7%	0.0%	100.0%
無回答	14	14.3%	85.7%	0.0%	100.0%

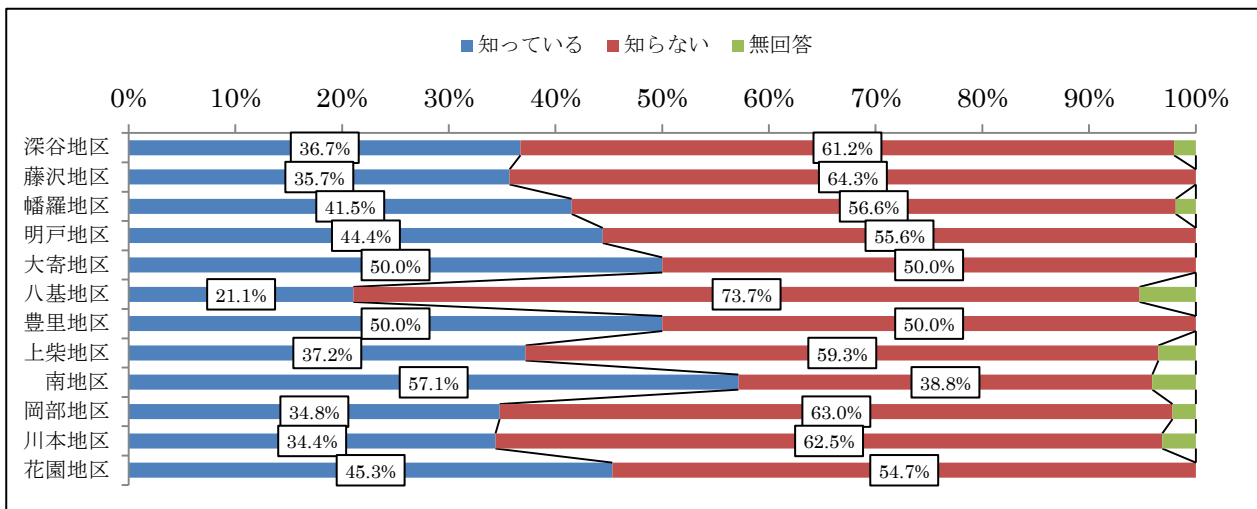
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「知っている」と回答した人の割合は男性が 38.2%であるのに対して、女性は 40.0%となっています。

「知っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 30 歳代 (19.4%)、女性が 20 歳代 (13.6%) となっています。一方でこの割合が最も多い世代は、男性が 70 歳以上 (45.9%)、女性が 60 歳代 (49.0%) となっています。

➤ 地区別

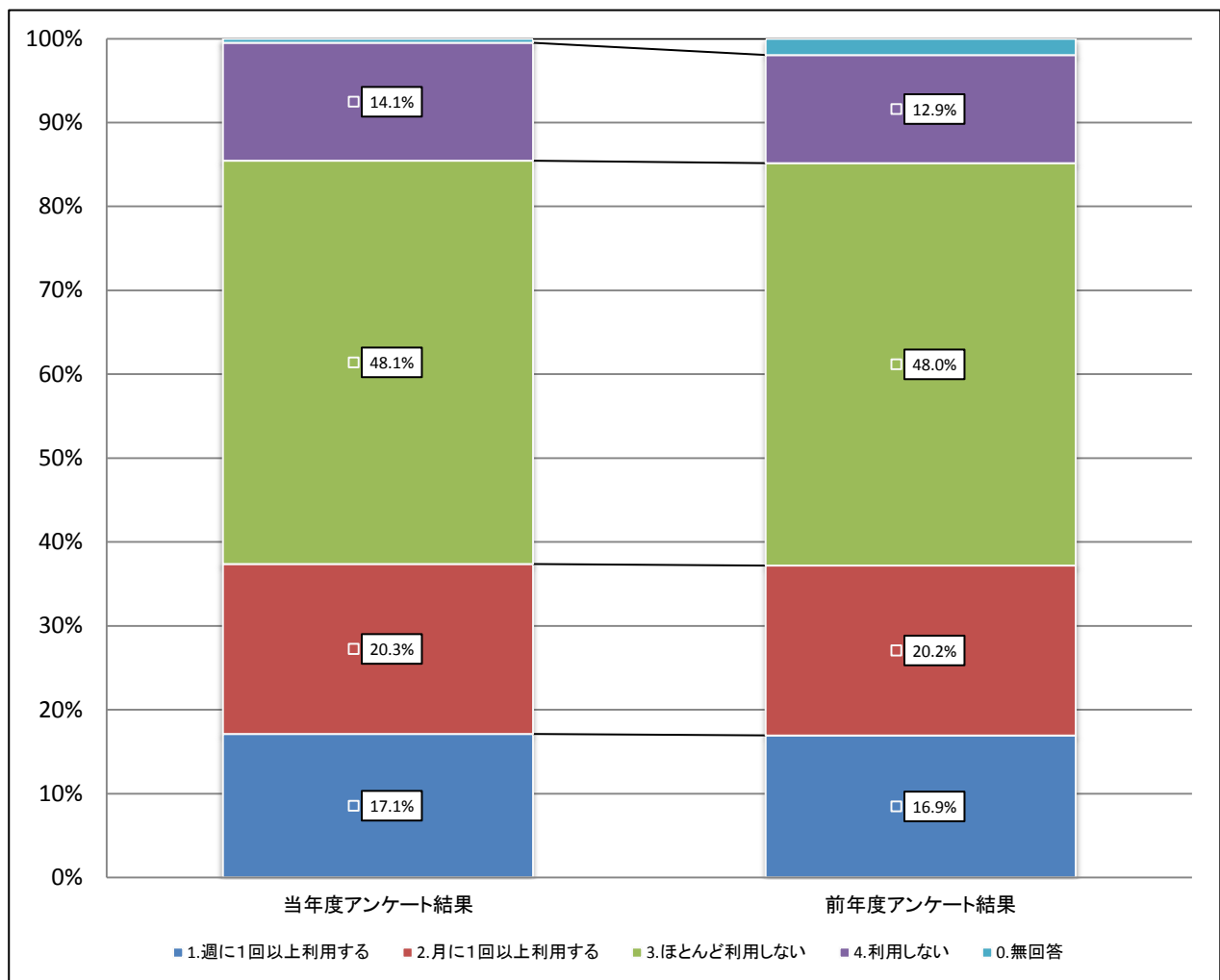


地区別にみると、「知っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区 (21.1%) であり、次いで川本地区 (34.4%) となっています。最も多いのは南地区 (57.1%) であり、次いで大寄地区、豊里地区 (50.0%) の 2 地区となっています。

## (7) 産業振興について

### ① 活力ある商工業の振興（7. 問1,2）

市内の商店街（個人商店）をどの程度利用されますか。



「ほとんど利用しない」と回答した人の割合が48.1%と最も多く、次いで「月に1回以上利用する」と回答した人の割合が20.3%、「週に1回以上利用する」と回答した人の割合は17.1%、「利用しない」と回答した人の割合が14.1%となっています。

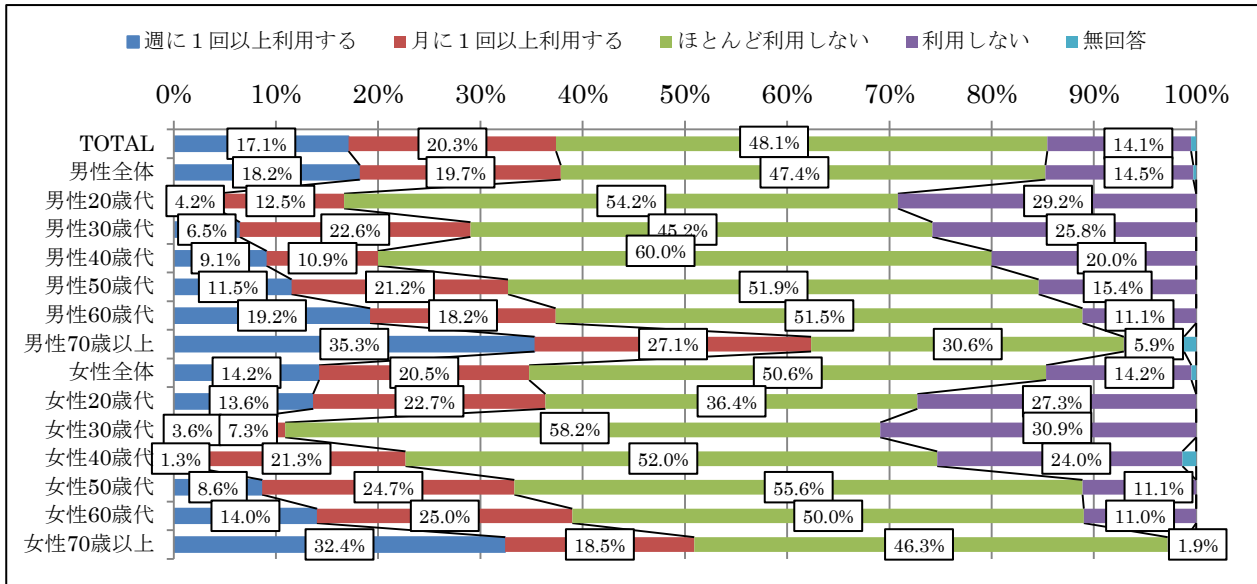
「週に1回以上利用する」または「月に1回以上利用する」と回答した人の割合は37.4%と半数未満であり、多くの人が市内の商店街（個人商店）を利用しない傾向がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「週に1回以上利用する」または「月に1回以上利用する」と回答した人の割合は37.1%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。



母集団		週に1回以上利用する	月に1回以上利用する	ほとんど利用しない	利用しない	無回答	合計
TOTAL	824	17.1%	20.3%	48.1%	14.1%	0.5%	100.0%
男性全体	346	18.2%	19.7%	47.4%	14.5%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	24	4.2%	12.5%	54.2%	29.2%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	6.5%	22.6%	45.2%	25.8%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	9.1%	10.9%	60.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	11.5%	21.2%	51.9%	15.4%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	99	19.2%	18.2%	51.5%	11.1%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	35.3%	27.1%	30.6%	5.9%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	14.2%	20.5%	50.6%	14.2%	0.5%	100.0%
女性 20 歳代	22	13.6%	22.7%	36.4%	27.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	3.6%	7.3%	58.2%	30.9%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	1.3%	21.3%	52.0%	24.0%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	8.6%	24.7%	55.6%	11.1%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	100	14.0%	25.0%	50.0%	11.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	32.4%	18.5%	46.3%	1.9%	0.9%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	12.2%	18.4%	54.6%	14.3%	0.5%	100.0%
藤沢地区	56	10.7%	28.6%	48.2%	10.7%	1.8%	100.0%
幡羅地区	106	16.0%	20.8%	45.3%	17.9%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	18.5%	22.2%	55.6%	3.7%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	13.6%	22.7%	54.5%	9.1%	0.0%	100.0%
八基地区	19	21.1%	21.1%	47.4%	10.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	16.7%	16.7%	55.6%	11.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	11.6%	16.3%	52.3%	19.8%	0.0%	100.0%
南地区	49	14.3%	22.4%	53.1%	10.2%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	21.7%	27.2%	40.2%	10.9%	0.0%	100.0%
川本地区	64	26.6%	18.8%	31.3%	21.9%	1.6%	100.0%
花園地区	75	28.0%	14.7%	46.7%	10.7%	0.0%	100.0%
無回答	14	28.6%	14.3%	35.7%	14.3%	7.1%	100.0%

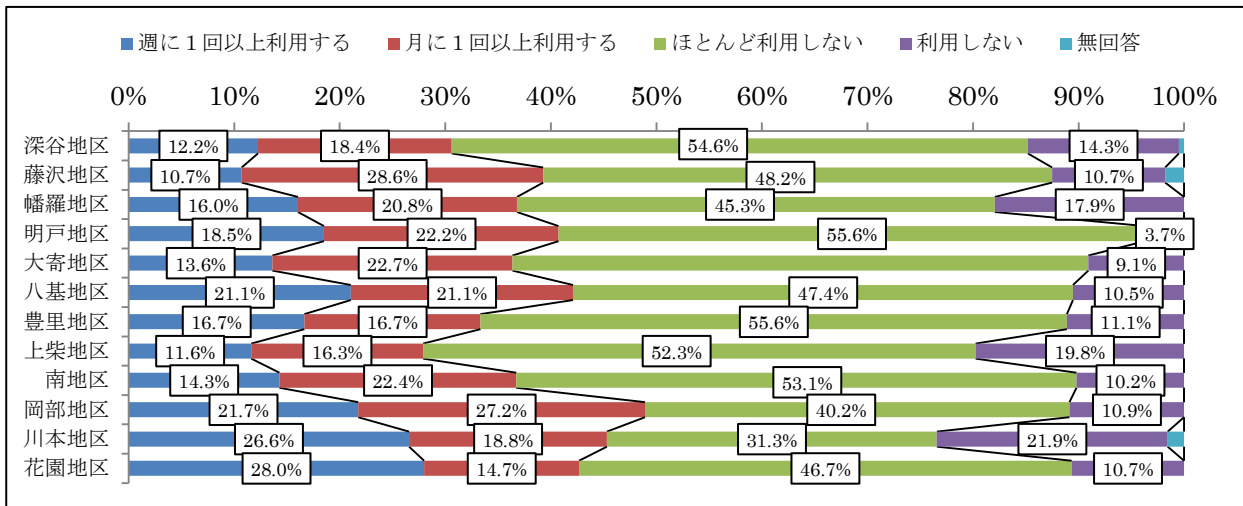
## ➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「週に1回以上利用する」または「月に1回以上利用する」と回答した人の割合は男性が37.9%であるのに対して、女性は34.7%となっています。

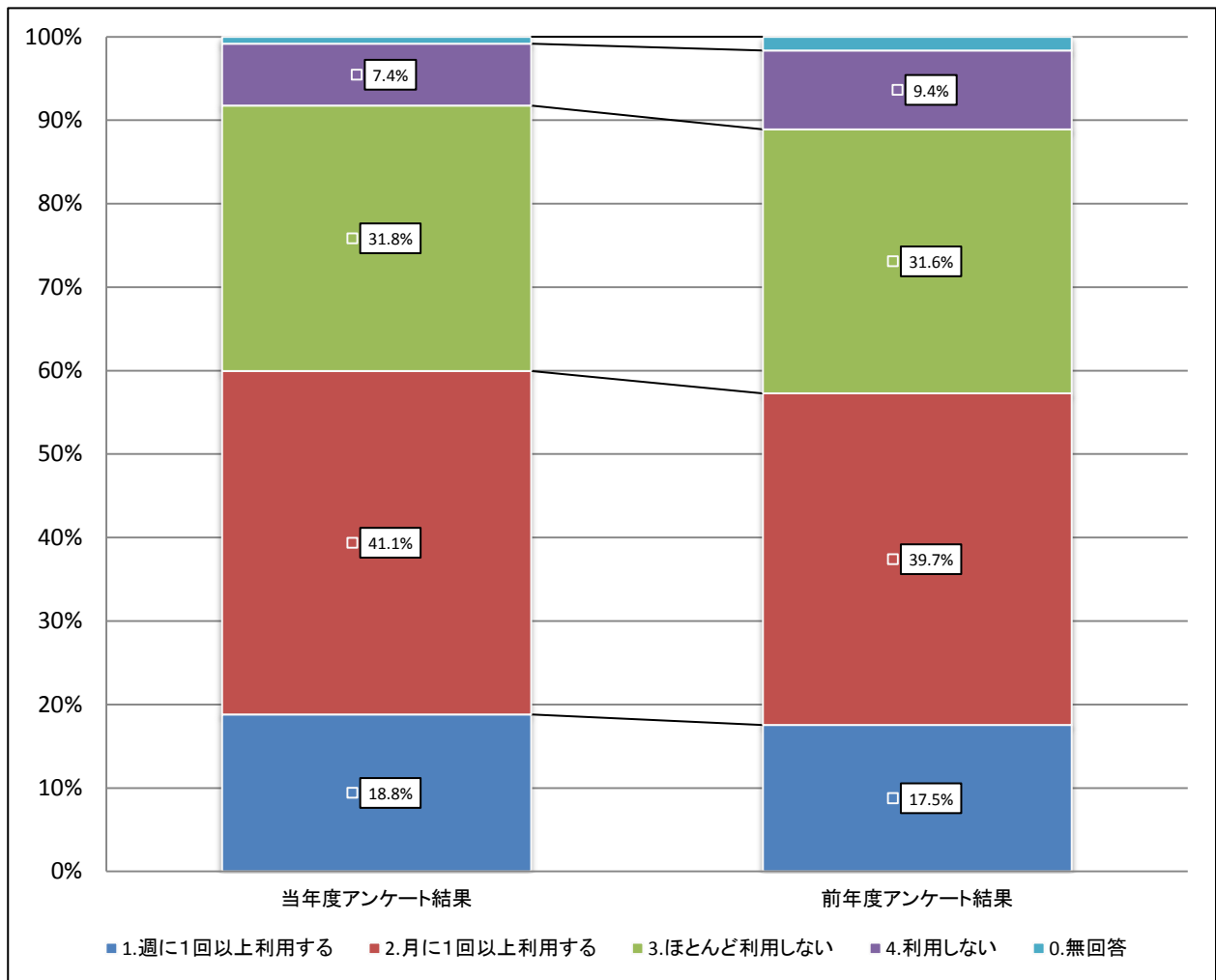
また、「週に1回以上利用する」または「月に1回以上利用する」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が20歳代(16.7%)、女性が30歳代(10.9%)であり、一方で最も多い世代は、男性が70歳以上(62.4%)、女性が70歳以上(50.9%)となっており、世代間における差が大きいことがうかがえます。

## ➤ 地区別



地区別にみると、「週に1回以上利用する」または「月に1回以上利用する」と回答した人の割合が最も少ないのは、上柴地区(27.9%)であり、次いで深谷地区(30.6%)となっています。最も多いのは岡部地区(48.9%)であり、次いで川本地区(45.4%)となっています。

市外業者（通信販売を含む）をどの程度利用されますか。



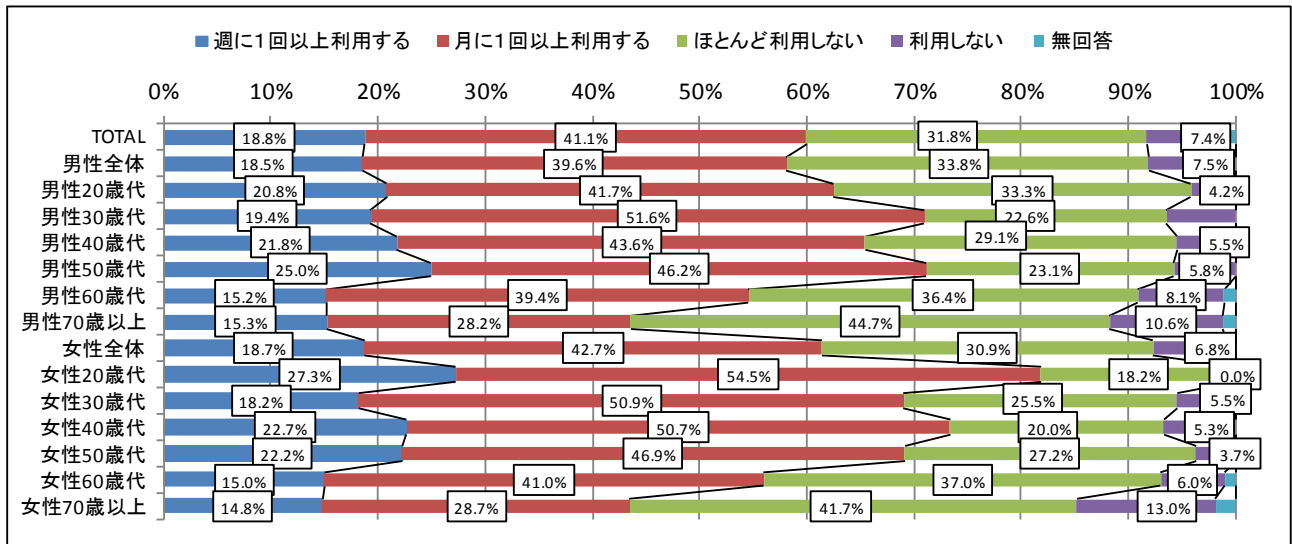
「月に1回以上利用をする」と回答した人の割合が41.1%と最も多く、次いで「ほとんど利用しない」と回答した人の割合が31.8%、「週に1回以上利用をする」と回答した人の割合が18.8%、「利用しない」と回答した人の割合は7.4%となっています。

「週に1回以上利用をする」または「月に1回以上利用をする」と回答した人の割合は59.9%であり、多くの方が市外業者や通信販売を利用していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「週に1回以上利用する」または「月に1回以上利用する」と回答した人の割合は57.2%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		週に1回以上利用する	月に1回以上利用する	ほとんど利用しない	利用しない	無回答	合計
TOTAL	824	18.8%	41.1%	31.8%	7.4%	0.8%	100.0%
男性全体	346	18.5%	39.6%	33.8%	7.5%	0.6%	100.0%
男性 20 歳代	24	20.8%	41.7%	33.3%	4.2%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	19.4%	51.6%	22.6%	6.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	21.8%	43.6%	29.1%	5.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	25.0%	46.2%	23.1%	5.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	99	15.2%	39.4%	36.4%	8.1%	1.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	15.3%	28.2%	44.7%	10.6%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	18.7%	42.7%	30.9%	6.8%	0.9%	100.0%
女性 20 歳代	22	27.3%	54.5%	18.2%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	18.2%	50.9%	25.5%	5.5%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	22.7%	50.7%	20.0%	5.3%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	22.2%	46.9%	27.2%	3.7%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	100	15.0%	41.0%	37.0%	6.0%	1.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	14.8%	28.7%	41.7%	13.0%	1.9%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	16.3%	42.3%	33.2%	8.2%	0.0%	100.0%
藤沢地区	56	7.1%	55.4%	23.2%	8.9%	5.4%	100.0%
幡羅地区	106	22.6%	44.3%	30.2%	1.9%	0.9%	100.0%
明戸地区	27	33.3%	40.7%	22.2%	3.7%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	18.2%	36.4%	22.7%	18.2%	4.5%	100.0%
八基地区	19	10.5%	47.4%	36.8%	5.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	5.6%	55.6%	27.8%	11.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	23.3%	31.4%	38.4%	7.0%	0.0%	100.0%
南地区	49	14.3%	38.8%	42.9%	4.1%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	19.6%	42.4%	28.3%	8.7%	1.1%	100.0%
川本地区	64	23.4%	35.9%	31.3%	7.8%	1.6%	100.0%
花園地区	75	20.0%	37.3%	34.7%	8.0%	0.0%	100.0%
無回答	14	28.6%	28.6%	21.4%	21.4%	0.0%	100.0%

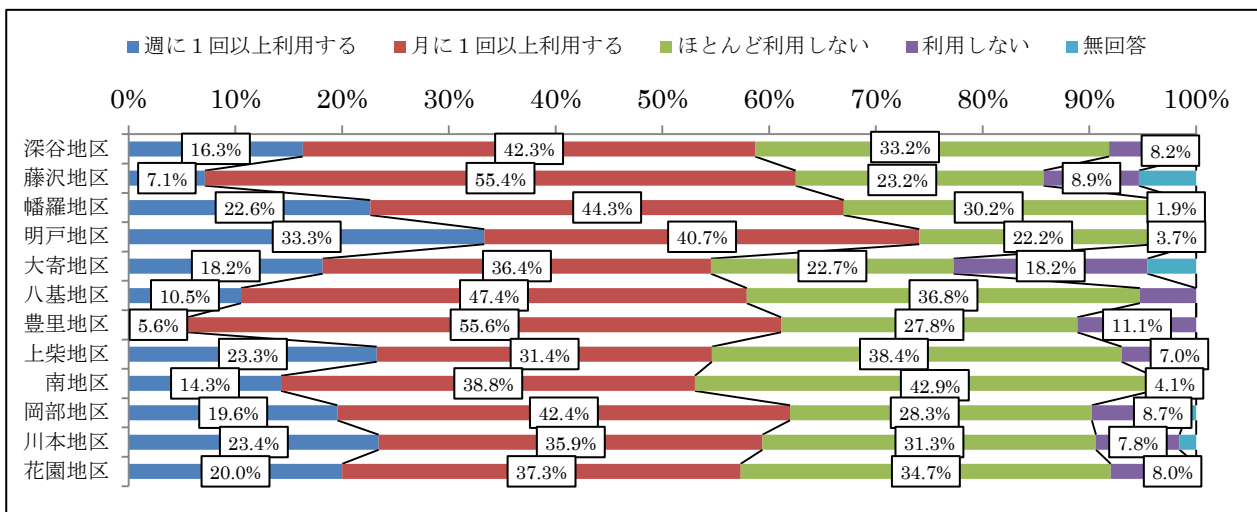
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「週に1回以上利用をする」または「月に1回以上利用をする」と回答した人の割合は男性が58.1%であるのに対して、女性は61.4%となっています。

また、「週に1回以上利用をする」または「月に1回以上利用をする」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性、女性ともに70歳以上（男性43.5%、女性43.5%）であり、一方で最も多い世代は、男性が50歳代（71.2%）、女性が20歳代（81.8%）となっており、世代間における差が大きいことがうかがえます。

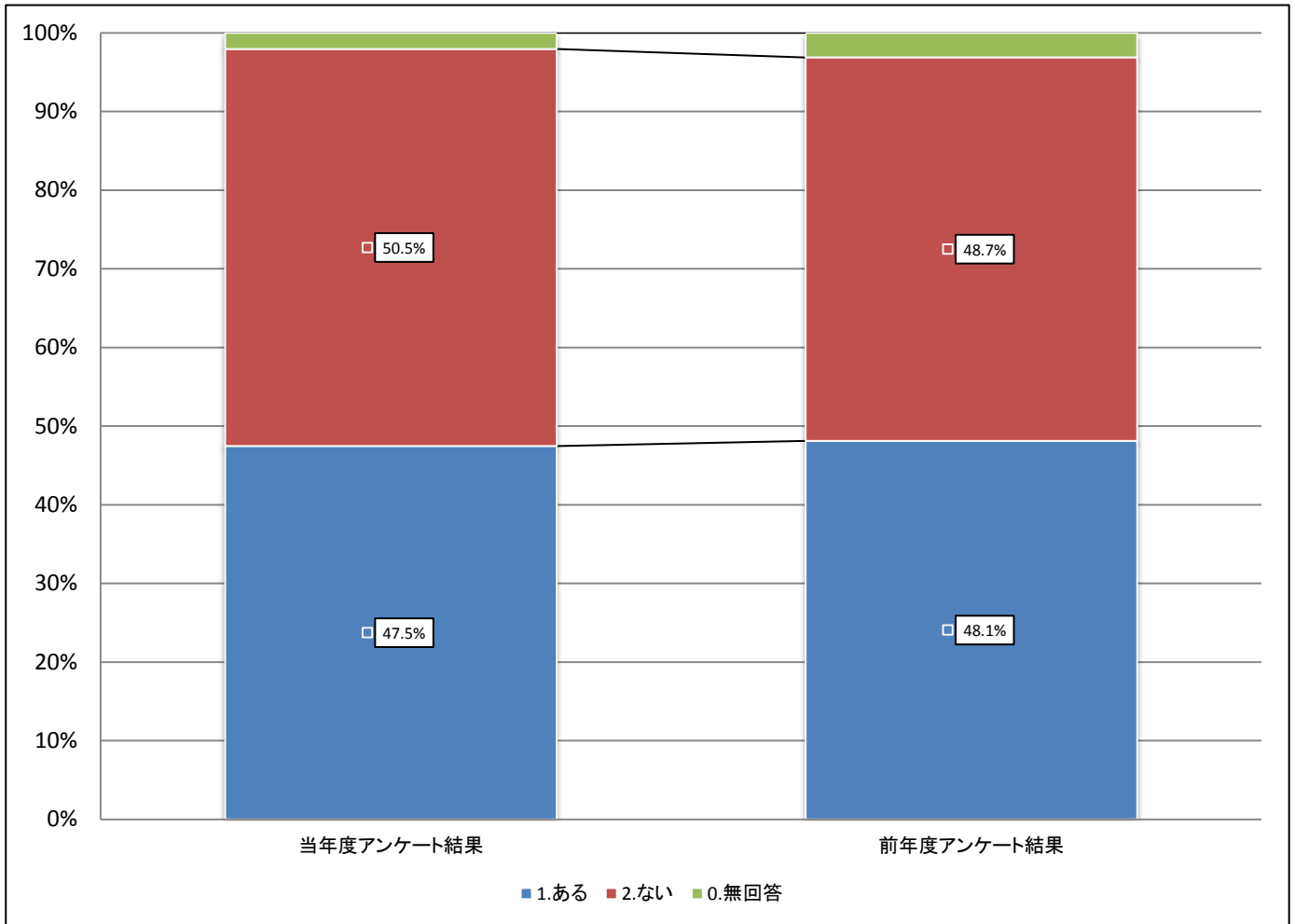
➤ 地区別



地区別にみると、「週に1回以上利用をする」または「月に1回以上利用をする」と回答した人の割合が最も少ないのは南地区（53.1%）であり、次いで大寄地区（54.6%）となっています。最も多いのは明戸地区（74.0%）であり、次いで幡羅地区（66.9%）となっています。

### ③ にぎわいを生む観光の振興（7. 問3）

深谷市には観光地としての可能性があると思いますか。

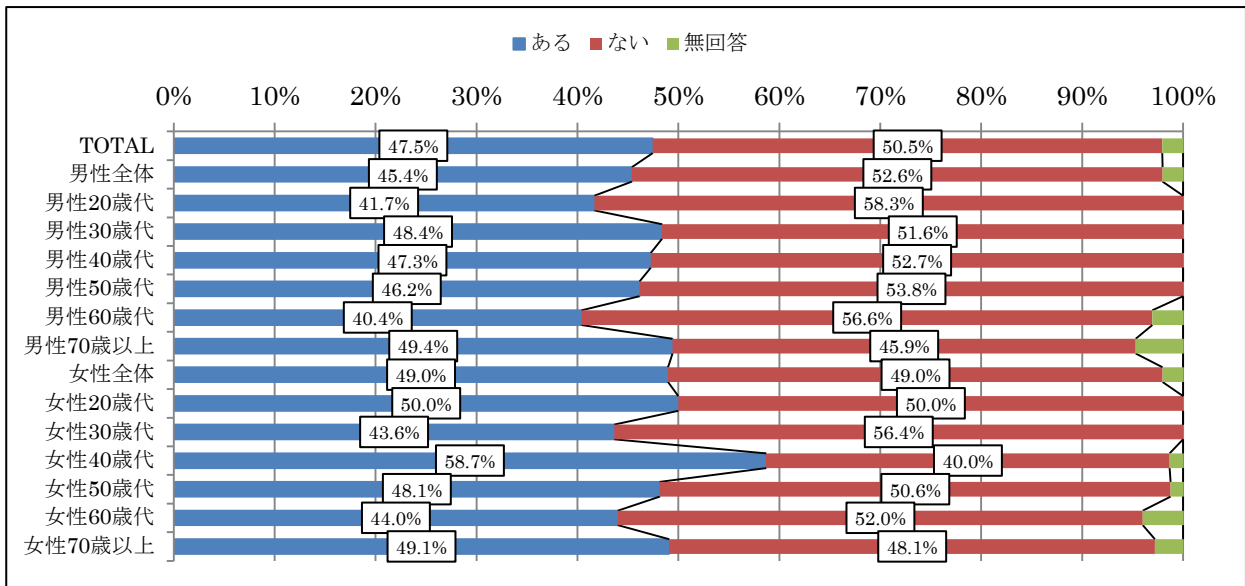


「ある」と回答した人の割合は47.5%、「ない」と回答した人の割合は50.5%であり、「ない」と回答した人の割合の方が「ある」と回答した人の割合を3ポイント上回っています。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ある」と回答した人の割合は48.1%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		ある	ない	無回答	合計
<b>TOTAL</b>	<b>824</b>	<b>47.5%</b>	<b>50.5%</b>	<b>2.1%</b>	<b>100.0%</b>
男性全体	346	45.4%	52.6%	2.0%	100.0%
男性 20 歳代	24	41.7%	58.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	48.4%	51.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	47.3%	52.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	46.2%	53.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	99	40.4%	56.6%	3.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	49.4%	45.9%	4.7%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	49.0%	49.0%	2.0%	100.0%
女性 20 歳代	22	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	43.6%	56.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	58.7%	40.0%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	48.1%	50.6%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	44.0%	52.0%	4.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	49.1%	48.1%	2.8%	100.0%
女性年齢不詳	2	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	44.9%	52.6%	2.6%	100.0%
藤沢地区	56	50.0%	46.4%	3.6%	100.0%
幡羅地区	106	42.5%	55.7%	1.9%	100.0%
明戸地区	27	55.6%	33.3%	11.1%	100.0%
大寄地区	22	54.5%	40.9%	4.5%	100.0%
八基地区	19	42.1%	57.9%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	44.4%	55.6%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	44.2%	54.7%	1.2%	100.0%
南地区	49	53.1%	46.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
川本地区	64	46.9%	50.0%	3.1%	100.0%
花園地区	75	53.3%	46.7%	0.0%	100.0%
無回答		50.0%	42.9%	7.1%	100.0%

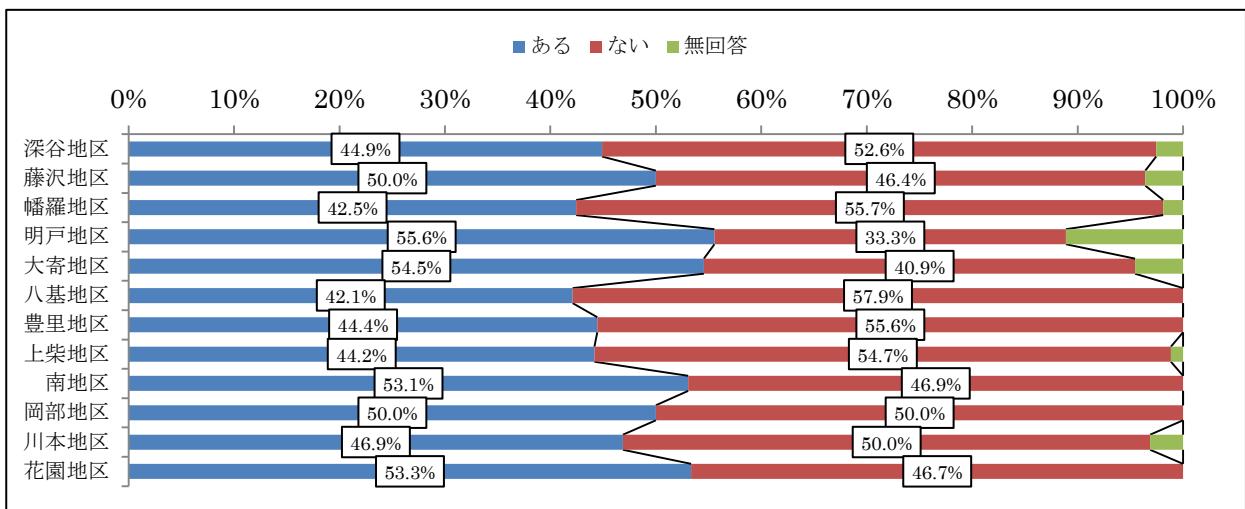
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「ある」と回答した人の割合は男性が45.4%であるのに対して、女性は49.0%となっています。

また、「ある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が60歳代(40.4%)、女性が30歳代(43.6%)となっています。一方で最も多い世代は、男性が70歳以上(49.4%)であり、女性は40歳代(58.7%)となっています。

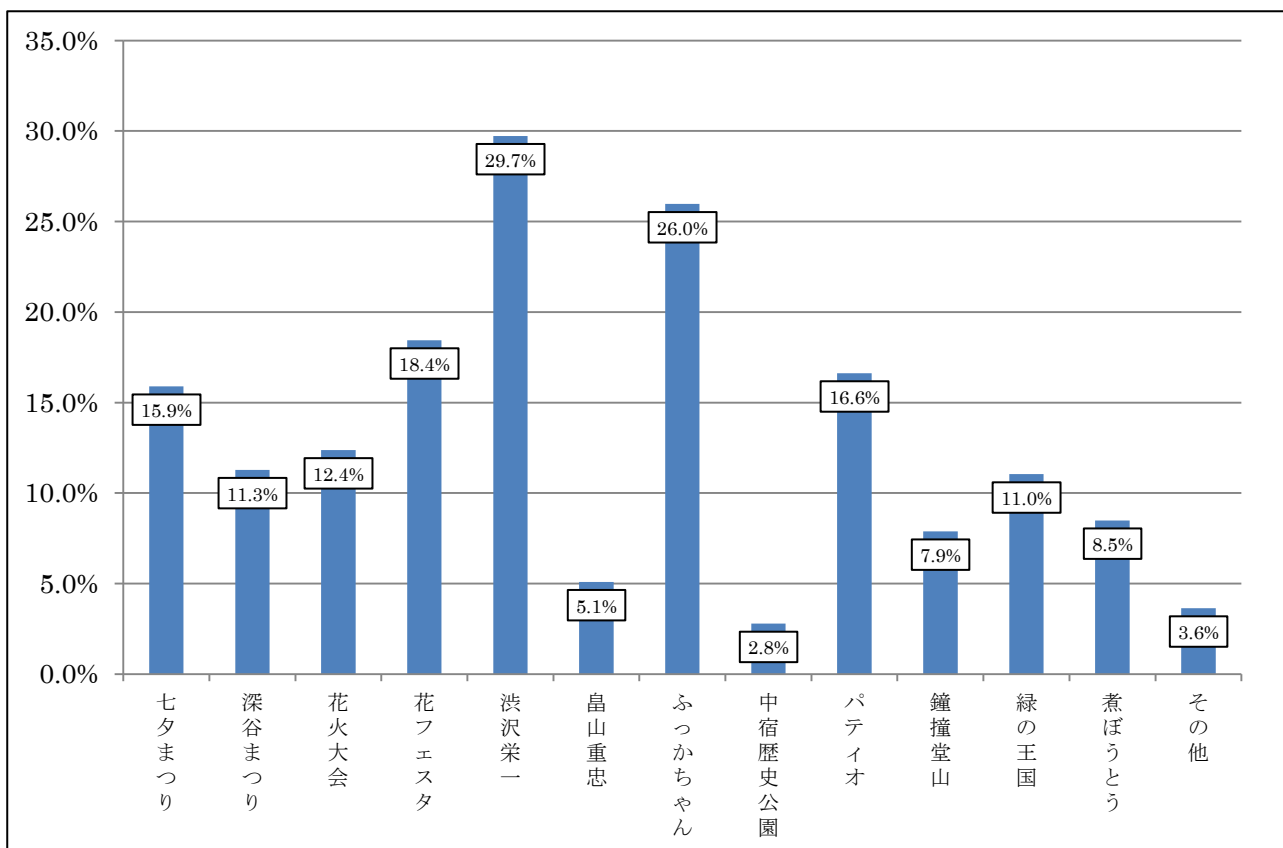
➤ 地区別



地区別にみると、「ある」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区(42.1%)であり、次いで幡羅地区(42.5%)となっています。最も多いのは明戸地区(55.6%)であり、次いで大寄地区(54.5%)となっています。



➤ 7. 観光資源になるもの（7. 問3で「ある」と答えた人）



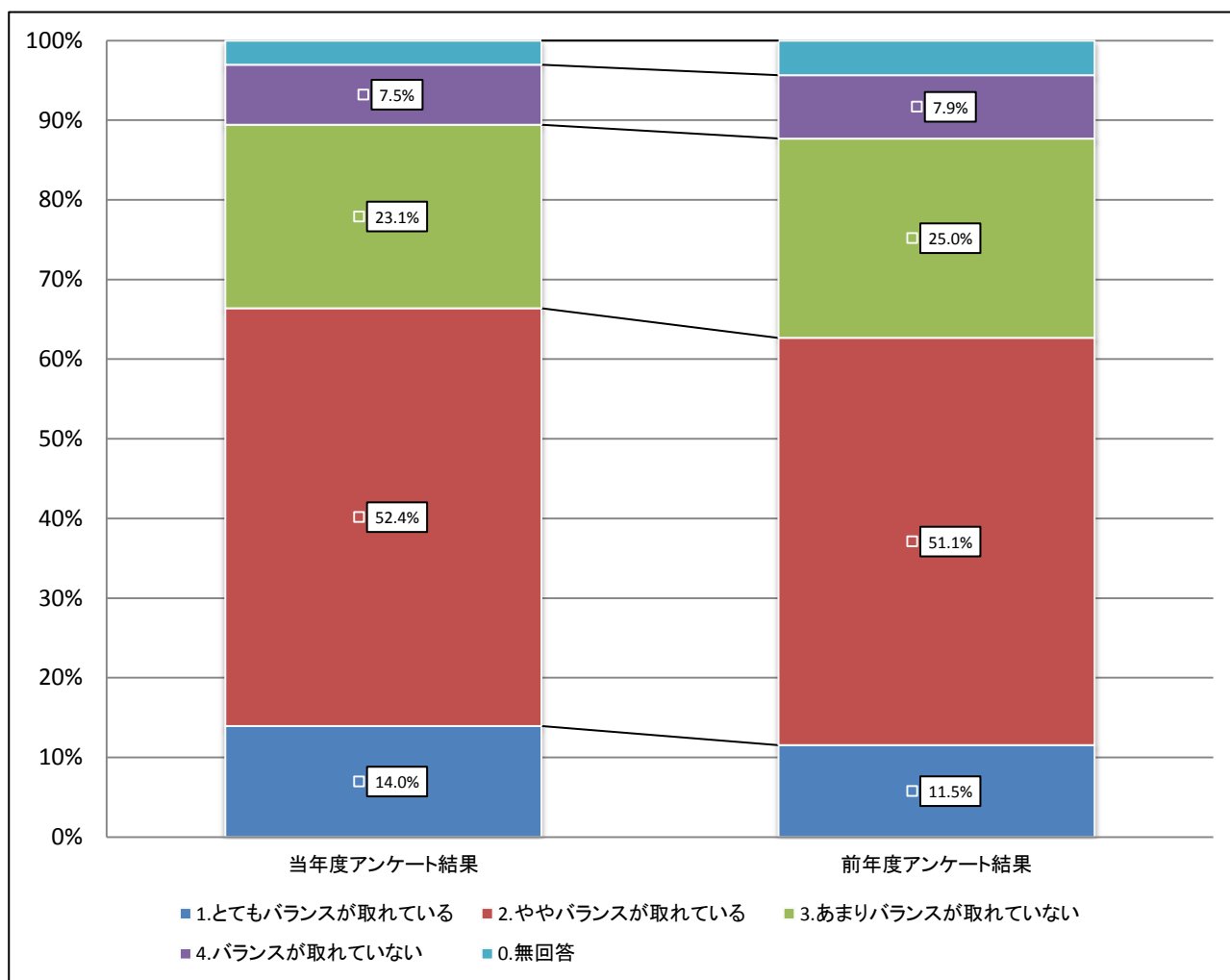
深谷市の観光資源になるものとして回答数が多い順に、「渋沢栄一」29.7%、次いで「ふっかちゃん」26.0%、「花フェスタ」18.4%が挙げられています。

一方、回答数が少なかった順に、「中宿歴史公園」2.8%、次いで「畠山重忠」5.1%、「鐘撞堂山」7.9%が挙げられています。

また、その他として、「深谷ねぎ」や「コスモス祭り」、「レンガ」、「道の駅」、「アウトレット」などが回答として挙げられています。

#### ④ 雇用の創出・安定と勤労者への支援（7. 問4）

ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れていますか（休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分ですか）。



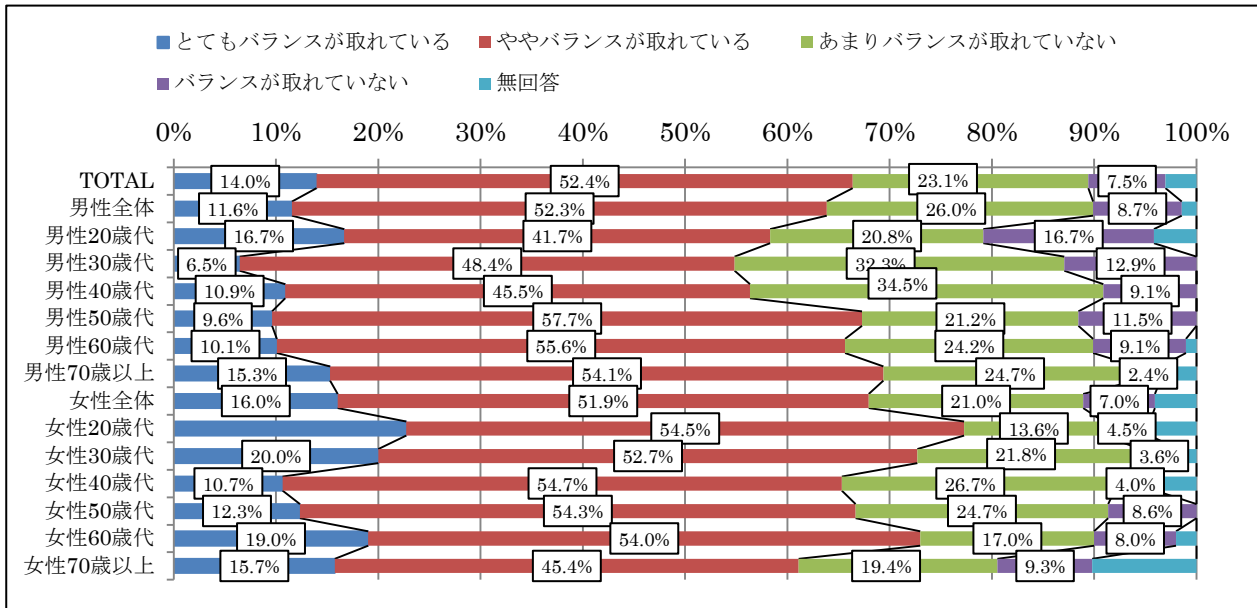
「ややバランスが取れている」と回答した人の割合が 52.4%と最も多く、次いで「あまりバランスが取れていない」と回答した人の割合が 23.1%、「とてもバランスが取れている」と回答した人の割合が 14.0%、「バランスが取れていない」と回答した人の割合は 7.5%となっています。

「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合は 66.4%であり、市民の多くが、仕事と生活のバランスが取れていると感じていることがうかがえます。一方で、「あまりバランスが取れていない」または「バランスが取れていない」と回答した人の割合は 30.6%であり、3 割以上の方が仕事と生活のバランスが取れていないと感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合は 62.6%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		とてもバランスが取れている	ややバランスが取れている	あまりバランスが取れていない	バランスが取れていない	無回答	合計
TOTAL	824	14.0%	52.4%	23.1%	7.5%	3.0%	100.0%
男性全体	346	11.6%	52.3%	26.0%	8.7%	1.4%	100.0%
男性 20 歳代	24	16.7%	41.7%	20.8%	16.7%	4.2%	100.0%
男性 30 歳代	31	6.5%	48.4%	32.3%	12.9%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	10.9%	45.5%	34.5%	9.1%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	9.6%	57.7%	21.2%	11.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	99	10.1%	55.6%	24.2%	9.1%	1.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	15.3%	54.1%	24.7%	2.4%	3.5%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	16.0%	51.9%	21.0%	7.0%	4.1%	100.0%
女性 20 歳代	22	22.7%	54.5%	13.6%	4.5%	4.5%	100.0%
女性 30 歳代	55	20.0%	52.7%	21.8%	3.6%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	10.7%	54.7%	26.7%	4.0%	4.0%	100.0%
女性 50 歳代	81	12.3%	54.3%	24.7%	8.6%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	100	19.0%	54.0%	17.0%	8.0%	2.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	15.7%	45.4%	19.4%	9.3%	10.2%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	12.8%	51.0%	24.0%	8.7%	3.6%	100.0%
藤沢地区	56	8.9%	55.4%	21.4%	10.7%	3.6%	100.0%
幡羅地区	106	10.4%	52.8%	26.4%	6.6%	3.8%	100.0%
明戸地区	27	14.8%	51.9%	22.2%	7.4%	3.7%	100.0%
大寄地区	22	13.6%	45.5%	27.3%	9.1%	4.5%	100.0%
八基地区	19	15.8%	52.6%	10.5%	15.8%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	16.7%	44.4%	33.3%	5.6%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	14.0%	46.5%	26.7%	11.6%	1.2%	100.0%
南地区	49	22.4%	55.1%	18.4%	2.0%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	16.3%	53.3%	25.0%	4.3%	1.1%	100.0%
川本地区	64	18.8%	54.7%	18.8%	4.7%	3.1%	100.0%
花園地区	75	13.3%	60.0%	17.3%	6.7%	2.7%	100.0%
無回答	14	7.1%	50.0%	21.4%	7.1%	14.3%	100.0%

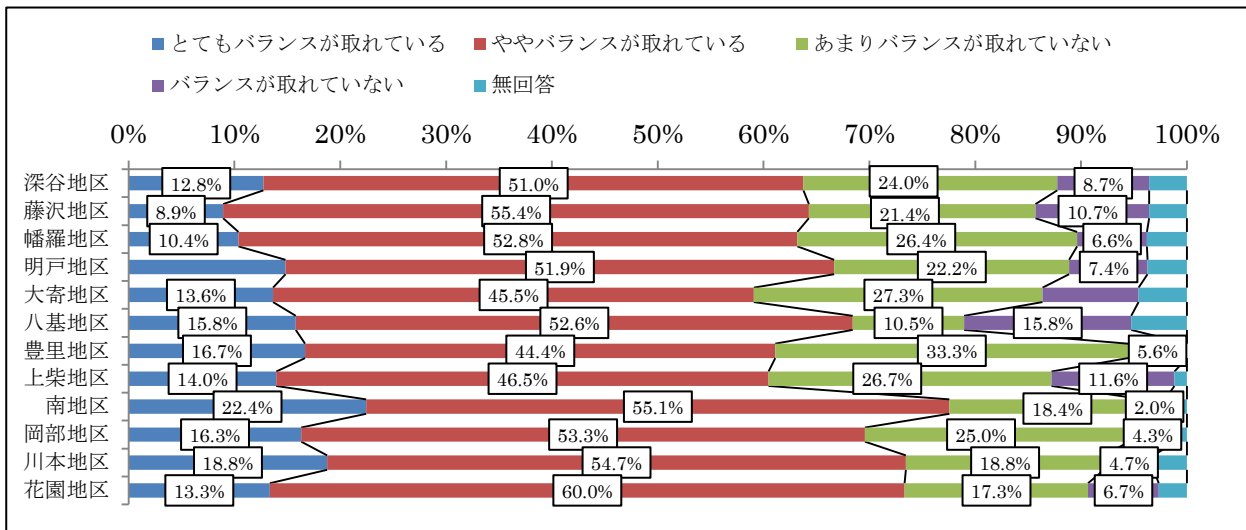
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合は男性が63.9%であるのに対して、女性は67.9%となっています。

また、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代(54.9%)であり、女性は70歳以上(61.1%)となっています。最も多い世代は、男性が70歳以上(69.4%)であり、女性は20歳代(77.2%)となっています。

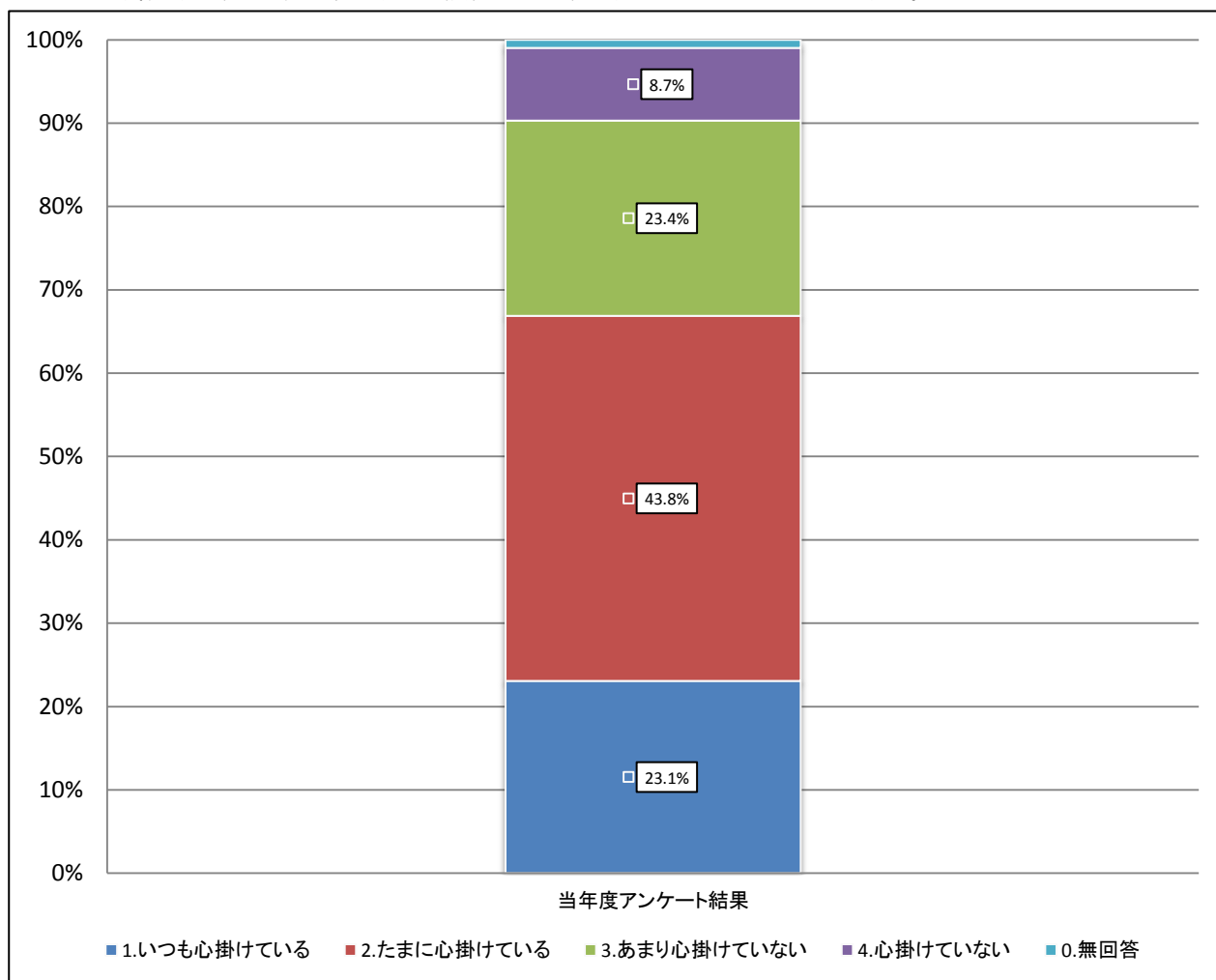
➤ 地区別



地区別にみると、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区(59.1%)であり、次いで上柴地区(60.5%)となっています。最も多いのは南地区(77.5%)であり、次いで川本地区(73.5%)となっています。

### ⑤ 全国に誇る農業の振興（7. 問 5,6）

あなたは食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心がけていますか。

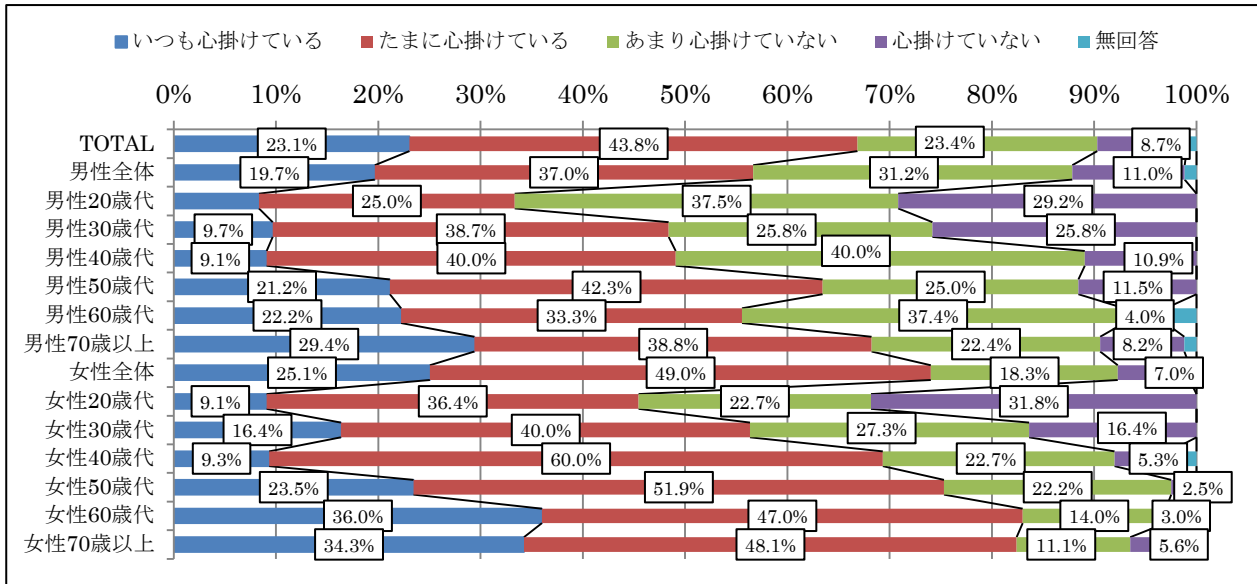


「たまに心掛けている」と回答した人の割合が 43.8%と最も多く、次いで「あまり心掛けていない」と回答した人の割合が 23.4%、「いつも心掛けている」と回答した人の割合が 23.1%、「心掛けていない」と回答した人の割合は 8.7%となっています。

「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合は 66.9%であり、市民の多くが、食材等の購入時に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていることがうかがえます。

母集団		いつも心掛けている	たまに心掛けている	あまり心掛けている	心掛けていない	無回答	合計
TOTAL	824	23.1%	43.8%	23.4%	8.7%	1.0%	100.0%
男性全体	346	19.7%	37.0%	31.2%	11.0%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	24	8.3%	25.0%	37.5%	29.2%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	9.7%	38.7%	25.8%	25.8%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	9.1%	40.0%	40.0%	10.9%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	21.2%	42.3%	25.0%	11.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	99	22.2%	33.3%	37.4%	4.0%	3.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	29.4%	38.8%	22.4%	8.2%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	25.1%	49.0%	18.3%	7.0%	0.7%	100.0%
女性 20 歳代	22	9.1%	36.4%	22.7%	31.8%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	16.4%	40.0%	27.3%	16.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	9.3%	60.0%	22.7%	5.3%	2.7%	100.0%
女性 50 歳代	81	23.5%	51.9%	22.2%	2.5%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	100	36.0%	47.0%	14.0%	3.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	34.3%	48.1%	11.1%	5.6%	0.9%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	26.0%	39.3%	25.5%	8.7%	0.5%	100.0%
藤沢地区	56	32.1%	39.3%	16.1%	7.1%	5.4%	100.0%
幡羅地区	106	20.8%	45.3%	26.4%	7.5%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	37.0%	40.7%	22.2%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	31.8%	40.9%	18.2%	9.1%	0.0%	100.0%
八基地区	19	26.3%	42.1%	21.1%	10.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	0.0%	38.9%	50.0%	11.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	19.8%	52.3%	14.0%	14.0%	0.0%	100.0%
南地区	49	24.5%	49.0%	22.4%	4.1%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	14.1%	45.7%	30.4%	9.8%	0.0%	100.0%
川本地区	64	25.0%	37.5%	21.9%	10.9%	4.7%	100.0%
花園地区	75	21.3%	49.3%	21.3%	8.0%	0.0%	100.0%
無回答	14	21.4%	50.0%	14.3%	7.1%	7.1%	100.0%

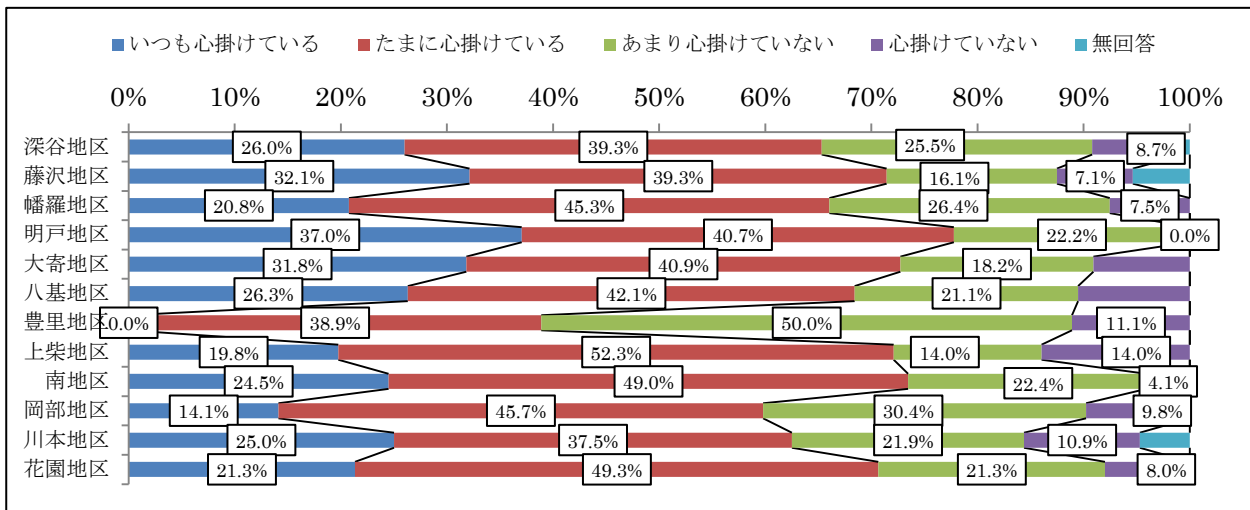
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合は男性が56.7%であるのに対して、女性は74.1%となっています。

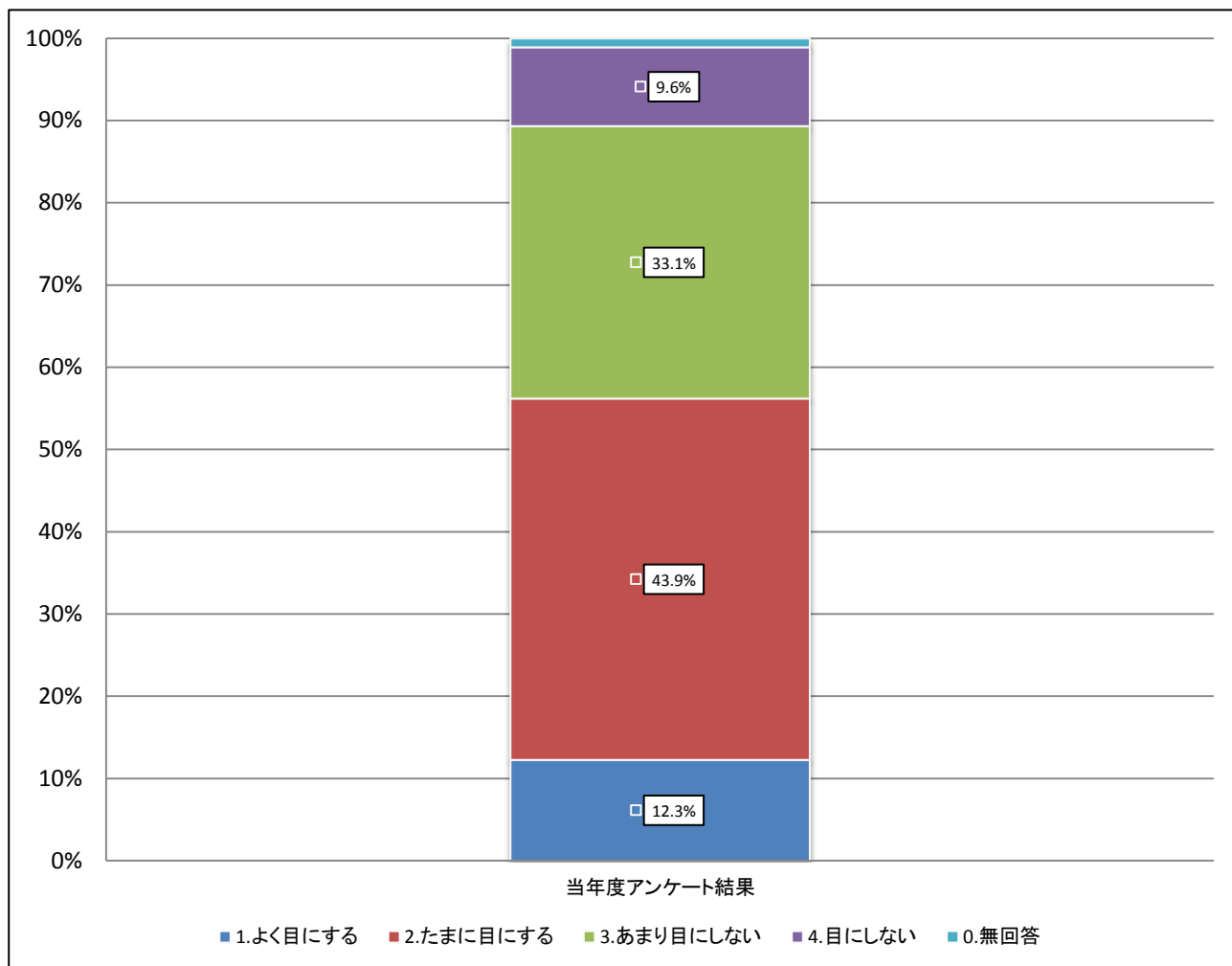
また、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が20歳代(33.3%)、女性が20歳代(45.5%)であり、一方で最も多い世代は、男性が70歳以上(68.2%)、女性が60歳代(83.0%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区(38.9%)であり、次いで岡部地区(59.8%)となっています。最も多いのは明戸地区(77.7%)であり、次いで南地区(73.5%)となっています。

あなたは市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがありますか。



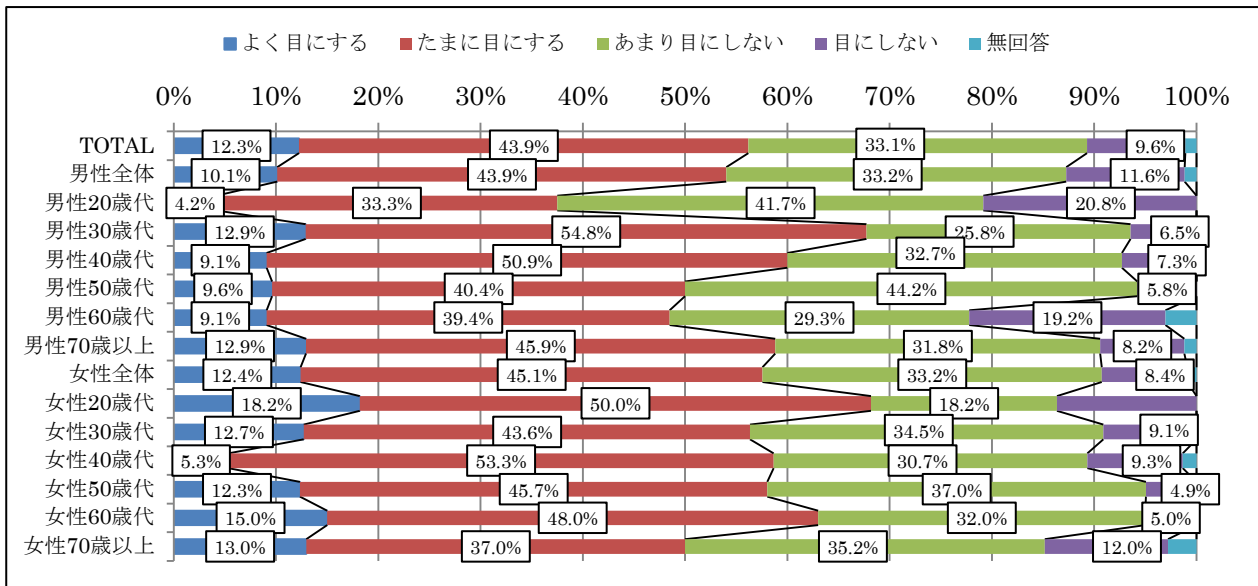
「たまに目にする」と回答した人の割合が 43.9%と最も多く、次いで「あまり目にしない」と回答した人の割合が 33.1%、「よく目にする」と回答した人の割合が 12.3%、「目にしない」と回答した人の割合は 9.6%となっています。

「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合は 56.2%であり、市民の過半数が市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にしていることがうかがえます。



母集団		よく目にする	たまに目にする	あまり目に見えない	目にしない	無回答	合計
TOTAL	824	12.3%	43.9%	33.1%	9.6%	1.1%	100.0%
男性全体	346	10.1%	43.9%	33.2%	11.6%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	24	4.2%	33.3%	41.7%	20.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	12.9%	54.8%	25.8%	6.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	9.1%	50.9%	32.7%	7.3%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	9.6%	40.4%	44.2%	5.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	99	9.1%	39.4%	29.3%	19.2%	3.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	12.9%	45.9%	31.8%	8.2%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	12.4%	45.1%	33.2%	8.4%	0.9%	100.0%
女性 20 歳代	22	18.2%	50.0%	18.2%	13.6%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	12.7%	43.6%	34.5%	9.1%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	5.3%	53.3%	30.7%	9.3%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	12.3%	45.7%	37.0%	4.9%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	100	15.0%	48.0%	32.0%	5.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	13.0%	37.0%	35.2%	12.0%	2.8%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	15.8%	46.4%	27.0%	9.7%	1.0%	100.0%
藤沢地区	56	12.5%	32.1%	41.1%	8.9%	5.4%	100.0%
幡羅地区	106	13.2%	45.3%	30.2%	11.3%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	7.4%	40.7%	48.1%	3.7%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	9.1%	63.6%	22.7%	4.5%	0.0%	100.0%
八基地区	19	10.5%	47.4%	36.8%	5.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	11.1%	50.0%	22.2%	16.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	7.0%	47.7%	36.0%	9.3%	0.0%	100.0%
南地区	49	18.4%	38.8%	38.8%	4.1%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	17.4%	33.7%	37.0%	12.0%	0.0%	100.0%
川本地区	64	6.3%	40.6%	35.9%	14.1%	3.1%	100.0%
花園地区	75	6.7%	53.3%	32.0%	6.7%	1.3%	100.0%
無回答	14	7.1%	35.7%	35.7%	14.3%	7.1%	100.0%

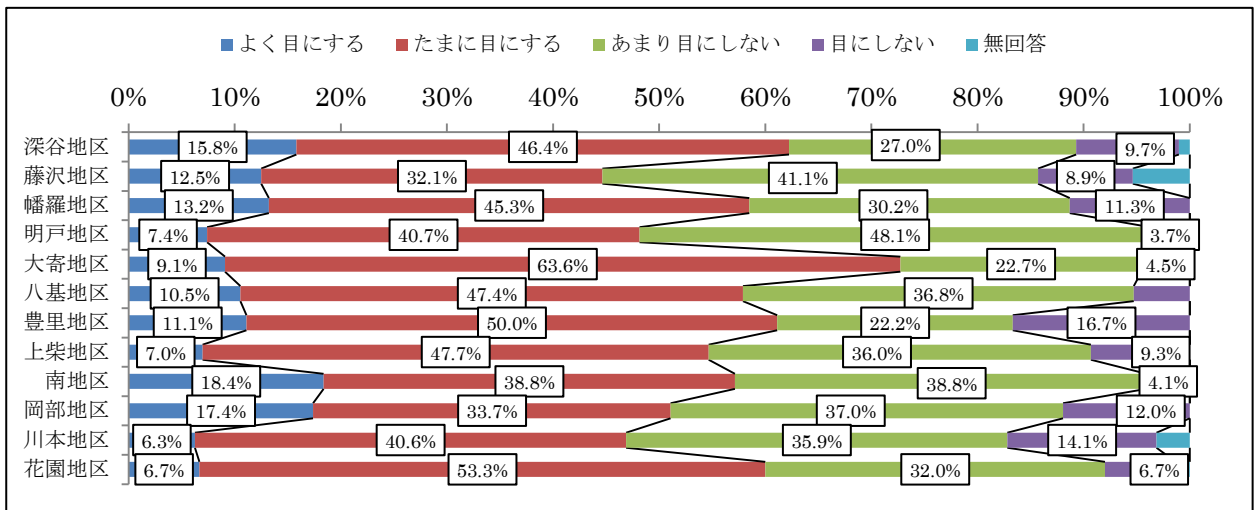
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合は男性が54.0%であるのに対して、女性は57.5%となっています。

また、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が20歳代(37.5%)、女性が70歳以上(50.0%)であり、一方で最も多い世代は、男性が30歳代(67.7%)、女性が20歳代(68.2%)となっています。

➤ 地区別

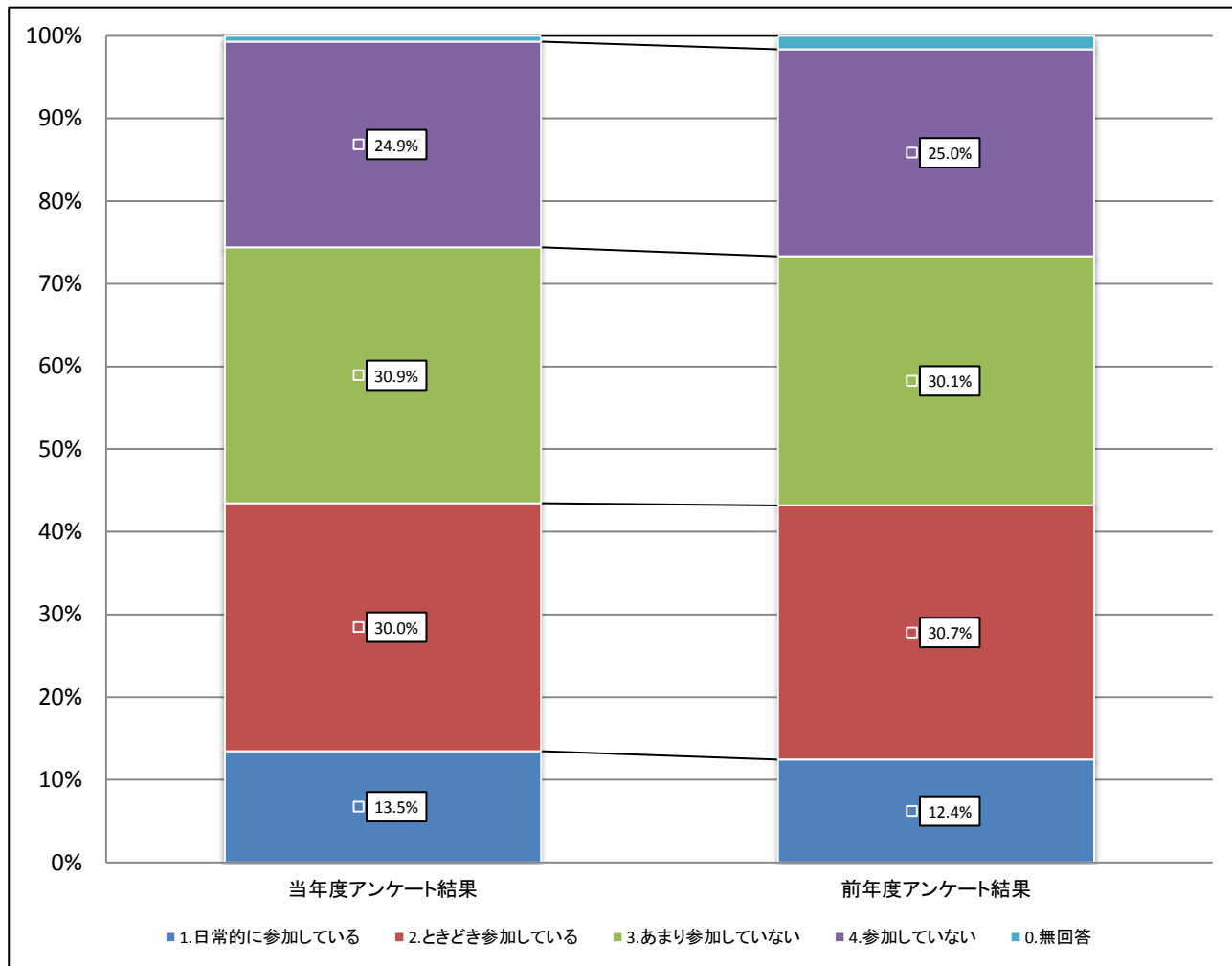


地区別にみると、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合が最も少ないのは、藤沢地区(44.6%)であり、次いで藤沢地区(46.9%)となっています。最も多いのは大寄地区(72.7%)であり、次いで深谷地区(62.2%)となっています。

(8) コミュニティ・交流について

① 絆でつながるひとづくり (8. 問1~5)

地域活動 (自治会や町内会での活動など) への程度参加していますか。



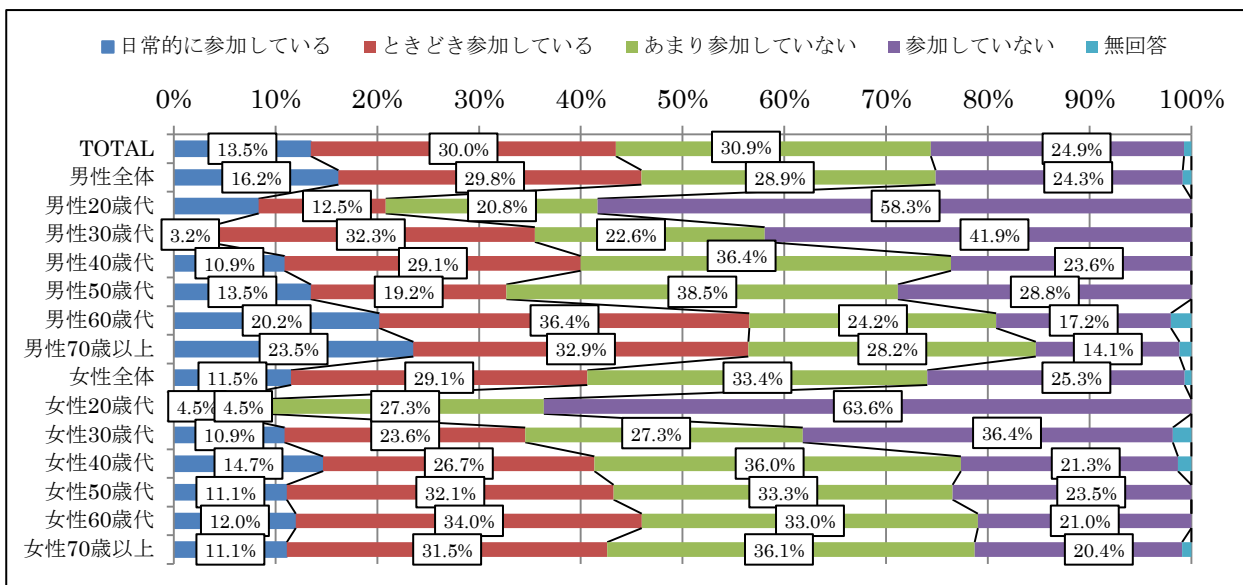
「あまり参加していない」と回答した人の割合が 30.9%と最も多く、次いで「ときどき参加している」と回答した人の割合が 30.0%、「参加していない」と回答した人の割合が 24.9%、「日常的に参加している」と回答した人の割合は 13.5%となっています。

また、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は 43.5%であり、自治会や町内会での活動などの地域活動に参加している市民は半数に満たないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は 43.1%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		日常的に参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	参加していない	無回答	合計
TOTAL	824	13.5%	30.0%	30.9%	24.9%	0.7%	100.0%
男性全体	346	16.2%	29.8%	28.9%	24.3%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	24	8.3%	12.5%	20.8%	58.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	3.2%	32.3%	22.6%	41.9%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	10.9%	29.1%	36.4%	23.6%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	13.5%	19.2%	38.5%	28.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	99	20.2%	36.4%	24.2%	17.2%	2.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	23.5%	32.9%	28.2%	14.1%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	11.5%	29.1%	33.4%	25.3%	0.7%	100.0%
女性 20 歳代	22	4.5%	4.5%	27.3%	63.6%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	10.9%	23.6%	27.3%	36.4%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	14.7%	26.7%	36.0%	21.3%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	11.1%	32.1%	33.3%	23.5%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	100	12.0%	34.0%	33.0%	21.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	11.1%	31.5%	36.1%	20.4%	0.9%	100.0%
女性年齢不詳	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	8.7%	22.4%	36.2%	32.7%	0.0%	100.0%
藤沢地区	56	16.1%	37.5%	25.0%	17.9%	3.6%	100.0%
幡羅地区	106	9.4%	30.2%	37.7%	22.6%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	44.4%	18.5%	22.2%	14.8%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	22.7%	36.4%	22.7%	18.2%	0.0%	100.0%
八基地区	19	5.3%	63.2%	10.5%	21.1%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	22.2%	44.4%	5.6%	27.8%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	10.5%	26.7%	30.2%	31.4%	1.2%	100.0%
南地区	49	18.4%	18.4%	30.6%	30.6%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	6.5%	33.7%	38.0%	21.7%	0.0%	100.0%
川本地区	64	14.1%	43.8%	23.4%	15.6%	3.1%	100.0%
花園地区	75	24.0%	29.3%	29.3%	17.3%	0.0%	100.0%
無回答	14	14.3%	28.6%	21.4%	35.7%	0.0%	100.0%

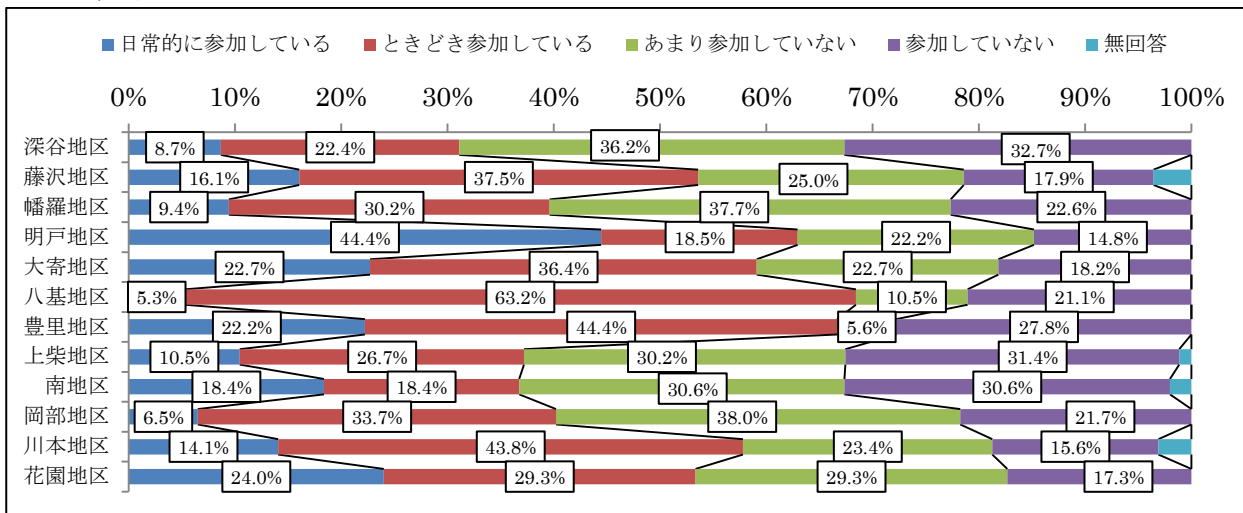
## ➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は男性が46.0%であるのに対して、女性は40.6%となっています。

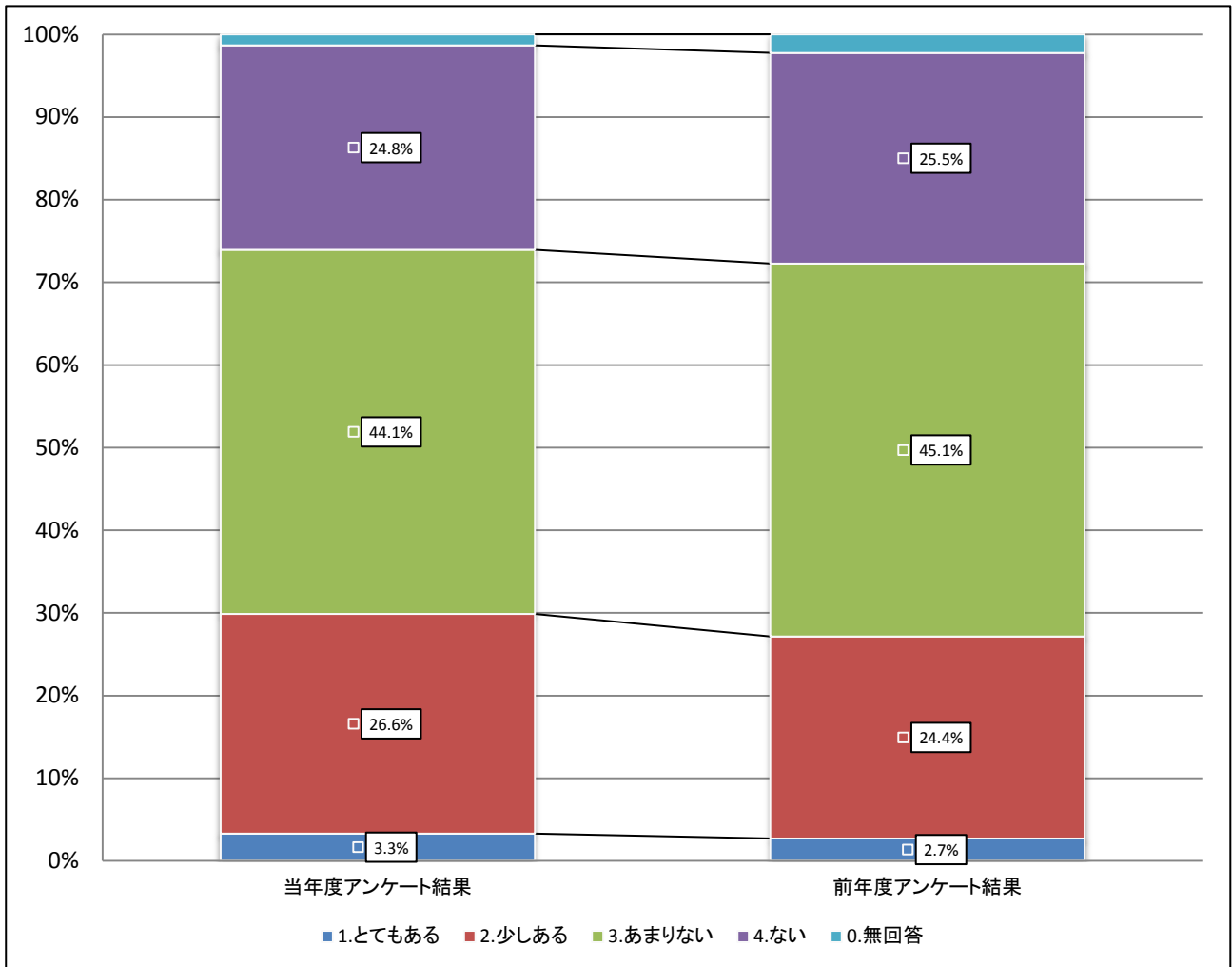
また、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性、女性ともに20歳代（男性20.8%、女性9.0%）となっています。一方で最も多い世代は、男性、女性ともに60歳代（男性56.6%、女性46.0%）となっています。

## ➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少ないのは、深谷地区（31.1%）であり、次いで南地区（36.8%）となっています。最も多いのは八基地区（68.5%）であり、次いで豊里地区（66.6%）となっています。

市民活動（NPO 団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動はありますか。



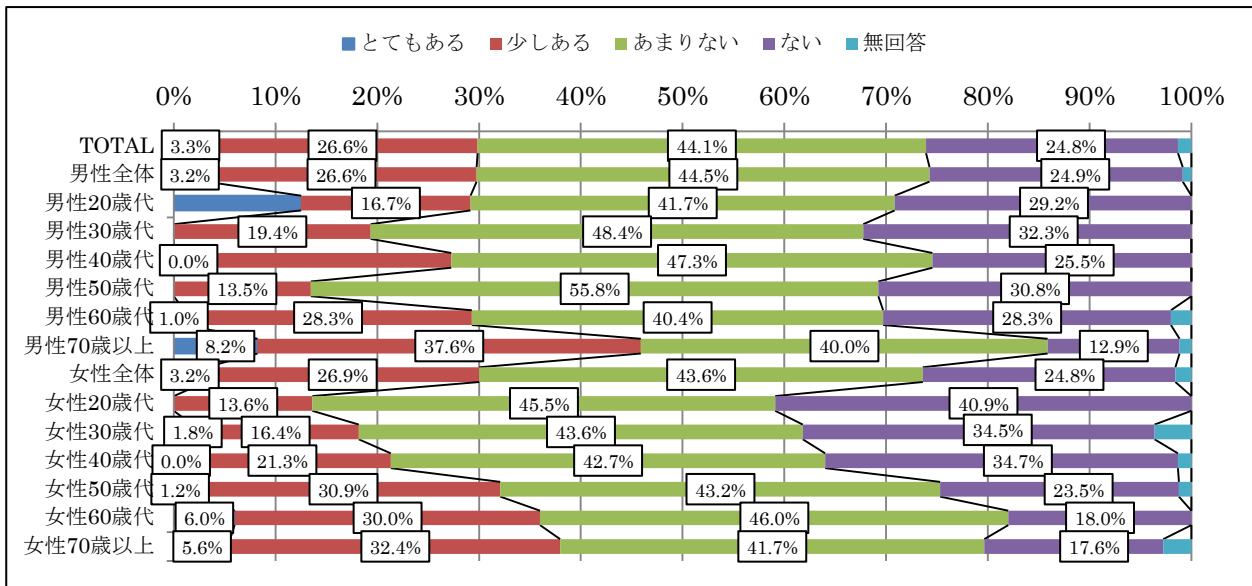
「あまりない」と回答した人の割合が 44.1%と最も多く、次いで「少しある」と回答した人の割合が 26.6%、「ない」と回答した人の割合が 24.8%、「とてもある」と回答した人の割合は 3.3%となっています。

「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合は 29.9%であり、市民の多くは NPO 団体での活動やボランティア活動に対して興味をもっていないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合は 27.1%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		とてもある	少しある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	824	3.3%	26.6%	44.1%	24.8%	1.3%	100.0%
男性全体	346	3.2%	26.6%	44.5%	24.9%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	24	12.5%	16.7%	41.7%	29.2%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	0.0%	19.4%	48.4%	32.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	0.0%	27.3%	47.3%	25.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	0.0%	13.5%	55.8%	30.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	99	1.0%	28.3%	40.4%	28.3%	2.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	8.2%	37.6%	40.0%	12.9%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	3.2%	26.9%	43.6%	24.8%	1.6%	100.0%
女性 20 歳代	22	0.0%	13.6%	45.5%	40.9%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	1.8%	16.4%	43.6%	34.5%	3.6%	100.0%
女性 40 歳代	75	0.0%	21.3%	42.7%	34.7%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	1.2%	30.9%	43.2%	23.5%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	6.0%	30.0%	46.0%	18.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	5.6%	32.4%	41.7%	17.6%	2.8%	100.0%
女性年齢不詳	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	3.6%	28.6%	39.8%	26.5%	1.5%	100.0%
藤沢地区	56	3.6%	30.4%	46.4%	16.1%	3.6%	100.0%
幡羅地区	106	2.8%	18.9%	52.8%	24.5%	0.9%	100.0%
明戸地区	27	0.0%	40.7%	37.0%	22.2%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	9.1%	31.8%	27.3%	31.8%	0.0%	100.0%
八基地区	19	5.3%	21.1%	57.9%	15.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	0.0%	44.4%	16.7%	38.9%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	0.0%	24.4%	45.3%	29.1%	1.2%	100.0%
南地区	49	10.2%	18.4%	51.0%	18.4%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	0.0%	26.1%	48.9%	23.9%	1.1%	100.0%
川本地区	64	7.8%	26.6%	45.3%	17.2%	3.1%	100.0%
花園地区	75	2.7%	29.3%	40.0%	28.0%	0.0%	100.0%
無回答	14	0.0%	21.4%	35.7%	42.9%	0.0%	100.0%

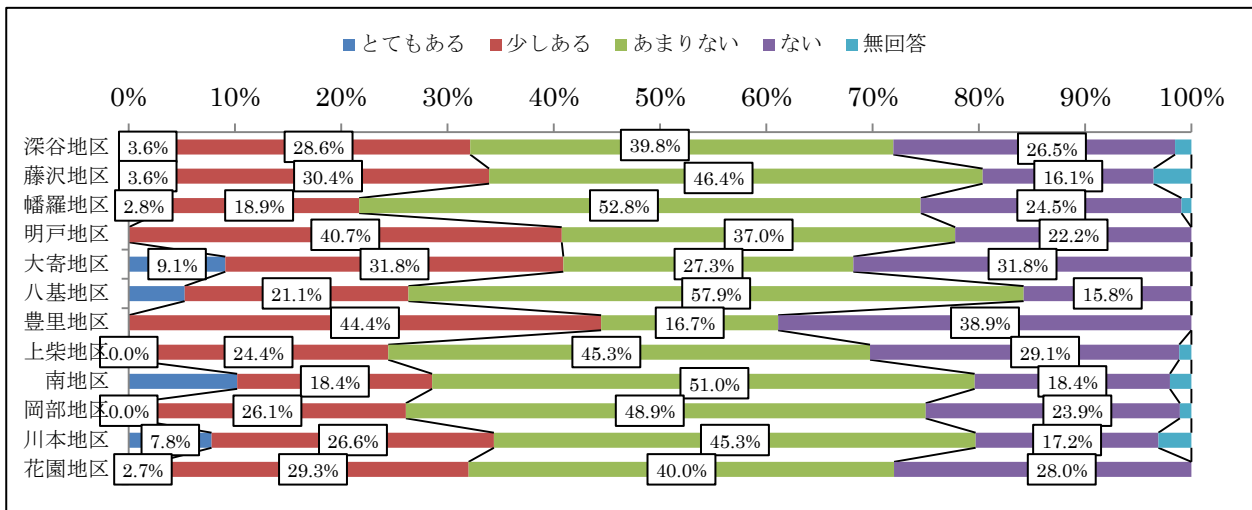
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合は男性が29.8%であるのに対して、女性は30.1%となっています。

「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が50歳代（13.5%）、女性が20歳代（13.6%）となっています。最も多い世代は、男性、女性ともに70歳以上（男性45.8%、女性38.0%）となっています。

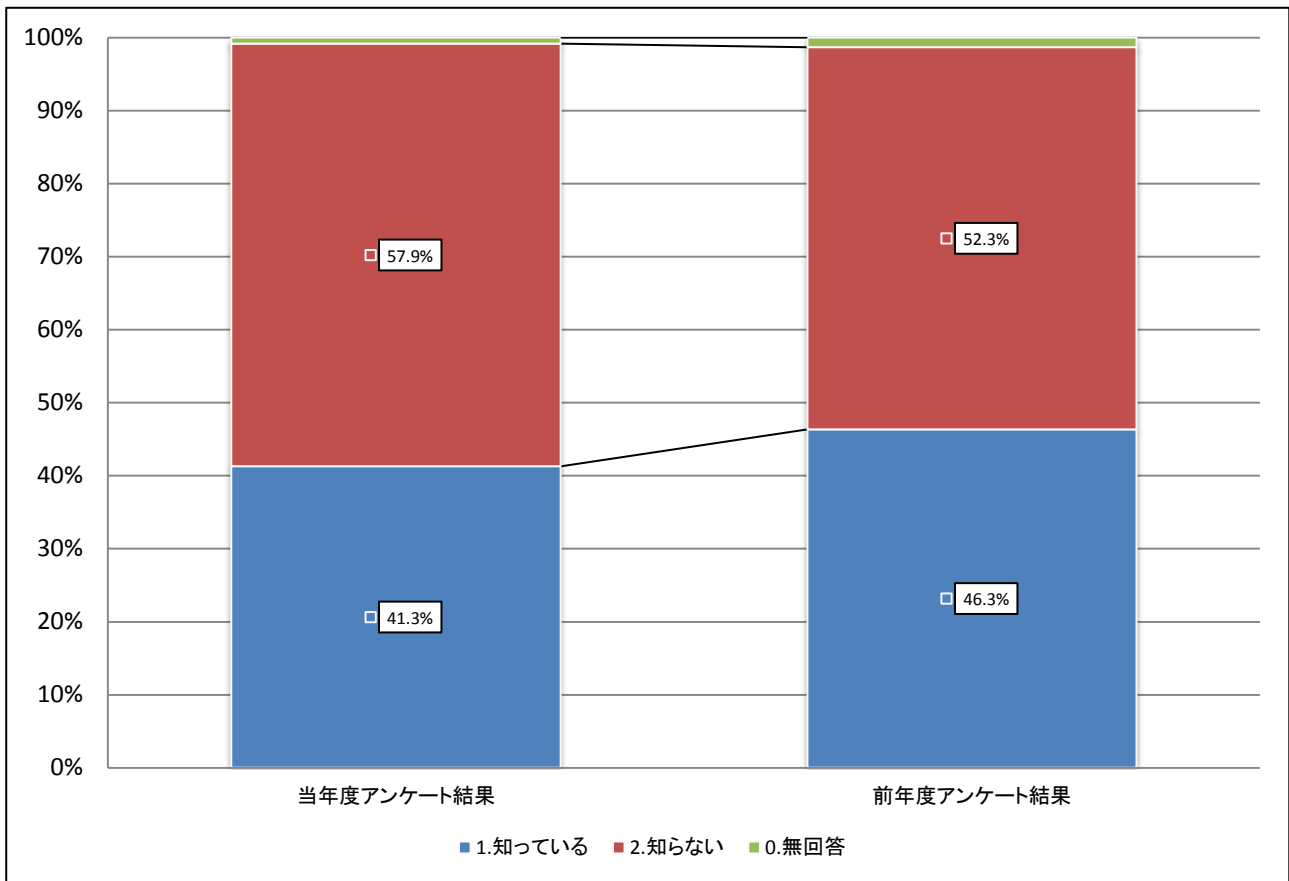
➤ 地区別



地区別にみると、「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合が最も少ないのは、幡羅地区（21.7%）であり、次いで上柴地区（24.4%）となっています。最も多いのは豊里地区（44.4%）であり、次いで大寄地区（40.9%）となっています。



市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていますか。

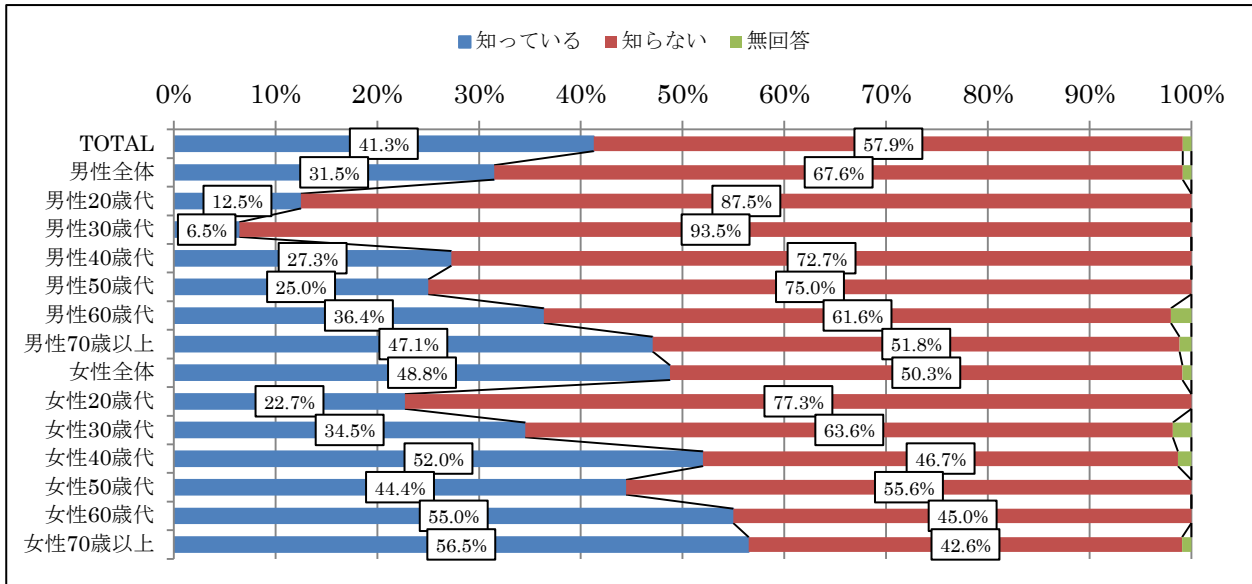


「知らない」と回答した人の割合は 57.9%、「知っている」と回答した人の割合は 41.3% であり、過半数の人が市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知らないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「知っている」と回答した人の割合は 46.3% であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		知っている	知らない	無回答	合計
TOTAL	824	41.3%	57.9%	0.8%	100.0%
男性全体	346	31.5%	67.6%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	24	12.5%	87.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	6.5%	93.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	27.3%	72.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	25.0%	75.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	99	36.4%	61.6%	2.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	47.1%	51.8%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	48.8%	50.3%	0.9%	100.0%
女性 20 歳代	22	22.7%	77.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	34.5%	63.6%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	52.0%	46.7%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	44.4%	55.6%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	100	55.0%	45.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	56.5%	42.6%	0.9%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	0.0%	50.0%	100.0%
深谷地区	196	40.3%	59.7%	0.0%	100.0%
藤沢地区	56	46.4%	50.0%	3.6%	100.0%
幡羅地区	106	40.6%	58.5%	0.9%	100.0%
明戸地区	27	48.1%	51.9%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	45.5%	54.5%	0.0%	100.0%
八基地区	19	36.8%	63.2%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	38.9%	61.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	45.3%	53.5%	1.2%	100.0%
南地区	49	51.0%	49.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	35.9%	64.1%	0.0%	100.0%
川本地区	64	37.5%	59.4%	3.1%	100.0%
花園地区	75	40.0%	58.7%	1.3%	100.0%
無回答	14	28.6%	71.4%	0.0%	100.0%

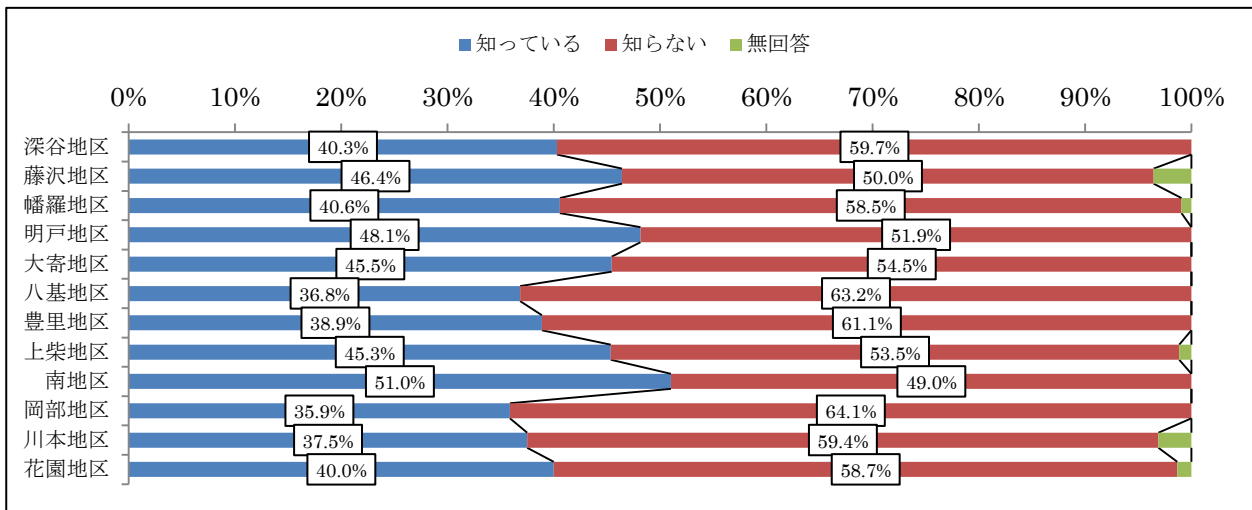
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「知っている」と回答した人の割合は、男性が 31.5%であるのに対して、女性は 48.8%となっています。

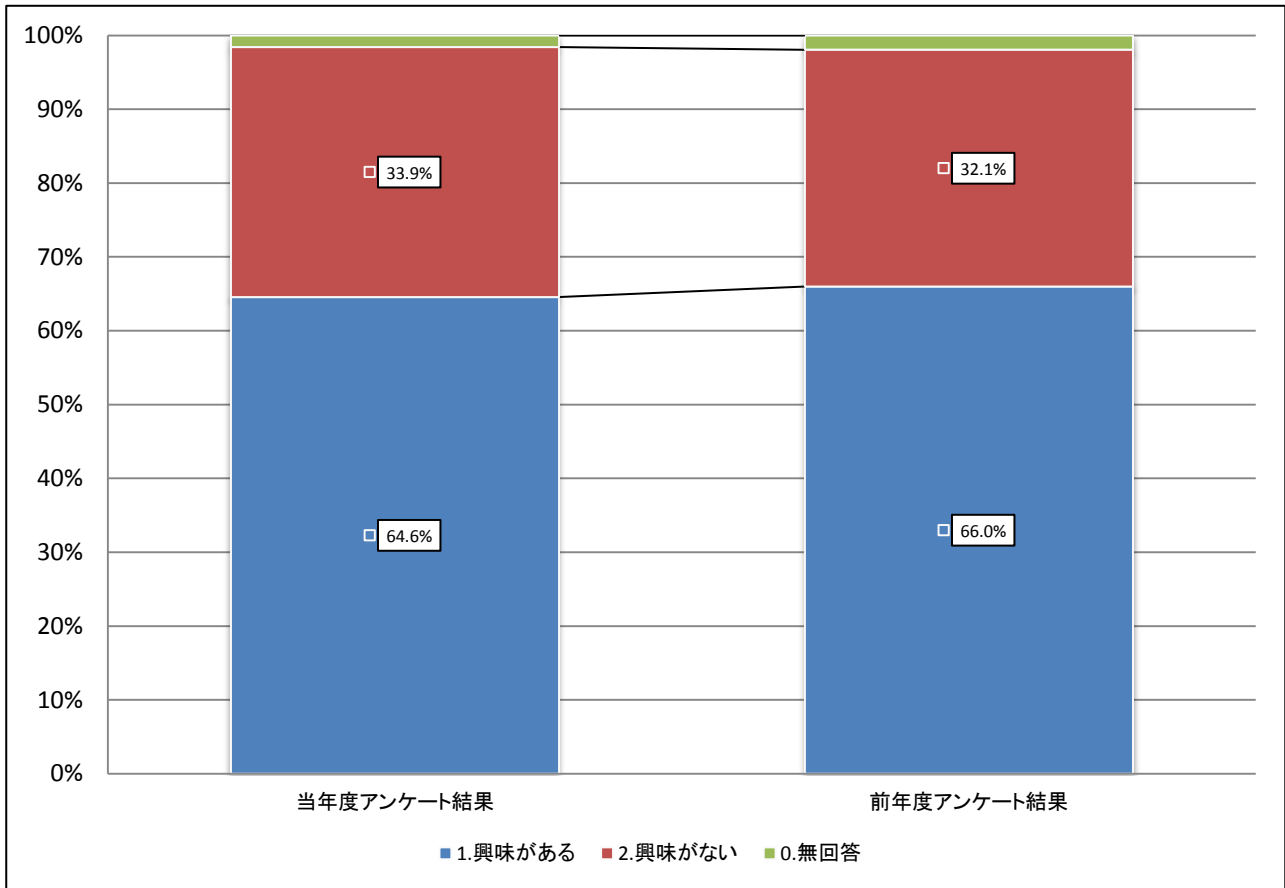
また、「知っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 30 歳代 (6.5%)、女性が 20 歳代 (22.7%) であり、一方で最も多い世代は、男性、女性ともに 70 歳以上 (男性 47.1%、女性 56.5%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「知っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、岡部地区 (35.9%) であり、次いで八基地区 (36.8%) となっています。最も多いのは南地区 (51.0%) であり、次いで明戸地区 (48.1%) となっています。

花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。

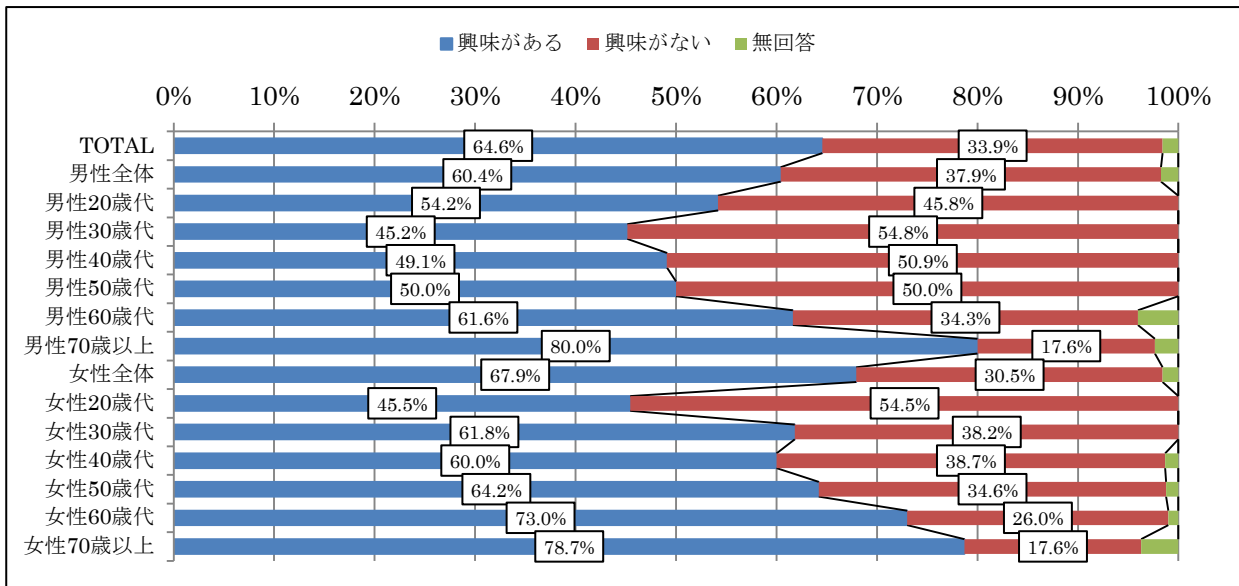


「興味がある」と回答した人の割合は64.6%、「興味がない」と回答した人の割合は33.9%であり、市民の過半数が花と緑をいかしたまちづくり活動に興味があることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「興味がある」と回答した人の割合は66.0%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		興味がある	興味がない	無回答	合計
TOTAL	824	64.6%	33.9%	1.6%	100.0%
男性全体	346	60.4%	37.9%	1.7%	100.0%
男性 20 歳代	24	54.2%	45.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	45.2%	54.8%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	49.1%	50.9%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	99	61.6%	34.3%	4.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	80.0%	17.6%	2.4%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	67.9%	30.5%	1.6%	100.0%
女性 20 歳代	22	45.5%	54.5%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	61.8%	38.2%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	60.0%	38.7%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	64.2%	34.6%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	73.0%	26.0%	1.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	78.7%	17.6%	3.7%	100.0%
女性年齢不詳	2	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	67.3%	31.1%	1.5%	100.0%
藤沢地区	56	67.9%	28.6%	3.6%	100.0%
幡羅地区	106	62.3%	36.8%	0.9%	100.0%
明戸地区	27	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	59.1%	36.4%	4.5%	100.0%
八基地区	19	63.2%	36.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	50.0%	44.4%	5.6%	100.0%
上柴地区	86	61.6%	38.4%	0.0%	100.0%
南地区	49	65.3%	32.7%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	71.7%	28.3%	0.0%	100.0%
川本地区	64	65.6%	31.3%	3.1%	100.0%
花園地区	75	57.3%	40.0%	2.7%	100.0%
無回答	14	57.1%	42.9%	0.0%	100.0%

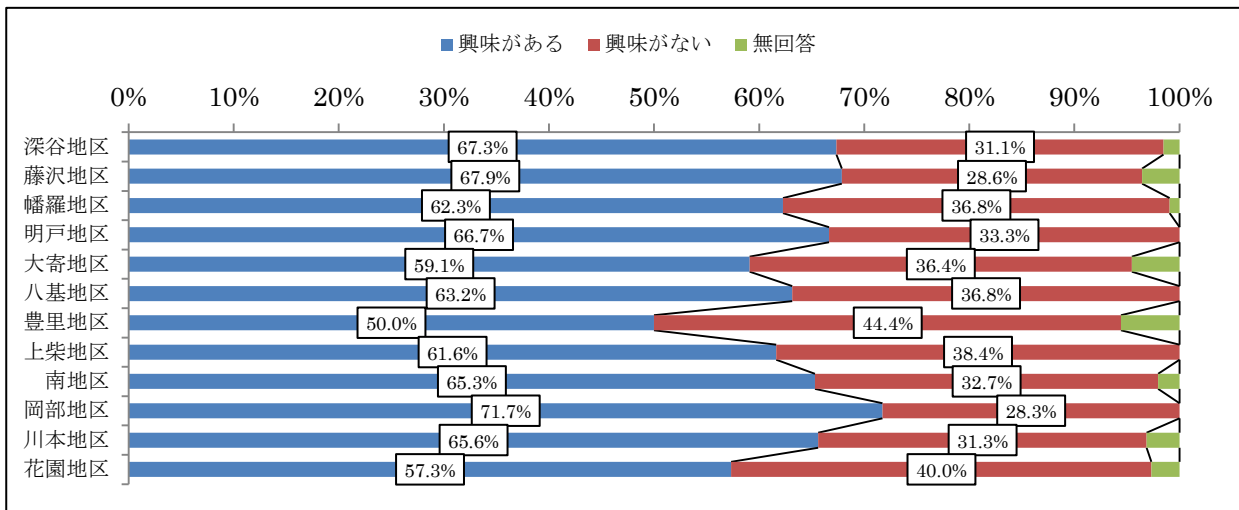
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「興味がある」と回答した人の割合は男性が 60.4%であるのに対して、女性は 67.9%となっています。

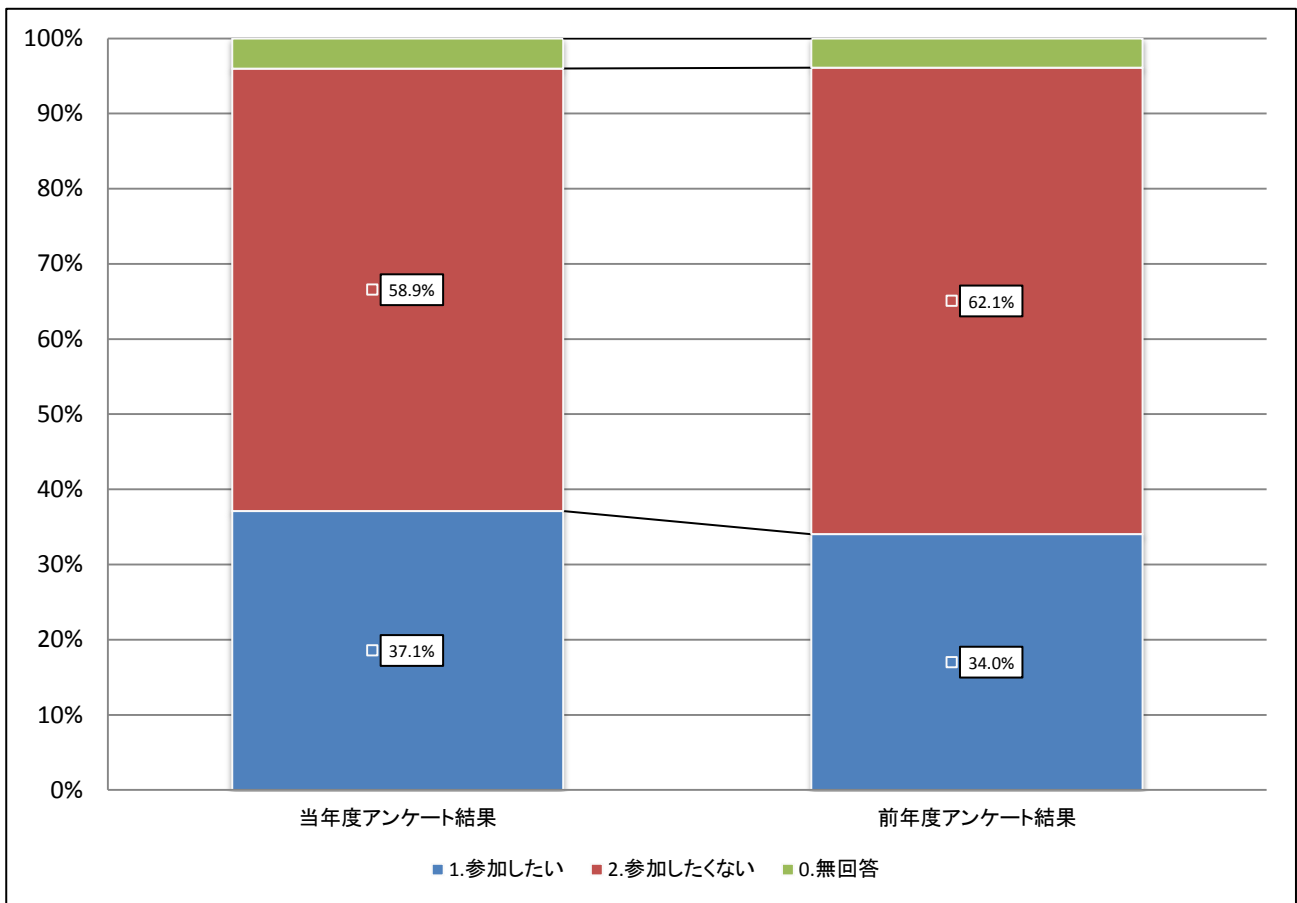
また、「興味がある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 30 歳代 (45.2%)、女性が 20 歳代 (45.5%) となっています。最も多い世代は、男性、女性ともに 70 歳以上 (男性 80.0%、女性 78.7%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「興味がある」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区 (50.0%) であり、次いで花園地区 (57.3%) となっています。最も多いのは岡部地区 (71.7%) であり、次いで藤沢地区 (67.9%) となっています。

花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいですか。



「参加したくない」と回答した人の割合は 58.9%であり、「参加したい」と回答した人の割合は 37.1%となっています。

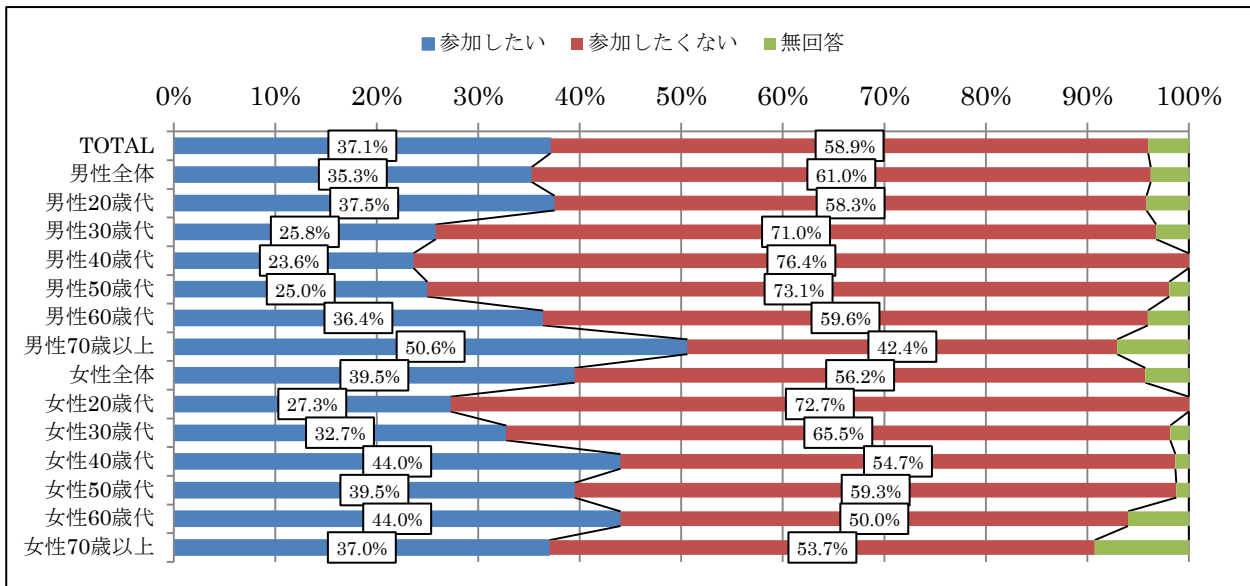
前問の「花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。」に対して、「興味がある」と回答した人は全体の 64.6%を占めるものの、実際に活動に参加したいと思うまでには至っていない市民が多数いることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「参加したい」と回答した人の割合は 34.0%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		参加したい	参加したくない	無回答	合計
TOTAL	824	37.1%	58.9%	4.0%	100.0%
男性全体	346	35.3%	61.0%	3.8%	100.0%
男性 20 歳代	24	37.5%	58.3%	4.2%	100.0%
男性 30 歳代	31	25.8%	71.0%	3.2%	100.0%
男性 40 歳代	55	23.6%	76.4%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	25.0%	73.1%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	36.4%	59.6%	4.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	50.6%	42.4%	7.1%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	39.5%	56.2%	4.3%	100.0%
女性 20 歳代	22	27.3%	72.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	32.7%	65.5%	1.8%	100.0%
女性 40 歳代	75	44.0%	54.7%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	39.5%	59.3%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	44.0%	50.0%	6.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	37.0%	53.7%	9.3%	100.0%
女性年齢不詳	2	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	37.2%	59.7%	3.1%	100.0%
藤沢地区	56	41.1%	50.0%	8.9%	100.0%
幡羅地区	106	32.1%	65.1%	2.8%	100.0%
明戸地区	27	44.4%	48.1%	7.4%	100.0%
大寄地区	22	45.5%	50.0%	4.5%	100.0%
八基地区	19	36.8%	57.9%	5.3%	100.0%
豊里地区	18	16.7%	72.2%	11.1%	100.0%
上柴地区	86	31.4%	67.4%	1.2%	100.0%
南地区	49	34.7%	57.1%	8.2%	100.0%
岡部地区	92	41.3%	56.5%	2.2%	100.0%
川本地区	64	50.0%	46.9%	3.1%	100.0%
花園地区	75	37.3%	58.7%	4.0%	100.0%
無回答	14	14.3%	78.6%	7.1%	100.0%



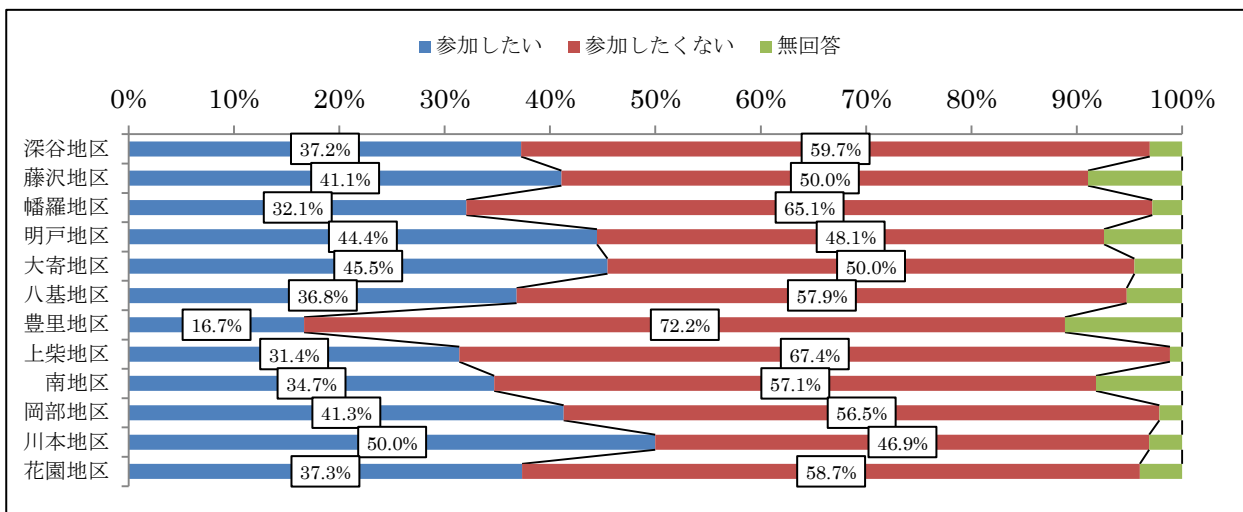
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「参加したい」と回答した人の割合は男性が 35.3%であるのに対して、女性は 39.5%となっています。

また、「参加したい」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 40 歳代 (23.6%) であり、女性は 20 歳代 (27.3%) となっています。最も多い世代は、男性が 70 歳以上 (50.6%)、女性が 40 歳代、60 歳代の (44.0%) となっています。

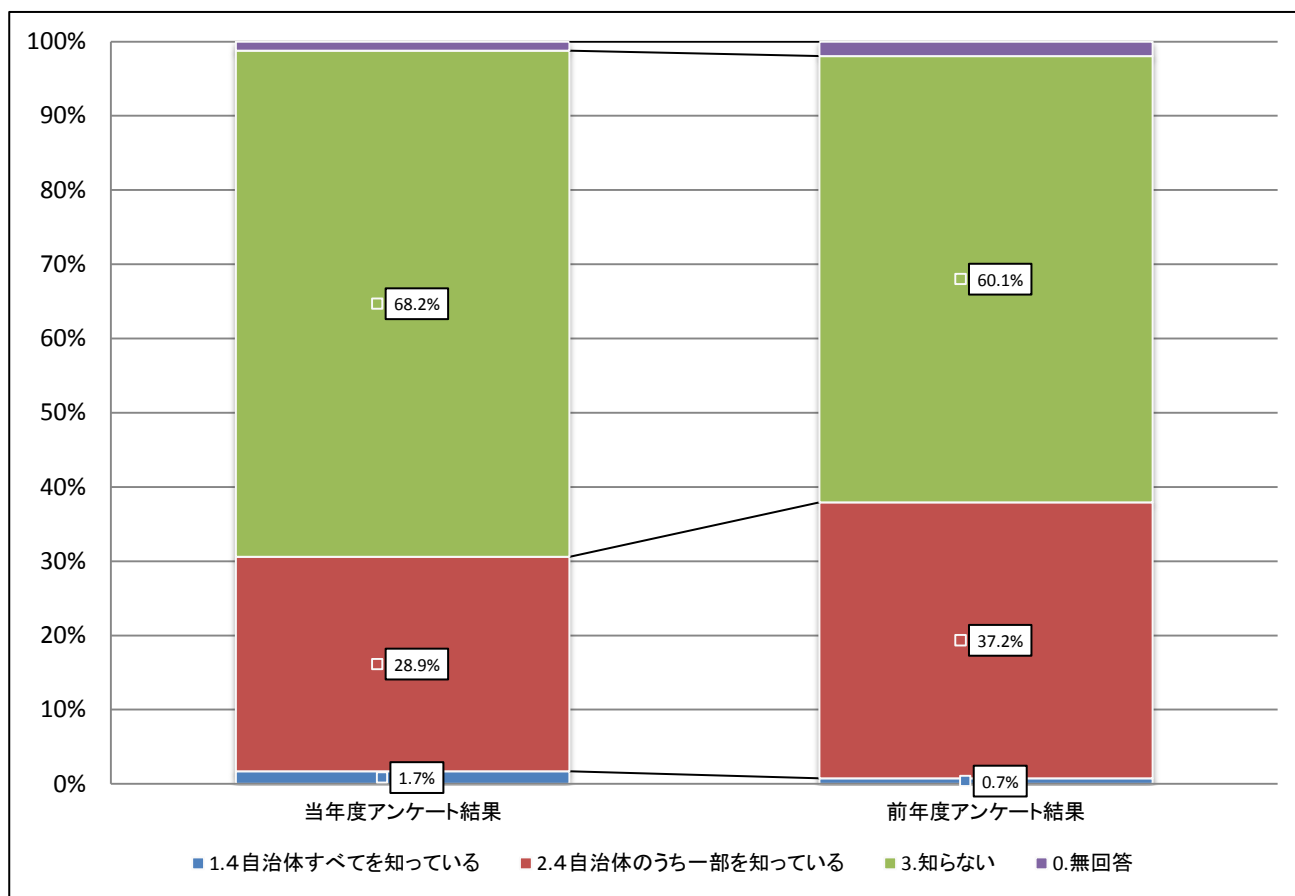
➤ 地区別



地区別にみると、「参加したい」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区 (16.7%) であり、次いで上柴地区 (31.4%) となっています。最も多いのは川本地区 (50.0%) であり、次いで大寄地区 (45.5%) となっています。

## ② 都市交流による地域力アップ（8. 問6）

深谷市の友好都市(国内4自治体)はどこか知っていますか。



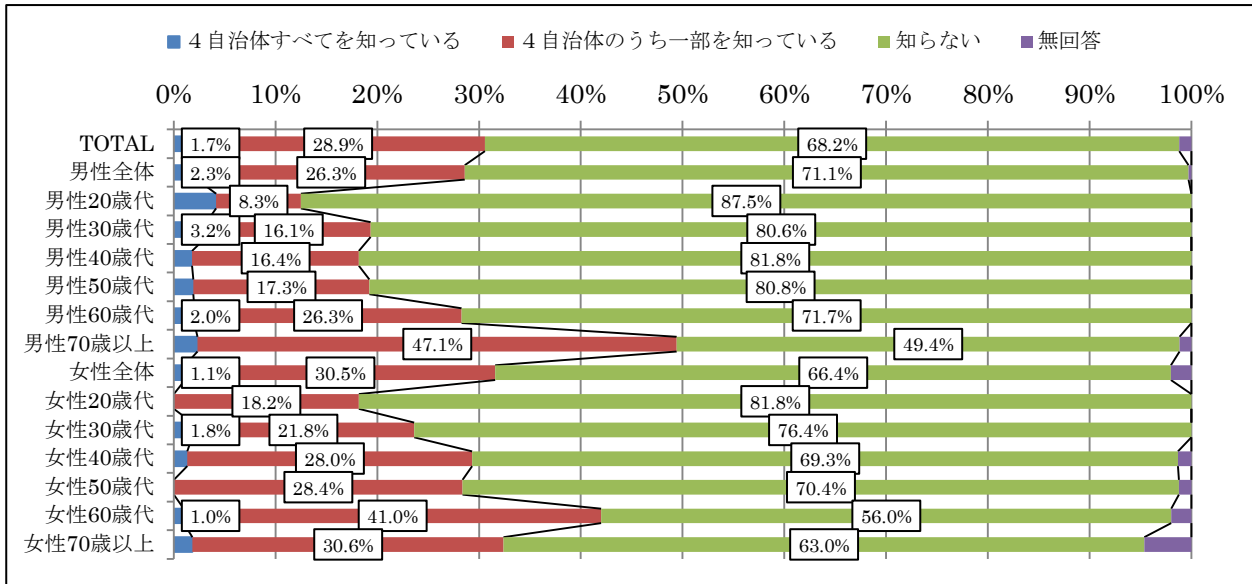
「知らない」と回答した人の割合が 68.2%と最も多く、次いで「4自治体のうち一部を知っている」と回答した人の割合が 28.9%、「4自治体すべてを知っている」と回答した人の割合が 1.7%となっています。

「4自治体すべてを知っている」または「4自治体のうち一部を知っている」と回答した人の割合は 30.6%であり、深谷市の友好都市に対する認知度は低いことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「4自治体すべてを知っている」または「4自治体のうち一部を知っている」と回答した人の割合は 37.9%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		4自治体すべてを知っている	4自治体のうち一部を知っている	知らない	無回答	合計
TOTAL	824	1.7%	28.9%	68.2%	1.2%	100.0%
男性全体	346	2.3%	26.3%	71.1%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	24	4.2%	8.3%	87.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	3.2%	16.1%	80.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	1.8%	16.4%	81.8%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	1.9%	17.3%	80.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	99	2.0%	26.3%	71.7%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	2.4%	47.1%	49.4%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	1.1%	30.5%	66.4%	2.0%	100.0%
女性 20 歳代	22	0.0%	18.2%	81.8%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	1.8%	21.8%	76.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	1.3%	28.0%	69.3%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	0.0%	28.4%	70.4%	1.2%	100.0%
女性 60 歳代	100	1.0%	41.0%	56.0%	2.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	1.9%	30.6%	63.0%	4.6%	100.0%
女性年齢不詳	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	1.5%	23.5%	74.0%	1.0%	100.0%
藤沢地区	56	3.6%	26.8%	62.5%	7.1%	100.0%
幡羅地区	106	1.9%	27.4%	69.8%	0.9%	100.0%
明戸地区	27	3.7%	37.0%	59.3%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	0.0%	45.5%	54.5%	0.0%	100.0%
八基地区	19	0.0%	31.6%	68.4%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	0.0%	27.8%	72.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	1.2%	23.3%	74.4%	1.2%	100.0%
南地区	49	4.1%	34.7%	61.2%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	3.3%	23.9%	71.7%	1.1%	100.0%
川本地区	64	0.0%	56.3%	42.2%	1.6%	100.0%
花園地区	75	0.0%	24.0%	76.0%	0.0%	100.0%
無回答	14	0.0%	28.6%	71.4%	0.0%	100.0%

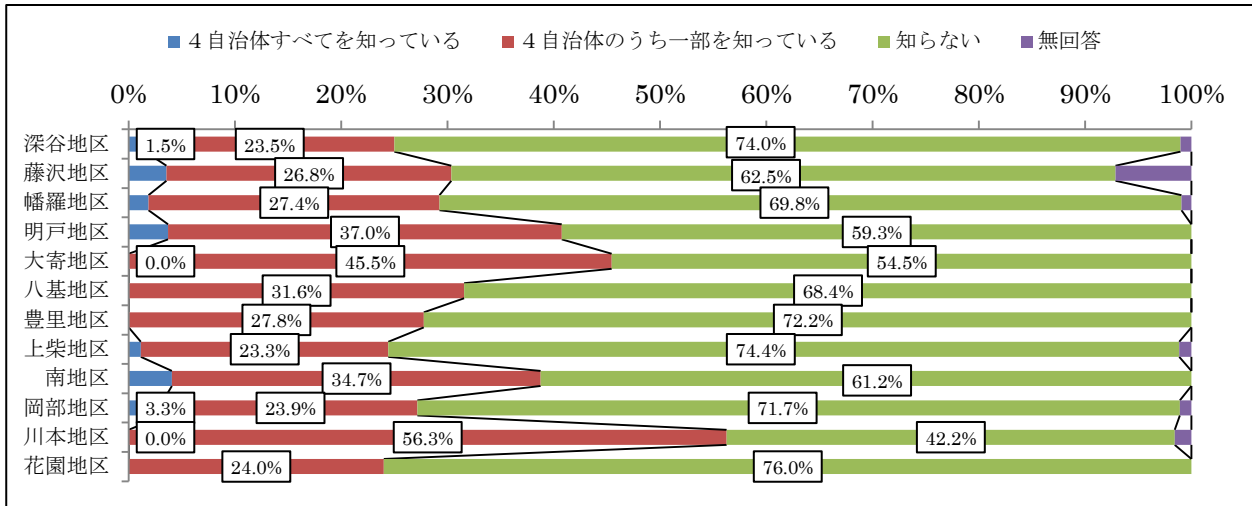
## ➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「4自治体すべてを知っている」または「4自治体のうち一部を知っている」と回答した人の割合は男性が28.6%であるのに対して、女性は31.6%となっています。

また、「4自治体すべてを知っている」または「4自治体のうち一部を知っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性、女性ともに20歳代(男性12.5%、女性18.2%)となっています。一方で、最も多い世代は、男性が70歳以上(49.5%)、女性が60歳代(42.0%)となっており、男女ともに若い世代ほど認知度が低いことがうかがえます。

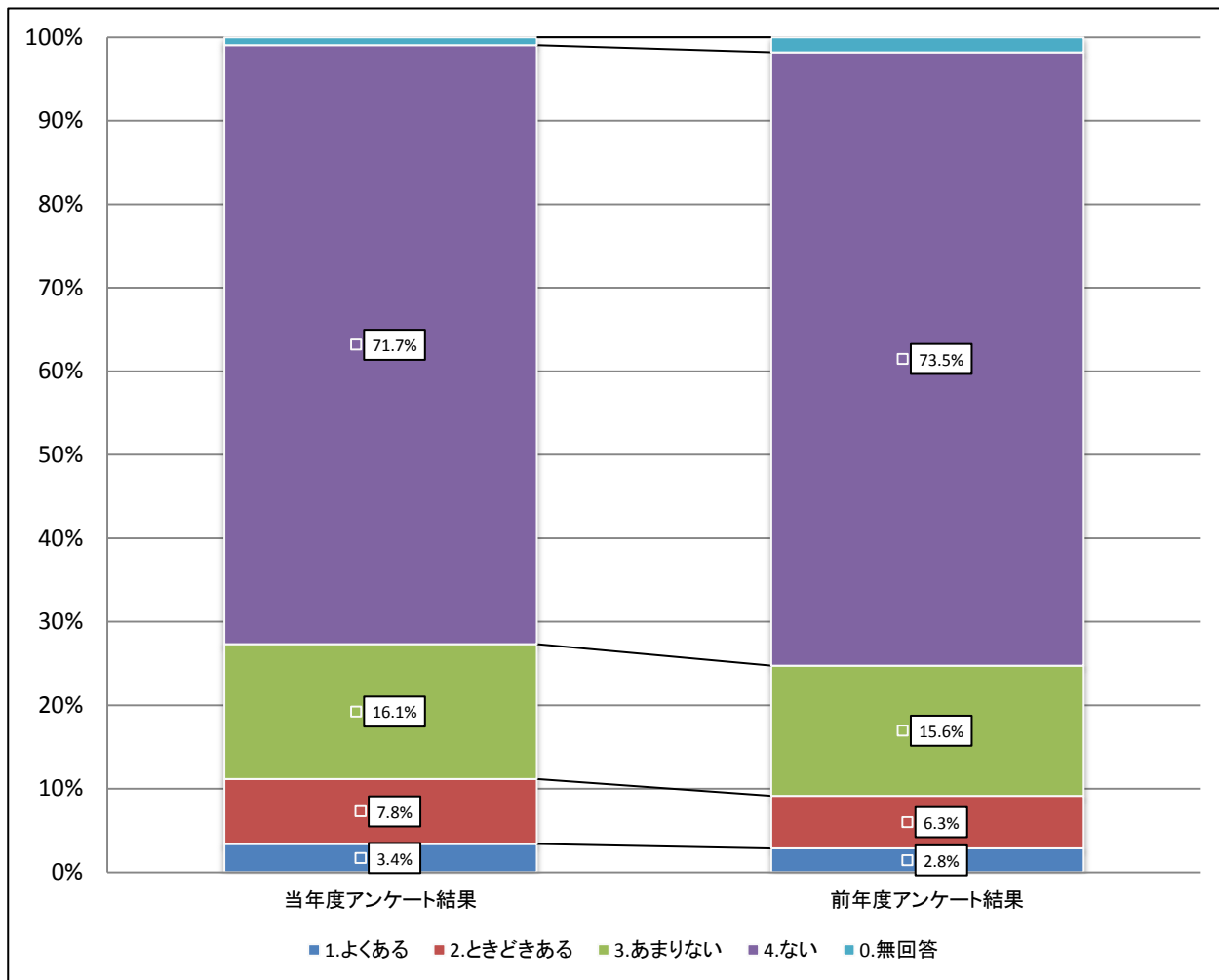
## ➤ 地区別



地区別にみると、「4自治体すべてを知っている」または「4自治体のうち一部を知っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、花園地区(24.0%)であり、次いで上柴地区(24.5%)となっています。最も多いのは川本地区(56.3%)であり、次いで大寄地区(45.5%)となっています。

### ③ 地域社会からの国際化（8. 問7～9）

ふだん外国人との交流（インターネットを含む）はありますか。



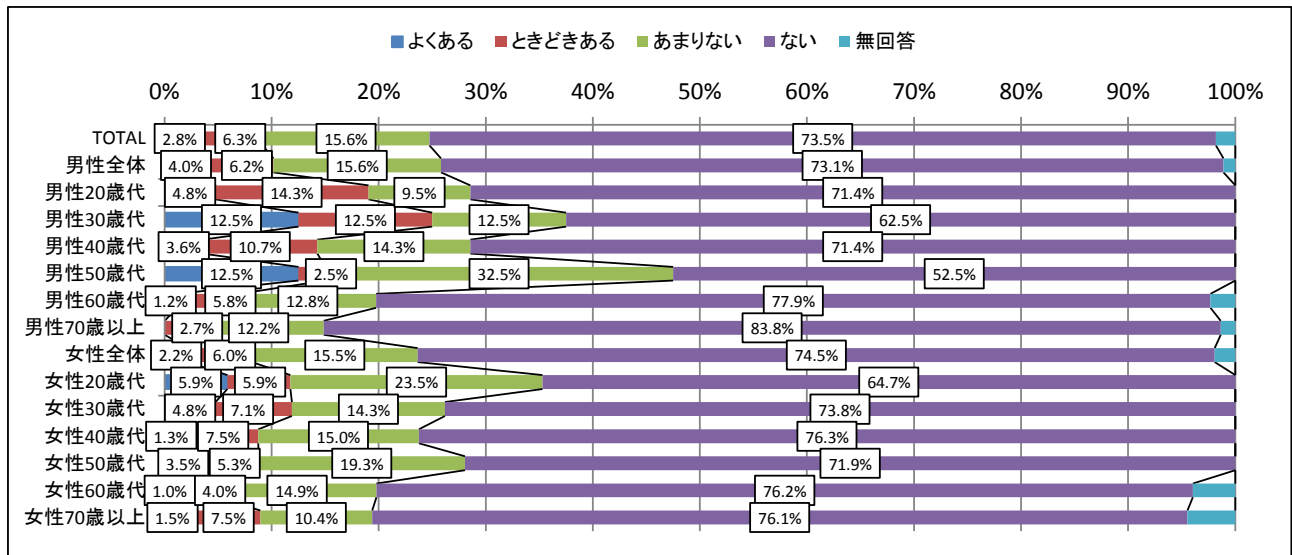
「ない」と回答した人の割合が71.7%と最も多く、次いで「あまりない」と回答した人の割合が16.1%、「ときどきある」と回答した人の割合が7.8%、「よくある」と回答した人の割合が3.4%となっています。

「よくある」または「ときどきある」と回答した人の割合は11.2%であり、日常的に外国人と交流している市民はわずかであることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「よくある」または「ときどきある」と回答した人の割合は9.1%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		よくある	ときどきある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	824	3.4%	7.8%	16.1%	71.7%	1.0%	100.0%
男性全体	346	3.5%	9.2%	19.7%	67.1%	0.6%	100.0%
男性 20 歳代	24	4.2%	25.0%	16.7%	54.2%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	3.2%	22.6%	16.1%	58.1%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	3.6%	14.5%	23.6%	58.2%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	9.6%	7.7%	17.3%	65.4%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	99	3.0%	3.0%	21.2%	71.7%	1.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	0.0%	4.7%	18.8%	75.3%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	3.4%	6.8%	14.2%	74.7%	0.9%	100.0%
女性 20 歳代	22	4.5%	0.0%	22.7%	72.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	3.6%	9.1%	18.2%	69.1%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	2.7%	10.7%	13.3%	72.0%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	2.5%	4.9%	18.5%	74.1%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	100	4.0%	9.0%	12.0%	74.0%	1.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	3.7%	3.7%	9.3%	81.5%	1.9%	100.0%
女性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	3.1%	7.7%	18.4%	69.9%	1.0%	100.0%
藤沢地区	56	0.0%	3.6%	17.9%	73.2%	5.4%	100.0%
幡羅地区	106	6.6%	8.5%	14.2%	70.8%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	7.4%	7.4%	14.8%	70.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	0.0%	4.5%	13.6%	81.8%	0.0%	100.0%
八基地区	19	0.0%	5.3%	21.1%	73.7%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	5.6%	0.0%	22.2%	72.2%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	1.2%	10.5%	11.6%	76.7%	0.0%	100.0%
南地区	49	4.1%	12.2%	8.2%	75.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	3.3%	7.6%	9.8%	77.2%	2.2%	100.0%
川本地区	64	4.7%	9.4%	23.4%	60.9%	1.6%	100.0%
花園地区	75	4.0%	6.7%	24.0%	65.3%	0.0%	100.0%
無回答	14	0.0%	7.1%	7.1%	85.7%	0.0%	100.0%

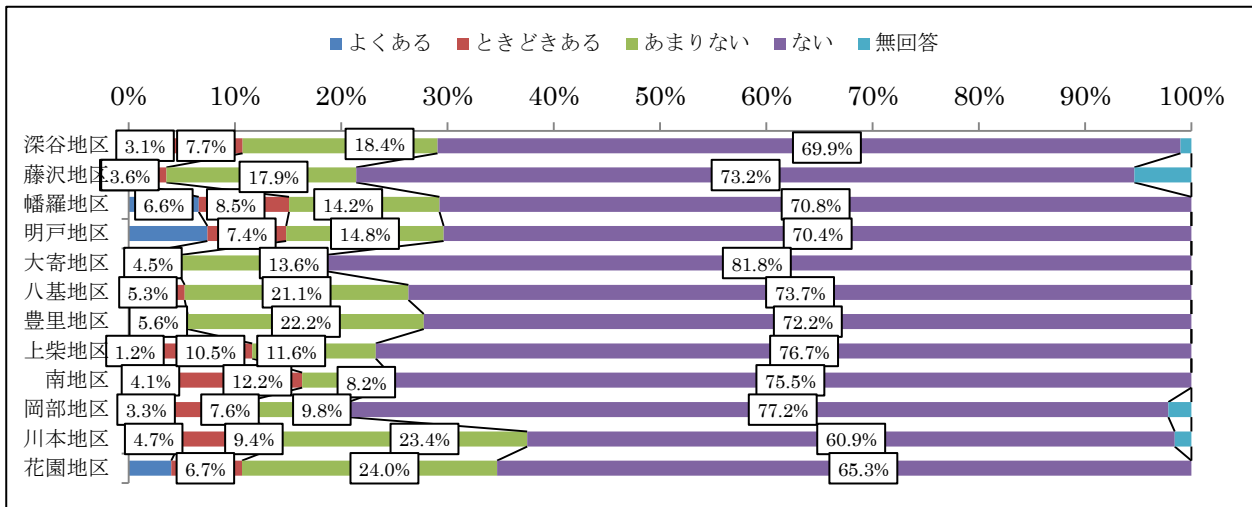
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「よくある」または「ときどきある」と回答した人の割合は男性が12.7%であるのに対して、女性は10.2%となっています。

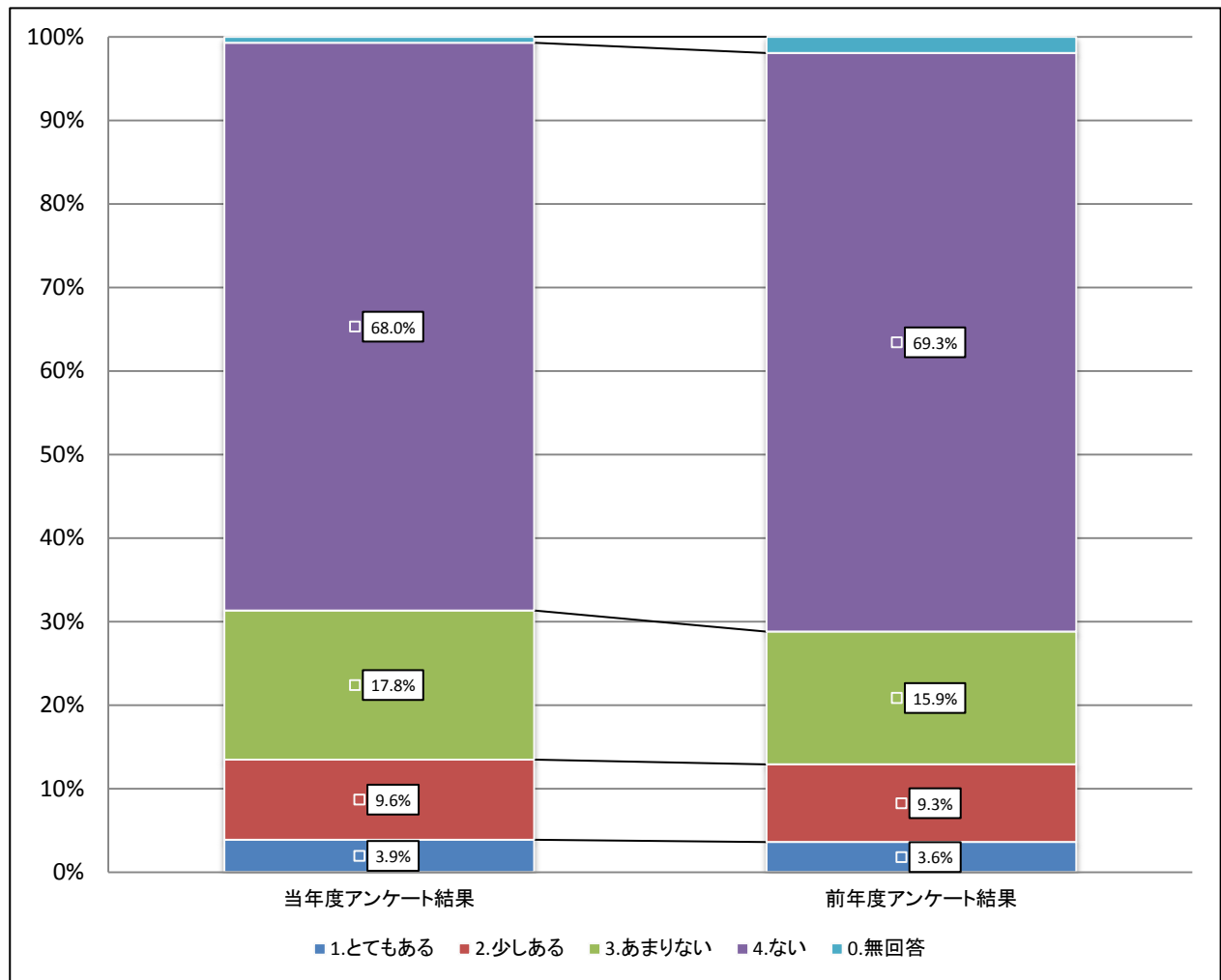
また、「よくある」または「ときどきある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が70歳以上(4.7%)、女性が20歳代(4.5%)となっています。一方で、最も多い世代は、男性が20歳代(29.2%)、女性が40歳代(13.4%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「よくある」または「ときどきある」と回答した人の割合が最も少ないのは、藤沢地区(3.6%)であり、次いで大寄地区(4.5%)となっています。最も多いのは南地区(16.3%)であり、次いで幡羅地区(15.1%)となっています。

将来的に、海外への留学・仕事・移住などに興味はありますか。



「ない」と回答した人の割合が 68.0%と最も多く、次いで「あまりない」と回答した人の割合が 17.8%、「少しある」と回答した人の割合が 9.6%、「とてもある」と回答した人の割合が 3.9%となっています。

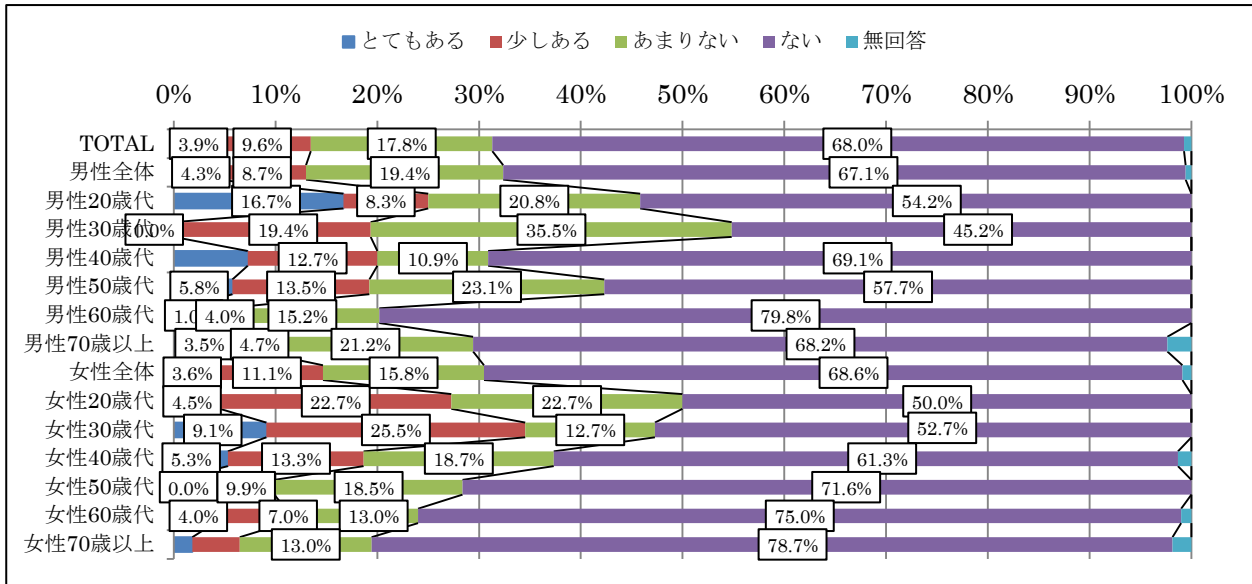
「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合は 13.5%であり、海外への留学、仕事、移住などに興味を持つ市民はごくわずかであることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合は 12.9%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。



母集団		とてもある	少しある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	824	3.9%	9.6%	17.8%	68.0%	0.7%	100.0%
男性全体	346	4.3%	8.7%	19.4%	67.1%	0.6%	100.0%
男性 20 歳代	24	16.7%	8.3%	20.8%	54.2%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	0.0%	19.4%	35.5%	45.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	7.3%	12.7%	10.9%	69.1%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	5.8%	13.5%	23.1%	57.7%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	99	1.0%	4.0%	15.2%	79.8%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	3.5%	4.7%	21.2%	68.2%	2.4%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	3.6%	11.1%	15.8%	68.6%	0.9%	100.0%
女性 20 歳代	22	4.5%	22.7%	22.7%	50.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	9.1%	25.5%	12.7%	52.7%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	5.3%	13.3%	18.7%	61.3%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	0.0%	9.9%	18.5%	71.6%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	100	4.0%	7.0%	13.0%	75.0%	1.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	1.9%	4.6%	13.0%	78.7%	1.9%	100.0%
女性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	5.1%	11.2%	17.3%	65.3%	1.0%	100.0%
藤沢地区	56	1.8%	10.7%	16.1%	67.9%	3.6%	100.0%
幡羅地区	106	3.8%	14.2%	17.0%	65.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	3.7%	18.5%	7.4%	70.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	0.0%	4.5%	9.1%	86.4%	0.0%	100.0%
八基地区	19	0.0%	5.3%	15.8%	78.9%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	5.6%	5.6%	27.8%	61.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	2.3%	10.5%	20.9%	66.3%	0.0%	100.0%
南地区	49	4.1%	8.2%	12.2%	75.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	2.2%	4.3%	25.0%	67.4%	1.1%	100.0%
川本地区	64	6.3%	4.7%	21.9%	65.6%	1.6%	100.0%
花園地区	75	6.7%	9.3%	13.3%	70.7%	0.0%	100.0%
無回答	14	0.0%	7.1%	21.4%	71.4%	0.0%	100.0%

➤ 性別・世代別

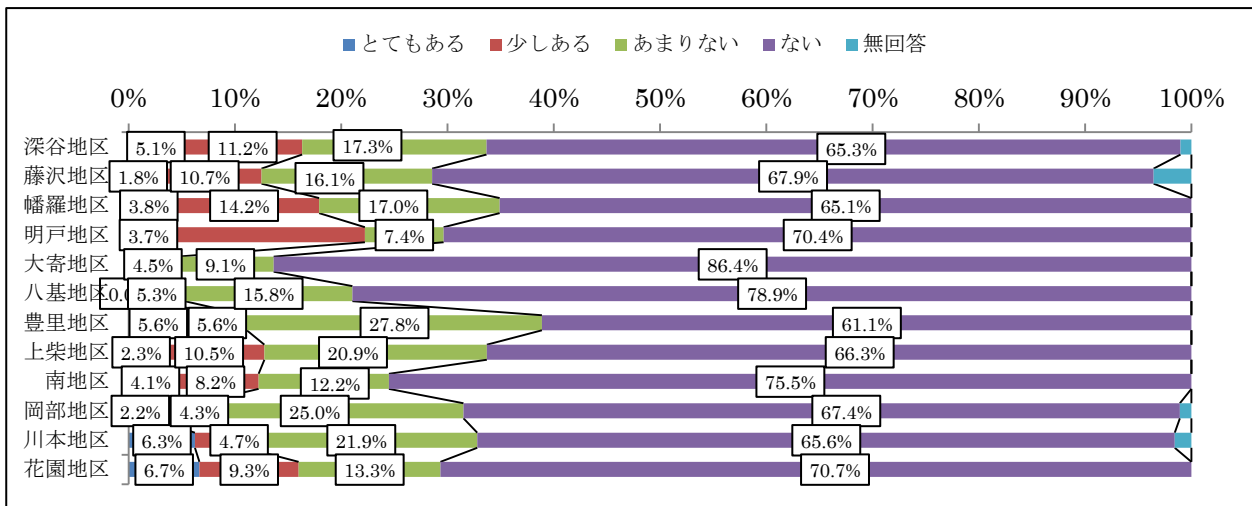


性別・世代別にみると、「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合は男性が13.0%であるのに対して、女性は14.7%となっています。

また、「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が60歳代(5.0%)、女性が70歳以上(6.5%)となっています。一方で、最も多い世代は、男性が20歳代(25.0%)、女性が30歳代(34.6%)となっています。

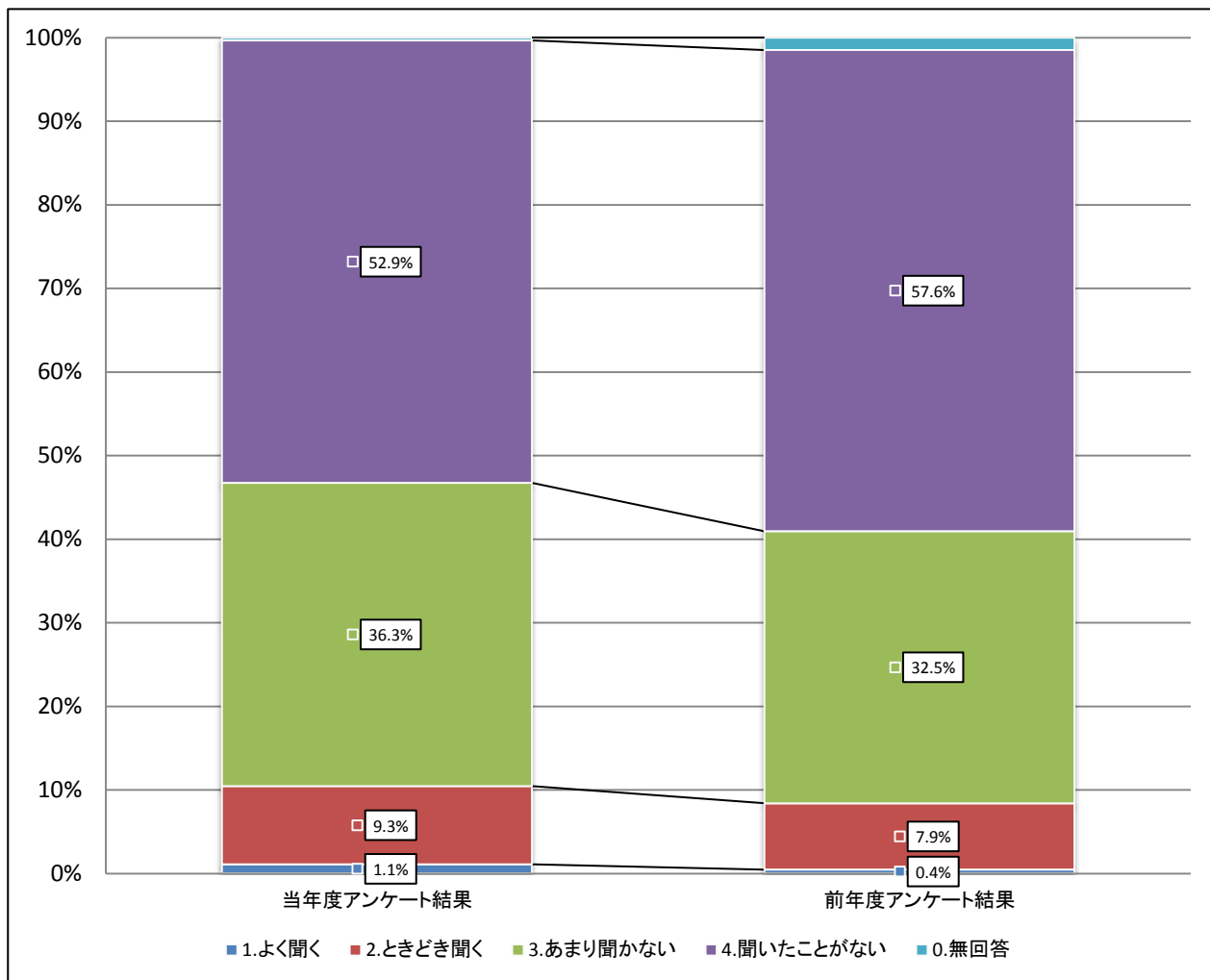
男女ともに20～30歳代では「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合が多く、50～60歳代以降の中老年世代においては、海外への留学、仕事、移住に対する興味が減少していることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区(4.5%)であり、次いで八基地区(5.3%)となっています。最も多いのは明戸地区(22.2%)であり、次いで幡羅地区(18.0%)となっています。

市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことはありますか。



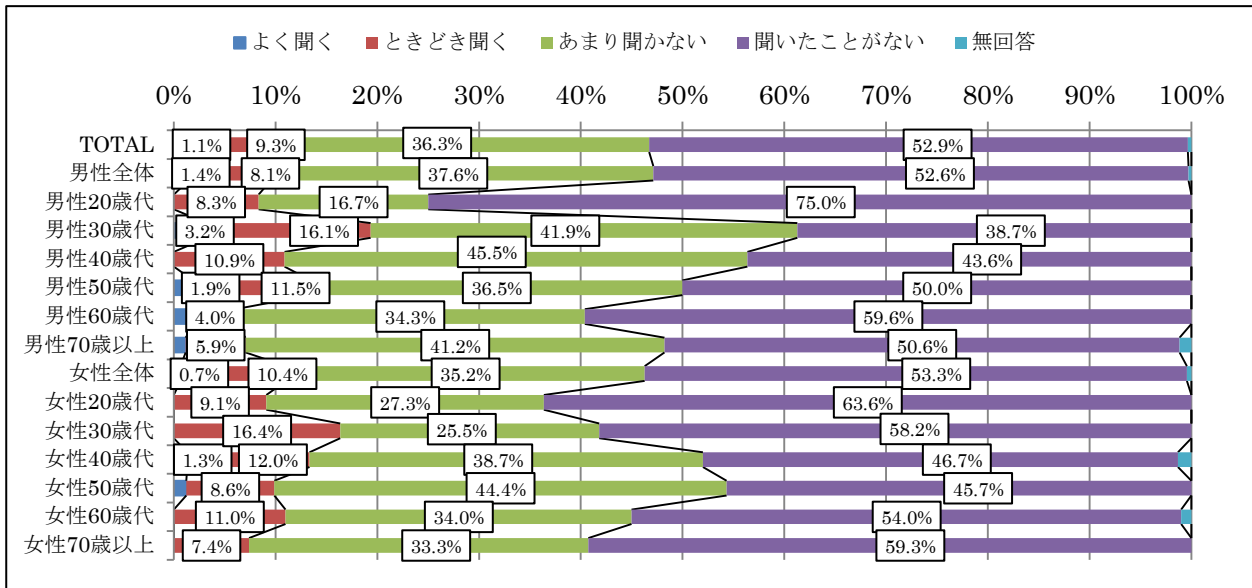
「聞いたことがない」と回答した人の割合が 52.9%と最も多く、次いで「あまり聞かない」と回答した人の割合が 36.3%、「ときどき聞く」と回答した人の割合が 9.3%、「よく聞く」と回答した人の割合が 1.1%となっています。

「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合は 10.4%であり、深谷市内における外国人とのトラブルはごくわずかであることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合は 8.3%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		よく聞く	ときどき聞く	あまり聞かない	聞いたことがない	無回答	合計
TOTAL	824	1.1%	9.3%	36.3%	52.9%	0.4%	100.0%
男性全体	346	1.4%	8.1%	37.6%	52.6%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	24	0.0%	8.3%	16.7%	75.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	3.2%	16.1%	41.9%	38.7%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	0.0%	10.9%	45.5%	43.6%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	1.9%	11.5%	36.5%	50.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	99	2.0%	4.0%	34.3%	59.6%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	1.2%	5.9%	41.2%	50.6%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	0.7%	10.4%	35.2%	53.3%	0.5%	100.0%
女性 20 歳代	22	0.0%	9.1%	27.3%	63.6%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	0.0%	16.4%	25.5%	58.2%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	1.3%	12.0%	38.7%	46.7%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	1.2%	8.6%	44.4%	45.7%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	100	0.0%	11.0%	34.0%	54.0%	1.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	0.0%	7.4%	33.3%	59.3%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	2.0%	8.2%	37.8%	52.0%	0.0%	100.0%
藤沢地区	56	0.0%	10.7%	26.8%	58.9%	3.6%	100.0%
幡羅地区	106	0.9%	10.4%	36.8%	51.9%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	0.0%	11.1%	44.4%	44.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	0.0%	9.1%	40.9%	50.0%	0.0%	100.0%
八基地区	19	0.0%	15.8%	15.8%	68.4%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	1.2%	10.5%	33.7%	54.7%	0.0%	100.0%
南地区	49	2.0%	4.1%	38.8%	55.1%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	1.1%	14.1%	37.0%	47.8%	0.0%	100.0%
川本地区	64	0.0%	17.2%	39.1%	42.2%	1.6%	100.0%
花園地区	75	0.0%	1.3%	37.3%	61.3%	0.0%	100.0%
無回答	14	7.1%	0.0%	42.9%	50.0%	0.0%	100.0%

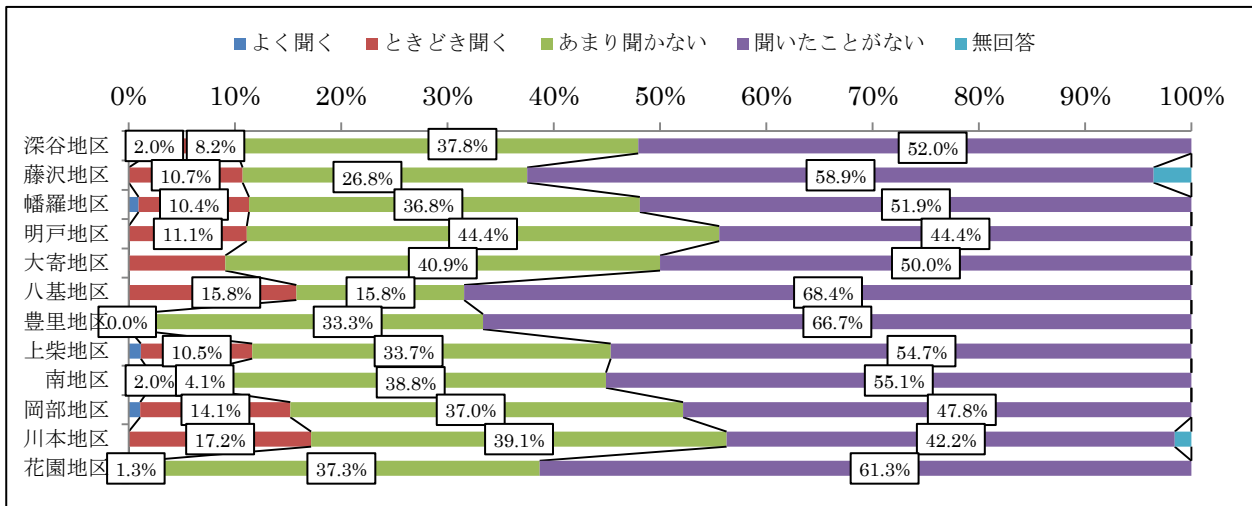
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合は男性が9.5%であるのに対して、女性は11.1%となっています。

また、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は60歳代(6.0%)であり、女性は70歳代(7.4%)であり、一方で、最も多い世代は、男性は30歳代(19.3%)であり、女性は30歳代(16.4%)となっています。

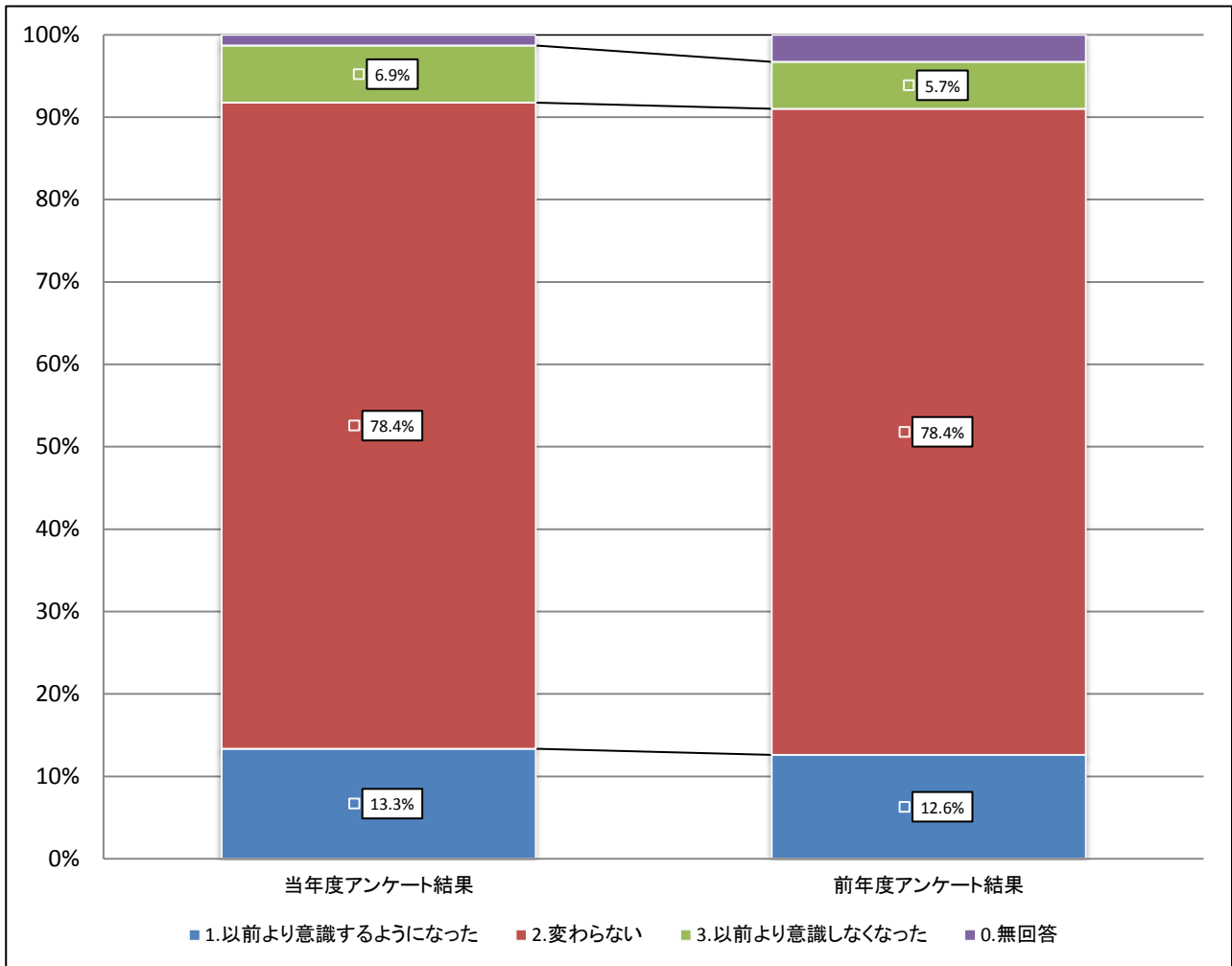
➤ 地区別



地区別にみると、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区(0.0%)であり、次いで花園地区(1.3%)となっています。最も多いのは川本地区(17.2%)であり、次いで八基地区(15.8%)となっています。

⑤ 男女がともに輝く社会づくり（8. 問10）

男女共同参画の意識は以前と比べて変化していますか。

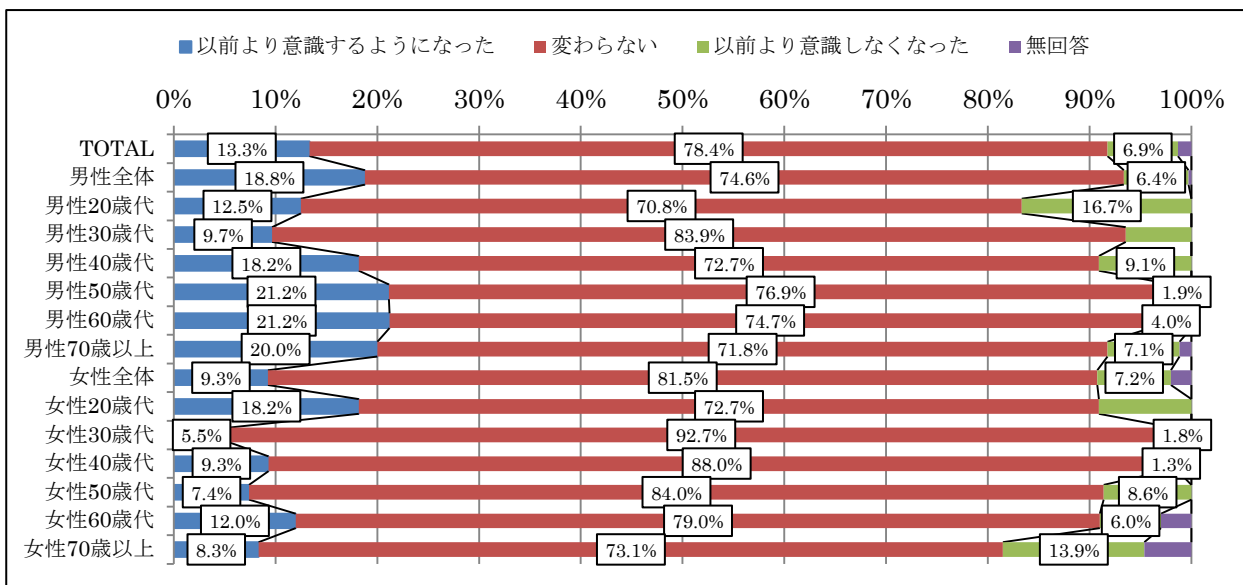


「変わらない」と回答した人の割合が78.4%と最も多く、次いで「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が13.3%、「以前より意識しなくなった」と回答した人の割合が6.9%となっており、男女共同参画に対する意識は、以前から変わっていないと感じる市民が大多数を占めていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は12.6%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		以前より意識するようになった	変わらない	以前より意識しなくなった	無回答	合計
TOTAL	824	13.3%	78.4%	6.9%	1.3%	100.0%
男性全体	346	18.8%	74.6%	6.4%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	24	12.5%	70.8%	16.7%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	9.7%	83.9%	6.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	18.2%	72.7%	9.1%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	21.2%	76.9%	1.9%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	99	21.2%	74.7%	4.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	20.0%	71.8%	7.1%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	9.3%	81.5%	7.2%	2.0%	100.0%
女性 20 歳代	22	18.2%	72.7%	9.1%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	5.5%	92.7%	1.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	9.3%	88.0%	1.3%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	7.4%	84.0%	8.6%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	100	12.0%	79.0%	6.0%	3.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	8.3%	73.1%	13.9%	4.6%	100.0%
女性年齢不詳	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	9.7%	81.1%	7.7%	1.5%	100.0%
藤沢地区	56	8.9%	75.0%	10.7%	5.4%	100.0%
幡羅地区	106	16.0%	77.4%	6.6%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	18.5%	66.7%	14.8%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	13.6%	86.4%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	19	26.3%	57.9%	15.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	27.8%	61.1%	11.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	14.0%	75.6%	9.3%	1.2%	100.0%
南地区	49	14.3%	75.5%	8.2%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	7.6%	85.9%	5.4%	1.1%	100.0%
川本地区	64	20.3%	75.0%	3.1%	1.6%	100.0%
花園地区	75	14.7%	84.0%	1.3%	0.0%	100.0%
無回答	14	7.1%	85.7%	0.0%	7.1%	100.0%

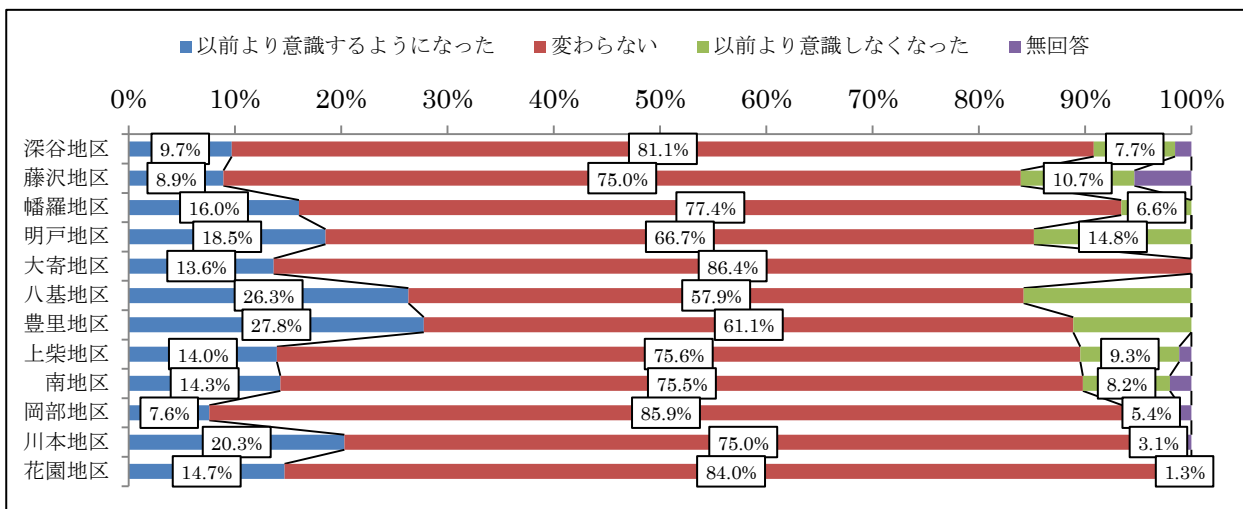
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は男性が18.8%であるのに対して、女性は9.3%となっています。

また、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性、女性ともに30歳代（男性9.7%、女性5.5%）となっています。一方で、最も多い世代は、男性が50歳代、60歳代ともに（21.2%）、女性が20歳代（18.2%）となっています。

➤ 地区別

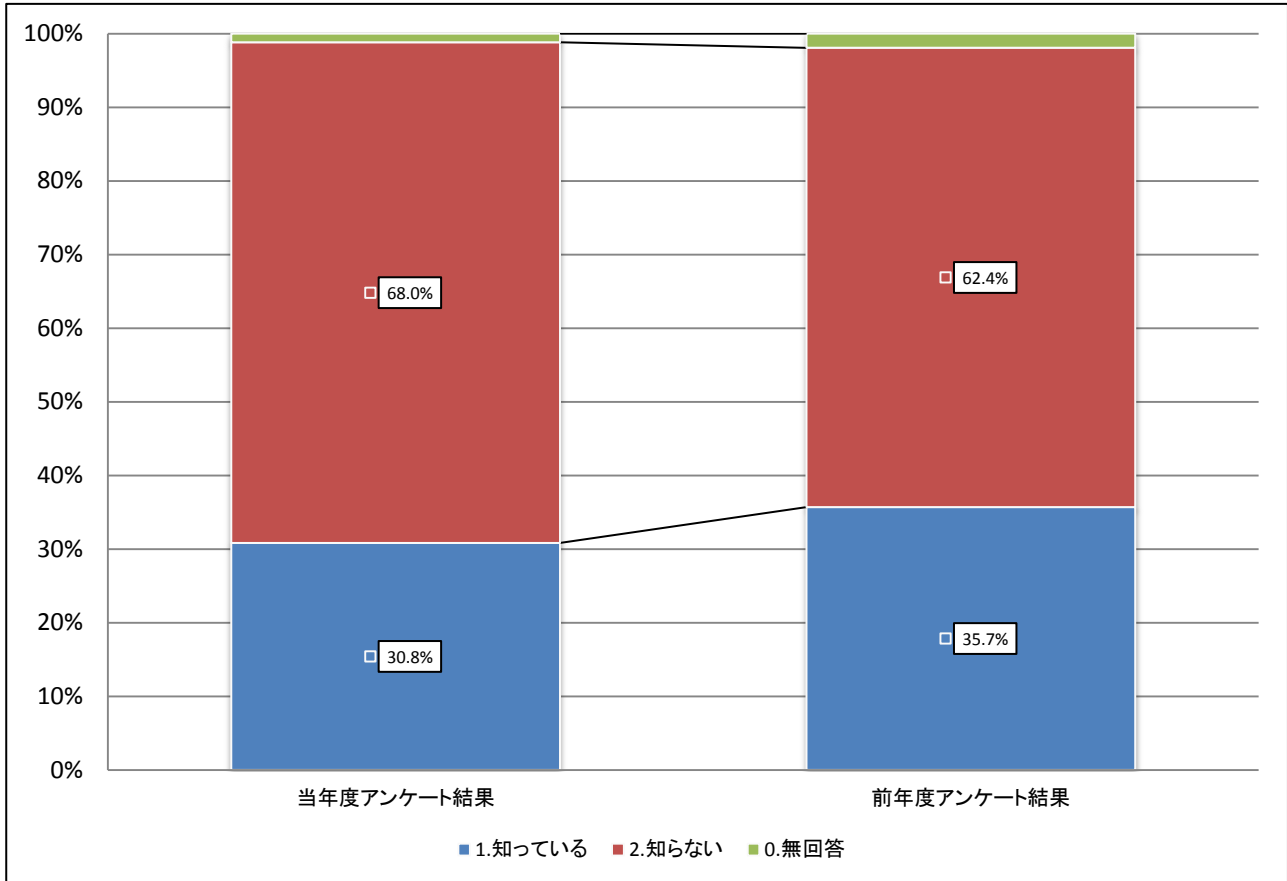


地区別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ないのは、岡部地区（7.6%）であり、次いで藤沢地区（8.9%）となっています。最も多いのは豊里地区（27.8%）であり、次いで八基地区（26.3%）となっています。



⑥ すべての人が生活しやすい社会のデザインづくり（8. 問 11,12）

ユニバーサルデザインを知っていますか。

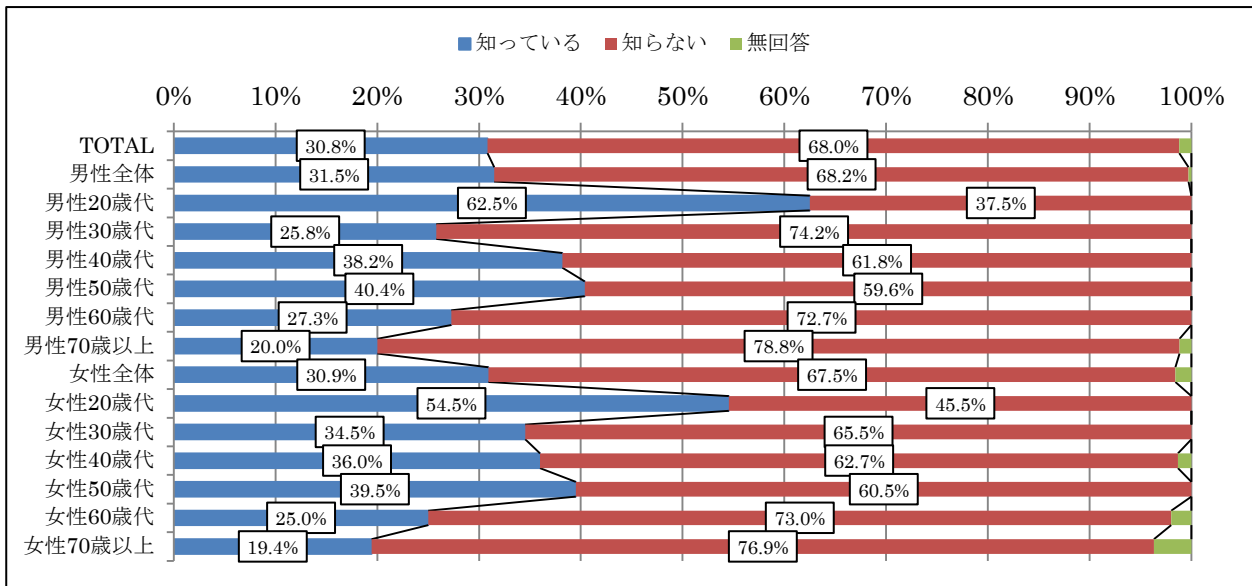


「知らない」と回答した人の割合は 68.0%、「知っている」と回答した人の割合は 30.8% であり、大多数の市民がユニバーサルデザインを知らないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「知っている」と回答した人の割合は 35.7% であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		知っている	知らない	無回答	合計
TOTAL	824	30.8%	68.0%	1.2%	100.0%
男性全体	346	31.5%	68.2%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	24	62.5%	37.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	25.8%	74.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	38.2%	61.8%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	40.4%	59.6%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	99	27.3%	72.7%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	20.0%	78.8%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	30.9%	67.5%	1.6%	100.0%
女性 20 歳代	22	54.5%	45.5%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	34.5%	65.5%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	36.0%	62.7%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	39.5%	60.5%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	100	25.0%	73.0%	2.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	19.4%	76.9%	3.7%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	27.6%	71.9%	0.5%	100.0%
藤沢地区	56	32.1%	60.7%	7.1%	100.0%
幡羅地区	106	41.5%	56.6%	1.9%	100.0%
明戸地区	27	63.0%	37.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	18.2%	81.8%	0.0%	100.0%
八基地区	19	26.3%	73.7%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	22.2%	77.8%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	41.9%	57.0%	1.2%	100.0%
南地区	49	36.7%	63.3%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	22.8%	77.2%	0.0%	100.0%
川本地区	64	15.6%	82.8%	1.6%	100.0%
花園地区	75	26.7%	73.3%	0.0%	100.0%
無回答	14	21.4%	71.4%	7.1%	100.0%

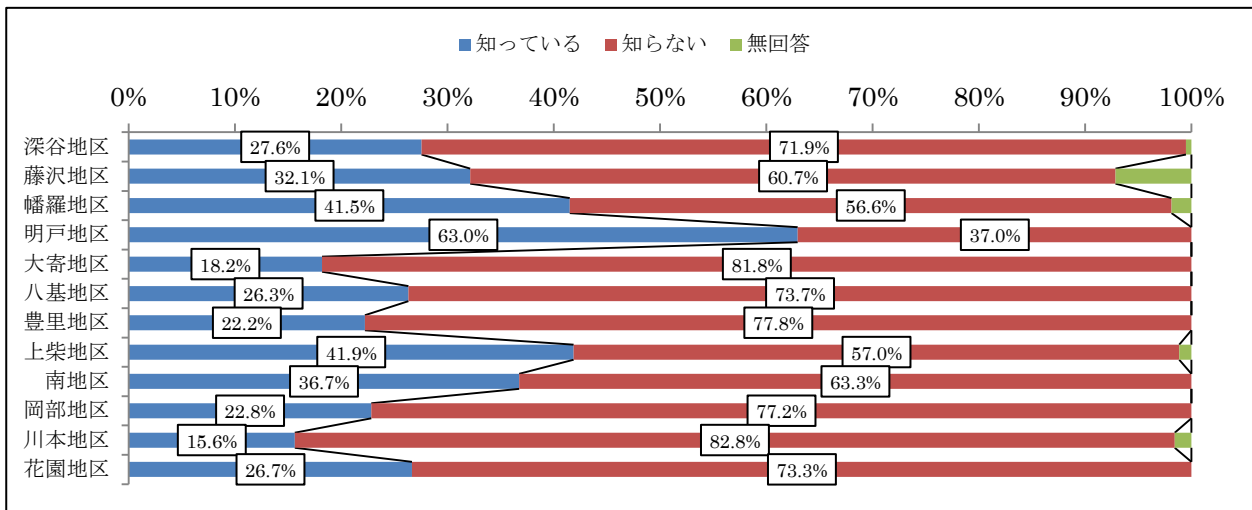
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「知っている」と回答した人の割合は男性が 31.5%であるのに対して、女性は 30.9%となっています。

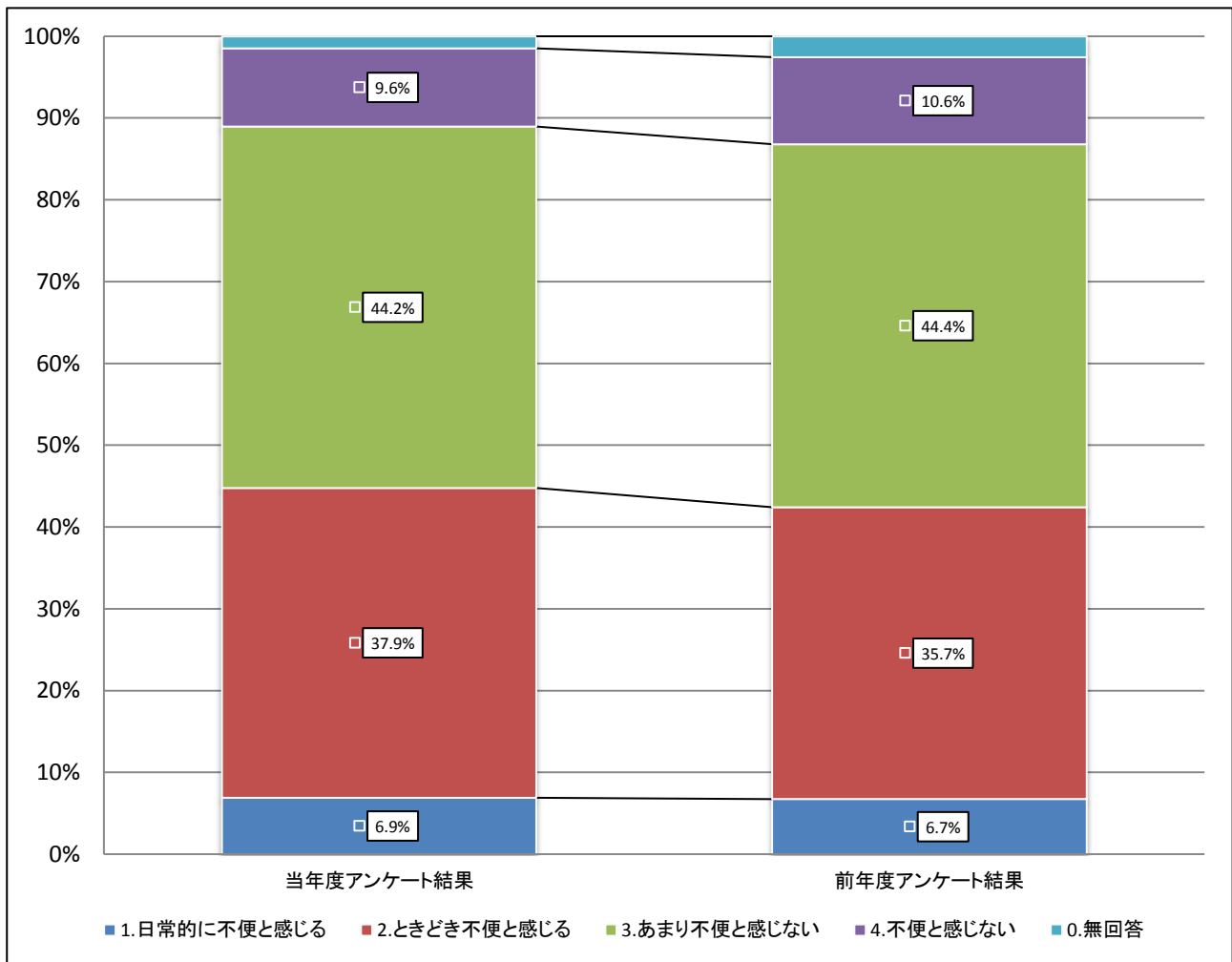
また、「知っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性、女性ともに 70 歳以上（男性 20.0%、女性 19.4%）であり、一方で、最も多い世代は、男性、女性ともに 20 歳代（男性 62.5%、女性 54.5%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「知っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、川本地区（15.6%）であり、次いで大寄地区（18.2%）となっています。最も多いのは明戸地区（63.0%）であり、次いで上柴地区（41.9%）となっています。

公共施設の利用に際し、不便と感じたことはありますか。



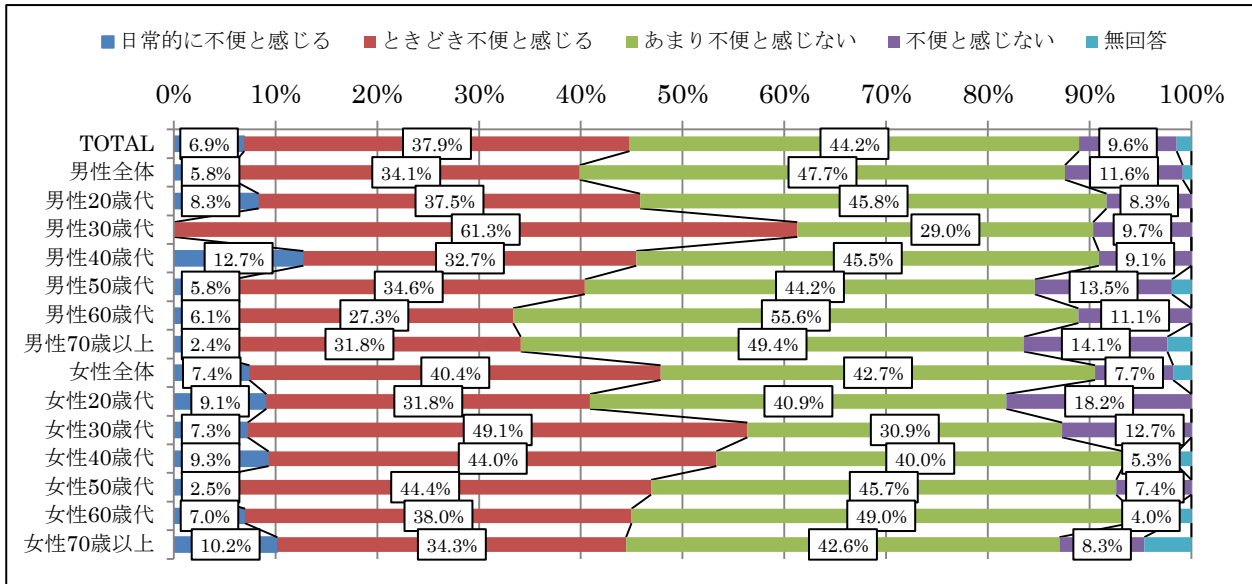
「あまり不便と感じない」と回答した人の割合が 44.2%と最も多く、次いで「ときどき不便と感じる」と回答した人の割合が 37.9%、「不便と感じない」と回答した人の割合が 9.6%、「日常的に不便と感じる」と回答した人の割合が 6.9%となっています。

「日常的に不便と感じる」または「ときどき不便と感じる」と回答した人の割合は 44.8%であり、公共施設の利用の際に不便と感じたことのある市民が半数近くいることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に不便と感じる」または「ときどき不便と感じる」と回答した人の割合は 42.4%であり、前年度アンケートと比較して、2.4 ポイント増加しました。

母集団		日常的に不便と感 じる	ときどき不便と感 じる	あまり不便と感 じない	不便と感 じない	無 回 答	合 計
TOTAL	824	6.9%	37.9%	44.2%	9.6%	1.5%	100.0%
男性全体	346	5.8%	34.1%	47.7%	11.6%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	24	8.3%	37.5%	45.8%	8.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	0.0%	61.3%	29.0%	9.7%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	12.7%	32.7%	45.5%	9.1%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	5.8%	34.6%	44.2%	13.5%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	6.1%	27.3%	55.6%	11.1%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	2.4%	31.8%	49.4%	14.1%	2.4%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	7.4%	40.4%	42.7%	7.7%	1.8%	100.0%
女性 20 歳代	22	9.1%	31.8%	40.9%	18.2%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	7.3%	49.1%	30.9%	12.7%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	9.3%	44.0%	40.0%	5.3%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	2.5%	44.4%	45.7%	7.4%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	100	7.0%	38.0%	49.0%	4.0%	2.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	10.2%	34.3%	42.6%	8.3%	4.6%	100.0%
女性年齢不詳	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	7.7%	37.2%	45.9%	7.7%	1.5%	100.0%
藤沢地区	56	3.6%	35.7%	48.2%	10.7%	1.8%	100.0%
幡羅地区	106	2.8%	44.3%	46.2%	6.6%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	11.1%	33.3%	29.6%	18.5%	7.4%	100.0%
大寄地区	22	0.0%	31.8%	54.5%	13.6%	0.0%	100.0%
八基地区	19	5.3%	42.1%	47.4%	5.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	5.6%	16.7%	61.1%	16.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	4.7%	37.2%	43.0%	12.8%	2.3%	100.0%
南地区	49	2.0%	38.8%	40.8%	16.3%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	10.9%	39.1%	42.4%	7.6%	0.0%	100.0%
川本地区	64	12.5%	32.8%	45.3%	7.8%	1.6%	100.0%
花園地区	75	9.3%	40.0%	40.0%	9.3%	1.3%	100.0%
無回答	14	14.3%	50.0%	21.4%	7.1%	7.1%	100.0%

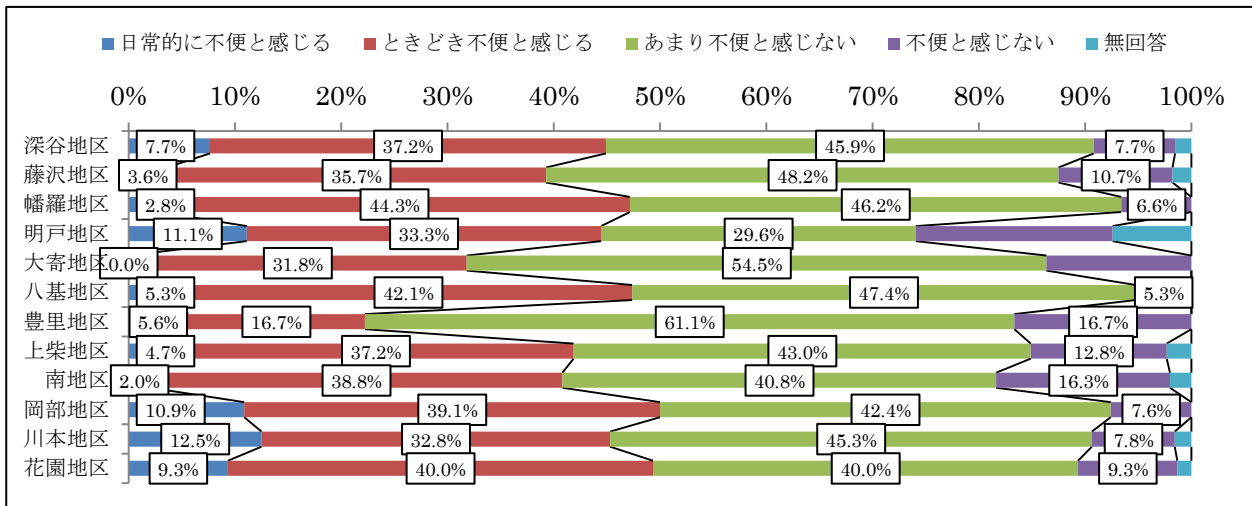
## ➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に不便を感じる」または「ときどき不便を感じる」と回答した人の割合は男性が39.9%であるのに対して、女性は47.8%となっています。

また、「日常的に不便を感じる」または「ときどき不便を感じる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が60歳代（33.4%）であり、女性は20歳代（40.9%）となっています。一方で、最も多い世代は、男性、女性ともに30歳代（男性61.3%、女性56.4%）となっています。

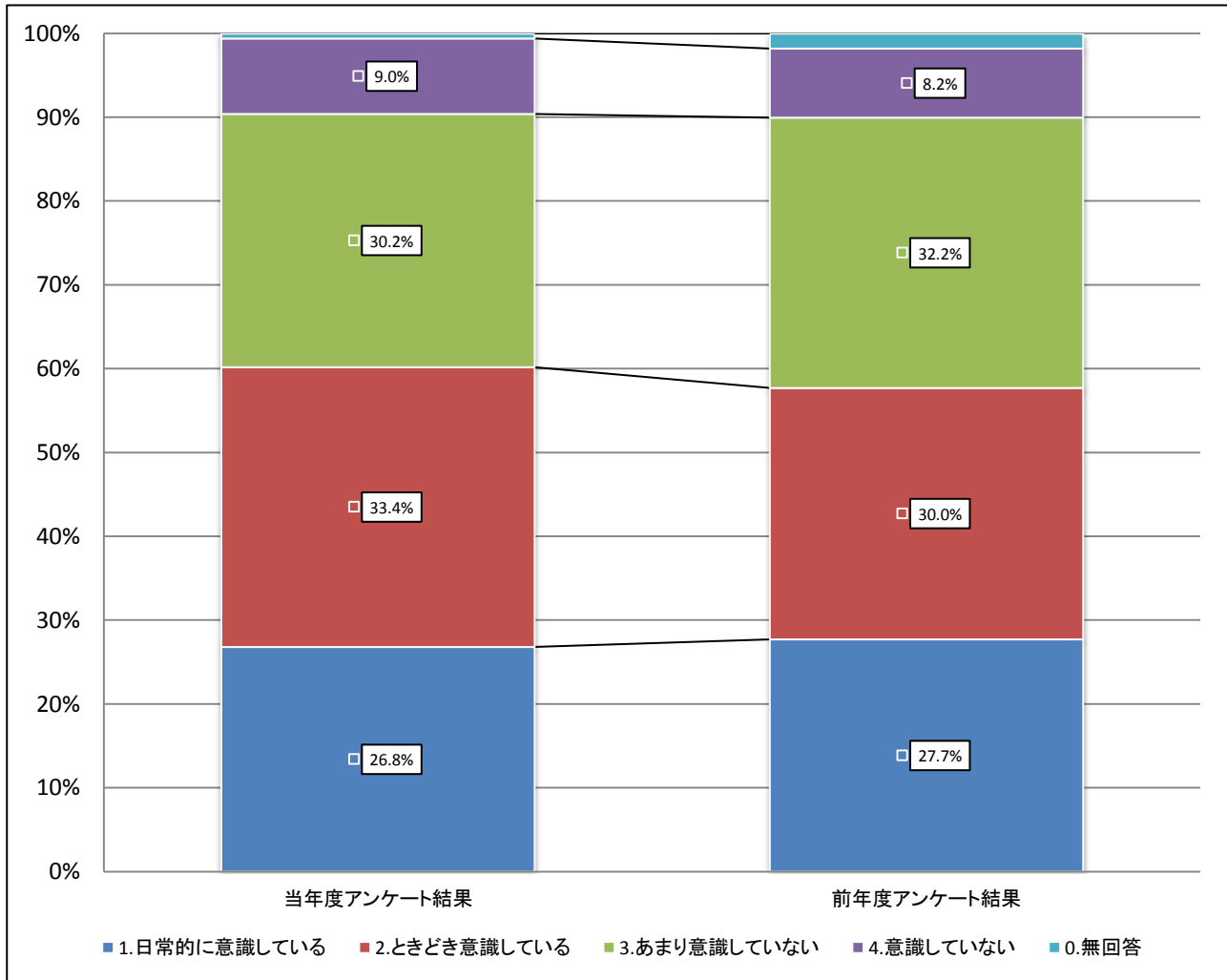
## ➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に不便を感じる」または「ときどき不便を感じる」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区（22.3%）であり、次いで大寄地区（31.8%）となっています。最も多いのは岡部地区（50.0%）であり、次いで花園地区（49.3%）となっています。

⑦ 人権を尊重する社会づくり（8. 問 13, 14）

お互いの人権について意識をして生活をしていますか。



「ときどき意識している」と回答した人の割合が 33.4%と最も多く、次いで「あまり意識していない」と回答した人の割合が 30.2%、「日常的に意識している」と回答した人の割合が 26.8%、「意識していない」と回答した人の割合が 9.0%となっています。

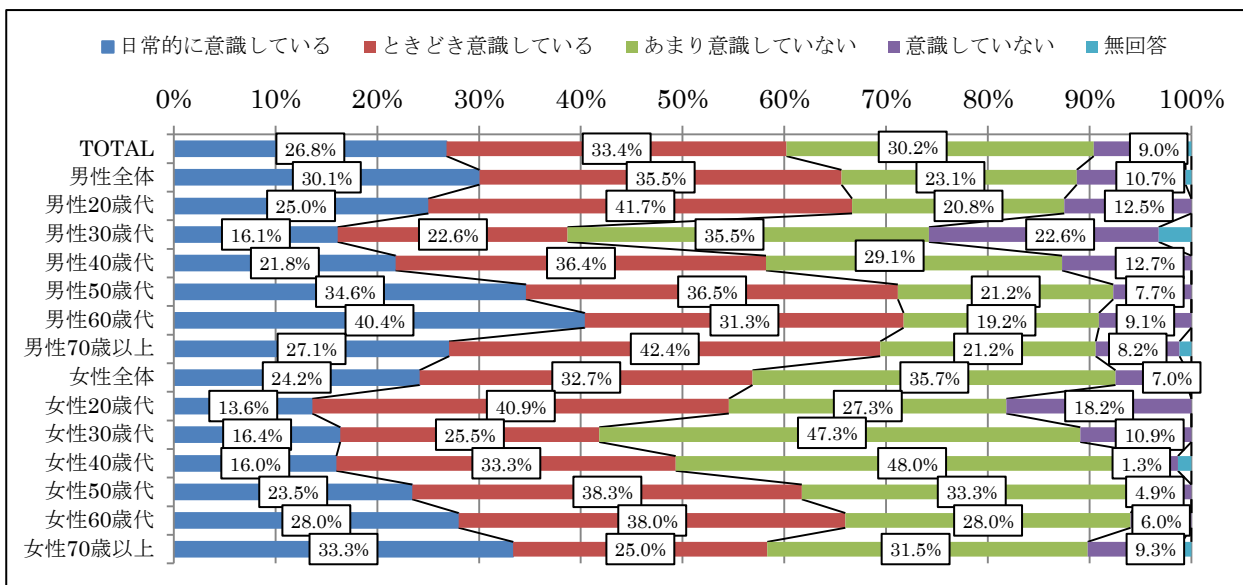
「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合は 60.2%であり、市民の過半数が日頃からお互いの人権を尊重しながら生活していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合は 57.7%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		日常的に意識している	ときどき意識している	あまり意識していない	意識していない	無回答	合計
TOTAL	824	26.8%	33.4%	30.2%	9.0%	0.6%	100.0%
男性全体	346	30.1%	35.5%	23.1%	10.7%	0.6%	100.0%
男性 20 歳代	24	25.0%	41.7%	20.8%	12.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	16.1%	22.6%	35.5%	22.6%	3.2%	100.0%
男性 40 歳代	55	21.8%	36.4%	29.1%	12.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	34.6%	36.5%	21.2%	7.7%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	99	40.4%	31.3%	19.2%	9.1%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	27.1%	42.4%	21.2%	8.2%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	24.2%	32.7%	35.7%	7.0%	0.5%	100.0%
女性 20 歳代	22	13.6%	40.9%	27.3%	18.2%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	16.4%	25.5%	47.3%	10.9%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	16.0%	33.3%	48.0%	1.3%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	23.5%	38.3%	33.3%	4.9%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	100	28.0%	38.0%	28.0%	6.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	33.3%	25.0%	31.5%	9.3%	0.9%	100.0%
女性年齢不詳	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	27.0%	34.7%	30.1%	8.2%	0.0%	100.0%
藤沢地区	56	19.6%	30.4%	33.9%	14.3%	1.8%	100.0%
幡羅地区	106	29.2%	28.3%	32.1%	9.4%	0.9%	100.0%
明戸地区	27	22.2%	40.7%	29.6%	7.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	27.3%	36.4%	31.8%	4.5%	0.0%	100.0%
八基地区	19	26.3%	26.3%	47.4%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	22.2%	33.3%	38.9%	5.6%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	24.4%	43.0%	25.6%	7.0%	0.0%	100.0%
南地区	49	36.7%	22.4%	30.6%	10.2%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	26.1%	30.4%	33.7%	9.8%	0.0%	100.0%
川本地区	64	26.6%	37.5%	25.0%	7.8%	3.1%	100.0%
花園地区	75	30.7%	32.0%	25.3%	12.0%	0.0%	100.0%
無回答	14	14.3%	42.9%	21.4%	14.3%	7.1%	100.0%



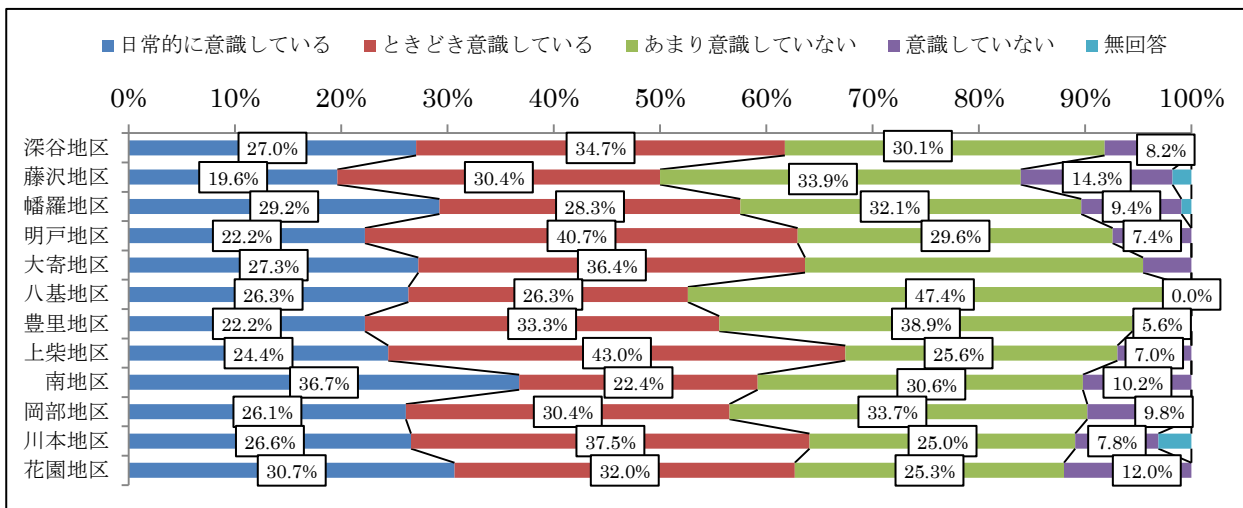
## ➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合は男性が65.6%であるのに対して、女性は56.9%となっています。

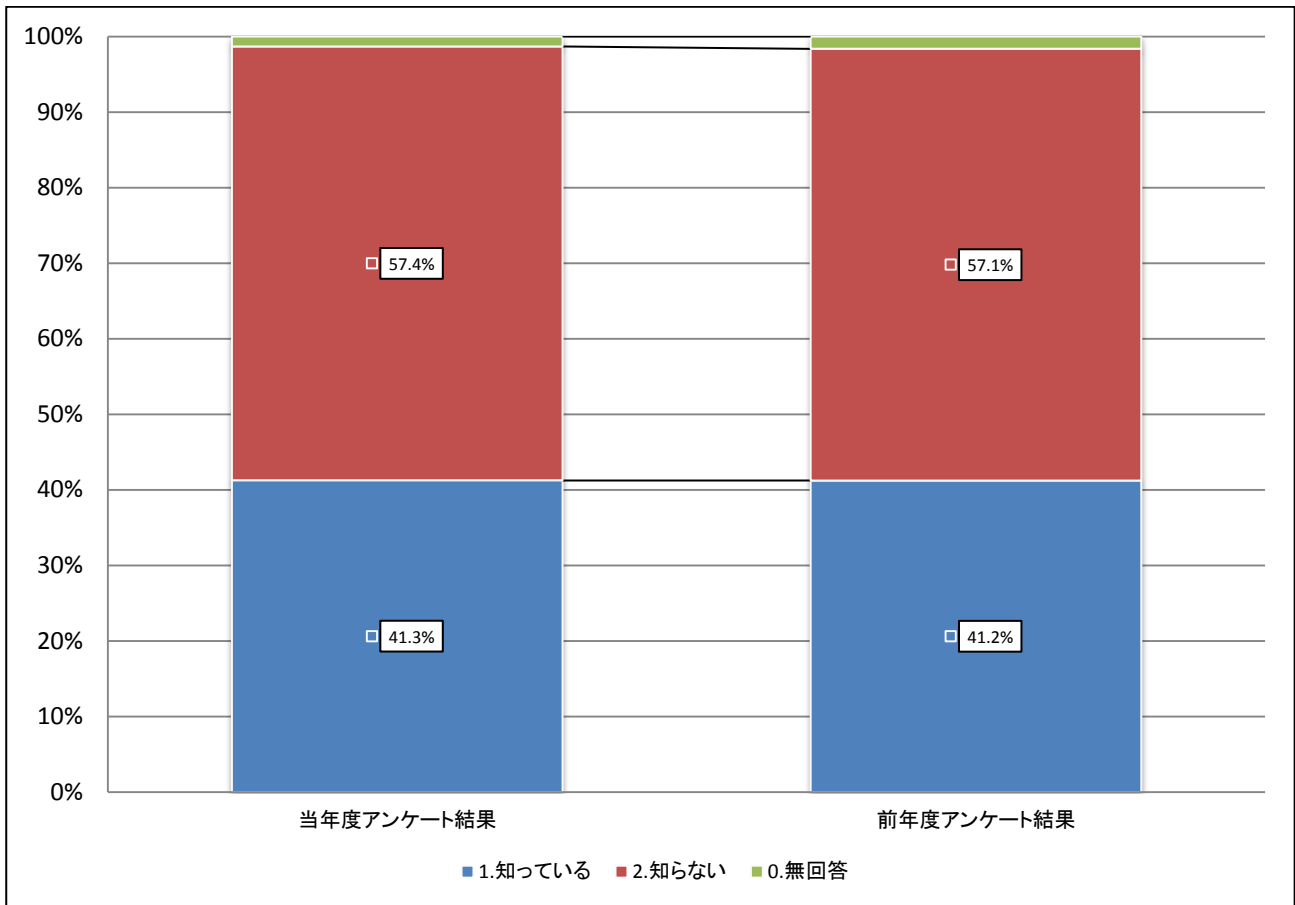
また、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性、女性ともに30歳代（男性38.7%、女性41.9%）であり、一方で、最も多い世代は、男性、女性ともに60歳代（男性71.7%、女性66.0%）となっています。

## ➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合が最も少ないのは、藤沢地区（50.0%）であり、次いで八基地区（52.6%）となっています。最も多いのは上柴地区（67.4%）であり、次に川本地区（64.1%）となっています。

深谷市に人権侵害・DV相談についての窓口があることを知っていますか。

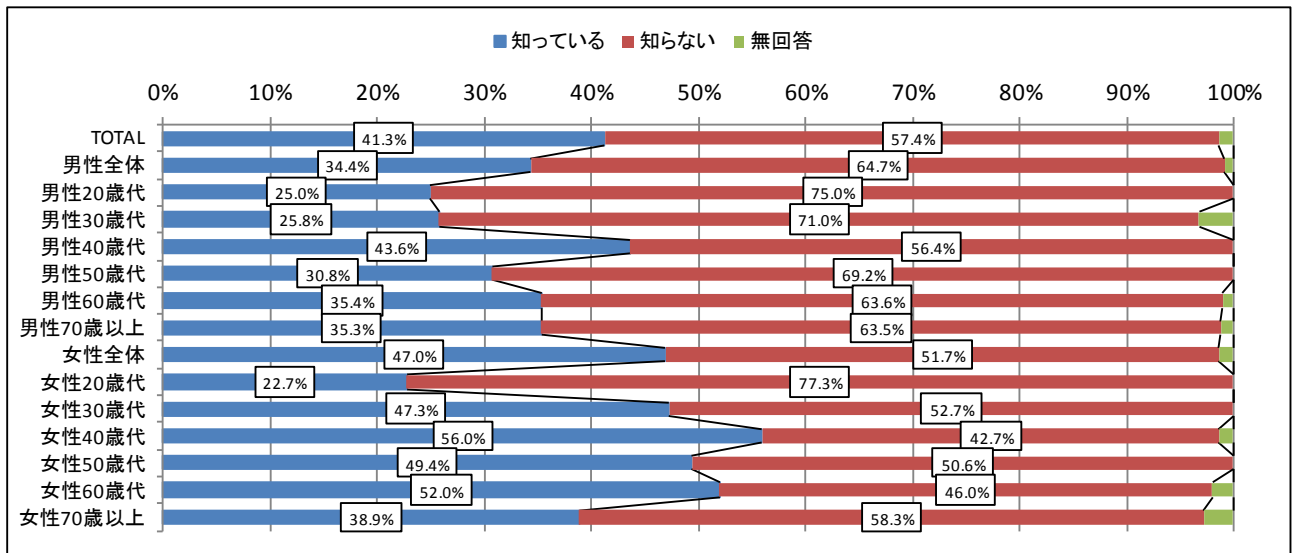


「知らない」と回答した人の割合は 57.4%、「知っている」と回答した人の割合は 41.3% であり、過半数の市民が深谷市に人権侵害・DV 相談についての窓口があることを知らないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「知っている」と回答した人の割合は 41.2% であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		知っている	知らない	無回答	合計
<b>TOTAL</b>	<b>824</b>	<b>41.3%</b>	<b>57.4%</b>	<b>1.3%</b>	<b>100.0%</b>
男性全体	346	34.4%	64.7%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	24	25.0%	75.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	25.8%	71.0%	3.2%	100.0%
男性 40 歳代	55	43.6%	56.4%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	30.8%	69.2%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	99	35.4%	63.6%	1.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	35.3%	63.5%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	47.0%	51.7%	1.4%	100.0%
女性 20 歳代	22	22.7%	77.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	47.3%	52.7%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	56.0%	42.7%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	49.4%	50.6%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	100	52.0%	46.0%	2.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	38.9%	58.3%	2.8%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	37.8%	61.2%	1.0%	100.0%
藤沢地区	56	33.9%	62.5%	3.6%	100.0%
幡羅地区	106	49.1%	50.0%	0.9%	100.0%
明戸地区	27	55.6%	44.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	31.8%	68.2%	0.0%	100.0%
八基地区	19	42.1%	57.9%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	44.2%	53.5%	2.3%	100.0%
南地区	49	46.9%	53.1%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	39.1%	58.7%	2.2%	100.0%
川本地区	64	42.2%	54.7%	3.1%	100.0%
花園地区	75	42.7%	57.3%	0.0%	100.0%
無回答	14	21.4%	78.6%	0.0%	100.0%

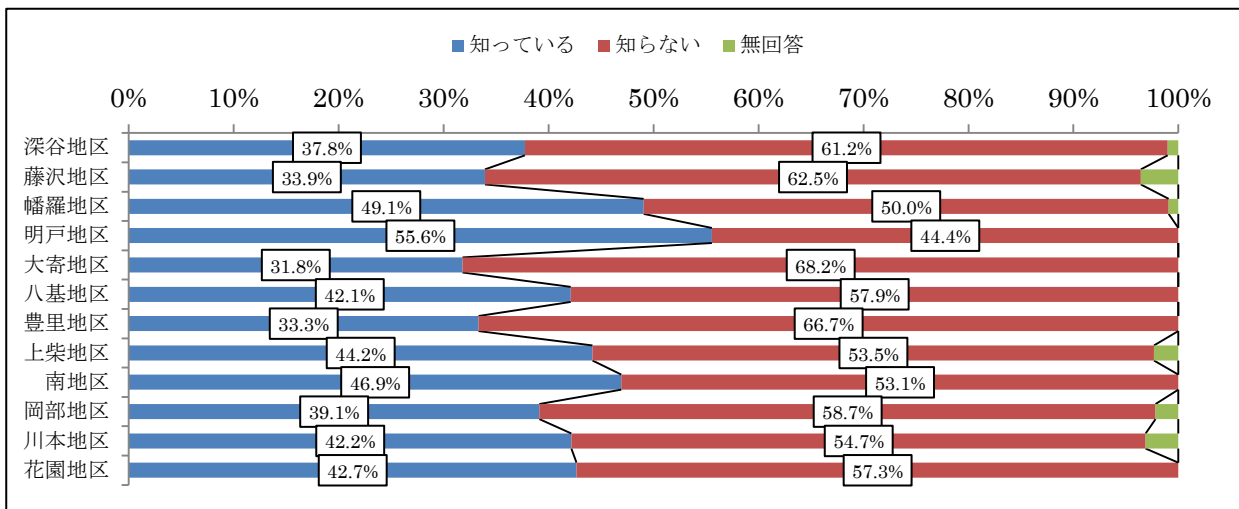
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「知っている」と回答した人の割合は男性が 34.4%であるのに対して、女性は 47.0%となっています。

また、「知っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性、女性ともに 20 歳代（男性 25.0%、女性 22.7%）となっています。一方で、最も多い世代は、男性、女性ともに 40 歳代（男性 43.6%、女性 56.0%）となっています。

➤ 地区別

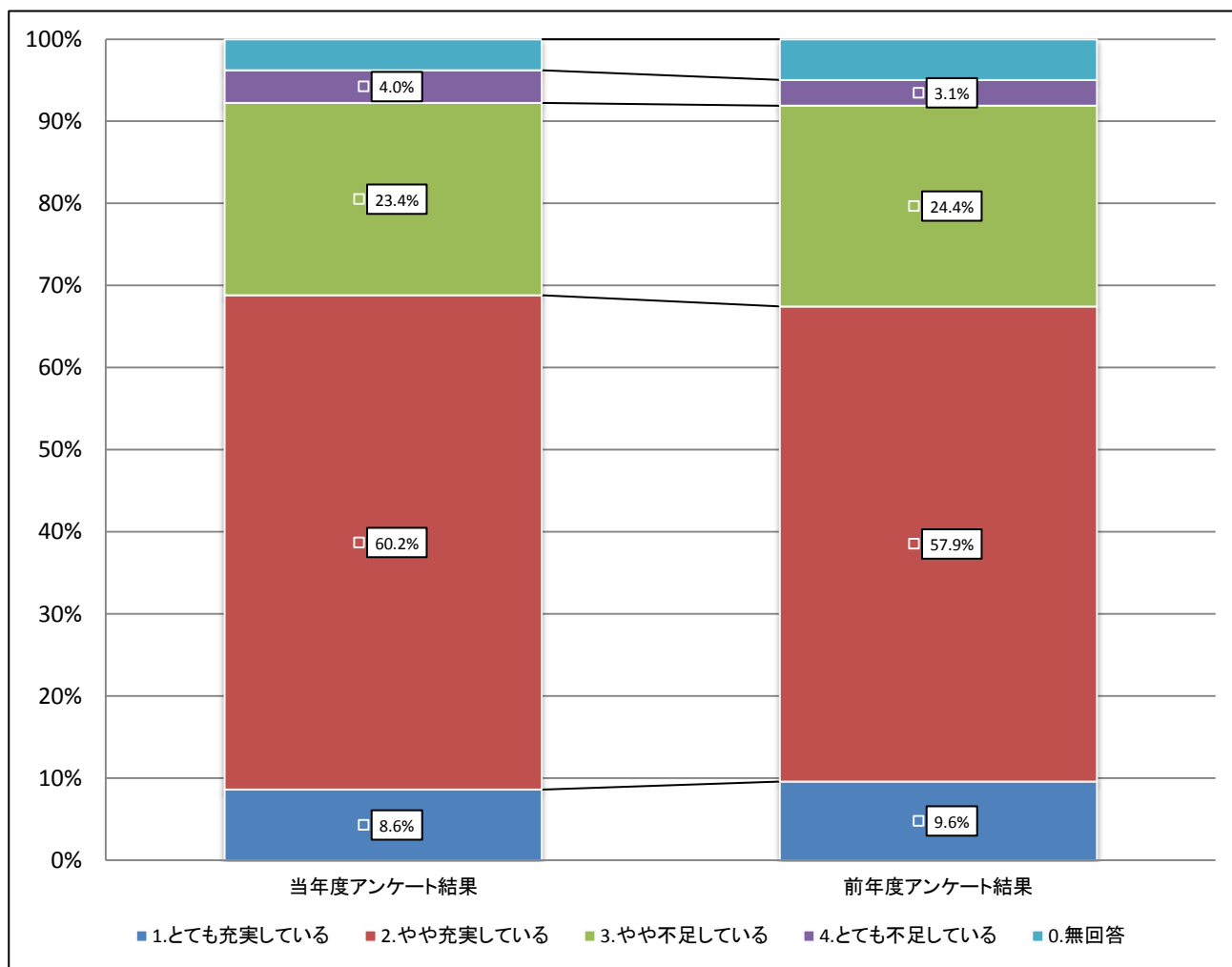


地区別にみると、「知っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区 (31.8%) であり、次いで豊里地区 (33.3%) となっています。最も多いのは明戸地区 (55.6%) であり、次いで幡羅地区 (49.1%) となっています。

## (9) 協働・行財政について

### ① 市民と行政との協働のまちづくり (9. 問1,2)

市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実していますか。



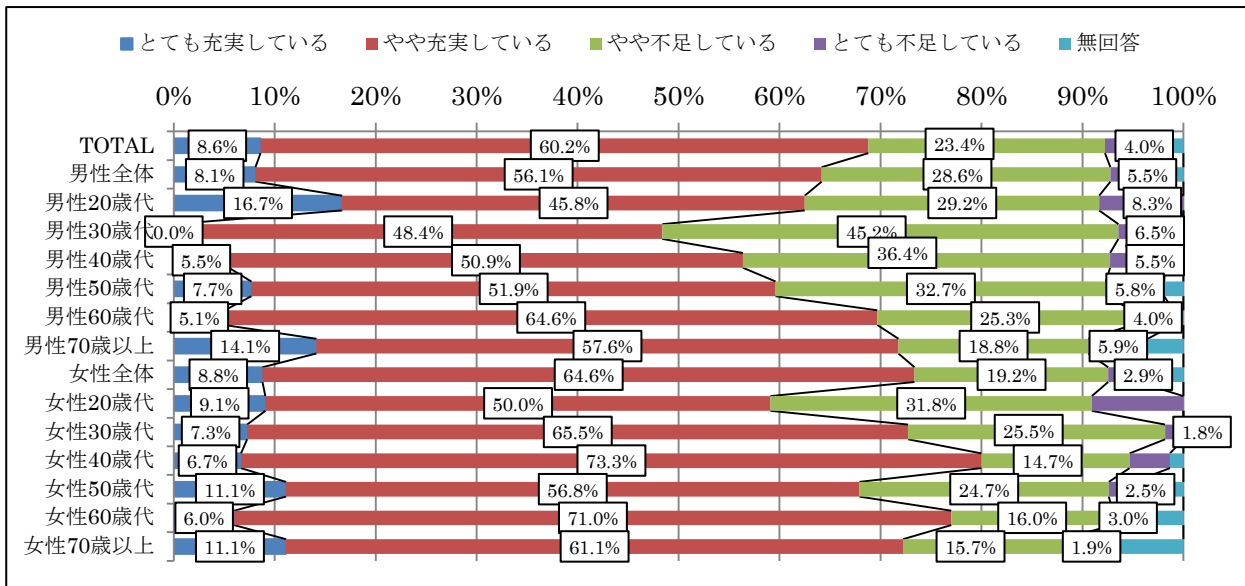
「やや充実している」と回答した人の割合が60.2%と最も多く、次いで「やや不足している」と回答した人の割合が23.4%、「とても充実している」と回答した人の割合が8.6%、「とても不足している」と回答した人の割合が4.0%となっています。

「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合は68.8%であり、市から得られる情報および公表手段は充実していると感じている市民が過半数を占めることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合は67.5%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		とても充実している	やや充実している	やや不足している	とても不足している	無回答	合計
TOTAL	824	8.6%	60.2%	23.4%	4.0%	3.8%	100.0%
男性全体	346	8.1%	56.1%	28.6%	5.5%	1.7%	100.0%
男性 20 歳代	24	16.7%	45.8%	29.2%	8.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	0.0%	48.4%	45.2%	6.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	5.5%	50.9%	36.4%	5.5%	1.8%	100.0%
男性 50 歳代	52	7.7%	51.9%	32.7%	5.8%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	5.1%	64.6%	25.3%	4.0%	1.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	14.1%	57.6%	18.8%	5.9%	3.5%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	8.8%	64.6%	19.2%	2.9%	4.5%	100.0%
女性 20 歳代	22	9.1%	50.0%	31.8%	9.1%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	7.3%	65.5%	25.5%	1.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	6.7%	73.3%	14.7%	4.0%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	11.1%	56.8%	24.7%	2.5%	4.9%	100.0%
女性 60 歳代	100	6.0%	71.0%	16.0%	3.0%	4.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	11.1%	61.1%	15.7%	1.9%	10.2%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	9.2%	63.3%	19.9%	4.1%	3.6%	100.0%
藤沢地区	56	16.1%	50.0%	19.6%	7.1%	7.1%	100.0%
幡羅地区	106	3.8%	58.5%	33.0%	3.8%	0.9%	100.0%
明戸地区	27	14.8%	70.4%	11.1%	0.0%	3.7%	100.0%
大寄地区	22	4.5%	68.2%	18.2%	4.5%	4.5%	100.0%
八基地区	19	10.5%	68.4%	21.1%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	0.0%	66.7%	27.8%	5.6%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	8.1%	64.0%	19.8%	5.8%	2.3%	100.0%
南地区	49	12.2%	61.2%	18.4%	2.0%	6.1%	100.0%
岡部地区	92	6.5%	56.5%	30.4%	2.2%	4.3%	100.0%
川本地区	64	12.5%	57.8%	23.4%	1.6%	4.7%	100.0%
花園地区	75	8.0%	54.7%	25.3%	6.7%	5.3%	100.0%
無回答	14	0.0%	57.1%	28.6%	7.1%	7.1%	100.0%

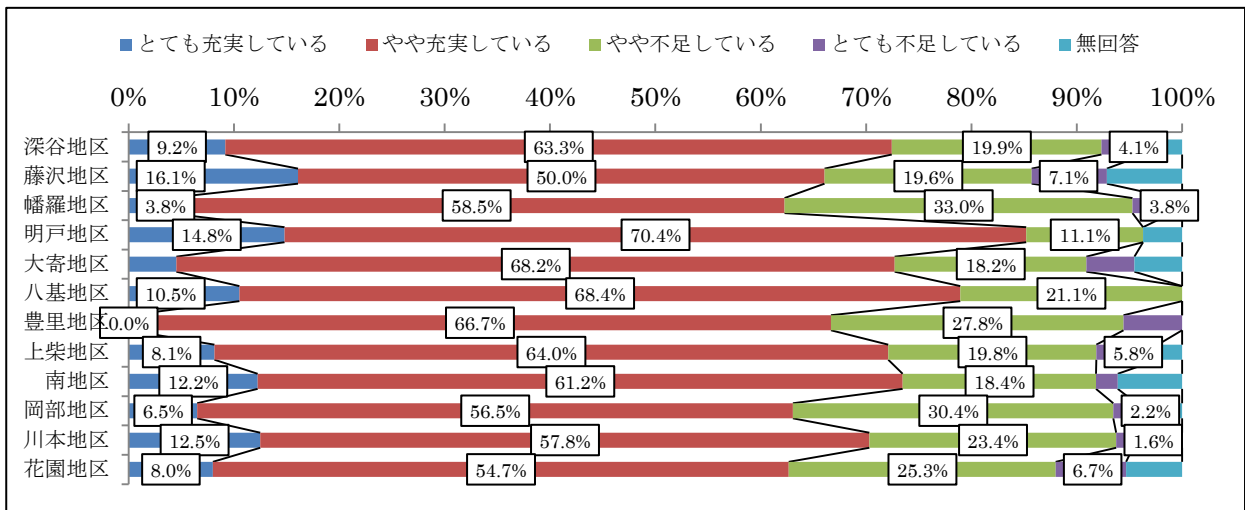
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合は男性が64.2%であるのに対して、女性は73.4%となっています。

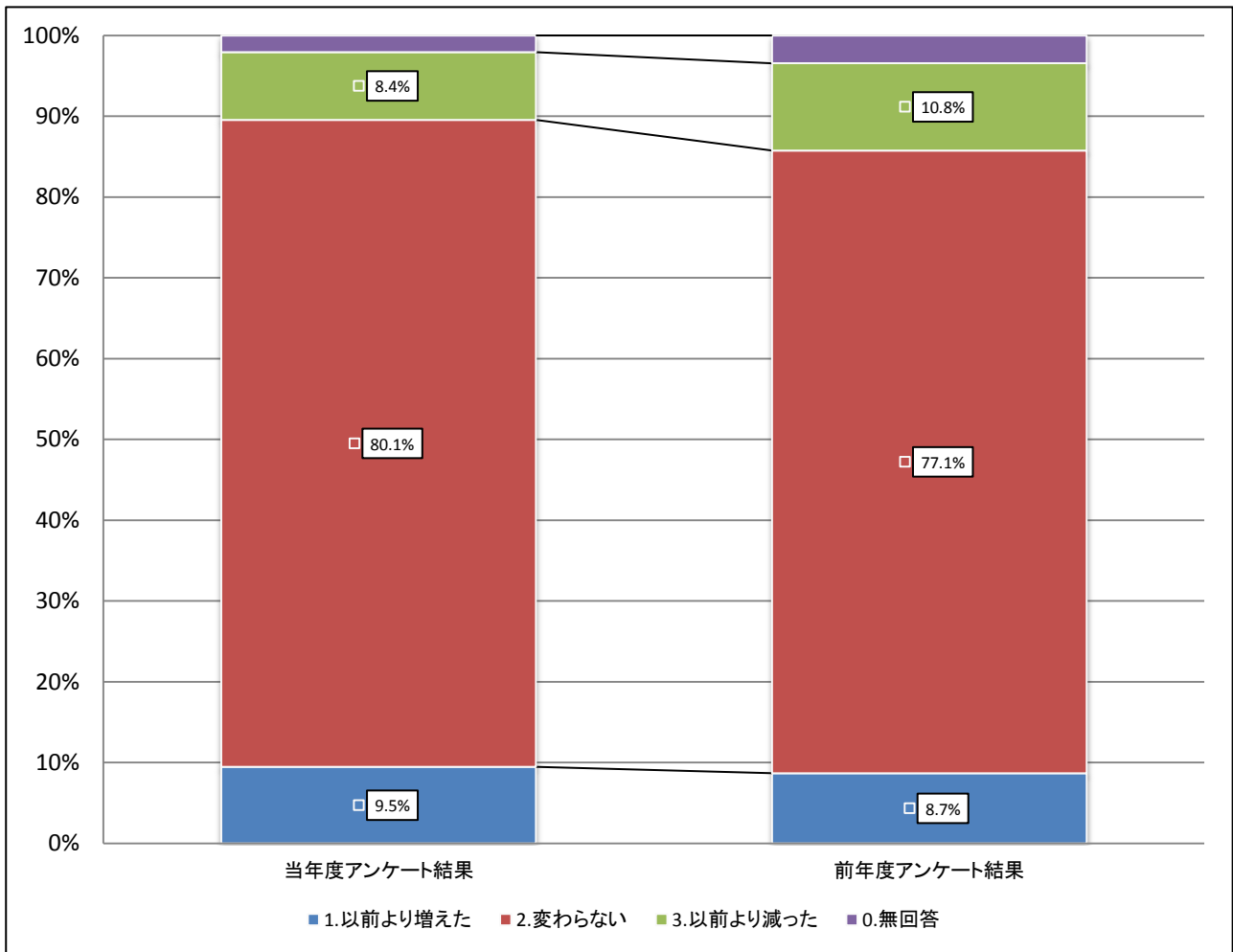
また、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代(48.4%)、女性は20歳代(59.1%)であり、一方で、最も多い世代は、男性が70歳以上(71.7%)であり、女性は40歳代(80.0%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合が最も少ないのは、幡羅地区(62.3%)であり、次いで花園地区(62.7%)となっています。最も多いのは明戸地区(85.2%)であり、次いで八基地区(78.9%)となっています。

市の事業に参加する機会は以前と比べて増えましたか。



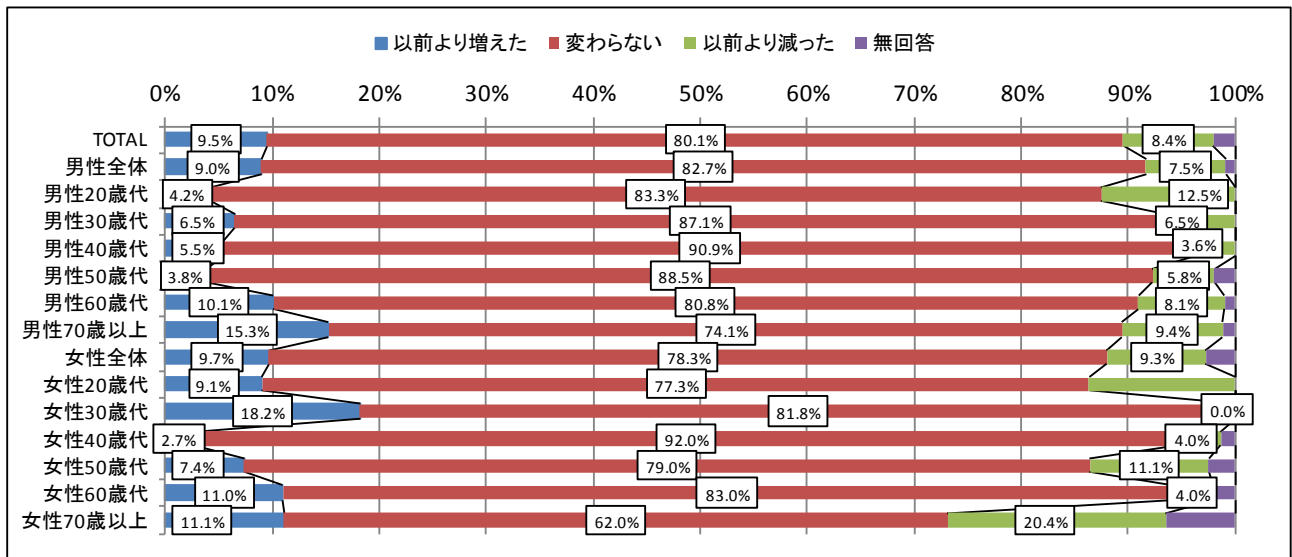
「変わらない」と回答した人の割合が80.1%と最も多く、次いで「以前より増えた」と回答した人の割合が9.5%、「以前より減った」と回答した人の割合が8.4%となっており、大多数の市民が、市の事業に参加する機会は以前と変わらないと感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「以前より増えた」と回答した人の割合は8.7%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。



母集団		以前より増えた	変わらない	以前より減った	無回答	合計
TOTAL	824	9.5%	80.1%	8.4%	2.1%	100.0%
男性全体	346	9.0%	82.7%	7.5%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	24	4.2%	83.3%	12.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	6.5%	87.1%	6.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	55	5.5%	90.9%	3.6%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	3.8%	88.5%	5.8%	1.9%	100.0%
男性 60 歳代	99	10.1%	80.8%	8.1%	1.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	15.3%	74.1%	9.4%	1.2%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	9.7%	78.3%	9.3%	2.7%	100.0%
女性 20 歳代	22	9.1%	77.3%	13.6%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	18.2%	81.8%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	2.7%	92.0%	4.0%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	7.4%	79.0%	11.1%	2.5%	100.0%
女性 60 歳代	100	11.0%	83.0%	4.0%	2.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	11.1%	62.0%	20.4%	6.5%	100.0%
女性年齢不詳	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	5.6%	85.2%	6.1%	3.1%	100.0%
藤沢地区	56	7.1%	78.6%	7.1%	7.1%	100.0%
幡羅地区	106	11.3%	78.3%	10.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	14.8%	70.4%	11.1%	3.7%	100.0%
大寄地区	22	13.6%	68.2%	18.2%	0.0%	100.0%
八基地区	19	10.5%	78.9%	10.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	16.7%	77.8%	5.6%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	8.1%	79.1%	12.8%	0.0%	100.0%
南地区	49	18.4%	73.5%	6.1%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	8.7%	83.7%	5.4%	2.2%	100.0%
川本地区	64	10.9%	78.1%	9.4%	1.6%	100.0%
花園地区	75	8.0%	84.0%	8.0%	0.0%	100.0%
無回答	14	14.3%	64.3%	7.1%	14.3%	100.0%

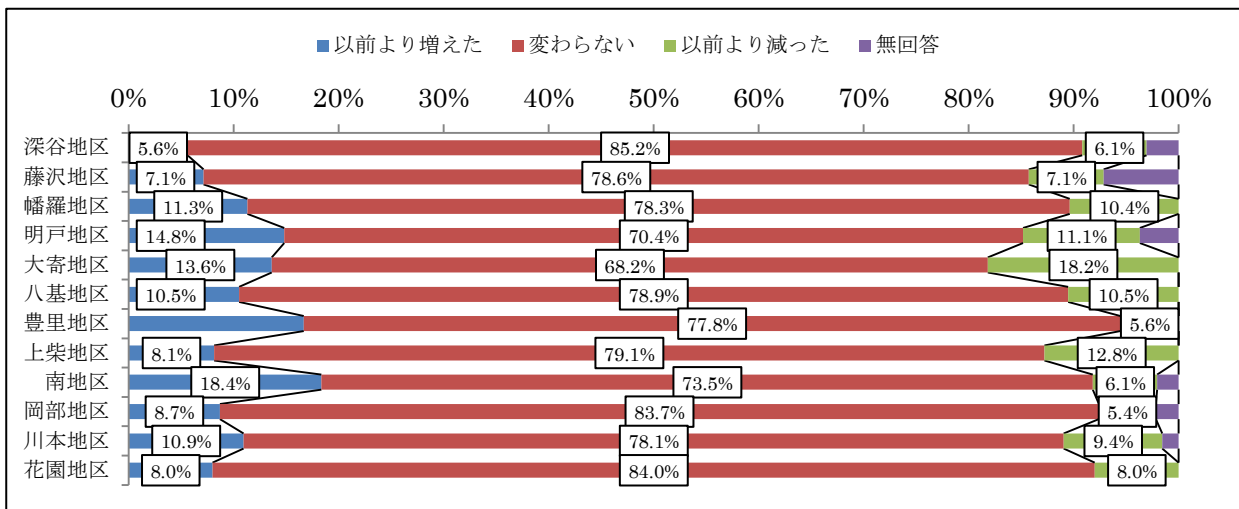
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「以前より増えた」と回答した人の割合は男性が 9.0%であるのに対して、女性は 9.7%となっています。

また、「以前より増えた」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 50 歳代 (3.8%) であり、女性は 40 歳代 (2.7%) であり、一方で、最も多い世代は、男性が 70 歳以上 (15.3%) であり、女性は 30 歳代 (18.2%) となっています。

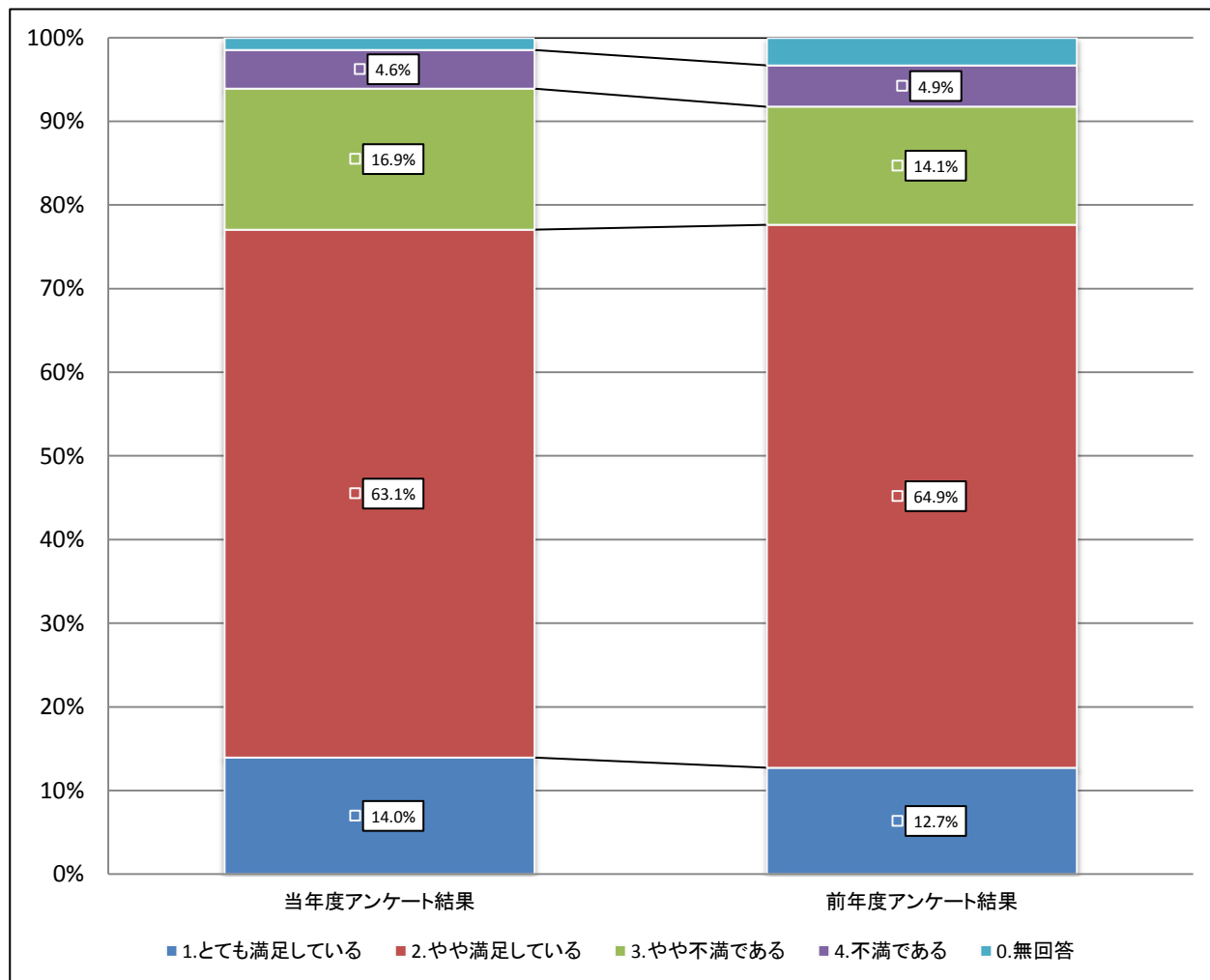
➤ 地区別



地区別にみると、「以前より増えた」と回答した人の割合が最も少ないのは、深谷地区 (5.6%) であり、次いで藤沢地区 (7.1%) となっています。最も多いのは南地区 (18.4%) であり、次いで豊里地区 (16.7%) となっています。

## ② 行財政改革の推進（9. 問3）

市役所の窓口サービスに満足していますか。



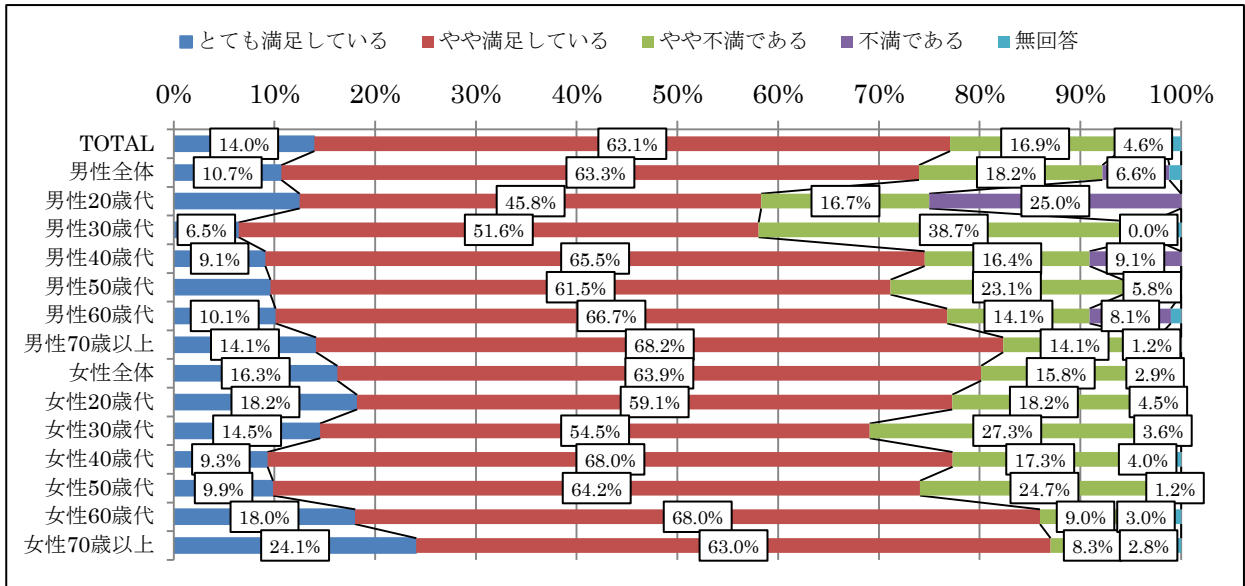
「やや満足している」と回答した人の割合が 63.1%と最も多く、次いで「やや不満である」と回答した人の割合が 16.9%、「とても満足している」と回答した人の割合が 14.0%、「不満である」と回答した人の割合が 4.6%となっています。

「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は、77.1%であり、大多数の市民が、市役所の窓口サービスに満足していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は 77.6%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		とても満足している	やや満足している	やや不満である	不満である	無回答	合計
TOTAL	824	14.0%	63.1%	16.9%	4.6%	1.5%	100.0%
男性全体	346	10.7%	63.3%	18.2%	6.6%	1.2%	100.0%
男性 20 歳代	24	12.5%	45.8%	16.7%	25.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	31	6.5%	51.6%	38.7%	0.0%	3.2%	100.0%
男性 40 歳代	55	9.1%	65.5%	16.4%	9.1%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	52	9.6%	61.5%	23.1%	5.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	99	10.1%	66.7%	14.1%	8.1%	1.0%	100.0%
男性 70 歳以上	85	14.1%	68.2%	14.1%	1.2%	2.4%	100.0%
男性年齢不詳	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性全体	443	16.3%	63.9%	15.8%	2.9%	1.1%	100.0%
女性 20 歳代	22	18.2%	59.1%	18.2%	4.5%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	55	14.5%	54.5%	27.3%	3.6%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	75	9.3%	68.0%	17.3%	4.0%	1.3%	100.0%
女性 50 歳代	81	9.9%	64.2%	24.7%	1.2%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	100	18.0%	68.0%	9.0%	3.0%	2.0%	100.0%
女性 70 歳以上	108	24.1%	63.0%	8.3%	2.8%	1.9%	100.0%
女性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	196	14.3%	66.8%	12.2%	5.6%	1.0%	100.0%
藤沢地区	56	17.9%	51.8%	23.2%	0.0%	7.1%	100.0%
幡羅地区	106	13.2%	61.3%	23.6%	1.9%	0.0%	100.0%
明戸地区	27	22.2%	66.7%	11.1%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	22	9.1%	72.7%	9.1%	4.5%	4.5%	100.0%
八基地区	19	10.5%	73.7%	5.3%	10.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	18	0.0%	72.2%	22.2%	5.6%	0.0%	100.0%
上柴地区	86	18.6%	61.6%	16.3%	3.5%	0.0%	100.0%
南地区	49	24.5%	65.3%	8.2%	2.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	8.7%	64.1%	19.6%	6.5%	1.1%	100.0%
川本地区	64	7.8%	64.1%	18.8%	6.3%	3.1%	100.0%
花園地区	75	9.3%	60.0%	22.7%	6.7%	1.3%	100.0%
無回答	14	35.7%	28.6%	14.3%	14.3%	7.1%	100.0%

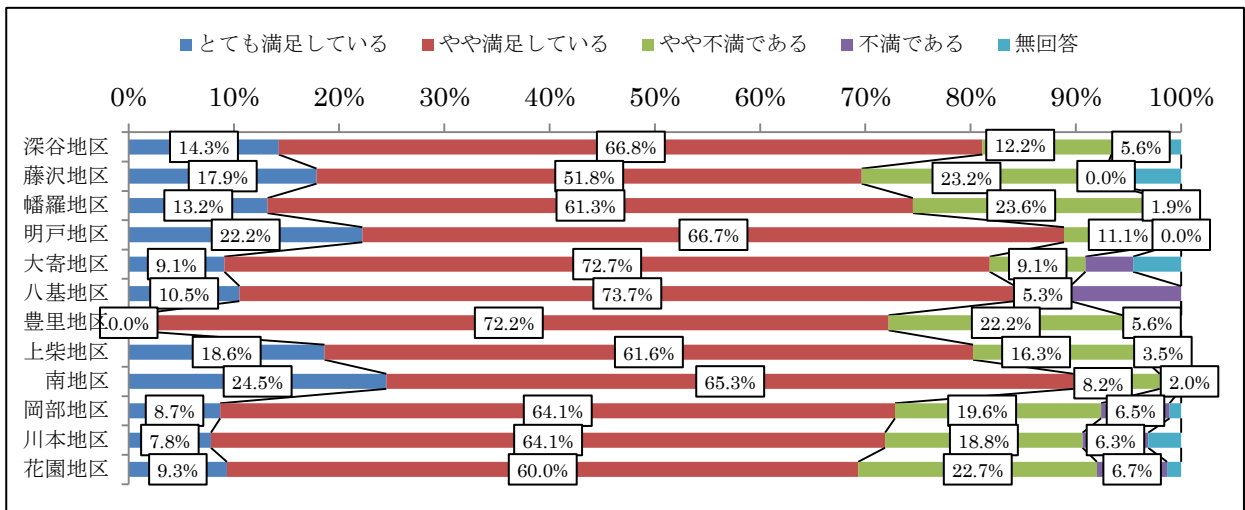
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は男性が74.0%であるのに対して、女性は80.2%となっています。

「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性、女性ともに30歳代（男性58.1%、女性69.0%）であり、一方で、最も多い世代は、男性、女性ともに70歳以上（男性82.3%、女性87.1%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合が最も少ないのは、花園地区（69.3%）であり、次いで藤沢地区（69.7%）となっています。最も多いのは南地区（89.8%）であり、次いで明戸地区（88.9%）となっています。

### 3. 深谷市の施策について

深谷市が行っている施策を重要度と満足度を軸とし、i) 重要度・満足度ともに高い施策、ii) 重要度が高く、満足度が低い施策、iii) 重要度が低く、満足度が高い施策、iv) 重要度・満足度ともに低い施策の4つに分類し、施策の優先順位付けのための分析を実施しました。

なお、重要度・満足度の得点の算出方法につきましては、P.2の1. アンケート調査の実施方法に記載されている注意書きをご参照ください。

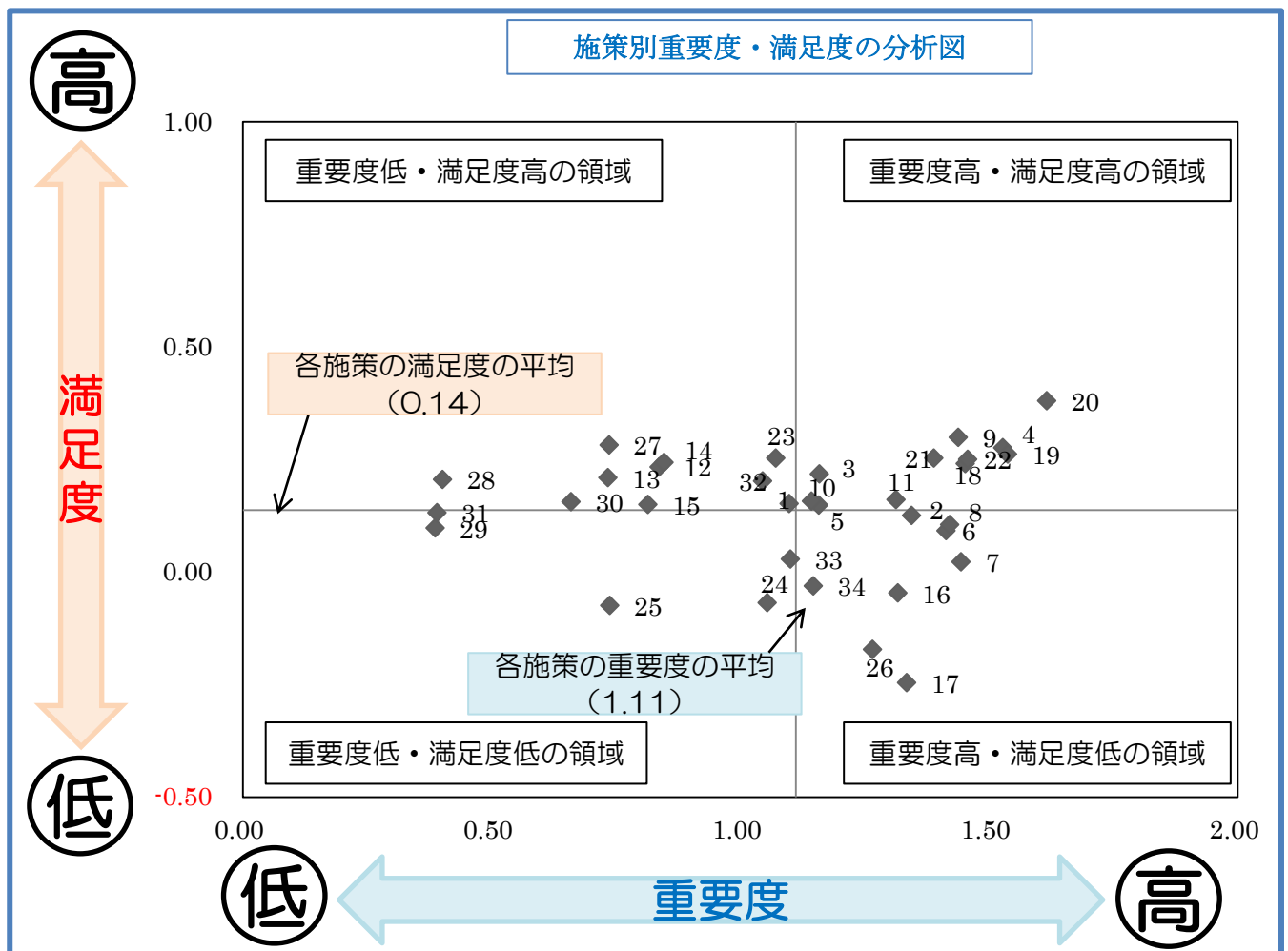
#### (1) 深谷市全体

##### ① 施策別重要度・満足度一覧

施策		重要度	満足度
1.環境	1 快適な空間と景観づくり	1.10	0.15
	2 生活環境の保全と配慮	1.34	0.13
	3 資源循環型社会の推進	1.16	0.22
2.保健・福祉	4 健康づくりの推進と保健・医療の充実	1.53	0.28
	5 互いに支えあう地域社会づくり	1.16	0.15
	6 子育て支援の充実	1.41	0.09
	7 高齢者福祉の充実	1.44	0.02
	8 障害者福祉の充実	1.42	0.10
3.教育・文化	9 学校教育の充実	1.44	0.30
	10 家庭・地域の教育力の向上	1.14	0.16
	11 健全な青少年の育成	1.31	0.16
	12 生涯学習の振興	0.84	0.23
	13 文化・芸術の振興	0.73	0.21
	14 スポーツの振興	0.85	0.24
	15 高等教育機関との連携	0.81	0.15
4.都市・生活基盤	16 都市の発展を支える道路網の形成	1.32	-0.05
	17 市街地・住環境や公共交通の改善	1.33	-0.25
	18 上下水道の整備	1.45	0.24
5.生活安全	19 防災対策の推進	1.54	0.26
	20 消防・救急体制の充実	1.62	0.38
	21 暮らしの安全対策の推進	1.39	0.25
	22 交通安全対策の推進	1.46	0.25
6.産業振興	23 全国に誇る農業の振興	1.07	0.25
	24 活力ある商工業の振興	1.05	-0.07
	25 にぎわいを生む観光の振興	0.74	-0.08
	26 雇用の創出・安定と勤労者への支援	1.27	-0.17
7.コミュニティ・交流	27 市民活動の充実	0.74	0.28
	28 友好都市や地域間との交流の促進	0.40	0.21
	29 国際化へ向けての取り組み	0.39	0.10
	30 男女共同参画の実現	0.66	0.16
	31 ユニバーサルデザインの推進	0.39	0.13
	32 人権を尊重する社会づくり	1.04	0.20
8.協働・行財政	33 市民と行政との協働のまちづくり	1.10	0.03
	34 行財政改革の推進	1.15	-0.03
平均値		1.11	0.14

重要度の平均値は 1.11 となっており、深谷市の実施している施策について、全体的にみて、重要度が高いと認識している市民が多いことがうかがえます。一方で、満足度の平均値は 0.14 と重要度の平均値に比べて低く、行政サービスと市民の期待との間にギャップがあることがうかがえます。

② 施策別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
1	快適な空間と景観づくり	3	資源循環型社会の推進
12	生涯学習の振興	4	健康づくりの推進と保健・医療の充実
13	文化・芸術の振興	5	互いに支えあう地域社会づくり
14	スポーツの振興	9	学校教育の充実
15	高等教育機関との連携	10	家庭・地域の教育力の向上
23	全国に誇る農業の振興	11	健全な青少年の育成
27	市民活動の充実	18	上下水道の整備
28	友好都市や地域間との交流の促進	19	防災対策の推進
30	男女共同参画の実現	20	消防・救急体制の充実
32	人権を尊重する社会づくり	21	くらしの安全対策の推進
		22	交通安全対策の推進
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
24	活力ある商工業の振興	2	生活環境の保全と配慮
25	にぎわいを生む観光の振興	6	子育て支援の充実
29	国際化へ向けての取り組み	7	高齢者福祉の充実
31	ユニバーサルデザインの推進	8	障害者福祉の充実
33	市民と行政との協働のまちづくり	16	都市の発展を支える道路網の形成
		17	市街地・住環境や公共交通の改善
		26	雇用の創出・安定と勤労者への支援
		34	行財政改革の推進



全施策における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の4つに分類し、各施策の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

#### ＜重要度高・満足度高＞

全施策のうち、相対的に重要度が高く、満足度も高い領域には「資源循環型社会の推進」、「健康づくりの推進と保健・医療の充実」、「互いに支えあう地域社会づくり」、「学校教育の充実」、「家庭・地域の教育力の向上」、「健全な青少年の育成」、「上下水道の整備」、「防災対策の推進」、「消防・救急体制の充実」、「くらしの安全対策の推進」、「交通安全対策の推進」の11施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズに即していることがうかがえ、今後も引き続き重点施策として優先して位置づけ、取り組んでいく必要がある施策といえます。

#### ＜重要度高・満足度低＞

全施策のうち、相対的に重要度が高く、満足度が低い領域には、「生活環境の保全と配慮」、「子育て支援の充実」、「高齢者福祉の充実」、「障害者福祉の充実」、「都市の発展を支える道路網の形成」、「市街地・住環境や公共交通の改善」、「雇用の創出・安定と勤労者への支援」、「行財政改革の推進」の8施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えていないことがうかがえます。これらの施策については、施策のあり方を見直す必要性が高い施策であるといえます。

#### ＜重要度低・満足度高＞

全施策のうち、相対的に重要度が低く、満足度が高い領域には、「快適な空間と景観づくり」、「生涯学習の振興」、「文化・芸術の振興」、「スポーツの振興」、「高等教育機関との連携」、「全国に誇る農業の振興」、「市民活動の充実」、「友好都市や地域間との交流の促進」、「男女共同参画の実現」、「人権を尊重する社会づくり」の10施策が該当します。

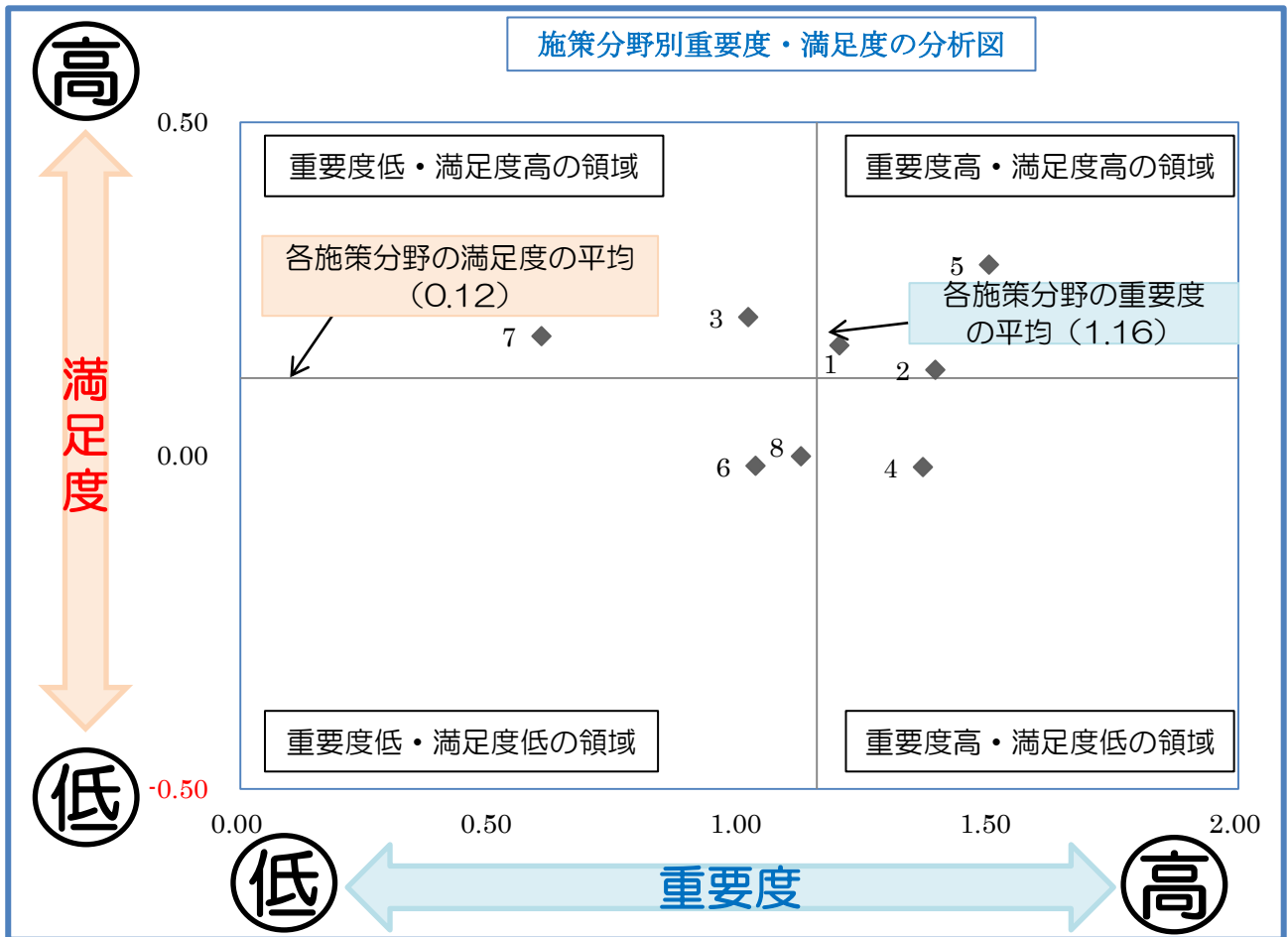
この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズを上回る行政サービスを提供している可能性もあり、行政サービスの提供が過剰となっていないかどうか確認する必要があります。

#### ＜重要度低・満足度低＞

全施策のうち、相対的に重要度が低く、満足度も低い領域には、「活力ある商工業の振興」、「にぎわいを生む観光の振興」、「国際化へ向けての取り組み」、「ユニバーサルデザインの推進」、「市民と行政との協働のまちづくり」の5施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民の関心度が低い施策であり、そもそも行政で対応すべきであるのかについて検討する必要があります。

③ 施策分野別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
3	教育・文化	1	環境
7	コミュニティ・交流	2	保健・福祉
		5	生活安全
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
6	産業振興	4	都市・生活基盤
8	協働・行財政		

全施策分野における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の4つに分類し、各施策分野の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

＜重要度高・満足度高＞に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度および満足度の双方が高い施策分野であり、「環境」、「保健・福祉」、「生活安全」の3分野が該当します。

＜重要度高・満足度低＞に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度は高いものの、満足度が低い施策分野であり、「都市・生活基盤」の1分野が該当します。

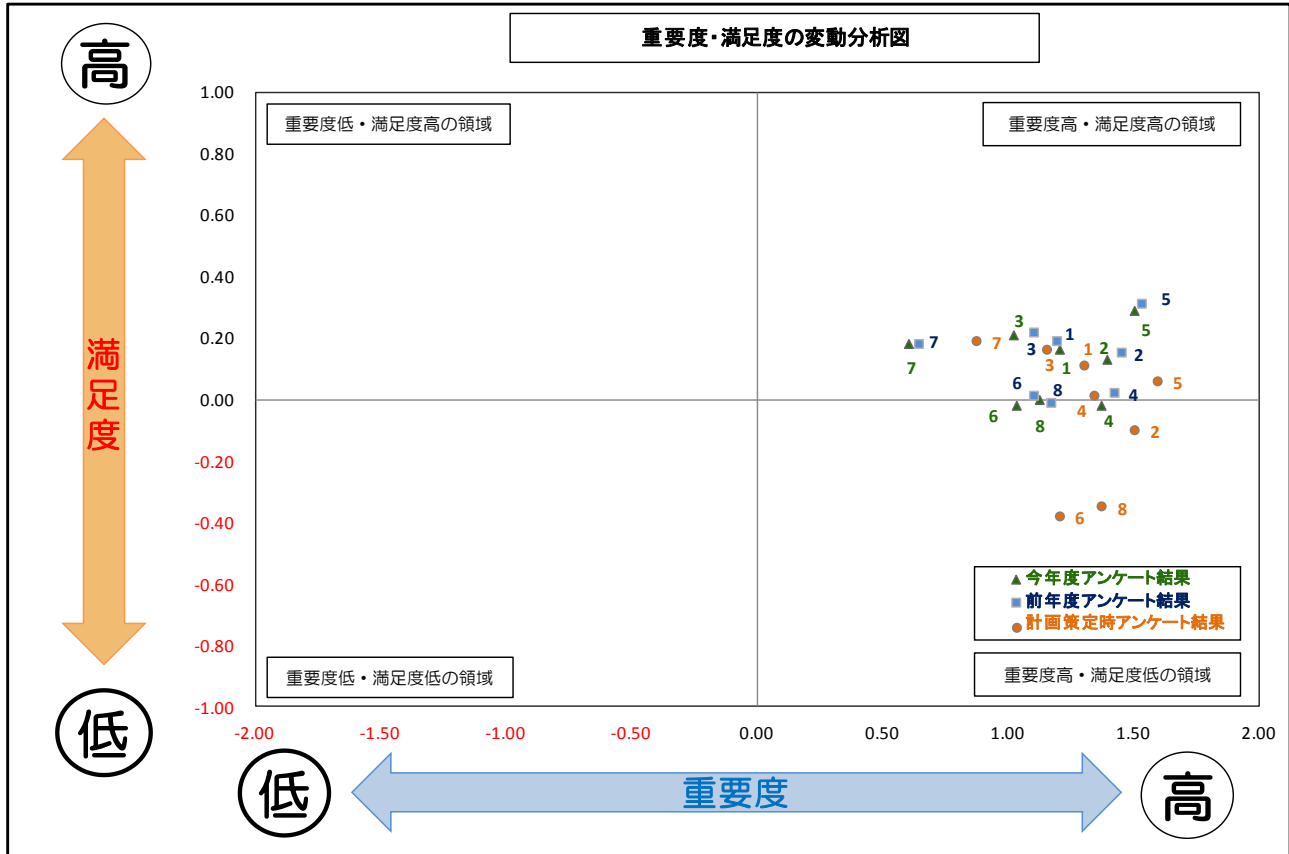
これらの施策分野については、市民にとって重要度が高い施策分野であるにも関わらず、満足度が低いことから、他の施策分野に比べて優先順位が高い分野と捉えることができます

＜重要度低・満足度高＞に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度は高いものの、満足度が低い施策分野であり、「教育・文化」、「コミュニティ・交流」の2分野が該当します。

＜重要度低・満足度低＞に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度および満足度の双方が低い施策分野であり、「産業振興」、「協働・行財政」の2分野が該当します。

⑤ 施策分野別重要度・満足度の時系列比較

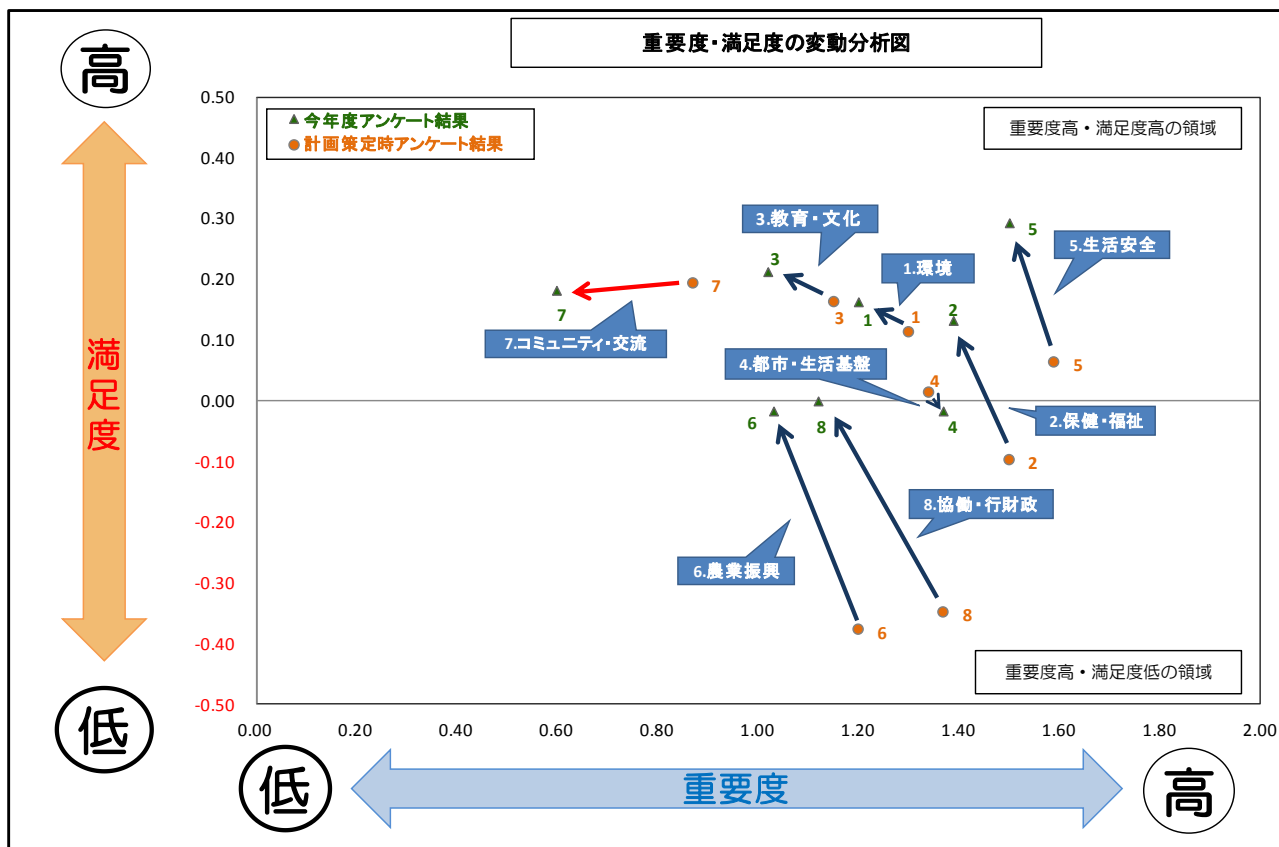
重要度・満足度について、0を基準とし、重要度・満足度を<重要度高・満足度高>、<重要度高・満足度低>、<重要度低・満足度高>、<重要度低・満足度低>の4つに分類しました。ここでは、後期基本計画策定時のアンケート結果および前年度アンケート結果と今年度アンケート結果とを比較し、各施策分野の重要度および満足度の変動分析を実施しました。



施策分野	重要度			増減		満足度			増減	
	策定時	前年度	今年度	(対)策定時	(対)前年度	策定時	前年度	今年度	(対)策定時	(対)前年度
1 環境	1.30	1.19	1.20	-0.10	-0.11	0.11	0.19	0.16	0.05	0.08
2 保健・福祉	1.50	1.45	1.39	-0.11	-0.05	-0.10	0.15	0.13	0.23	0.25
3 教育・文化	1.15	1.10	1.02	-0.13	-0.05	0.16	0.22	0.21	0.05	0.06
4 都市・生活基盤	1.34	1.42	1.37	0.03	0.08	0.01	0.02	-0.02	-0.03	0.01
5 生活安全	1.59	1.53	1.50	-0.09	-0.06	0.06	0.31	0.29	0.23	0.25
6 産業振興	1.20	1.10	1.03	-0.17	-0.1	-0.38	0.01	-0.02	0.36	0.39
7 コミュニティ・交流	0.87	0.64	0.60	-0.27	-0.23	0.19	0.18	0.18	-0.01	-0.01
8 協働・行財政	1.37	1.17	1.12	-0.25	-0.2	-0.35	-0.01	-0.002	0.35	0.34
平均値	1.29	1.20	1.16	-0.13	-0.09	-0.04	0.13	0.12	0.15	0.17

計画策定時アンケート結果に比べ、重要度の平均値は0.13ポイント減少している一方で、満足度の平均値は0.16ポイント増加しています。また、前年度アンケート結果との比較においては、重要度の平均値は0.04ポイント減少、満足度の平均値は0.01ポイント減少しています。全ての施策分野において、重要度が0を上回っていることから、深谷市の実施している施策分野が市民ニーズと合致していることがうかがえます。一方で満足度は、「8. 協働・行財政」「6.生活安全」「4.都市・生活基盤」が0を下回っており、市民の期待と行政サービスとの間にギャップがあることがうかがえます。

<計画策定時アンケートとの比較>

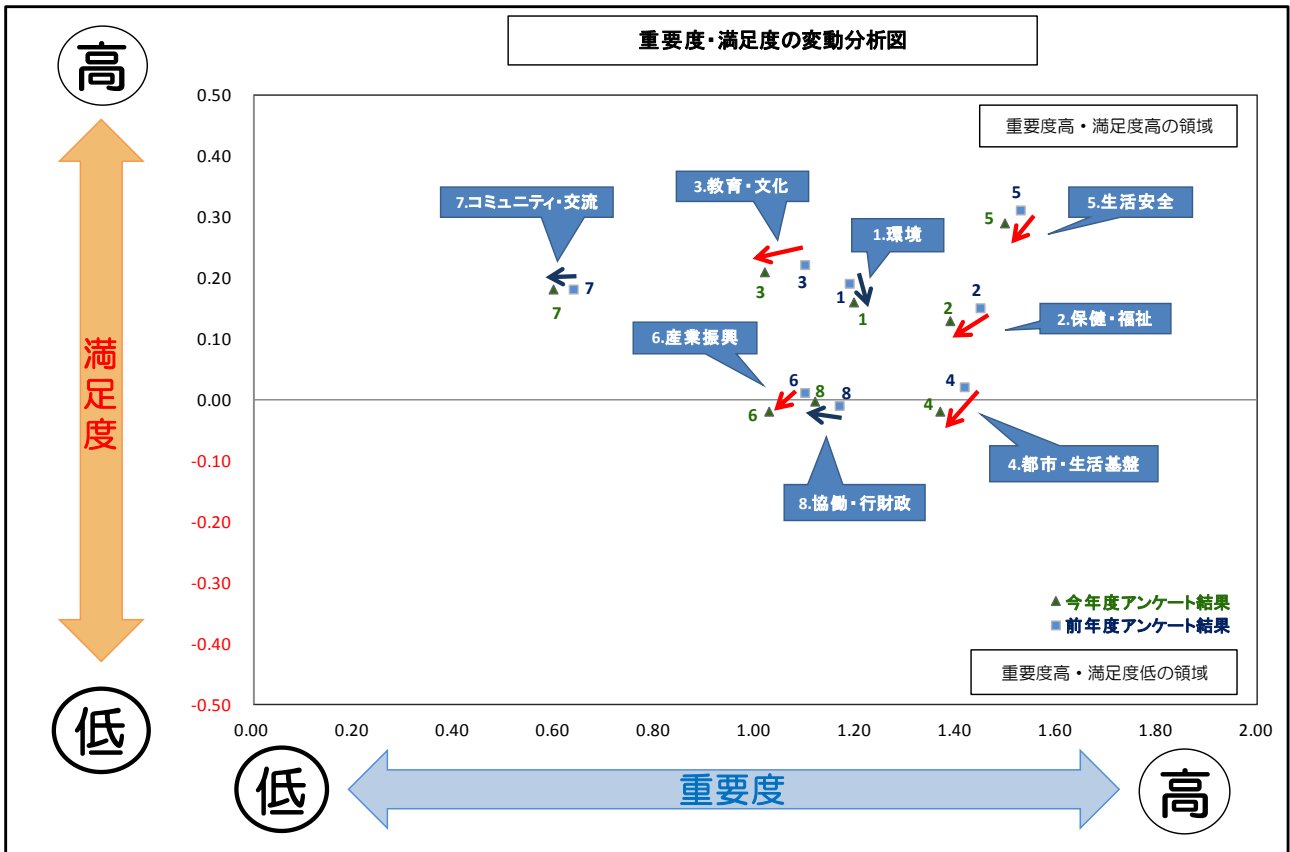


8つの施策分野のうち、計画策定時アンケート結果より重要度および満足度の双方が低下した施策分野は 7. コミュニティ・交流となっています。また、重要度は低下したものの、満足度が上昇した施策分野として 1. 環境、2. 保健・福祉、3. 教育・文化、5. 生活安全、6. 産業振興、8. 協働・行財政があります。

さらに、いずれもほぼ変化していない施策分野として 4. 都市・生活基盤があります。

2. 保健・福祉、6. 産業振興の施策分野については、計画策定時のアンケート結果において、重要度高・満足度低に分類されていましたが、今回のアンケート結果により、重要度高・満足度高の領域に移行しております。

<前年度アンケートとの比較>



8つの施策分野のうち、前年度アンケート結果より重要度および満足度の双方が低下した施策分野は2. 保健・福祉、3. 教育・文化、4. 都市・生活基盤、5. 生活安全、6. 産業振興となっています。

また、満足度は低下したものの、重要度が上昇した施策分野として1. 環境、があります。

さらに、満足度は前年と同じで、重要度が低下している施策分野として、7. コミュニティ・交流、8. 協働・行財政があります。

⑤ 施策別重要度・満足度の時系列比較

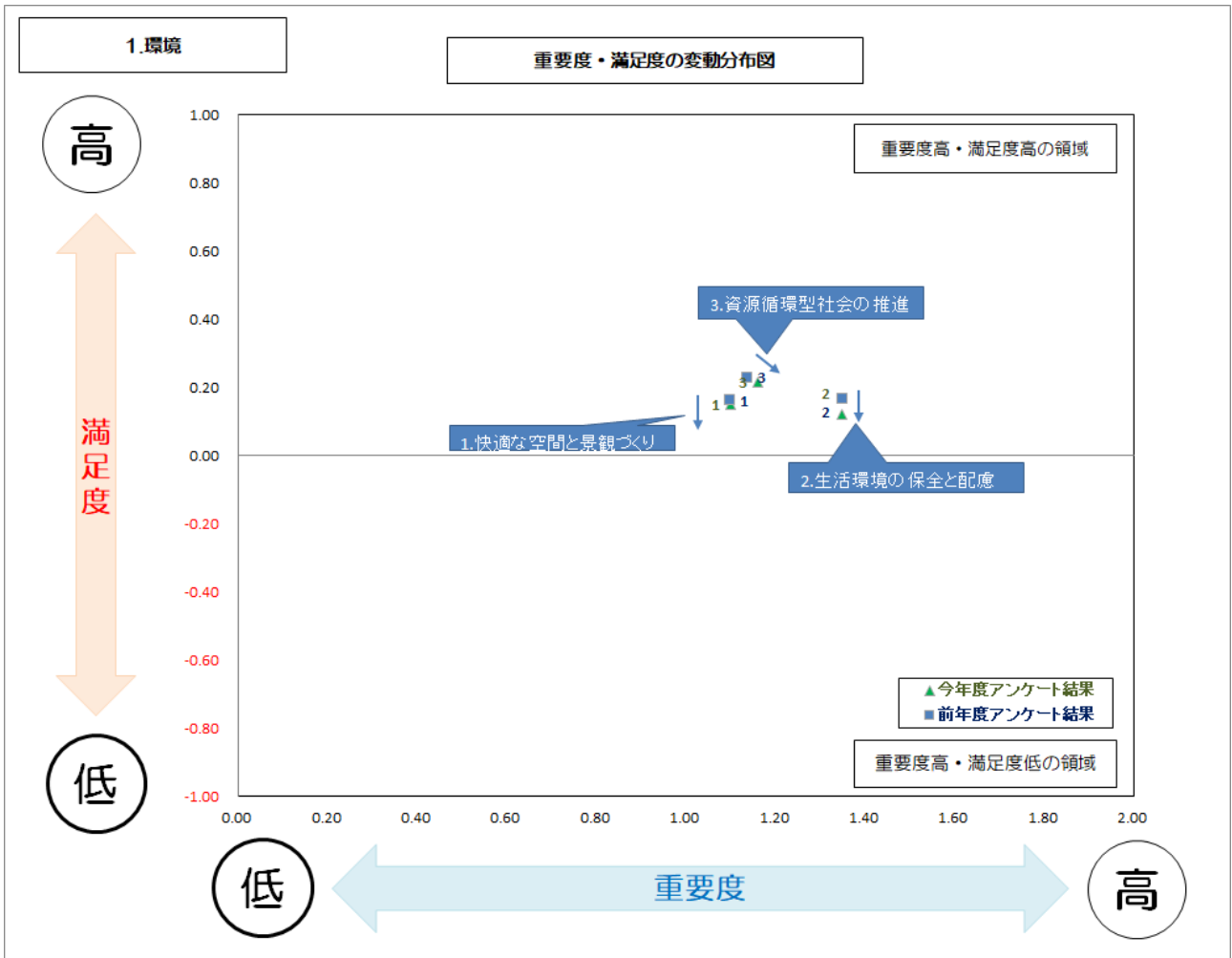
重要度・満足度について、0を基準とし、重要度・満足度を<重要度高・満足度高>、<重要度高・満足度低>、<重要度低・満足度高>、<重要度低・満足度低>の4つに分類しました。ここでは、前年度アンケート結果と今年度アンケート結果とを比較し、各施策の重要度および満足度の変動分析を実施しました。

施策			重要度		増減	満足度		増減
			前年度	今年度		前年度	今年度	
1.環境	1	快適な空間と景観づくり	1.10	1.10	0.00	0.16	0.15	-0.01
	2	生活環境の保全と配慮	1.35	1.34	-0.00	0.17	0.13	-0.04
	3	資源循環型社会の推進	1.13	1.16	0.02	0.23	0.22	-0.01
2.保健・福祉	4	健康づくりの推進と保健・医療の充実	1.59	1.53	-0.06	0.29	0.28	-0.01
	5	互いに支えあう地域社会づくり	1.27	1.16	-0.11	0.16	0.15	-0.01
	6	子育て支援の充実	1.44	1.41	-0.02	0.11	0.09	-0.02
	7	高齢者福祉の充実	1.52	1.44	-0.07	0.05	0.02	-0.03
3.教育・文化	8	障害者福祉の充実	1.42	1.42	0.00	0.13	0.10	-0.03
	9	学校教育の充実	1.53	1.44	-0.09	0.36	0.30	-0.06
	10	家庭・地域の教育力の向上	1.24	1.14	-0.10	0.17	0.16	-0.02
	11	健全な青少年の育成	1.38	1.31	-0.07	0.13	0.16	0.03
	12	生涯学習の振興	0.93	0.84	-0.09	0.24	0.23	-0.01
	13	文化・芸術の振興	0.80	0.73	-0.07	0.23	0.21	-0.02
	14	スポーツの振興	0.96	0.85	-0.11	0.27	0.24	-0.02
4.都市・生活基盤	15	高等教育機関との連携	0.85	0.81	-0.03	0.11	0.15	0.04
	16	都市の発展を支える道路網の形成	1.36	1.32	-0.04	-0.06	-0.05	0.02
	17	市街地・住環境や公共交通の改善	1.41	1.33	-0.08	-0.20	-0.25	-0.04
5.生活安全	18	上下水道の整備	1.48	1.45	-0.03	0.33	0.24	-0.09
	19	防災対策の推進	1.58	1.54	-0.04	0.25	0.26	0.01
	20	消防・救急体制の充実	1.63	1.62	-0.02	0.45	0.38	-0.07
	21	くらしの安全対策の推進	1.44	1.39	-0.05	0.27	0.25	-0.02
6.産業振興	22	交通安全対策の推進	1.48	1.46	-0.03	0.27	0.25	-0.02
	23	全国に誇る農業の振興	1.15	1.07	-0.08	0.35	0.25	-0.10
	24	活力ある商工業の振興	1.09	1.05	-0.03	-0.04	-0.07	-0.03
	25	にぎわいを生む観光の振興	0.78	0.74	-0.04	-0.07	-0.08	-0.00
7.コミュニティ・交流	26	雇用の創出・安定と勤労者への支援	1.37	1.27	-0.10	-0.21	-0.17	0.04
	27	市民活動の充実	0.75	0.74	-0.02	0.28	0.28	-0.00
	28	友好都市や地域間との交流の促進	0.44	0.40	-0.04	0.20	0.21	0.00
	29	国際化へ向けての取り組み	0.43	0.39	-0.04	0.10	0.10	-0.00
	30	男女共同参画の実現	0.66	0.66	0.01	0.13	0.16	0.03
	31	ユニバーサルデザインの推進	0.47	0.39	-0.08	0.15	0.13	-0.02
8.協働・行財政	32	人権を尊重する社会づくり	1.10	1.04	-0.06	0.19	0.20	0.01
	33	市民と行政との協働のまちづくり	1.16	1.10	-0.06	0.01	0.03	0.02
	34	行財政改革の推進	1.17	1.15	-0.02	-0.03	-0.03	0.00
平均			1.16	1.11	-0.05	0.15	0.14	-0.01

前年度アンケート結果に比べ、重要度の平均値は0.05ポイント減少しており、満足度の平均値については、0.01ポイント減少しています。しかし全体としては、深谷市の実施している施策が市民の期待に応えられていることがうかがえます。

加えて、全ての施策分野において、重要度が0を上回っていることから、深谷市の実施している施策分野が市民ニーズと合致していることがうかがえます。一方で満足度は、4.都市・生活基盤、6.産業振興、8.協働・行財政分野において、0に満たない施策が存在し、市民の期待と行政サービスとの間にギャップのみられる施策があることがうかがえます。

< 1. 環境 >

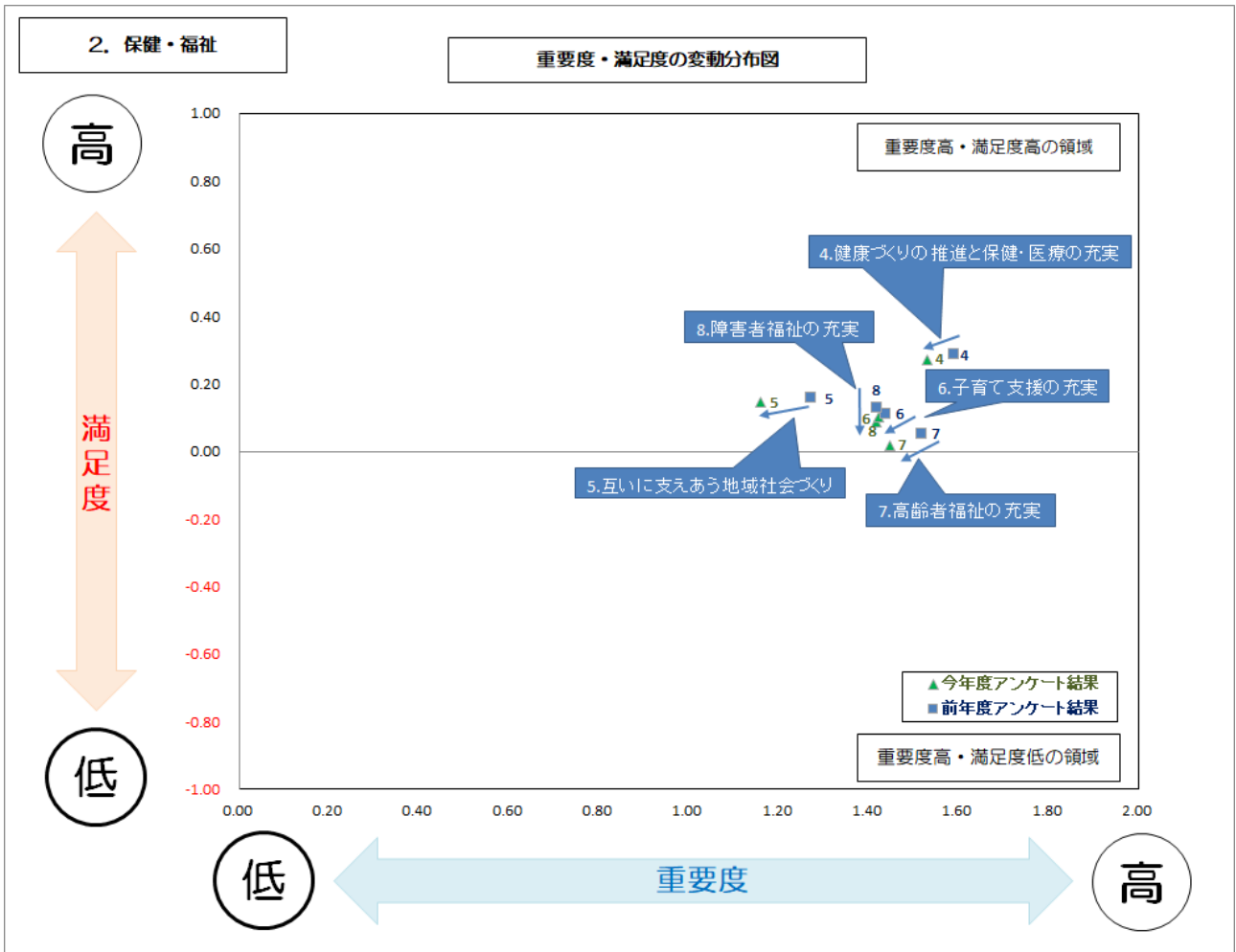


環境分野に係る施策は3施策あり、全ての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

前年度アンケート結果より、重要度が1. 快適な空間と景観づくりでは変動なし、3. 資源循環型社会の推進では増加しており、その他全ての施策で重要度と満足度が低下しております。



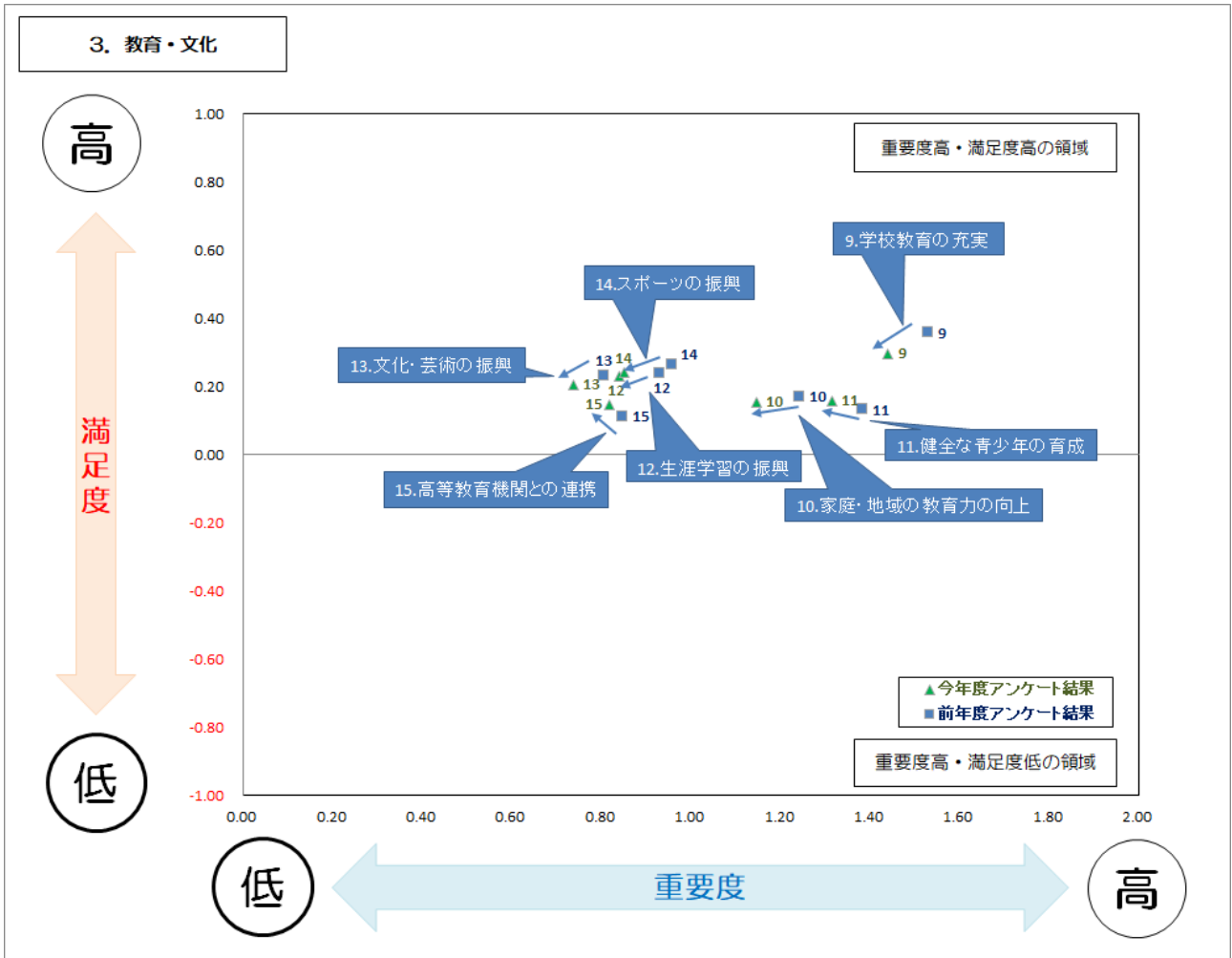
< 2. 保健・福祉 >



保健・福祉分野に係る施策は5施策あり、全ての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

前年度アンケート結果より、8. 障害者福祉の充実の重要度をのぞく全ての施策で重要度と満足度が低下しております。

### < 3. 教育・文化 >

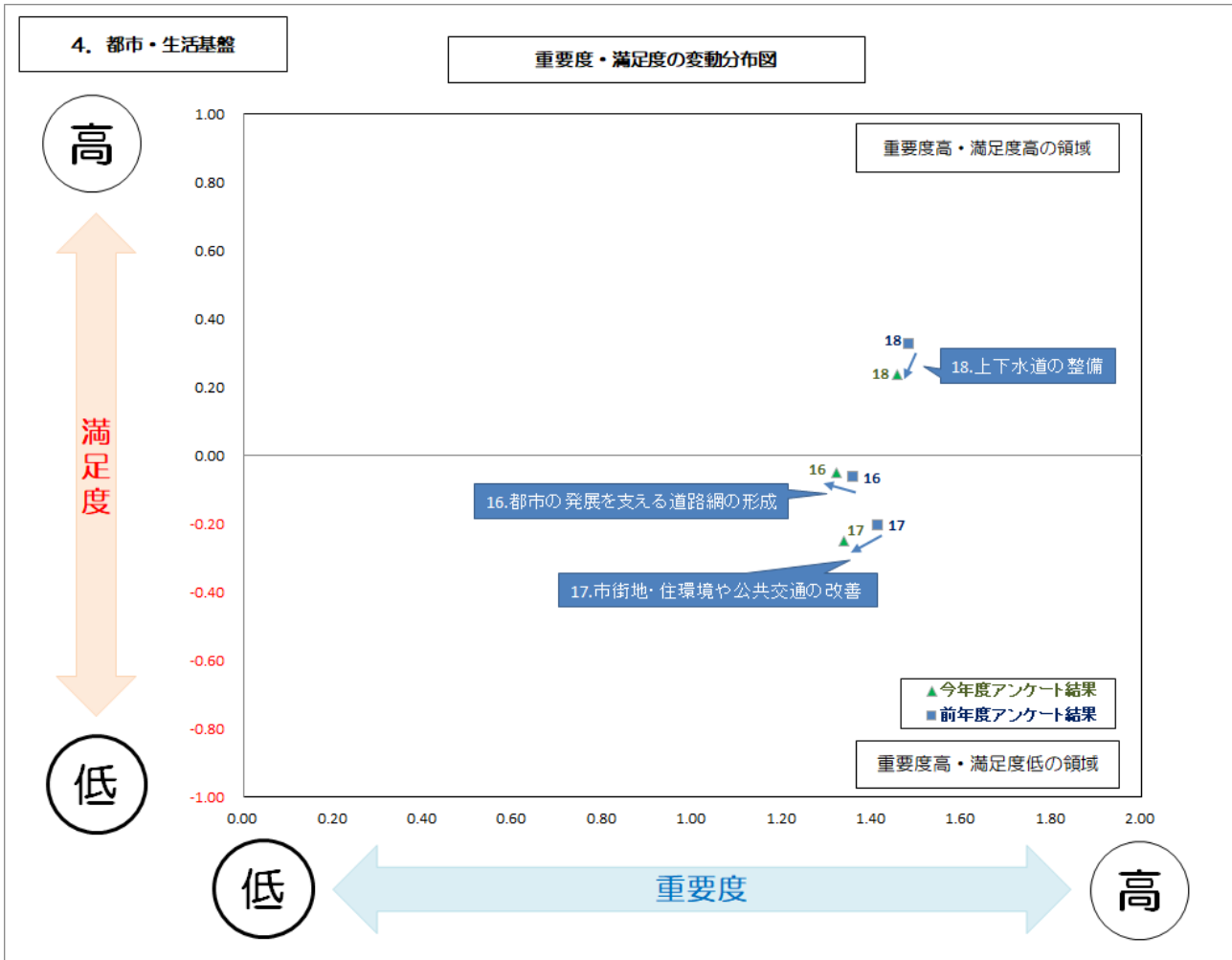


教育・文化分野に係る施策は7施策あり、全ての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

前年度アンケート結果より、「9. 学校教育の充実」、「10. 家庭・地域の教育力の向上」、「12. 生涯学習の振興」、「13. 文化・芸術の振興」、「14. スポーツの振興」の5施策では、重要度と満足度が低下しております。

また、重要度が低下したものの、満足度が上昇した施策としては、「11. 健全な青少年の育成」、「15. 高等教育機関との連携」が挙げられます。

< 4. 都市・生活基盤 >

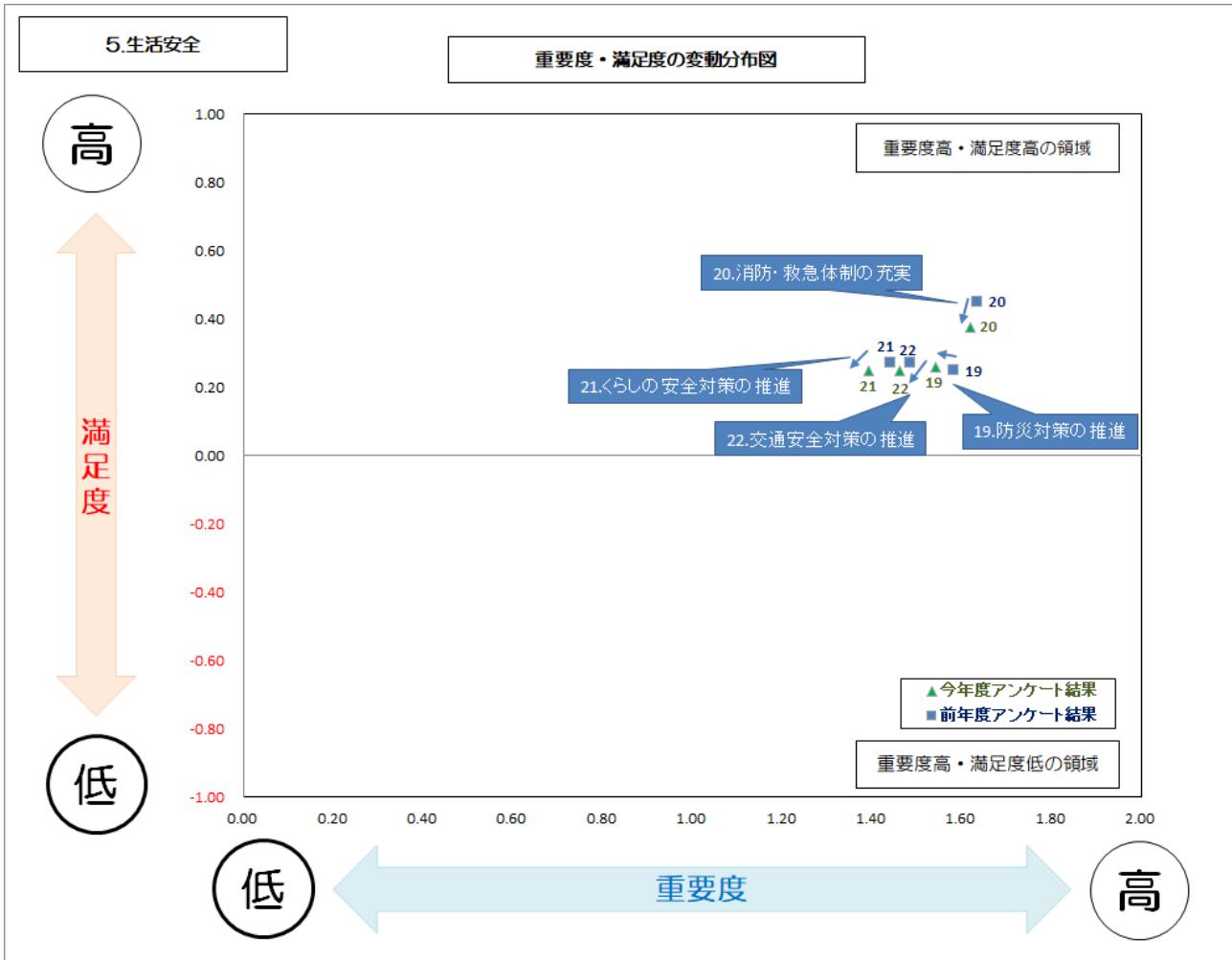


都市・生活基盤分野に係る施策は3施策あり、「18. 上下水道の整備」のみ、重要度高・満足度高に分類されています。

前年度アンケート結果より、「17. 市街地・住環境や公共交通の改善」では、重要度と満足度が低下しております。

また、満足度は上昇したものの、重要度が低下した施策としては、「16. 都市の発展を支える道路網の形成」があります。

< 5. 生活安全 >

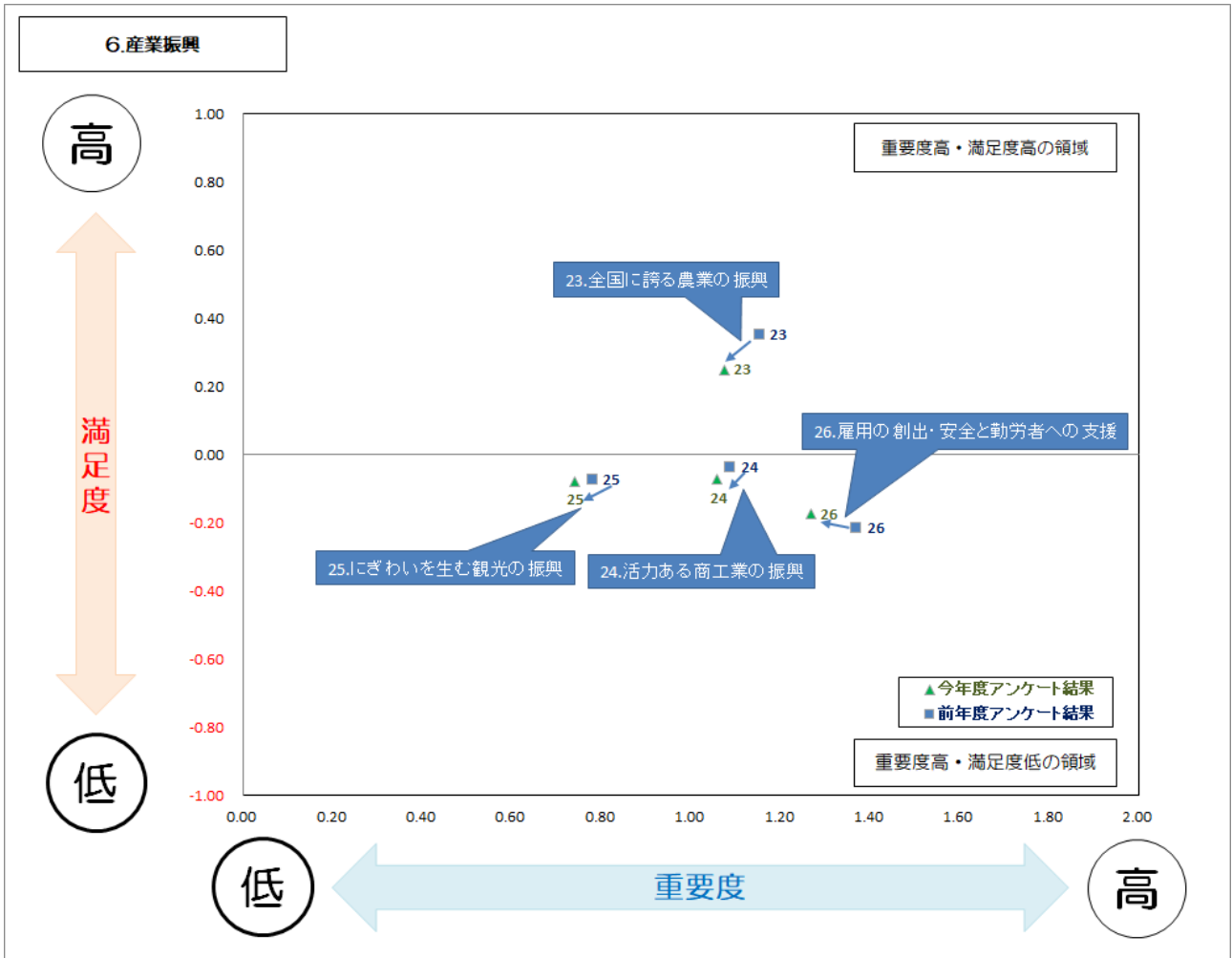


生活安全分野に係る施策は4施策あり、全ての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

前年度アンケート結果より重要度は低下したものの、満足度が上昇した施策としては、「19. 防災対策の推進」が挙げられます。

また、前年度アンケート結果より、「20.消防・救急体制の充実」、「21. くらしの安全対策の推進」「22.交通安全対策の推進」の3施策では、重要度と満足度が低下しております。

< 6. 産業振興 >

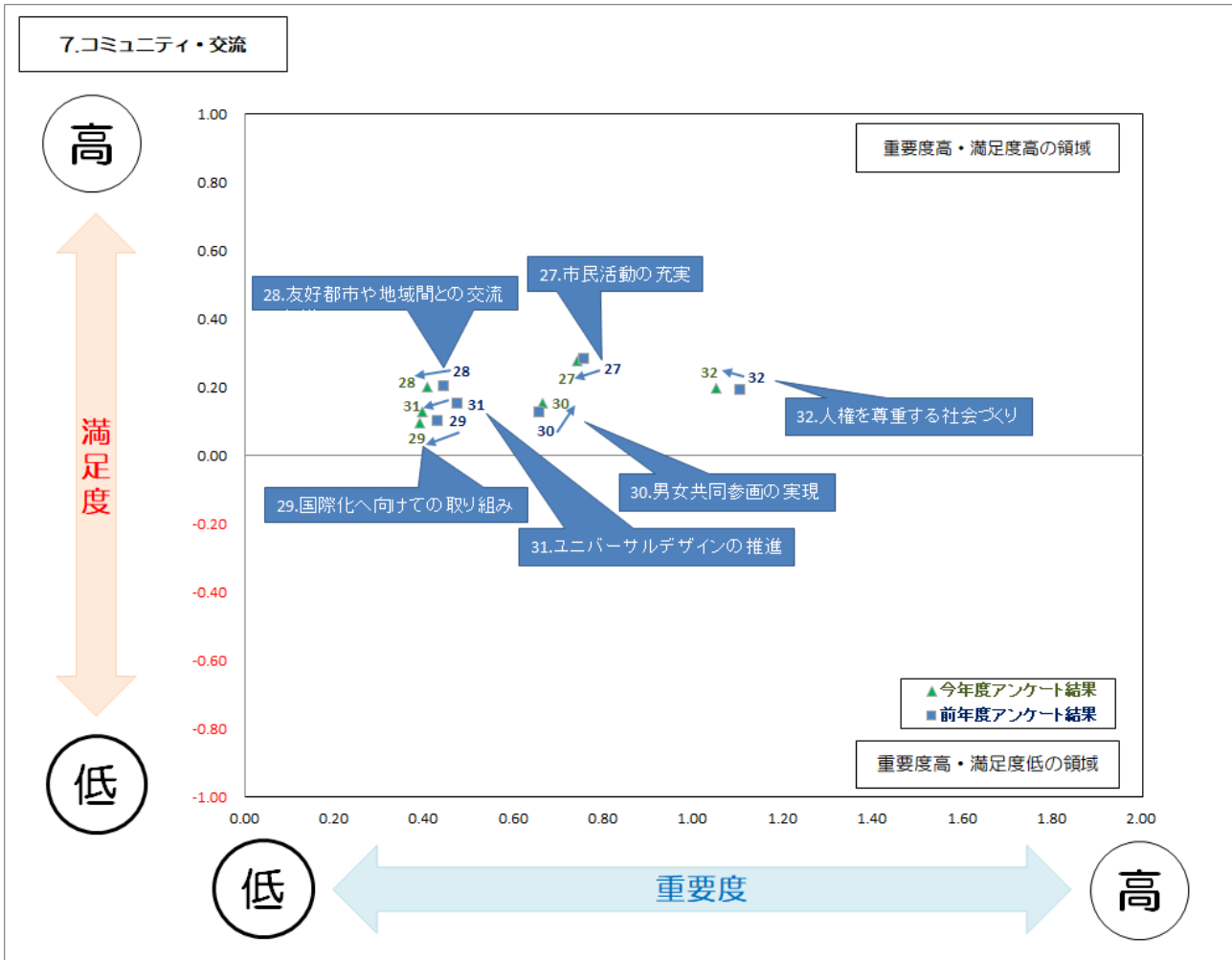


産業振興分野に係る施策は4施策あり、「23. 全国に誇る農業の振興」のみ、重要度高・満足度高に分類されています。

前年度アンケート結果より重要度は低下したものの、満足度が上昇した施策としては、「26. 雇用の創出・安定と勤労者への支援」が挙げられます。

また、前年度アンケート結果より、「23.全国に誇る農業の振興」、「24. 活力ある商工業の振興」「25.にぎわいを生む観光の振興」の3施策では、重要度と満足度が低下しております。

< 7. コミュニティ・交流 >

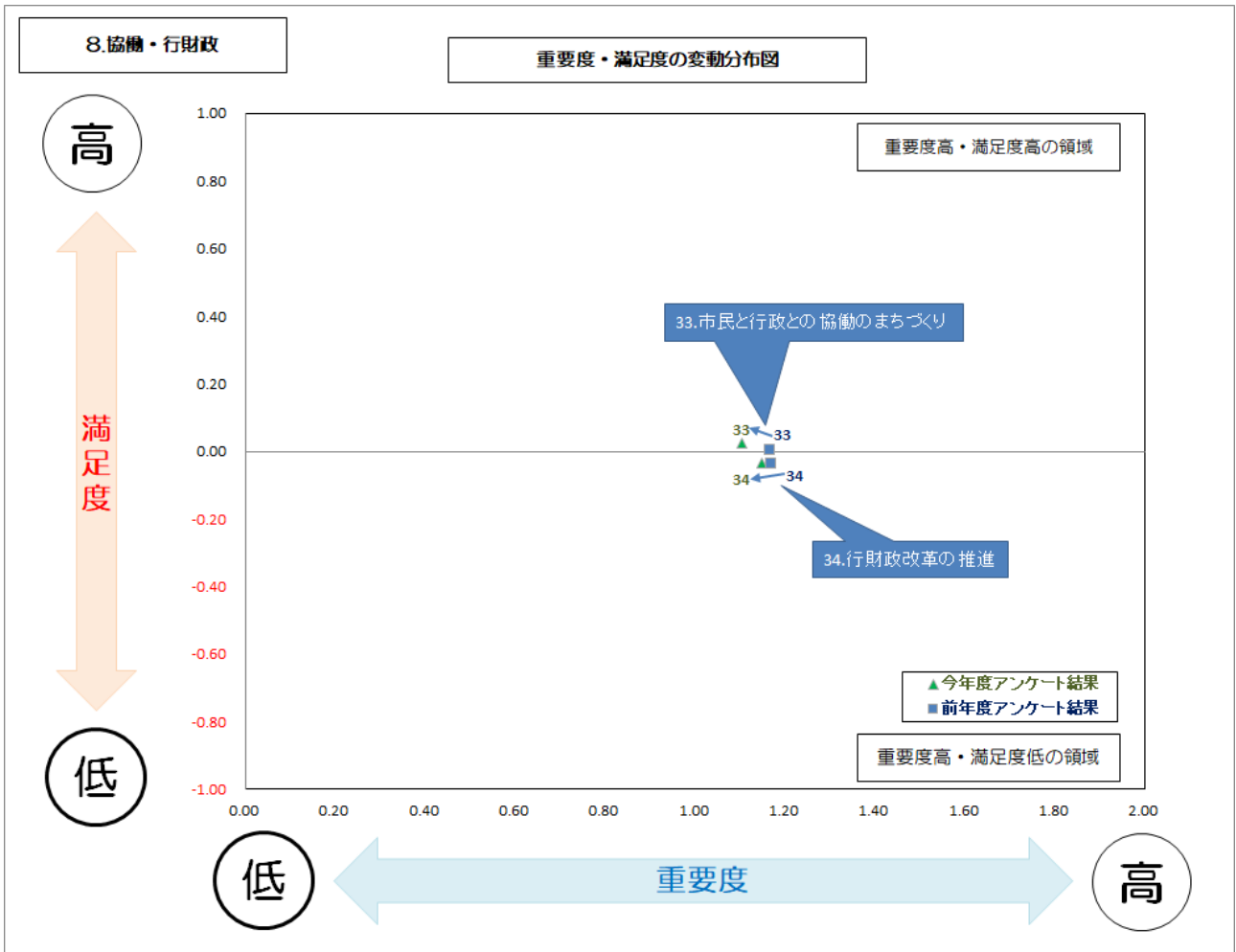


コミュニティ・交流分野に係る施策は6施策あり、すべての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

前年度アンケート結果より、「27. 市民活動の充実」、「28. 友好都市や地域間との交流の促進」「29. 国際化へ向けての取り組み」「31. ユニバーサルデザインの推進」「32. 人権を尊重する社会づくり」の5施策では、重要度が低下しています。

また、満足度が上昇した施策としては、「28. 友好都市や地域間との交流の促進」「30. 男女共同参画の実現」「32. 人権を尊重する社会づくり」が挙げられます。

< 8. 協働・行財政 >



協働・行財政分野に係る施策は2施策あり、「33. 市民と行政との協働のまちづくり」は重要度高・満足度高に分類され、「34. 行財政改革の推進」は重要度高・満足度低に分類されています。

前年度アンケート結果より、「33. 市民と行政との協働のまちづくり」について、重要度は低下したものの、満足度が上昇しています。

また、前年度アンケート結果より、「34. 行財政改革の推進」では、重要度が低下し、満足度が変動していません。

(2) 地区別

➤ 深谷地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
12	生涯学習の振興	1	快適な空間と景観づくり
13	文化・芸術の振興	2	生活環境の保全と配慮
14	スポーツの振興	3	資源循環型社会の推進
15	高等教育機関との連携	4	健康づくりの推進と保健・医療の充実
23	全国に誇る農業の振興	5	互いに支えあう地域社会づくり
27	市民活動の充実	9	学校教育の充実
28	友好都市や地域間との交流の促進	10	家庭・地域の教育力の向上
29	国際化へ向けての取り組み	11	健全な青少年の育成
30	男女共同参画の実現	18	上下水道の整備
31	ユニバーサルデザインの推進	19	防災対策の推進
		20	消防・救急体制の充実
		21	くらしの安全対策の推進
		22	交通安全対策の推進
		32	人権を尊重する社会づくり
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
24	活力ある商工業の振興	6	子育て支援の充実
25	にぎわいを生む観光の振興	7	高齢者福祉の充実
33	市民と行政との協働のまちづくり	8	障害者福祉の充実
		16	都市の発展を支える道路網の形成
		17	市街地・住環境や公共交通の改善
		26	雇用の創出・安定と勤労者への支援
		34	行財政改革の推進

深谷地区では、重要度が高い施策として、高い順に「消防・救急体制の充実」、「健康づくりの推進と保健・医療の充実」、「高齢者福祉の充実」、「防災対策の推進」、「子育て支援の充実」、「障害者福祉の充実」などの施策が挙げられ、このうち、「高齢者福祉の充実」、「子育て支援の充実」、「障害者福祉の充実」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「にぎわいを生む観光の振興」や「活力ある商工業の振興」、「市民と行政との協働のまちづくり」などの施策が挙げられます。これらの施策については、深谷地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。



➤ 藤沢地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
1	快適な空間と景観づくり	3	資源循環型社会の推進
12	生涯学習の振興	4	健康づくりの推進と保健・医療の充実
13	文化・芸術の振興	5	互いに支えあう地域社会づくり
14	スポーツの振興	6	子育て支援の充実
15	高等教育機関との連携	7	高齢者福祉の充実
27	市民活動の充実	8	障害者福祉の充実
28	友好都市や地域間との交流の促進	9	学校教育の充実
31	ユニバーサルデザインの推進	10	家庭・地域の教育力の向上
32	人権を尊重する社会づくり	11	健全な青少年の育成
		18	上下水道の整備
		19	防災対策の推進
		20	消防・救急体制の充実
		21	くらしの安全対策の推進
		22	交通安全対策の推進
		23	全国に誇る農業の振興
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
24	活力ある商工業の振興	2	生活環境の保全と配慮
25	にぎわいを生む観光の振興	16	都市の発展を支える道路網の形成
29	国際化へ向けての取り組み	17	市街地・住環境や公共交通の改善
30	男女共同参画の実現	26	雇用の創出・安定と勤労者への支援
33	市民と行政との協働のまちづくり		
34	行財政改革の推進		

藤沢地区では、重要度が高い施策として、高い順に「消防・救急体制の充実」、「防災対策の推進」、「交通安全対策の推進」、「学校教育の充実」、「子育て支援の充実」、「くらしの安全対策の推進」「上下水道の整備」などの施策が挙げられ、このうち「都市の発展を支える道路網の形成」、「雇用の創出・安定と勤労者への支援」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「男女共同参画の実現」や「国際化へ向けての取り組み」、「行財政改革の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、藤沢地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 幡羅地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
10	家庭・地域の教育力の向上	4	健康づくりの推進と保健・医療の充実
12	生涯学習の振興	5	互いに支えあう地域社会づくり
13	文化・芸術の振興	6	子育て支援の充実
14	スポーツの振興	8	障害者福祉の充実
27	市民活動の充実	9	学校教育の充実
28	友好都市や地域間との交流の促進	11	健全な青少年の育成
32	人権を尊重する社会づくり	16	都市の発展を支える道路網の形成
		18	上下水道の整備
		19	防災対策の推進
		20	消防・救急体制の充実
		21	くらしの安全対策の推進
		22	交通安全対策の推進
		23	全国に誇る農業の振興
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
15	高等教育機関との連携	1	快適な空間と景観づくり
24	活力ある商工業の振興	2	生活環境の保全と配慮
25	にぎわいを生む観光の振興	3	資源循環型社会の推進
29	国際化へ向けての取り組み	7	高齢者福祉の充実
30	男女共同参画の実現	17	市街地・住環境や公共交通の改善
31	ユニバーサルデザインの推進	26	雇用の創出・安定と勤労者への支援
		33	市民と行政との協働のまちづくり
		34	行財政改革の推進

幡羅地区では、重要度が高い施策として、高い順に「消防・救急体制の充実」、「防災対策の推進」、「健康づくりの推進と保健・医療の充実」、「交通安全対策の推進」、「学校教育の充実」、「上下水道の整備」などの施策が挙げられます。このうち、「防災対策の推進」や「消防・救急体制の充実」に関しては、重要度に比べ満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「ユニバーサルデザインの推進」や「国際化へ向けての取り組み」、「にぎわいを生む観光の振興」などの施策が挙げられます。これらの施策については、幡羅地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 明戸地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
12	生涯学習の振興	1	快適な空間と景観づくり
13	文化・芸術の振興	3	資源循環型社会の推進
14	スポーツの振興	4	健康づくりの推進と保健・医療の充実
15	高等教育機関との連携	8	障害者福祉の充実
27	市民活動の充実	9	学校教育の充実
		10	家庭・地域の教育力の向上
		11	健全な青少年の育成
		19	防災対策の推進
		20	消防・救急体制の充実
		21	くらしの安全対策の推進
		22	交通安全対策の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
28	友好都市や地域間との交流の促進	2	生活環境の保全と配慮
29	国際化へ向けての取り組み	5	互いに支えあう地域社会づくり
30	男女共同参画の実現	6	子育て支援の充実
31	ユニバーサルデザインの推進	7	高齢者福祉の充実
		16	都市の発展を支える道路網の形成
		17	市街地・住環境や公共交通の改善
		18	上下水道の整備
		23	全国に誇る農業の振興
		24	活力ある商工業の振興
		25	にぎわいを生む観光の振興
		26	雇用の創出・安定と勤労者への支援
		32	人権を尊重する社会づくり
		33	市民と行政との協働のまちづくり
		34	行財政改革の推進

明戸地区では、重要度が高い施策として、高い順に「上下水道の整備」、「防災対策の推進」、「生活環境の保全と配慮」、「消防・救急体制の充実」、「市街地・住環境や公共交通の改善」などの施策が挙げられ、このうち、「市街地・住環境や公共交通の改善」や「上下水道の整備」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「友好都市や地域間との交流の促進」や「ユニバーサルデザインの推進」、「国際化へ向けての取り組み」などの施策が挙げられます。これらの施策については、明戸地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 大寄地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
3	資源循環型社会の推進	2	生活環境の保全と配慮
10	家庭・地域の教育力の向上	6	子育て支援の充実
11	健全な青少年の育成	8	障害者福祉の充実
12	生涯学習の振興	9	学校教育の充実
13	文化・芸術の振興	20	消防・救急体制の充実
14	スポーツの振興	22	交通安全対策の推進
15	高等教育機関との連携	23	全国に誇る農業の振興
27	市民活動の充実	24	活力ある商工業の振興
28	友好都市や地域間との交流の促進	32	人権を尊重する社会づくり
29	国際化へ向けての取り組み	34	行財政改革の推進
30	男女共同参画の実現		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
1	快適な空間と景観づくり	4	健康づくりの推進と保健・医療の充実
5	互いに支えあう地域社会づくり	7	高齢者福祉の充実
16	都市の発展を支える道路網の形成	17	市街地・住環境や公共交通の改善
25	にぎわいを生む観光の振興	18	上下水道の整備
31	ユニバーサルデザインの推進	19	防災対策の推進
		21	くらしの安全対策の推進
		26	雇用の創出・安定と勤労者への支援
		33	市民と行政との協働のまちづくり

大寄地区では、重要度が高い施策として、高い順に「上下水道の整備」、「高齢者福祉の充実」、「消防・救急体制の充実」、「障害者福祉の充実」、「行財政改革の推進」、「活力ある商工業の振興」、「全国に誇る農業の振興」、「健康づくりの推進と保健・医療の充実」などの施策が挙げられ、このうち、「健康づくりの推進と保健・医療の充実」や「上下水道の整備」に関しては満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「ユニバーサルデザインの推進」や「快適な空間と景観づくり」、「にぎわいを生む観光の振興」などの施策が挙げられます。これらの施策については、大寄地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 八基地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
2	生活環境の保全と配慮	4	健康づくりの推進と保健・医療の充実
3	資源循環型社会の推進	19	防災対策の推進
5	互いに支えあう地域社会づくり	20	消防・救急体制の充実
6	子育て支援の充実	21	くらしの安全対策の推進
9	学校教育の充実	22	交通安全対策の推進
12	生涯学習の振興	23	全国に誇る農業の振興
15	高等教育機関との連携	24	活力ある商工業の振興
18	上下水道の整備		
25	にぎわいを生む観光の振興		
27	市民活動の充実		
28	友好都市や地域間との交流の促進		
30	男女共同参画の実現		
31	ユニバーサルデザインの推進		
32	人権を尊重する社会づくり		
33	市民と行政との協働のまちづくり		
34	行財政改革の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
1	快適な空間と景観づくり	11	健全な青少年の育成
7	高齢者福祉の充実	16	都市の発展を支える道路網の形成
8	障害者福祉の充実	26	雇用の創出・安定と勤労者への支援
10	家庭・地域の教育力の向上		
13	文化・芸術の振興		
14	スポーツの振興		
17	市街地・住環境や公共交通の改善		
29	国際化へ向けての取り組み		

八基地区では、重要度が高い施策として、高い順に「消防・救急体制の充実」、「都市の発展を支える道路網の形成」、「防災対策の推進」、「くらしの安全対策の推進」、「交通安全対策の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「雇用の創出・安定と勤労者への支援」や「防災対策の推進」、「都市の発展を支える道路網の形成実」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「文化・芸術の振興」や「国際化へ向けての取り組み」、「快適な空間と景観づくり」などの施策が挙げられます。これらの施策については、八基地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 豊里地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
1	快適な空間と景観づくり	2	生活環境の保全と配慮
14	スポーツの振興	3	資源循環型社会の推進
27	市民活動の充実	4	健康づくりの推進と保健・医療の充実
30	男女共同参画の実現	19	防災対策の推進
31	ユニバーサルデザインの推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
5	互いに支えあう地域社会づくり	6	子育て支援の充実
10	家庭・地域の教育力の向上	7	高齢者福祉の充実
11	健全な青少年の育成	8	障害者福祉の充実
12	生涯学習の振興	9	学校教育の充実
13	文化・芸術の振興	16	都市の発展を支える道路網の形成
15	高等教育機関との連携	17	市街地・住環境や公共交通の改善
21	くらしの安全対策の推進	18	上下水道の整備
22	交通安全対策の推進	20	消防・救急体制の充実
23	全国に誇る農業の振興	26	雇用の創出・安定と勤労者への支援
24	活力ある商工業の振興		
25	にぎわいを生む観光の振興		
28	友好都市や地域間との交流の促進		
29	国際化へ向けての取り組み		
33	市民と行政との協働のまちづくり		
34	行財政改革の推進		

豊里地区では、重要度が高い施策として、高い順に「上下水道の整備」、「消防・救急体制の充実」、「生活環境の保全と配慮」、「高齢者福祉の充実」、「障害者福祉の充実」、「防災対策の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「上下水道の整備」や「高齢者福祉の充実」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「国際化へ向けての取り組み」や「高等教育機関との連携」、「互いに支えあう地域社会づくり」などの施策が挙げられます。これらの施策については、豊里地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 上柴地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
12	生涯学習の振興	1	快適な空間と景観づくり
13	文化・芸術の振興	2	生活環境の保全と配慮
14	スポーツの振興	3	資源循環型社会の推進
27	市民活動の充実	4	健康づくりの推進と保健・医療の充実
28	友好都市や地域間との交流の促進	5	互いに支えあう地域社会づくり
29	国際化へ向けての取り組み	6	子育て支援の充実
30	男女共同参画の実現	9	学校教育の充実
32	人権を尊重する社会づくり	16	都市の発展を支える道路網の形成
		18	上下水道の整備
		19	防災対策の推進
		20	消防・救急体制の充実
		21	くらしの安全対策の推進
		22	交通安全対策の推進
		23	全国に誇る農業の振興
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
10	家庭・地域の教育力の向上	3	資源循環型社会の推進
15	高等教育機関との連携	7	高齢者福祉の充実
25	にぎわいを生む観光の振興	8	障害者福祉の充実
31	ユニバーサルデザインの推進	11	健全な青少年の育成
		17	市街地・住環境や公共交通の改善
		24	活力ある商工業の振興
		26	雇用の創出・安定と勤労者への支援
		33	市民と行政との協働のまちづくり
		34	行財政改革の推進

上柴地区では、重要度が高い施策として、高い順に「消防・救急体制の充実」、「防災対策の推進」、「障害者福祉の充実」、「健康づくりの推進と保健・医療の充実」、「市街地・住環境や公共交通の改善」、「高齢者福祉の充実」などの施策が挙げられ、このうち、「市街地・住環境や公共交通の改善」、「雇用の創出・安定と勤労者への支援」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「ユニバーサルデザインの推進」や「高等教育機関との連携」、「にぎわいを生む観光の振興」などの施策が挙げられます。これらの施策については、上柴地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 南地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
1	快適な空間と景観づくり	2	生活環境の保全と配慮
3	資源循環型社会の推進	4	健康づくりの推進と保健・医療の充実
12	生涯学習の振興	9	学校教育の充実
13	文化・芸術の振興	10	家庭・地域の教育力の向上
14	スポーツの振興	11	健全な青少年の育成
15	高等教育機関との連携	16	都市の発展を支える道路網の形成
23	全国に誇る農業の振興	18	上下水道の整備
28	友好都市や地域間との交流の促進	19	防災対策の推進
		20	消防・救急体制の充実
		21	くらしの安全対策の推進
		22	交通安全対策の推進
		33	市民と行政との協働のまちづくり
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
25	にぎわいを生む観光の振興	5	互いに支えあう地域社会づくり
27	市民活動の充実	6	子育て支援の充実
29	国際化へ向けての取り組み	7	高齢者福祉の充実
30	男女共同参画の実現	8	障害者福祉の充実
31	ユニバーサルデザインの推進	17	市街地・住環境や公共交通の改善
32	人権を尊重する社会づくり	24	活力ある商工業の振興
		26	雇用の創出・安定と勤労者への支援
		34	行財政改革の推進

南地区では、重要度が高い施策として、高い順に「消防・救急体制の充実」、「健康づくりの推進と保健・医療の充実」、「子育て支援の充実」、「学校教育の充実」、「防災対策の推進」、「交通安全対策の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「子育て支援の充実」や「消防・救急体制の充実」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「国際化へ向けての取り組み」や「ユニバーサルデザインの推進」、「男女共同参画の実現」などの施策が挙げられます。これらの施策については、南地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。



➤ 岡部地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
3	資源循環型社会の推進	4	健康づくりの推進と保健・医療の充実
27	市民活動の充実	9	学校教育の充実
32	人権を尊重する社会づくり	19	防災対策の推進
		20	消防・救急体制の充実
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
1	快適な空間と景観づくり	2	生活環境の保全と配慮
12	生涯学習の振興	5	互いに支えあう地域社会づくり
13	文化・芸術の振興	6	子育て支援の充実
14	スポーツの振興	7	高齢者福祉の充実
15	高等教育機関との連携	8	障害者福祉の充実
23	全国に誇る農業の振興	10	家庭・地域の教育力の向上
24	活力ある商工業の振興	11	健全な青少年の育成
25	にぎわいを生む観光の振興	16	都市の発展を支える道路網の形成
28	友好都市や地域間との交流の促進	17	市街地・住環境や公共交通の改善
29	国際化へ向けての取り組み	18	上下水道の整備
30	男女共同参画の実現	21	くらしの安全対策の推進
31	ユニバーサルデザインの推進	22	交通安全対策の推進
33	市民と行政との協働のまちづくり	26	雇用の創出・安定と勤労者への支援
34	行財政改革の推進		

岡部地区では、重要度が高い施策として、高い順に「消防・救急体制の充実」、「健康づくりの推進と保健・医療の充実」、「防災対策の推進」、「交通安全対策の推進」、「くらしの安全対策の推進」、「高齢者福祉の充実」などの施策が挙げられ、このうち、「交通安全対策の推進」や「くらしの安全対策の推進」、「高齢者福祉の充実」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「ユニバーサルデザインの推進」や「友好都市や地域間との交流の促進」、「国際化へ向けての取り組み」などの施策が挙げられます。これらの施策については、岡部地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 川本地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
1	快適な空間と景観づくり	3	資源循環型社会の推進
10	家庭・地域の教育力の向上	4	健康づくりの推進と保健・医療の充実
12	生涯学習の振興	5	互いに支えあう地域社会づくり
13	文化・芸術の振興	8	障害者福祉の充実
14	スポーツの振興	9	学校教育の充実
15	高等教育機関との連携	11	健全な青少年の育成
23	全国に誇る農業の振興	18	上下水道の整備
27	市民活動の充実	19	防災対策の推進
28	友好都市や地域間との交流の促進	20	消防・救急体制の充実
30	男女共同参画の実現	21	くらしの安全対策の推進
31	ユニバーサルデザインの推進	22	交通安全対策の推進
32	人権を尊重する社会づくり		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
24	活力ある商工業の振興	2	生活環境の保全と配慮
25	にぎわいを生む観光の振興	6	子育て支援の充実
29	国際化へ向けての取り組み	7	高齢者福祉の充実
		16	都市の発展を支える道路網の形成
		17	市街地・住環境や公共交通の改善
		26	雇用の創出・安定と勤労者への支援
		33	市民と行政との協働のまちづくり
		34	行財政改革の推進

川本地区では、重要度が高い施策として、高い順に「消防・救急体制の充実」、「上下水道の整備」、「健康づくりの推進と保健・医療の充実」、「防災対策の推進」、「交通安全対策の推進」、「高齢者福祉の充実」などの施策が挙げられ、このうち、「高齢者福祉の充実」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「活力ある商工業の振興」や「にぎわいを生む観光の振興」、「国際化へ向けての取り組み」が挙げられます。これらの施策については、川本地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 花園地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
12	生涯学習の振興	4	健康づくりの推進と保健・医療の充実
13	文化・芸術の振興	9	学校教育の充実
14	スポーツの振興	10	家庭・地域の教育力の向上
27	市民活動の充実	11	健全な青少年の育成
28	友好都市や地域間との交流の促進	18	上下水道の整備
29	国際化へ向けての取り組み	19	防災対策の推進
30	男女共同参画の実現	20	消防・救急体制の充実
31	ユニバーサルデザインの推進	21	くらしの安全対策の推進
32	人権を尊重する社会づくり	22	交通安全対策の推進
		23	全国に誇る農業の振興
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
1	快適な空間と景観づくり	2	生活環境の保全と配慮
15	高等教育機関との連携	3	資源循環型社会の推進
25	にぎわいを生む観光の振興	5	互いに支えあう地域社会づくり
		6	子育て支援の充実
		7	高齢者福祉の充実
		8	障害者福祉の充実
		16	都市の発展を支える道路網の形成
		17	市街地・住環境や公共交通の改善
		24	活力ある商工業の振興
		26	雇用の創出・安定と勤労者への支援
		33	市民と行政との協働のまちづくり
		34	行財政改革の推進

花園地区では、重要度が高い施策として、高い順に「健康づくりの推進と保健・医療の充実」、「消防・救急体制の充実」、「上下水道の整備」、「防災対策の推進」、「高齢者福祉の充実」、「学校教育の充実」などの施策が挙げられ、このうち、「高齢者福祉の充実」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「快適な空間と景観づくり」や「高等教育機関との連携」、「にぎわいを生む観光の振興」などの施策が挙げられます。これらの施策については、花園地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

#### 4. 自由記入欄（まちづくり全般について） ※原文の通り

自由意見から主要な意見を抽出し、施策分野ごとに分類しました。

##### (1) <環境>に関する意見

- ・深谷市は市民が利用できるバーベキュー会場がなく、良く川原で行い環境汚染の原因となっている。シーズンになるとこの話が出て来て、バーベキュー施設があればいいなど思う所である。「まちづくり」の中で何とか出来ないものか。個人的に小規模な場所は有るが、ほとんど利用者はない。なお、こういう施設があれば、家族皆で楽しめるし、人的交流も図れると思うが。
- ・まちづくりも大事な事だとおもいますが、もっと岡部地区の砂ほこりなど、住んでいる人の身になって、真剣に取りくんていただきたい。町のほうばかりでなく、市外地の整備もした方が本当の町づくり。街灯も少なく夜歩くのに大変です。毎年、春になると恐ろしいです。南にもっと商店（大型スーパーがあれば）助かります。
- ・近年、野鳥（カラス）が異常に増加している。あまりにも数が多すぎる、気持ち悪い程で、カラス被害もあるので対応してほしい。（住みよい環境にしてほしい!）
- ・道路沿いに街路樹を植樹し、「緑視率の向上」（地球温暖化防止活動の一環として）、と「癒しの空間作り」に傾注していただきたく思います。
- ・野焼き、田畑でもやすのとかやめてほしい。洗濯物がくさくなる
- ・道路傍の木や枝、草などが目立ちます。見通しも悪く危険でもあります。定期的に除去してもらいたいです。
- ・道路の整備、歩道や道路端に草やごみなど整備していない所が、運転をしながら目につきます。他県から来た人達に道路や周辺がきれいに整備されていることを自慢できる市であってほしいです。
- ・公園の中心にある大樹をなぜ伐採してしまったのか理解できない。子供老人等が暑さから身を守るためだったのに。残念です。
- ・1. 自然を残すよう心掛けてほしい。（環境、生物を含む）2. 開発しすぎないようにしてほしい。3. 「経済効果」より、「人の心」「気持」を豊かにするようなまちづくりをしてほしい。

## (2) <保健・福祉>に関する意見

- ・◎上下水道の料金が高すぎる、こまっている。深谷市は高すぎます。◎障害者を、きちっと、フォローしてほしい。まったく満足していない。◎障害者に、対応を良くしてほしい。※私は、障害者です。良くして下さい。
- ・小児科専門医の不足問題をどうにかしていただきたい。(・夜間救急外来に小児科医がいないため日赤が受け入れてくれない。・かかりつけの小児科医も遠方になってしまう。)・児童館がない。是非作っていただきたい。(子育て支援センター専門の施設が必要です。毎日小さな子供と公園を転々としています。母親同士の情報交換の場もなかなかありません。)
- ・[子供医療について] ①入院時の治療費等を全額払うのは、家庭に負担が多いです。(高額医療の申請をしても)翌月に申請できますが、返納されるまで期間が長すぎます。入院時の窓口会計も0になる事を願ってます。②市外のこども医療費を、広い範囲で窓口会計0に。例えば、埼玉県ならどこの病院にかかっても窓口会計0とか…。少子化対策に進めて欲しいです。藤沢地区、調整区域で、中々土地が見つかりません…。
- ・役所にふるさと納税についてきいても、明確に答えられる人がいない。最近、観光、ふっかちゃんの活用に伸びがなく、マンネリ化。深谷日赤が、深谷週辺で大きな病院だが、医師の質やレベルが低い、かかりにくい上に、だいたい深谷日赤に紹介される。もっと医師の質や医療レベルを他の市の日赤のように上げられ、安心して受診出来るようにして頂きたい。
- ・障害をもった人の支援の充実を願います。
- ・高齢者が多い社会、手軽に運動が出来る公園、又交流が芽生える場所が出来たらと思います。籠原駅より日赤病院行のバス廃止になるとの事ですが本数が少なくても続行していただけたらと(料金を上げて)願います。
- ・下水道の清掃をお願いします。・高齢者で年金生活送っている人にシルバーとは違う方法で働く場所を提供できないでしょうか？毎日ぶらぶらしている人が多い様に思います。・生活保護を受けている人にも何か働ける場所を提供したらと思います。・身勝手な意見ですみません。
- ・お年寄りに優しい街作りをお願いしたいと思います。昨年、健康作りの為パティオ(?)の温泉プールに行きましたが、使用料金が高かった。私が勤務している東京都北部では、65才以上の人は全員無料でプールが使用できています。一考をお願い致します。
- ・人口減少にともない、子供の受入れられる体制サービスの充実。市議の報酬の削減(市長も)し、20%減で、年間1000万の予算で保育士の給料増やしてほしい
- ・高等教育の補助金や無償化などの、支援・制度の取り組みを強化して頂きたい。子育てにお金がかかり、高校へ行くとさらに教育費が必要になることに不安。

### (3) <教育・文化>に関する意見

- ・公園の遊具の充実。(幼児から大人まで楽しめる)
- ・健康促進公園をつくってほしい
- ・文化芸術の振興に期待します。
- ・私には4才の娘と2才の息子がいます。外で遊ばせたいので、公園に行きますが、もう少し公園に遊具を置いたり、公園でなくても、子供が遊ぶ所が充実しているといいと思います。以前、娘の3才検診の時に、なぜ市立幼稚園に行かせないのかというアンケートがありました。共働きで、私自身正社員で5時過ぎまで働いています。14時に終わるとなると、預けることは不可能です。なので、我が家は私立の幼稚園に通わせて、延長保育で、どうにかやっています。しかし、長期休みは、幼稚園も休みになるので、その辺りも預ってほしいと思います。(市立でも)これから小学校に入り学童のことも考えると、学童に入れないということでは困ってしまいます。子育てのことを考えたまちづくり、期待しています
- ・秩父線の電車の本数が少ない。電車賃が高い。寄居の方が近いのに、わざわざ遠い花園の学校(小、中)に通わなければならないので、自分で選べるようにしてほしい。中学の部活動が少ない。バレー、バトミントンなどやりたい部活を増やしてほしい。わざわざ、部活の為に遠い学校に行く人がいる。住所を人から借りたりして、大変そうでした。
- ・ふっかちゃん可愛い!! これからもふっかちゃん押しでお願いします。
- ・深谷市の花づくりは定着したと思います。春、たのしみです。心もおちつきます。これからはクラシック音楽たのしみたいです。小さなグループからで良いと思います。クラシック音楽を聞く事で心がおちつくのではないですか。まちのどこかで聞きたいです。
- ・櫛引の防風林を利用して、夏すずしくさんぽできる道(公園)を作ったらいいと思います。
- ・上柴地区は住みやすく、いい所だと思いますが、少し市街地を外れると人目が無い場所もあるので小学生の子供が出歩くのに少し心配な事もあります。ふっかちゃんや渋沢栄一など、観光地としての可能性はあると思うので、これからの発展に期待しています!!

#### (4) <都市・生活基盤>に関する意見

- ・スポーツ施設がすべて中途半端である。熊谷市との差が大きすぎる（財政、予算の規模の問題？）管理の連盟まかせ？中仙道商店街の衰退。目玉となる再成施策がない。例、七ツ梅酒造跡地を例にした昭和レトロを感じさせる街づくり、大正ロマン（レンガ作り<タイル>）を感じさせる街道造り等、の都市計画等必要では？専門コンサルの活用。（プロの利用を検討）
- ・高齢者、障害者、学生、生徒等、車を運転できない住民は、現在の「くるりん」運行状況では、生活に大変不便です。運行時間間隔をせめて20分ごとにしてもらいたい。収益を上げられない部門ですが、住民からの要望は根強いものがあります。若年層が他都県へ流出し、高齢世帯が増加している今、『足』を確保しなければ、『健康で安全な生活』は担保されません。地味なところですが、早々に実現して頂きたい。花園や川本、岡部、寄居近くに住む同じ深谷市民が、深谷市民のアイデンティティーをもつ為にも非常に重要と考えます。
- ・JR岡部駅は北口しかない上ロータリーが整備されていないため、帰宅時間になると混雑し、危ないと思う。また自転車駐輪禁止の看板は置いてあるだけで全く機能していない。北口の東側には誰も使っていない公園の様なスペースもあるが全く有効活用されていない。南口に改札ができればロータリーの整った南口に乗客が下りられるため北口の混雑の緩和が期待できるが、費用の面でどうなのか不透明。コンパクトシティが推進される現代に於いて、駅周辺の利便性の向上は必須だと思われる。駅はその地域の玄関なので、駅を中心としたまちづくりに期待します。
- ・地方から来た人が、深谷は住みやすいと言ってくれました。イベントもけっこうあり、ふっちゃん可愛いし、グッズも色々集めているそうです。そういう人達が、どんどん深谷に住みついて新しい風（意見）をとり入れて、良き深谷になってほしいです。古い建物も大切にしてほしいです。もっともっと楽しめる深谷になりますように！もっとアピールイベントなどをすべき。※他市の方が、病院もあり、けど皮膚科があまりいいところがないと言っていました。
- ・川本地区の南側は調整区域の為、農地を重要視してて、店や会社が少なくて発展がありません。近くにあった個人店が、皆閉店して遠くまで買物に行かなくてはならないし、バスやタクシーも少なくて自家用の車がないと不便な生活をしなくてはならないので、改良して下さい。道路も昔の町道は修繕無しでデコボコが多くて直して欲しいと思います。
- ・スーパーが少ない 近くに自転車でもいける用な所があればいいと思うのです。
- ・お世話になっております。深谷市に住むも者として、全体的に道路を広くしてほしいです。どこに行くにも車は必須なので、見晴らしが良く、広い道になる事で事故・街全体の印象も大きく変わると思います。（ここから私事ですが、岡部にスーパーがほしいです。）（本郷地区あたり）

## (5) <生活安全>に関する意見

- ・よく交差点で事故の情報を求める看板があるが、事故のある所にカメラを接地したらどうか。
- ・アウトレットモールが完成するまでに必ず周辺道路を整備してほしい。
- ・通学路の交通安全の対策推進。①ガードレール等の設置（車のスピード出し過ぎ多い）  
②スピードの取りしまり（通学時）以上、常に危険を感じている。
- ・夜街灯がなく真っ暗な道が多いので、安全の為に街灯をつけてもらえるとうれしいです。
- ・信号近くの植木で信号が見えづらい所が多い・歩道がでこぼこして歩きづらい・全体的に暗い道が多い
- ・ゴミの収集や公園の美化など、他の地域に比べてとても充実していると思います。・全国的に子供達が巻き込まれる事件・事故が多いので防犯に力を入れてほしい。
- ・深谷消防署の前（深谷～中瀬）の道はとても危険。前に自転車で接触事故を受けた。道幅を広げて欲しい。歩道が必要。皆が言っている。あぶない！（要望）（意見）
- ・子育てしやすさ、子供が安全にくらせる街を最重要項目としてほしいです。ニュースで子供の悲しい事件を見るたび、うちは大丈夫だろうかと心配が付きません。幼い子はひとりでは何もできないので、地域全体で守っていくことが大切と考えます。よろしくをお願いします。
- ・道路等の交通面をもっと考えるべきだと思う。（死角が多く事故が多すぎる）・街灯が少ない為、子供達が安全に生活しにくい（傷害事件が多い）・老人等が増えている為火元等を注意するようにもっと呼びかける。（火災事故が多い）・畑付近の道路がせまい。（畑の持ち主が駐車しており通りにくい）
- ・アウトレット建設計画にともなって道路など色々整備されていることと思いますが、他県からの車が渋滞を避けるため細い生活道路をうかひのために猛スピードで走られたら市民が安心して生活道路を通れません。子供も外で遊ばせられません。発展するのはとてもうれしいのですが、アウトレットの周辺の渋滞かんわの為の計画をしっかりと頂きたいです。（周辺にうかひ用に新しい道を増やす等）ただでさえ、今も週末は140号（旧も）が大渋滞で困ってます。



## (6) <産業振興>に関する意見

- ・人口減少対策、産業振興に力を注いで欲しい。
- ・アウトレットができるのを楽しみにしています。雇用の拡大や観光客の誘致など深谷市の発展の起爆剤になればいいと思います。
- ・深谷駅前にある程度まとまった商業施設が欲しいです（現状コンビニ程度）。（例に籠原駅隣接の商業施設以上）
- ・深谷駅周辺を含めて、商業地区は大型店に乗っ取られ地元の中小企業の前途は望みがうすい。これを打破するために深谷中心部に大型地域型商店街（ビル等）できないものだろうか。（花園に大型店ができますがその市街版のイメージ）
- ・定期的な（2～4ヶ月に1回）地元農産物の即売会などがあると良い
- ・北部地区（明戸、大寄、豊里）のまちづくりが他地区と比べると、かなり遅れている様に感じます。農家（特に稲作）は個人経営であり、後継者問題が深刻ではないかと思えます（私は農家ではないのですが）農協の考えもあるでしょうが、市としても今後どうしていくのかといった考え方を農家・農協と一緒に協賛してもらいたいです。やはり農業は重要な産業です。
- ・個人的には、観光には力を入れず、スポーツ産業に投資すべきだと思っています。スポーツは観戦する楽しみも、する楽しみもあるだけでなく、街に於ける経済効果や、新しい産業を打ち出す鍵になる事が世界的に証明されています。スポーツを楽しむコミュニティの中で新しい複合商業施設を同じように運営できれば、人々は、自分達の住む街に感心を持てると思います。（出来るだけ上位を目指せるプロチームがほしい）
- ・深谷市の観光名所はいくつかあるが、それぞれ離れているのでコースで周れるようになると遠くからわざわざ足を運ぶ人が増えるのでは？ターゲットは日帰り客？泊まり？客層は？自然や農作物をメインとした観光、まちづくりが理想。その中にアウトレットという若い客層も取り入れた観光が発展することを期待します。
- ・現在深谷市の個人商店は県北の中では、高い水準にあると思います。これからも市内の個人商店を中心に産業を発展していければ良いと思います。
- ・アウトレットは本当に経済効果はあるのか？地域の見守り体制は十分に図れているのか？

## (7) <コミュニティ・交流>に関する意見

- ・ イベント等の内容があまり興味がわかず、参加もしくは遊びに出掛けようという気にならない。他県等からも来たくなるような××フェス等企画があると楽しそう。地元の人ばかり集まって、周りは知らないイベントではもり上がりにかけるのでは？と思います。
- ・ ラジオ体操は、全身を動かすので年齢問わず、ラジオ体操ができる所があるといい。・ワンコインで集い、お食事できるところがあるといいかな？・町のグルリンをつかい、町めぐりができるといいですね。使い方、停留所等よくわかりません。都内の様に、¥200円位で乗れたら、便利ですね。
- ・ 5年前に、他市から引っ越してきましたが、子育てのしやすさも、ごみ回収日も満足しています。また、人と人とのつながり、深谷の人にはとても温かみを感じます。もうすぐアウトレットもできるとの事なのでとても楽しみにしています。深谷に住んで良かったと感じています。
- ・ 全般なんて大きな事はわかりませんが、身近かな隣り近所の単位でしっかり交流しコミュニティを作っていたら、それが集まった時に、大きな災害があるごとに、いわゆる「地域住民の交流」という良い関係ができると思います。ゆったり暮せるまちづくりをお願いします。
- ・ 深谷にはすごく元気のある高齢者の方々がたくさんいます。そのような人たちと若い世代が共に協力して何かを行えるとまちの力もあがってくるのではないかと感じます。若者がこのまちからどんどん離れていかないように工夫するのも大切なのではないかと思います。(かそ化対策)遊歩道に見通しのわるいところがあります。観光資源となりうるものとして、駅のところの桜、からさわ川の桜も良いのではないのでしょうか。深谷のまちづくりについて興味がある若者もいます。
- ・ 新庁舎の近くに広場を作る。ヨーロッパの街には、市庁舎の前に広場が多く見られる。そこでいろいろなイベントが行なわれ市民の憩いの場になっているから。
- ・ 市内全体が活気づいた街になることを望みます。芸術、スポーツなど老若男女、誰もがたのしめる街にして欲しいです。
- ・ 高齢化社会となり、かつ今後1人世帯が増えると思われる。1人世帯は、地域での互助が大切と思われるが、自治会加入世帯も少なくなる現状において、昔のように近所との(旧トナリ組み的)互助が必要となると思う。近所との互助の意識向上や、仕組みを考えることを望む。

## (8) <協働・行財政>に関する意見

- ・今の国の行政の様いでたらめなことだらけを見せつけられているので、せめて市だけでもえりを正した政治をしてもらいたいと思います。公務員に対する目はきびしくなっています。
- ・運転免許更新のために、高齢者講習を受講する年齢になりましたが、お陰様で週3日～4日も働くことが出来ます…その社会のしくみや、知力、体力共に…ただただ心から感謝の毎日です。(深谷市に嫁いで、50年近くになりますが)とても住み易い(村→町→市)所なんですね。心から感謝しております。ありがとうございます。増々発展されます事を、微力ですが祈っております。
- ・公務員(職員)が多すぎる。スキルがなさすぎる方が多いと思われる。
- ・挨拶と声掛けが、皆で街中にあふれる様に活動を始めていますが、中々市民全体が動き出す迄に時間がかかります。形が出来たら相談しますので市長のバックアップをお願いします。
- ・今回のようなアンケートを市のホームページで参加出来るようにしたらいいと思います。又、アンケートも毎月短めで参加出来たらと思いました。
- ・公共料金等の値上げ(水道料金等)多いと思います。むだな税金を使わない様にしてもらいたい。深谷市は税金が高いのでは？
- ・空き家と言う声を良く聞きますが…深谷市内でも空き家がよく見かけるようになりました。景観も良くなく、近隣にも迷惑が掛かります。税金、介護保険を安く！年金だけだと苦しい…住みやすい街は安定した生活からですね。
- ・自治体、体育祭、公民館活動、民生委員の活動など、今までと同じやり方ではもう無理なのに、昨年と引き続き同じ事をやりたがるので、人口の少なく、若者がいない高齢者が多い地区で見守れるような町にならないと難しい。仕事をしているのを理由にやらない人も多いので、地区、市、両方が変わらないとダメだと思います。
- ・市政だより(広報、ふかや)を新聞折り込みなどと一緒に、市全域に配布してほしいです。

### 3. Ⅲ. アンケート調査結果の単純集計結果

#### 1. 深谷市のまちづくりについて

深谷市の現状を把握し、今後のまちづくりの参考とします。該当する番号に○をつけてください。

### 1. 深谷市のまち全体の印象について

問1. あなたは、これからもずっと深谷市に住み続けたいと思いますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. ずっと住み続けたい  | 66.5% |
| 2. 当分の間は住みたい  | 26.3% |
| 3. できれば転居したい  | 4.6%  |
| 4. すぐにでも転居したい | 0.2%  |
| 無回答           | 2.3%  |

### 2. 環境について

問1. 市内の公園や森林・山などに、どの程度行きますか。

- |            |       |
|------------|-------|
| 1. 日常的に行く  | 7.8%  |
| 2. ときどき行く  | 34.8% |
| 3. あまり行かない | 38.5% |
| 4. 行かない    | 17.0% |
| 無回答        | 1.9%  |

問2. 市内にお気に入りの街並み・景色はありますか。

- |           |       |
|-----------|-------|
| 1. たくさんある | 10.1% |
| 2. 少しある   | 46.6% |
| 3. あまりない  | 30.5% |
| 4. ない     | 10.7% |
| 無回答       | 2.2%  |

問3. 環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになりましたか。

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| 1. 以前より意識するようになった | 52.8% |
| 2. 変わらない          | 44.5% |
| 3. 以前より意識しなくなった   | 0.8%  |
| 無回答               | 1.8%  |

問4. 環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っていますか。

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. 日常的に行っている | 29.6% |
| 2. ときどき行っている | 31.1% |
| 3. あまり行っていない | 23.4% |
| 4. 行っていない    | 13.5% |
| 無回答          | 2.4%  |

### 3. 保健・福祉について

問1. 普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいますか。

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. 日常的に取り組んでいる | 33.4% |
| 2. ときどき取り組んでいる | 34.5% |
| 3. あまり取り組んでいない | 22.5% |
| 4. 取り組んでいない    | 7.5%  |
| 無回答            | 2.2%  |

問2. 健康的な食生活に気をつけていますか。

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. 日常的に気をつけている | 47.9% |
| 2. ときどき気をつけている | 36.4% |
| 3. あまり気をつけていない | 12.1% |
| 4. 気をつけていない    | 1.2%  |
| 無回答            | 2.3%  |

問3. かかりつけのお医者さんはいますか。

- |        |       |
|--------|-------|
| 1. いる  | 72.7% |
| 2. いない | 24.8% |
| 無回答    | 2.5%  |

問4. 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいますか。

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. いる | 48.4% |
| 2. ない | 47.2% |
| 無回答   | 4.4%  |

### 4. 教育・文化について

問1. 生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に実践している | 13.6% |
| 2. ときどき実践している | 24.0% |
| 3. あまり実践していない | 32.4% |
| 4. 実践していない    | 27.2% |
| 無回答           | 2.8%  |

問2. スポーツやレクリエーションをどの程度行っていますか。

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. 日常的に行っている | 17.2% |
| 2. ときどき行っている | 25.4% |
| 3. あまり行っていない | 28.6% |
| 4. 行っていない    | 26.9% |
| 無回答          | 1.8%  |

問3. 市内の大学・専門学校（または学生・生徒）が、地域のための活動をしていることを知っていますか。

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. 知っている | 28.8% |
| 2. 知らない  | 69.3% |
| 無回答      | 1.9%  |

## 5. 都市・生活基盤について

問1. 渋滞などの道路状況は以前と比べて改善されましたか。

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. とても改善された | 2.4%  |
| 2. やや改善された  | 25.2% |
| 3. 変わらない    | 63.0% |
| 4. やや悪化した   | 4.5%  |
| 5. とても悪化した  | 1.7%  |
| 無回答         | 3.2%  |

問2. 市内の道路に不便なところがありますか。

- |           |       |
|-----------|-------|
| 1. たくさんある | 15.4% |
| 2. いくつかある | 57.0% |
| 3. あまりない  | 22.3% |
| 4. ない     | 2.9%  |
| 無回答       | 2.3%  |

問3. 市内の道路（車道、歩道）で、通行のしにくさや危険を感じたことがありますか。

- |            |       |
|------------|-------|
| 1. 日常的に感じる | 21.0% |
| 2. ときどき感じる | 61.2% |
| 3. あまり感じない | 14.6% |
| 4. 感じない    | 1.5%  |
| 無回答        | 1.8%  |

問4. 身近な街並みは整っていると思いますか。

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. とてもそう思う   | 3.9%  |
| 2. ややそう思う    | 53.4% |
| 3. あまりそう思わない | 34.5% |
| 4. そう思わない    | 6.4%  |
| 無回答          | 1.8%  |

問5. お住まい周辺の住環境に満足していますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. とても満足している  | 11.7% |
| 2. やや満足している   | 58.1% |
| 3. あまり満足していない | 21.5% |
| 4. 満足していない    | 6.8%  |
| 無回答           | 1.9%  |

問6. 市内の公共交通機関（電車・バス）の利便性（本数、路線、サービスなど）に満足していますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. とても満足している  | 4.2%  |
| 2. やや満足している   | 34.8% |
| 3. あまり満足していない | 38.2% |
| 4. 満足していない    | 18.4% |
| 無回答           | 4.2%  |

## 6. 生活安全について

問1. ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）はありますか。

- |            |       |
|------------|-------|
| 1. 十分ある    | 3.3%  |
| 2. ある程度はある | 38.0% |
| 3. あまりない   | 42.6% |
| 4. ない      | 14.3% |
| 無回答        | 1.8%  |

問2. 地震発生時の避難所・避難場所を知っていますか。

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. 知っている | 71.8% |
| 2. 知らない  | 26.2% |
| 無回答      | 1.9%  |

問3. この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことはありますか。

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. ある | 2.8%  |
| 2. ない | 95.3% |
| 無回答   | 1.9%  |

問4. 深谷市に消費生活センター（相談窓口）があるのを知っていますか。

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. 知っている | 39.1% |
| 2. 知らない  | 59.0% |
| 無回答      | 1.9%  |

## 7. 産業振興について

問1. 市内の商店街（個人商店）をどの程度利用されますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. 週に1回以上利用する | 17.1% |
| 2. 月に1回以上利用する | 20.3% |
| 3. ほとんど利用しない  | 48.1% |
| 4. 利用しない      | 14.1% |
| 無回答           | 0.5%  |

問2. 市外業者（通信販売を含む）をどの程度利用されますか。

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. 週に1回以上利用をする | 18.8% |
| 2. 月に1回以上利用をする | 41.1% |
| 3. ほとんど利用しない   | 31.8% |
| 4. 利用しない       | 7.4%  |
| 無回答            | 0.8%  |

問3. 深谷市には観光地としての可能性があると思いますか。

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. ある | 47.5% |
| 2. ない | 50.5% |
| 無回答   | 2.1%  |

あるとお答えの方にお尋ねします。

観光資源になると考えられるものは次のうちどれですか。（〇はいくつでも）

- |              |       |           |       |
|--------------|-------|-----------|-------|
| 1. 七夕まつり     | 15.9% | 2. 深谷まつり  | 11.3% |
| 3. 花火大会      | 12.4% | 4. 花フェスタ  | 18.4% |
| 5. 渋沢栄一      | 29.7% | 6. 畠山重忠   | 5.1%  |
| 7. ふっかちゃん    | 26.0% | 8. 中宿歴史公園 | 2.8%  |
| 9. パティオ      | 16.6% | 10. 鐘撞堂山  | 7.9%  |
| 11. 緑の王国     | 11.0% | 12. 煮ぼうとう | 8.5%  |
| 13. その他(36件) | 3.6%  |           |       |

問4. ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れていますか（休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分ですか）。

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| 1. とてもバランスが取れている  | 14.0% |
| 2. ややバランスが取れている   | 52.4% |
| 3. あまりバランスが取れていない | 23.1% |
| 4. バランスが取れていない    | 7.5%  |
| 無回答               | 3.0%  |

問5. あなたは食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心がけていますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. いつも心掛けている  | 23.1% |
| 2. たまに心掛けている  | 43.8% |
| 3. あまり心掛けていない | 23.4% |
| 4. 心掛けていない    | 8.7%  |
| 無回答           | 1.0%  |

問6. あなたは市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがありますか。

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. よく目にする   | 12.3% |
| 2. たまに目にする  | 43.9% |
| 3. あまり目にしない | 33.1% |
| 4. 目にしない    | 9.6%  |
| 無回答         | 1.1%  |

## 8. コミュニティ・交流について

問1. 地域活動（自治会や町内会での活動など）への程度参加していますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に参加している | 13.5% |
| 2. とくとき参加している | 30.0% |
| 3. あまり参加していない | 30.9% |
| 4. 参加していない    | 24.9% |
| 無回答           | 0.7%  |

問2. 市民活動（NPO団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動はありますか。

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. とてもある | 3.3%  |
| 2. 少しある  | 26.6% |
| 3. あまりない | 44.1% |
| 4. ない    | 24.8% |
| 無回答      | 1.3%  |

問3. 市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていますか。

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. 知っている | 41.3% |
| 2. 知らない  | 57.9% |
| 無回答      | 0.8%  |

問4. 花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. 興味がある | 64.6% |
| 2. 興味がない | 33.9% |
| 無回答      | 1.6%  |

問5. 花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいですか。

- |            |       |
|------------|-------|
| 1. 参加したい   | 37.1% |
| 2. 参加したくない | 58.9% |
| 無回答        | 4.0%  |

問6. 深谷市の友好都市（国内4自治体）はどこか知っていますか。

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1. 4自治体すべてを知っている   | 1.7%  |
| 2. 4自治体のうち一部を知っている | 28.9% |
| 3. 知らない            | 68.2% |
| 無回答                | 1.2%  |

問7. ふだん外国人との交流（インターネットを含む）はありますか。

- |           |       |
|-----------|-------|
| 1. よくある   | 3.4%  |
| 2. ときどきある | 7.8%  |
| 3. あまりない  | 16.1% |
| 4. ない     | 71.7% |
| 無回答       | 1.0%  |

問8. 将来的に、海外への留学・仕事・移住などに興味はありますか。

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. とてもある | 3.9%  |
| 2. 少しある  | 9.6%  |
| 3. あまりない | 17.8% |
| 4. ない    | 68.0% |
| 無回答      | 0.7%  |

問9. 市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことはありますか。

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. よく聞く     | 1.1%  |
| 2. ときどき聞く   | 9.3%  |
| 3. あまり聞かない  | 36.3% |
| 4. 聞いたことがない | 52.9% |
| 無回答         | 0.4%  |

問10. 男女共同参画の意識は以前と比べて変化していますか。

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| 1. 以前より意識するようになった | 13.3% |
| 2. 変わらない          | 78.4% |
| 3. 以前より意識しなくなった   | 6.9%  |
| 無回答               | 1.3%  |

問11. ユニバーサルデザインを知っていますか。

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. 知っている | 30.8% |
| 2. 知らない  | 68.0% |
| 無回答      | 1.2%  |

問12. 公共施設の利用に際し、不便と感じたことはありますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に不便と感じる | 6.9%  |
| 2. ときどき不便と感じる | 37.9% |
| 3. あまり不便と感じない | 44.2% |
| 4. 不便と感じない    | 9.6%  |
| 無回答           | 1.5%  |

問13. お互いの人権について意識をして生活していますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に意識している | 26.8% |
| 2. ときどき意識している | 33.4% |
| 3. あまり意識していない | 30.2% |
| 4. 意識していない    | 9.0%  |
| 無回答           | 0.6%  |

問14. 深谷市に人権侵害・DV相談についての窓口があることを知っていますか。

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. 知っている | 41.3% |
| 2. 知らない  | 57.4% |
| 無回答      | 1.3%  |

## 9. 協働・行財政について

問1. 市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実していますか。

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. とても充実している | 8.6%  |
| 2. やや充実している  | 60.2% |
| 3. やや不足している  | 23.4% |
| 4. とても不足している | 4.0%  |
| 無回答          | 3.8%  |



問2. 市の事業に参加する機会は以前と比べて増えましたか。

- |            |              |
|------------|--------------|
| 1. 以前より増えた | <b>9.5%</b>  |
| 2. 変わらない   | <b>80.1%</b> |
| 3. 以前より減った | <b>8.4%</b>  |
| 無回答        | <b>2.1%</b>  |

問3. 市役所の窓口サービスに満足していますか。

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. とても満足している | <b>14.0%</b> |
| 2. やや満足している  | <b>63.1%</b> |
| 3. やや不満である   | <b>16.9%</b> |
| 4. 不満である     | <b>4.6%</b>  |
| 無回答          | <b>1.5%</b>  |

## 2. 深谷市の施策について

	あなたは、深谷市の次の各分野別の行政施策について、 <u>どのくらい重要だと思いますか？</u> また、現在の深谷市の取り組みについて、 <u>どのくらい満足していますか？</u> それぞれあてはまるものを <u>1つずつ選び</u> 、○をつけてください。
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ●重要度に関する回答

	重要度 (%)					無回答 (%)	重要度(点数)
	重要である	まあ重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	わからない		
<記入例>	①	2	3	4	5		

### ◆<環境>に関すること

快適な空間と景観づくり	38.7	41.4	7.8	0.6	6.9	4.6	1.10
生活環境の保全と配慮	53.6	30.8	3.2	0.2	6.8	5.3	1.34
資源循環型社会の推進	44.3	34.8	6.3	0.6	8.6	5.3	1.16

### ◆<保健・福祉>に関すること

健康づくりの推進と保健・医療の充実	65.7	24.5	3.0	0.0	2.4	4.4	1.53
互いに支えあう地域社会づくり	42.1	40.5	7.0	1.0	4.1	5.2	1.16
子育て支援の充実	59.1	26.7	3.0	0.2	5.5	5.5	1.41
高齢者福祉の充実	60.6	27.7	2.9	0.7	3.6	4.5	1.44
障害者福祉の充実	57.4	30.7	2.7	0.4	4.4	4.5	1.42

### ◆<教育・文化>に関すること

学校教育の充実	62.1	23.4	3.6	0.1	5.6	5.1	1.44
家庭・地域の教育力の向上	41.1	39.4	6.4	0.5	6.6	5.9	1.14
健全な青少年の育成	52.7	31.4	5.2	0.1	5.5	5.1	1.31
生涯学習の振興	28.9	42.2	14.1	1.1	8.3	5.5	0.84
文化・芸術の振興	24.4	44.2	16.9	1.3	7.6	5.6	0.73
スポーツの振興	27.9	45.0	14.2	1.0	6.4	5.5	0.85
高等教育機関との連携	29.7	38.7	13.3	1.7	11.0	5.5	0.81

重要度 (%)					無回答 (%)	重要度(点数)
重要である	まあ重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	わからない		

◆<都市・生活基盤>に関すること

都市の発展を支える道路網の形成	52.5	33.6	5.6	0.7	2.9	4.6	1.32
市街地・住環境や公共交通の改善	51.8	35.6	4.0	0.8	3.0	4.7	1.33
上下水道の整備	59.6	29.7	3.2	0.2	2.5	4.7	1.45

◆<生活安全>に関すること

防災対策の推進	64.4	26.8	1.5	0.2	2.3	4.7	1.54
消防・救急体制の充実	70.8	21.6	1.2	0.1	2.2	4.1	1.62
くらしの安全対策の推進	54.2	34.3	3.2	0.4	3.2	4.7	1.39
交通安全対策の推進	59.0	31.1	2.8	0.2	2.2	4.7	1.46

◆<産業振興>に関すること

全国に誇る農業の振興	40.8	36.7	8.9	1.1	7.4	5.2	1.07
活力ある商工業の振興	36.7	42.2	7.6	1.2	7.0	5.2	1.05
にぎわいを生む観光の振興	28.8	39.2	17.1	2.9	6.6	5.5	0.74
雇用の創出・安定と勤労者への支援	47.8	36.4	4.0	0.7	5.6	5.5	1.27

◆<コミュニティ・交流>に関すること

市民活動の充実	22.1	46.5	14.6	1.2	10.2	5.5	0.74
友好都市や地域間との交流の促進	15.3	40.2	23.8	3.4	11.9	5.5	0.40
国際化へ向けての取り組み	16.6	37.1	23.2	4.2	12.9	5.9	0.39
男女共同参画の実現	22.9	40.7	15.2	2.7	12.3	6.3	0.66
ユニバーサルデザインの推進	16.6	32.3	20.6	2.9	20.3	7.3	0.39
人権を尊重する社会づくり	35.4	43.2	7.4	1.1	7.5	5.3	1.04

◆<協働・行財政>に関すること

市民と行政との協働のまちづくり	38.5	40.4	5.8	0.7	9.5	5.1	1.10
行財政改革の推進	42.0	36.5	4.9	0.5	11.2	5.0	1.15

●満足度に関する回答

	満足度 (%)					無回答 (%)	満足度(点数)
	満足である	まあ満足である	やや不満である	不満である	わからない		
<記入例>	①	2	3	4	5		

◆<環境>に関すること

快適な空間と景観づくり	2.9	45.3	23.8	6.1	13.5	8.5	0.15
生活環境の保全と配慮	3.2	43.6	23.8	6.8	13.6	9.1	0.13
資源循環型社会の推進	4.9	41.5	19.3	5.1	20.0	9.2	0.22

◆<保健・福祉>に関すること

健康づくりの推進と保健・医療の充実	7.2	47.0	19.9	6.9	9.8	9.2	0.28
互いに支えあう地域社会づくり	3.3	40.2	21.0	5.5	20.8	9.3	0.15
子育て支援の充実	4.0	35.8	20.6	7.0	23.1	9.5	0.09
高齢者福祉の充実	4.2	33.6	23.4	8.3	22.0	8.5	0.02
障害者福祉の充実	3.8	33.0	17.2	6.4	31.1	8.5	0.10

◆<教育・文化>に関すること

学校教育の充実	5.9	40.2	14.2	4.0	25.6	10.1	0.30
家庭・地域の教育力の向上	3.0	34.8	18.0	3.6	29.9	10.7	0.16
健全な青少年の育成	2.7	35.4	17.7	3.5	30.8	9.8	0.16
生涯学習の振興	3.3	36.7	13.1	3.4	33.3	10.3	0.23
文化・芸術の振興	2.8	37.7	14.4	4.0	31.1	10.0	0.21
スポーツの振興	3.6	39.8	13.6	4.6	28.4	10.0	0.24
高等教育機関との連携	2.4	31.3	14.9	3.2	38.5	9.7	0.15

満足度 (%)					無回答 (%)	満足度(点数)
満足である	まあ満足である	やや不満である	不満である	わからない		

◆<都市・生活基盤>に関すること

都市の発展を支える道路網の形成	3.6	39.0	26.2	12.4	10.2	8.6	-0.05
市街地・住環境や公共交通の改善	3.2	31.2	31.1	15.5	10.4	8.6	-0.25
上下水道の整備	10.4	41.6	16.9	10.8	12.3	8.0	0.24

◆<生活安全>に関すること

防災対策の推進	3.9	43.9	16.9	4.4	21.2	9.7	0.26
消防・救急体制の充実	8.4	47.2	13.6	6.2	16.0	8.6	0.38
くらしの安全対策の推進	3.8	43.6	16.9	4.5	22.0	9.3	0.25
交通安全対策の推進	4.6	45.1	17.7	5.8	17.7	9.0	0.25

◆<産業振興>に関すること

全国に誇る農業の振興	5.5	40.4	15.9	5.1	24.5	8.6	0.25
活力ある商工業の振興	2.5	29.6	25.1	8.3	25.7	8.7	-0.07
にぎわいを生む観光の振興	2.5	30.0	25.1	8.7	25.2	8.4	-0.08
雇用の創出・安定と勤労者への支援	1.8	25.2	27.2	9.5	27.3	9.0	-0.17

◆<コミュニティ・交流>に関すること

市民活動の充実	3.3	39.3	14.1	1.8	32.2	9.3	0.28
友好都市や地域間との交流の促進	2.4	32.0	11.8	2.3	42.2	9.2	0.21
国際化へ向けての取り組み	1.8	27.5	14.7	3.4	43.2	9.3	0.10
男女共同参画の実現	2.4	31.7	14.9	3.0	38.8	9.1	0.16
ユニバーサルデザインの推進	1.8	27.7	12.1	3.0	44.7	10.7	0.13
人権を尊重する社会づくり	2.9	36.2	14.3	3.8	34.0	8.9	0.20

◆<協働・行財政>に関すること

市民と行政との協働のまちづくり	2.5	30.5	18.7	7.0	32.0	9.2	0.03
行財政改革の推進	2.4	28.0	18.1	9.0	33.7	8.7	-0.03

### 3. 自由記入欄（まちづくり全般について）

これからの深谷市のまちづくりについて、ご意見などがありましたら自由にお書き下さい。

294 件

#### 4. 最後に、あなた自身のことについておたずねします。

次のア～ウについて、あてはまる番号に○をつけてください。

ア. 性別 (無回答 4.2%)	1	男性 (42.0%)	2	女性 (53.8%)		
イ. 年齢 (無回答 1.6%)	1	20 歳代 (5.6%)	2	30 歳代 (10.4%)	3	40 歳代 (15.8%)
	4	50 歳代 (16.7%)	5	60 歳代 (24.9%)	6	70 歳以上 (25.0%)
ウ. お住まいの地区 (公民館の区域) (無回答 1.7%)	1	深谷地区 (23.8%)	2	藤沢地区 (6.8%)	3	幡羅地区 (12.9%)
	4	明戸地区 (3.3%)	5	大寄地区 (2.7%)	6	八基地区 (2.3%)
	7	豊里地区 (2.2%)	8	上柴地区 (10.4%)	9	南地区 (5.9%)
	10	岡部地区 (11.2%)	11	川本地区 (7.8%)	12	花園地区 (9.1%)